㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第250集

下芝五反田遺跡

――奈良平安時代以降編――

北陸新幹線地域埋蔵文化財
発掘調査報告書第6集

《第1分冊》

1999

群馬県教育委員会
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
日本鉄道建設公団

㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第250集

下芝五反田遺跡

――奈良平安時代以降編――

北陸新幹線地域埋蔵文化財
発掘調査報告書第6集

《第1分冊》

1999

群馬県教育委員会
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
日本鉄道建設公団

五反田地区１次調査区Ⅴ層上面全景

五反田地区１次調査区Ⅲ層下面全景

五反田地区３次調査区Ⅴ層上面全景

1号建物出土八稜鏡（第483図）

出土青磁・白磁

鋼印　G－319（第319図）

17号溝出土和同開称（第534図）

序

上越新幹線の東京駅～高崎駅間を経由し、高崎市下小鳥町から分岐して長野駅まで行く「長野行き新幹線」は、平成９年10月１日に開業しました。同新幹線は、北陸新幹線建設工事の名称のもとに、群馬県では平成２年度から工事が着工されました。工事区域内には、32カ所の埋蔵文化財包蔵地が確認されたため、その発掘調査が当事業団に委託されました。当事業団では平成３年２月より平成７年９月にかけて、新幹線通過市町村の高崎市、箕郷町、榛名町、安中市において埋蔵文化財包蔵地の発掘調査を実施しました。

箕郷町で確認された下芝五反田遺跡も平成４年10月１日から平成７年10月13日にかけて発掘調査を行い、翌平成８年度より調査報告書を刊行するために整理業務を始めました。既に古墳時代の遺構、遺物については、平成９年度に「下芝五反田遺跡―古墳時代編―」として調査報告書を刊行しています。その後、奈良・平安時代以降の遺構、遺物の整理を鋭意進めていましたが、この度それが終了しましたので、ここに「下芝五反田遺跡―奈良・平安時代以降編―」を上梓したく存じます。

本報告書には、８世紀後半から11世紀初頭にかけて、当地を開発して集落を営んだ人たちの集落、その人たちが使用した「犬甘」と記されている銅印、多量の紡錘車、鏃、鍬先等の鉄器、２体の仏像が彫られている鏡像等貴重な資料が報告されています。先に刊行した「古墳時代編」の調査報告書と共に、榛名山麓の歴史を明らかにする上で大いに活用できる報告書と思います。本報告書の刊行をもって、下芝五反田遺跡の発掘・整理の業務は全て終了しました。発掘調査から調査報告書刊行に至るまで日本鉄道建設公団、群馬県教育委員会、箕郷町教育委員会、地元関係者等には、大変お世話になりました。これら関係者の皆様に、衷心より感謝を申し上げ序といたします。

平成11年３月

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長　菅野　清

例　言

1．本報告書は、北陸新幹線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査として実施した「下芝五反田遺跡」の奈良・平安時代以降編の報告である。なお、事業名称は下芝清水遺跡、下芝五反田Ⅰ遺跡である。
下芝清水遺跡と下芝五反田Ⅰ遺跡は町道で区分され、小字も異なることから発掘調査時には別遺跡として扱ったが立地的に同一であることから整理及び報告書は「下芝五反田遺跡」として取り扱った。
なお、下芝五反田遺跡は、箕郷町教育委員会でも数カ所の地点を発掘調査を行っている。

2．遺跡は、群馬県群馬郡箕郷町大字下芝字清水・五反田に所在する。発掘調査区は、清水地区が箕郷町下芝字清水459－1～3・460－1、五反田地区が箕郷町下芝字五反田704・705・706・708・720－1・720－3、717-1～5である。

3．事業主体　日本鉄道建設公団

4．調査主体　財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団

5．調査期間　清水地区　平成4年度　1992年10月1日～1993年3月31日
平成5年度　1993年4月1日～5月31日
五反田地区　平成5年度　1993年9月1日～1994年3月31日
平成6年度　1994年4月1日～7月31日、9月14日～11月30日
平成7年度　1995年8月17日～10月13日

6．調査組織　事務担当
常務理事　中村英一、菅野　清　　事務局長　近藤　功、原田恒弘
調査研究部長　神保侑史　　管理部長　佐藤　勉、蜂巣　実
調査研究第1課長　真下高幸　　総務課長　斎藤俊一、小渕　淳
事務担当　国定　均、笠原秀樹、須田朋子、吉田有光、柳岡良宏、船津　茂、高橋定義、松下登、大沢友治、吉田恵子、並木綾子、今井とも子、角田みづほ、松井美智子、塩浦ひろみ、内山佳子、星野美智子、羽鳥京子、菅原淑子、若田　誠
調査担当（清水地区）　飯塚卓二、松井龍彦、井川達雄、麻生敏隆
（五反田地区）中東耕志、相京健史、小島敦子、松田　猛、神谷佳明、関根慎二、高島英之、桜井美枝、池田政志、平方　篤、橋本　淳、大竹正隆、横山千晶

7．整理主体　財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団

8．整理期間　平成8年度・9年度・10年度　1996年4月1日～1999年3月31日

9．整理組織　事務担当
常務理事　菅野　清、赤山容造　　事務局長　原田恒弘、赤山容造
副事務局長兼調査研究第1部長　赤山容造　　調査研究第2部長　神保侑史
管理部長　蜂巣　実、渡部　健、
調査研究第3課長　真下高幸　　総務課長　小渕　淳、坂本敏夫
事務担当　国定　均、笠原秀樹、井上　剛、小山健夫、須田朋子、吉田有光、柳岡良宏、宮崎忠司、岡嶋伸昌、大沢友治、吉田恵子、並木綾子、今井とも子、松井美智代、内山佳子、星野美智子、羽鳥京子、菅原淑子、若田　誠、山口陽子、佐藤美佐子、本間

久美子、北原かおり、本地友美、狩野真子

整理担当　神谷佳明

整理補助　山崎由紀枝、今井サチ子、土田三代子、大塚とし子、長谷川公子、荻野恵子、早部洋子、新井千恵子、手塚ふみ江、酒井史恵

（機械実測）田所順子、木原幸子、矢島美枝子

保存処理　関　邦一、土橋まり子、小材浩一、萩原妙子、高橋初美

10. 本報告書作成の担当

編　　集　神谷佳明

本 文 執 筆　個々に表記、表記のないものは神谷佳明

遺物観察表　神谷佳明、青磁・白磁については当事業団 大西雅広氏により御教示を授けた。

遺構写真撮影　（清水地区）平成6年度の調査担当者（五反田地区）調査担当者

アドバルーン撮影　（株）技研測量設計

遺物写真撮影　佐藤元彦

分析・委託　銅製品　　国立奈良文化財研究所飛鳥藤原宮発掘調査部　村上　隆

緑釉陶器産地・時期同定　国立奈良博物館学芸課　高橋照彦

石材鑑定　　群馬地質研究会　飯島静男

遺構・遺物図トレース　（株）測研

11. 出土遺物及び記録図・写真などの記録類は、すべて群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。

12. 発掘調査にあたっては、地元箕郷町をはじめとして高崎市、安中市、群馬町、前橋市等から多くの方々に発掘作業に従事していただいた。

13. 発掘調査・整理作業を行うにあたっては、次の機関・諸氏から貴重な御教示や御指導をいただいた。記して感謝の意を表したい。

国立奈良文化財研究所箕郷町教育委員会　高崎市教育委員会　群馬町教育委員会　（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団

明石　新　石井克己　大塚昌彦　黒田　晃　小林信一　高橋照彦　田口一郎　田中広明　津野　仁　富田和夫　松村恵司　若狭　徹　渡辺　一

群馬県教育委員会文化財保護課職員諸氏

凡　　例

1．挿図中に使用した方位は、座標北を表示している。

2．本報告書で使用したテフラの略号は、浅間B軽石　As－B、浅間C軽石　As－C、榛名二ッ岳噴出軽石Hr-FP、榛名二ッ岳噴出火山灰　Hr-FAである。

3．挿図中の遺構図の縮尺については、全体図1/200、住居1/60、カマド1/30、建物・掘立柱建物1/60、井戸・土坑1/40、溝1/100・1/50、水田1/100である。
なお、これ以外の縮尺を使用したときには、明記してあるので参照されたい。

4．挿図中の遺物図の縮尺については、土器1:3、1:4、1:6、石器・石製品1:2、1:3、1:6、鉄器・鉄製品1:2、1:3である。
また、これ以外の縮尺を使用するときには、明記してあるので参照されたい。

5．挿図中に使用したスクリントーンは、以下のとおりである。

遺構

As－B　As－C　Hr-FA　礫層

炭化物　灰　焼土　断面図中の礫

遺物

黒色土器　緑釉陶器　灰釉陶器　墨書

漆

6．図版中の遺物の縮尺は、概ね1/1～1/4である。

7．遺構番号は、各調査面を通しての番号である。

8．遺物観察表についての凡例は、第3分冊遺物観察表の中扉裏に掲載してある。

9．本報告書で使用した地形図は、以下のとおりである。
国土地理院　地勢図　1/200,000　「長野」・「宇都宮」
地形図　1/50,000
1/25,000

10．遺構の面積は、デジタルプラニメーターで3回計測した平均値を採用した。

11．本報告書で掲載した「奈良・平安時代以降」は、榛名二ッ岳噴火の際に起きたHr-FA・Hr-FPによる泥流層上面を目安に対象としているため一部古墳時代後期の遺物などを含んでいる。

目　　次

第1分冊

口　絵

序

例　言

凡　例

目　次

挿図目次、表目次、図版目次

I　発掘調査の経過

1．発掘調査の経過…… 2

II　調査の方法

1．基本層序…… 4

2．調査区の設定…… 6

III　周辺の環境

1．地理的環境…… 8

2．歴史的環境……10

IV　検出した遺構・遺物

1．概　要……14

2．住　居……18

3．建　物 ……262

4．井　戸 ……270

5．土　坑 ……272

6．溝 ……300

7．水　田 ……319

8．石葺遺構 ……324

9．遺構外出土遺物 ……328

発掘調査報告書抄録 ……352

第2分冊

V　考　　察

1．出土土器の変遷 ……神谷佳明……353

2．出土施釉陶器について …神谷佳明……369

3．遺構について ……神谷佳明……386

4．下芝五反田遺跡出土の墨書・刻書土器について ……高島英之……393

5．下芝五反田遺跡出土の銅印と日本古代の私印 ……高島英之……401

6．下芝五反田遺跡出土鏡像について　中野政樹 ……423

VI　科学分析

1．群馬県下芝五反田遺跡出土の和鏡・銅印・和同開珎に対する科学的調査　村上　隆 ……425

第3分冊

遺物観察表

第4分冊

図　　版

挿 図 目 次

第 1 図　遺跡位置図(S=1/200,000) …… 1
第 2 図　発掘調査区の範囲図 …… 3
第 3 図　基本土層概念図 …… 4
第 4 図　調査区土層柱状図 …… 5
第 5 図　調査区の設定図(中・小区画) …… 6
第 6 図　調査区の設定図(大区画) …… 7
第 7 図　遺跡地周辺の地形図 …… 9
第 8 図　周辺遺跡図(奈良・平安時代) …… 12
第 9 図　周辺遺跡図(中世) …… 13
第 10 図　奈良・平安時代V層上面遺構全体図 …… 15
第 11 図　平安時代III(As-B)層下面遺構全体図 …… 16
第 12 図　平安時代～中世III(As-B)層上面遺構全体図 …… 17
第 13 図　1 号住居平面・断面図 …… 19
第 14 図　1 号住居カマド図 …… 19
第 15 図　1 号住居出土遺物図(1) …… 19
第 16 図　1 号住居出土遺物図(2) …… 20
第 17 図　1 号住居出土遺物図(3) …… 21
第 18 図　1 号住居出土遺物図(4) …… 22
第 19 図　2 号住居平面・断面図 …… 23
第 20 図　2 号住居カマド図 …… 23
第 21 図　2 号住居出土遺物図 …… 24
第 22 図　3 号住居平面・断面図 …… 25
第 23 図　3 号住居出土遺物図(1) …… 25
第 24 図　3 号住居出土遺物図(2) …… 26
第 25 図　4 号住居平面・断面図 …… 27
第 26 図　4 号住居カマド図 …… 27
第 27 図　4 号住居出土遺物図(1) …… 27
第 28 図　4 号住居出土遺物図(2) …… 28
第 29 図　5 号住居平面・断面図 …… 28
第 30 図　5 号住居カマド図 …… 28
第 31 図　5 号住居出土遺物図 …… 29
第 32 図　6 号住居平面・断面図 …… 30
第 33 図　6 号住居カマド図 …… 31
第 34 図　6 号住居出土遺物図(1) …… 31
第 35 図　6 号住居出土遺物図(2) …… 32
第 36 図　6 号住居出土遺物図(3) …… 33
第 37 図　7 号住居平面・断面図 …… 34
第 38 図　7 号住居カマド図 …… 34
第 39 図　7 号住居出土遺物図(1) …… 34
第 40 図　7 号住居出土遺物図(2) …… 35
第 41 図　8 号住居平面・断面図 …… 35
第 42 図　8 号住居カマド図 …… 35
第 43 図　8 号住居出土遺物図(1) …… 36
第 44 図　8 号住居出土遺物図(2) …… 37
第 45 図　8 号住居出土遺物図(3) …… 38
第 46 図　9 号住居平面・断面図 …… 39
第 47 図　9 号住居カマド図 …… 39
第 48 図　9 号住居出土遺物図(1) …… 40
第 49 図　9 号住居出土遺物図(2) …… 41
第 50 図　10 号住居平面・断面図 …… 42
第 51 図　10 号住居出土遺物図(1) …… 42
第 52 図　10 号住居出土遺物図(2) …… 43
第 53 図　11 号住居平面・断面図 …… 43
第 54 図　11 号住居出土遺物図 …… 43
第 55 図　12 号住居平面・断面図 …… 44
第 56 図　12 号住居出土遺物図(1) …… 44
第 57 図　12 号住居出土遺物図(2) …… 45
第 58 図　12 号住居出土遺物図(3) …… 46
第 59 図　13 号住居平面・断面図 …… 46
第 60 図　13 号住居カマド図 …… 46
第 61 図　13 号住居出土遺物図 …… 47
第 62 図　14 号住居平面・断面図 …… 48
第 63 図　14 号住居カマド図 …… 48
第 64 図　14 号住居出土遺物図(1) …… 48
第 65 図　14 号住居出土遺物図(2) …… 49
第 66 図　14 号住居出土遺物図(3) …… 50
第 67 図　15 号住居平面・断面図 …… 50
第 68 図　15 号住居出土遺物図 …… 51
第 69 図　16 号住居平面・断面図 …… 51
第 70 図　16 号住居出土遺物図 …… 52
第 71 図　17 号住居平面・断面図 …… 53
第 72 図　17 号住居カマド図 …… 53
第 73 図　17 号住居出土遺物図 …… 53
第 74 図　18 号住居平面・断面図 …… 54
第 75 図　18 号住居カマド図 …… 55
第 76 図　18 号住居出土遺物図 …… 55
第 77 図　19 号住居平面・断面図 …… 56
第 78 図　19 号住居カマド図 …… 56
第 79 図　19 号住居出土遺物図(1) …… 57
第 80 図　19 号住居出土遺物図(2) …… 58
第 81 図　20 号住居平面・断面図 …… 58
第 82 図　20 号住居出土遺物図 …… 59
第 83 図　21 号住居平面・断面図 …… 59
第 84 図　21 号住居出土遺物図 …… 60
第 85 図　22 号住居平面・断面図 …… 61
第 86 図　22 号住居出土遺物図 …… 61
第 87 図　23 号住居平面・断面図 …… 62
第 88 図　23 号住居カマド図 …… 62
第 89 図　23 号住居出土遺物図(1) …… 62
第 90 図　23 号住居出土遺物図(2) …… 63
第 91 図　24 号住居平面・断面図 …… 64
第 92 図　24 号住居出土遺物図(1) …… 64
第 93 図　24 号住居出土遺物図(2) …… 65
第 94 図　25 号住居平面・断面図 …… 65
第 95 図　25 号住居カマド図 …… 66
第 96 図　25 号住居出土遺物図 …… 66
第 97 図　26 号住居平面・断面図 …… 67
第 98 図　26 号住居カマド図 …… 67
第 99 図　26 号住居出土遺物図(1) …… 67
第 100 図　26 号住居出土遺物図(2) …… 68
第 101 図　27・28 号住居平面・断面図 …… 69
第 102 図　27 号住居カマド図 …… 69
第 103 図　27 号住居出土遺物図(1) …… 69
第 104 図　27 号住居出土遺物図(2) …… 70
第 105 図　28 号住居出土遺物図 …… 70
第 106 図　29 号住居平面・断面図 …… 71
第 107 図　29 号住居カマド図 …… 71
第 108 図　29 号住居出土遺物図(1) …… 71
第 109 図　29 号住居出土遺物図(2) …… 72
第 110 図　29 号住居出土遺物図(3) …… 73
第 111 図　29 号住居出土遺物図(4) …… 74
第 112 図　30 号住居平面・断面図 …… 74
第 113 図　30 号住居カマド図 …… 75
第 114 図　30 号住居出土遺物図 …… 75
第 115 図　31 号住居平面・断面図 …… 76
第 116 図　31 号住居カマド図 …… 76
第 117 図　31 号住居出土遺物図(1) …… 76
第 118 図　31 号住居出土遺物図(2) …… 77
第 119 図　32 号住居平面・断面図 …… 77
第 120 図　32 号住居カマド図 …… 78
第 121 図　32 号住居出土遺物図 …… 78
第 122 図　33 号住居平面・断面図 …… 79
第 123 図　33 号住居カマド図 …… 79
第 124 図　33 号住居出土遺物図(1) …… 80

第125図　33号住居出土遺物図(2)……81
第126図　33号住居出土遺物図(3)……82
第127図　33号住居出土遺物図(4)……83
第128図　34号住居平面・断面図……84
第129図　34号住居カマド図……85
第130図　34号住居出土遺物図(1)……85
第131図　34号住居出土遺物図(2)……86
第132図　34号住居出土遺物図(3)……87
第133図　35号住居平面・断面・カマド図……87
第134図　35号住居出土遺物図……88
第135図　36・37号住居平面・断面図……88
第136図　36号住居カマド図……89
第137図　37号住居カマド図……89
第138図　36号住居出土遺物図(1)……90
第139図　36号住居出土遺物図(2)……91
第140図　37号住居出土遺物図(1)……91
第141図　37号住居出土遺物図(2)……92
第142図　38号住居平面・断面図……92
第143図　38号住居カマド図……92
第144図　38号住居出土遺物図(1)……93
第145図　38号住居出土遺物図(2)……94
第146図　39号住居平面・断面図……94
第147図　39号住居カマド図……94
第148図　39号住居出土遺物図……95
第149図　40号住居平面・断面図……96
第150図　40号住居カマド図……97
第151図　40号住居出土遺物図(1)……97
第152図　40号住居出土遺物図(2)……98
第153図　41号住居平面・断面図……99
第154図　41号住居カマド図……99
第155図　41号住居出土遺物図(1)……99
第156図　41号住居出土遺物図(2)……100
第157図　42号住居平面・断面図……101
第158図　42号住居カマド図……101
第159図　42号住居出土遺物図(1)……101
第160図　42号住居出土遺物図(2)……102
第161図　43号住居平面・断面図……103
第162図　43号住居カマド図……104
第163図　43号住居出土遺物図(1)……104
第164図　43号住居出土遺物図(2)……105
第165図　43号住居出土遺物図(3)……106
第166図　44号住居平面・断面図……107
第167図　44号住居カマド図……108
第168図　44号住居出土遺物図(1)……108
第169図　44号住居出土遺物図(2)……109
第170図　45号住居平面・断面図……110
第171図　45号住居カマド図……110
第172図　45号住居出土遺物図……110
第173図　46号住居平面・断面図……111
第174図　47号住居平面・断面図……112
第175図　47号住居カマド図……112
第176図　47号住居出土遺物図……112
第177図　48号住居平面・断面図……113
第178図　48号住居カマド図……113
第179図　48号住居出土遺物図……113
第180図　49号住居平面・断面図……114
第181図　49号住居カマド図……114
第182図　49号住居出土遺物図……115
第183図　50号住居平面・断面図……115
第184図　50号住居カマド図……116
第185図　50号住居出土遺物図……116
第186図　51号住居平面・断面図……117
第187図　51号住居カマド図……117
第188図　51号住居出土遺物図……117
第189図　52号住居平面・断面図……118
第190図　52号住居カマド図……118
第191図　52号住居出土遺物図(1)……119
第192図　52号住居出土遺物図(2)……120
第193図　53号住居平面・断面図……121
第194図　53号住居出土遺物図……121
第195図　54号住居平面・断面図……122
第196図　54号住居出土遺物図……122
第197図　55号住居平面・断面図……123
第198図　55号住居カマド図(1)……123
第199図　55号住居カマド図(2)……124
第200図　55号住居出土遺物図(1)……124
第201図　55号住居出土遺物図(2)……125
第202図　55号住居出土遺物図(3)……126
第203図　56号住居平面・断面図……127
第204図　56号住居カマド図……127
第205図　56号住居出土遺物図……127
第206図　57号住居平面・断面図……128
第207図　57号住居カマド図……128
第208図　57号住居出土遺物図……128
第209図　58号住居平面・断面図……129
第210図　58号住居カマド図……129
第211図　58号住居出土遺物図……130
第212図　59号住居平面・断面図……131
第213図　59号住居出土遺物図……131
第214図　60号住居平面・断面図……132
第215図　60号住居出土遺物図……132
第216図　61号住居平面・断面図……133
第217図　61号住居カマド図……133
第218図　61号住居出土遺物図(1)……133
第219図　61号住居出土遺物図(2)……134
第220図　62号住居平面・断面図……134
第221図　62号住居カマド図……134
第222図　63号住居平面・断面図……135
第223図　63号住居出土遺物図(1)……135
第224図　63号住居出土遺物図(2)……136
第225図　64号住居平面・断面図……136
第226図　64号住居カマド図……137
第227図　64号住居出土遺物図……137
第228図　65号住居平面・断面図……138
第229図　65号住居カマド図……138
第230図　65号住居出土遺物図(1)……138
第231図　65号住居出土遺物図(2)……139
第232図　66号住居平面・断面図……139
第233図　66号住居カマド図……140
第234図　66号住居出土遺物図……140
第235図　67号住居平面・断面図……141
第236図　67号住居カマド図……141
第237図　67号住居出土遺物図……142
第238図　68号住居平面・断面図……143
第239図　68号住居カマド図……143
第240図　68号住居出土遺物図(1)……143
第241図　68号住居出土遺物図(2)……144
第242図　69号住居平面・断面図……144
第243図　69号住居カマド図……144
第244図　69号住居出土遺物図(1)……145
第245図　69号住居出土遺物図(2)……146
第246図　70号住居平面・断面図……146
第247図　70号住居カマド図……147
第248図　70号住居出土遺物図(1)……147
第249図　70号住居出土遺物図(2)……148
第250図　71号住居平面・断面図……149
第251図　71号住居カマド図……149
第252図　71号住居出土遺物図(1)……149
第253図　71号住居出土遺物図(2)……150
第254図　72号住居平面・断面図……150
第255図　72号住居カマド図……151
第256図　72号住居出土遺物図……151
第257図　73号住居平面・断面図……152
第258図　73号住居出土遺物図……152

第259図 74号住居平面・断面図……153
第260図 74号住居カマド図……153
第261図 74号住居出土遺物図……153
第262図 75号住居平面・断面図……154
第263図 75号住居出土遺物図(1)……154
第264図 75号住居出土遺物図(2)……155
第265図 76号住居平面・断面図……155
第266図 76号住居カマド図……156
第267図 76号住居出土遺物図……156
第268図 77号住居平面・断面図……157
第269図 77号住居出土遺物図(1)……157
第270図 77号住居出土遺物図(2)……158
第271図 78号住居平面・断面図……158
第272図 78号住居カマド図……159
第273図 78号住居出土遺物図(1)……159
第274図 78号住居出土遺物図(2)……160
第275図 79号住居平面・断面図……161
第276図 79号住居カマド図……161
第277図 79号住居出土遺物図……161
第278図 80号住居平面・断面図……162
第279図 80号住居カマド図……162
第280図 80号住居出土遺物図……163
第281図 81号住居平面・断面図……164
第282図 81号住居出土遺物図……164
第283図 82号住居平面・断面図……165
第284図 82号住居カマド図……165
第285図 82号住居出土遺物図……165
第286図 83号住居平面・断面図……166
第287図 83号住居カマド図……166
第288図 83号住居出土遺物図(1)……167
第289図 83号住居出土遺物図(2)……168
第290図 84号住居平面・断面図……169
第291図 84号住居カマド図……169
第292図 84号住居出土遺物図(1)……169
第293図 84号住居出土遺物図(2)……170
第294図 84号住居出土遺物図(3)……171
第295図 85号住居平面・断面図……171
第296図 85号住居カマド図……172
第297図 85号住居出土遺物図……172
第298図 86号住居平面・断面図……173
第299図 86号住居カマド図……173
第300図 86号住居出土遺物図……174
第301図 87号住居平面・断面図……175
第302図 87号住居カマド図……175
第303図 87号住居出土遺物図(1)……175
第304図 87号住居出土遺物図(2)……176
第305図 88号住居平面・断面図……176
第306図 88号住居カマド図……177
第307図 88号住居出土遺物図……177
第308図 89号住居平面・断面図……177
第309図 89号住居カマド図……178
第310図 89号住居出土遺物図……178
第311図 90号住居平面・断面図……179
第312図 90号住居カマド図……179
第313図 90号住居出土遺物図……179
第314図 91号住居平面・断面図……180
第315図 91号住居カマド図……180
第316図 91号住居出土遺物図(1)……180
第317図 91号住居出土遺物図(2)……181
第318図 92号住居平面・断面図……182
第319図 92号住居出土遺物図……182
第320図 93号住居平面・断面図……182
第321図 93号住居カマド図……183
第322図 93号住居出土遺物図……183
第323図 94号住居平面・断面図……183
第324図 94号住居カマド図……183
第325図 94号住居出土遺物図……184
第326図 95号住居平面・断面図……185
第327図 95号住居カマド図……185
第328図 95号住居出土遺物図(1)……185
第329図 95号住居出土遺物図(2)……186
第330図 96号住居平面・断面図……187
第331図 96号住居出土遺物図……187
第332図 97号住居平面・断面図……188
第333図 97号住居カマド図……188
第334図 97号住居出土遺物図(1)……188
第335図 97号住居出土遺物図(2)……189
第336図 98号住居平面・断面図……190
第337図 98号住居カマド図……190
第338図 98号住居出土遺物図(1)……190
第339図 98号住居出土遺物図(2)……191
第340図 99号住居平面・断面図……191
第341図 99号住居カマド図……192
第342図 99号住居出土遺物図(1)……192
第343図 99号住居出土遺物図(2)……193
第344図 100号住居平面・断面図……193
第345図 100号住居カマド図……193
第346図 100号住居出土遺物図……194
第347図 101号住居平面・断面図……194
第348図 101号住居カマド図……195
第349図 101号住居出土遺物図(1)……195
第350図 101号住居出土遺物図(2)……196
第351図 102号住居平面・断面図……197
第352図 102号住居カマド図……197
第353図 102号住居出土遺物図(1)……197
第354図 102号住居出土遺物図(2)……198
第355図 103号住居平面・断面図……199
第356図 103号住居カマド図……200
第357図 103号住居出土遺物図……200
第358図 104号住居平面・断面図……200
第359図 104号住居カマド図……201
第360図 104号住居出土遺物図……201
第361図 105号住居平面・断面図……202
第362図 105号住居カマド図……202
第363図 105号住居出土遺物図(1)……202
第364図 105号住居出土遺物図(2)……203
第365図 106号住居平面・断面図……204
第366図 106号住居出土遺物図……204
第367図 107号住居平面・断面図……205
第368図 107号住居カマド図……205
第369図 107号住居出土遺物図(1)……205
第370図 107号住居出土遺物図(2)……206
第371図 108号住居平面・断面図……206
第372図 108号住居カマド図……207
第373図 108号住居出土遺物図(1)……207
第374図 108号住居出土遺物図(2)……208
第375図 109号住居平面・断面図……208
第376図 109号住居カマド図……209
第377図 109号住居出土遺物図……209
第378図 110号住居平面・断面図……210
第379図 110号住居出土遺物図……210
第380図 111号住居平面・断面図……211
第381図 111号住居カマド図……211
第382図 111号住居出土遺物図(1)……211
第383図 111号住居出土遺物図(2)……212
第384図 112号住居平面図・断面図……213
第385図 112号住居出土遺物図(1)……213
第386図 112号住居出土遺物図(2)……214
第387図 113号住居平面・断面図……214
第388図 113号住居カマド図……214
第389図 113号住居出土遺物図……215
第390図 114号住居平面・断面図……216
第391図 114号住居カマド図……216
第392図 114号住居出土遺物図……216

第393図　115号住居平面・断面図 ……217
第394図　115号住居カマド図 ……217
第395図　115号住居出土遺物図 ……217
第396図　116号住居平面・断面図 ……218
第397図　116号住居出土遺物図 ……218
第398図　117号住居平面・断面図 ……219
第399図　117号住居出土遺物図 ……219
第400図　118号住居平面・断面図 ……220
第401図　118号住居カマド図 ……220
第402図　118号住居出土遺物図 ……220
第403図　119号住居平面・断面図 ……221
第404図　119号住居出土遺物図 ……221
第405図　120号住居平面・断面図 ……222
第406図　120号住居カマド図 ……222
第407図　120号住居出土遺物図(1) ……222
第408図　120号住居出土遺物図(2) ……223
第409図　120号住居出土遺物図(3) ……224
第410図　121号住居平面・断面図 ……224
第411図　121号住居カマド図 ……225
第412図　121号住居出土遺物図 ……225
第413図　139号住居平面・断面図 ……226
第414図　139号住居出土遺物図 ……226
第415図　140号住居平面・断面図 ……227
第416図　140号住居出土遺物図 ……227
第417図　141号住居平面・断面図 ……227
第418図　141号住居出土遺物図 ……228
第419図　142号住居平面・断面図 ……228
第420図　142号住居出土遺物図(1) ……228
第421図　142号住居出土遺物図(2) ……229
第422図　143号住居平面・断面図 ……230
第423図　143号住居出土遺物図(1) ……230
第424図　143号住居出土遺物図(2) ……231
第425図　144号住居平面・断面図 ……232
第426図　144号住居カマド図 ……232
第427図　144号住居出土遺物図(1) ……232
第428図　144号住居出土遺物図(2) ……233
第429図　146号住居平面・断面図 ……233
第430図　146号住居カマド図 ……234
第431図　146号住居出土遺物図(1) ……234
第432図　146号住居出土遺物図(2) ……235
第433図　147号住居平面・断面図 ……236
第434図　147号住居カマド図 ……236
第435図　147号住居出土遺物図 ……237
第436図　148号住居平面・断面図 ……238
第437図　148号住居カマド図 ……238
第438図　148号住居出土遺物図 ……239
第439図　149号住居平面・断面図 ……240
第440図　149号住居カマド図(1) ……240
第441図　149号住居カマド図(2) ……241
第442図　149号住居出土遺物図 ……241
第443図　150号住居平面・断面図 ……242
第444図　150号住居カマド図 ……242
第445図　150号住居出土遺物図(1) ……243
第446図　150号住居出土遺物図(2) ……244
第447図　151号住居平面・断面図 ……245
第448図　151号住居カマド図 ……245
第449図　151号住居出土遺物図 ……245
第450図　152号住居平面・断面図 ……246
第451図　152号住居カマド図 ……246
第452図　152号住居出土遺物図(1) ……246
第453図　152号住居出土遺物図(2) ……247
第454図　153号住居平面・断面図 ……247
第455図　153号住居カマド図 ……248
第456図　153号住居出土遺物図 ……248
第457図　154号住居平面・断面図 ……249
第458図　154号住居カマド図(1) ……249
第459図　154号住居カマド図(2) ……250
第460図　154号住居出土遺物図 ……250
第461図　155号住居平面・断面図 ……251
第462図　155号住居カマド図 ……251
第463図　155号住居出土遺物図(1) ……251
第464図　155号住居出土遺物図(2) ……252
第465図　156号住居平面・断面図 ……252
第466図　156号住居カマド図 ……253
第467図　156号住居出土遺物図 ……253
第468図　157号住居平面・断面図 ……254
第469図　157号住居カマド図(1) ……254
第470図　157号住居カマド図(2) ……255
第471図　157号住居出土遺物図 ……255
第472図　158号住居平面・断面図 ……256
第473図　158号住居カマド図 ……256
第474図　158号住居出土遺物図(1) ……256
第475図　158号住居出土遺物図(2) ……257
第476図　159号住居平面・断面図 ……258
第477図　159号住居出土遺物図(1) ……258
第478図　159号住居出土遺物図(2) ……259
第479図　159号住居出土遺物図(3) ……260
第480図　160号住居平面・断面図 ……261
第481図　160号住居出土遺物図 ……261
第482図　1号建物平面・断面図 ……262
第483図　1号建物出土遺物図 ……263
第484図　2号建物平面・断面図 ……264
第485図　3号建物平面・断面図 ……265
第486図　3号建物断面図 ……266
第487図　4号建物出土遺物図 ……266
第488図　4号建物平面・断面図 ……267
第489図　5号建物平面・断面図 ……268
第490図　6号建物平面・断面図 ……269
第491図　1号井戸平面・断面図 ……270
第492図　2号井戸平面・断面図 ……270
第493図　3号井戸平面・断面図・出土遺物図 ……271
第494図　4号井戸平面・断面図 ……272
第495図　1～4号土坑遺構図・出土遺物図 ……276
第496図　6～9号土坑遺構図 ……277
第497図　9号土坑出土遺物図(1) ……278
第498図　9号土坑出土遺物図(2) ……279
第499図　13・15号土坑遺構図 ……279
第500図　15号土坑出土遺物図 ……280
第501図　16・17・19号土坑遺構図・出土遺物図 ……280
第502図　21・23～25号土坑遺構図・出土遺物図 ……281
第503図　26号土坑遺構図・出土遺物図 ……282
第504図　27・28・143号土坑遺構図・出土遺物図 ……283
第505図　29～31・33号土坑遺構図・出土遺物図 ……284
第506図　35号土坑遺構図　33・35号土坑出土遺物図 ……285
第507図　41～43・144・145号土坑遺構図・出土遺物図 ……286
第508図　36・38・40・44・141・142号土坑遺構図・出土遺物図287
第509図　45～49・146号土坑遺構図・出土遺物図 ……288
第510図　50・51号土坑遺構図　48・50・51号土坑出土遺物図…289
第511図　52～59・152号土坑遺構図・出土遺物図 ……290
第512図　60～66号土坑遺構図・出土遺物図 ……291
第513図　67～73号土坑遺構図・出土遺物図 ……292
第514図　74～79・81・147号土坑遺構図・出土遺物図 ……293
第515図　80・82・103・105・148～151号土坑遺構図・出土遺物図 …294
第516図　99・101・102・106～111号土坑遺構図・出土遺物図…295
第517図　112～115・117・118・139号土坑遺構図・出土遺物図 296
第518図　119～127号土坑遺構図　118号土坑出土遺物図 ……297
第519図　128～135・137・138・140号土坑遺構図・出土遺物図 298
第520図　136号土坑平面・断面図 ……299
第521図　1～3・7号溝平面・断面図 ……301
第522図　4～6・8・11号溝平面・断面図 ……302
第523図　10・12号溝平面図(1) ……303
第524図　10・12号溝平面図(2) ……304
第525図　10・12号溝断面図 ……305
第526図　10号溝出土遺物図(1) ……306

第527図　10号調出土遺物図(2)……307
第528図　12号調出土遺物図……307
第529図　13号調平面・断面図……308
第530図　13号調出土遺物図……308
第531図　15号調出土遺物図……309
第532図　16号調平面・断面図……309
第533図　17・18号調平面・断面図……310
第534図　17号調出土遺物図……311
第535図　19・20号調平面図……311
第536図　19・20号調平面・断面図……312
第537図　19号調出土遺物図……312
第538図　25号調平面図……313
第539図　25号調断面図……314
第540図　25号調出土遺物図……314
第541図　21～24・26・27号調平面図……315
第542図　21～24号調平面図……316
第543図　21～24・27号調断面図……317
第544図　26・27号調平面図……318
第545図　27号調出土遺物図……318
第546図　Ⅲ(As-B)層下水田平面図……322
第547図　Ⅱa層下水田平面・断面図……323
第548図　1号石葺平面・断面図……325
第549図　2号石葺平面・断面図……326
第550図　3号石葺平面・断面図……327
第551図　遺構外出土遺物調査区別出土量図……329
第552図　遺構外出土遺物図(1)……332
第553図　遺構外出土遺物図(2)……333
第554図　遺構外出土遺物図(3)……334
第555図　遺構外出土遺物図(4)……335
第556図　遺構外出土遺物図(5)……336
第557図　遺構外出土遺物図(6)……337
第558図　遺構外出土遺物図(7)……338
第559図　遺構外出土遺物図(8)……339
第560図　遺構外出土遺物図(9)……340
第561図　遺構外出土遺物図(10)……341
第562図　遺構外出土遺物図(11)……342
第563図　遺構外出土遺物図(12)……343
第564図　遺構外出土遺物図(13)……344
第565図　遺構外出土遺物図(14)……345
第566図　遺構外出土遺物図(15)……346
第567図　遺構外出土遺物図(16)……347
第568図　遺構外出土遺物図(17)……348
第569図　遺構外出土遺物図(18)……349
第570図　遺構外出土遺物図(19)……350
第571図　遺構外出土遺物図(20)……351
第572図　土師器杯A分類図……353
第573図　土師器杯B分類図……354
第574図　土師器杯C分類図……354
第575図　土師器甕分類図……355
第576図　須恵器杯分類図……356
第577図　須恵器椀分類図……356
第578図　須恵器羽釜分類図……357
第579図　土器変遷図(1)……359
第580図　土器変遷図(2)……360
第581図　土器変遷図(3)……361
第582図　土器変遷図(4)……363
第583図　土器変遷図(5)……364
第584図　土器変遷図(6)……365
第585図　土器変遷図(7)……366
第586図　馬焼中西遺跡10号住居出土遺物図……367
第587図　灰釉陶器遺構別出土量図……371
第588図　灰釉陶器遺構外出土量図……372
第589図　灰釉陶器時期別出土量グラフ……373
第590図　灰釉陶器集成図(1)……377
第591図　灰釉陶器集成図(2)……378
第592図　灰釉陶器集成図(3)……379
第593図　灰釉陶器集成図(4)……380
第594図　灰釉陶器集成図(5)……381
第595図　灰釉陶器集成図(6)……382
第596図　灰釉陶器集成図(7)……383
第597図　灰釉陶器集成図(8)……384
第598図　下芝五反田遺跡住居変遷図(1)……387
第599図　下芝五反田遺跡住居変遷図(2)……388
第600図　下芝五反田遺跡住居変遷図(3)……389
第601図　下芝五反田遺跡住居変遷図(4)……390
第602図　下芝五反田遺跡墨書・刻書土器等出土図……397
第603図　下芝五反田遺跡出土墨書・刻書土器集成図(1)……398
第604図　下芝五反田遺跡出土墨書・刻書土器集成図(2)……399
第605図　下芝五反田遺跡出土墨書・刻書土器集成図(3)……400
第606図　下芝五反田遺跡出土銅印図……408
第607図　古代の私印現存例集成図(1)……409
第608図　古代の私印現存例集成図(2)……410
第609図　古代の私印現存例集成図(3)……411
第610図　古代の私印現存例集成図(4)……412
第611図　古代の私印現存例集成図(5)……413
第612図　古代の私印現存例集成図(6)……414
第613図　古代の私印現存例集成図(7)……415
第614図　古代の私印現存例集成図(8)……416
第615図　古代の私印現存例集成図(9)……417
第616図　下芝五反田遺跡出土八稜鏡図……423
第617図　レーザー顕微鏡図による鏡面の整疲の観察……426
第618図　分析和同開珎拓影図……428
付図1　下芝五反田遺跡五反田地区Ⅳ層上面全体図
付図2　下芝五反田遺跡五反田地区Ⅲ層下面全体図
付図3　Ⅲ(As-B)層下水田断面図
本文中写真
写真1　遺跡航空撮影写真
写真2　八稜鏡出土時写真
写真3　八稜鏡処理後鏡面写真
写真4　銅印写真

表　目　次

第1表　奈良・平安時代周辺遺跡……12
第2表　中世周辺遺跡……13
第3表　土坑一覧……274～275
第4表　Ⅲ(As-B)層下水田区画一覧……320～321
第5表　Ⅱa層下水田区画一覧……321
第6表　群馬県で年代根拠とされている遺物……368
第7表　下芝五反田遺跡出土緑釉陶器……370
第8表　遺構出土灰釉陶器椀・皿時期別……374～376
第9表　下芝五反田遺跡出土墨書・刻書土器一覧……398
第10表　古文書にみえる古代の私印……418
第11表　古代の私印の現存例……418～421
第12表　下芝五反田遺跡出土遺物に対して
行った非破壊的手法による蛍光X線分析の結果……428

図 版 目 次

中扉　陸軍参謀本部第一軍管地方迅速測図
金古駅（2万分の1）明治13～14年測図
PL1　米軍撮影航空写真（1947年）
PL2　奈良・平安時代（掘流上面）1次調査全景（垂直）
奈良・平安時代（掘流上面）1次調査全景（斜め　北→）
奈良・平安時代（掘流上面）1次調査全景（斜め　西→）
PL3　奈良・平安時代（掘流上面）1次調査本線区全景（垂直）
奈良・平安時代（掘流上面）1次調査本線区全景（斜め 西→）
奈良・平安時代（掘流上面）2次調査全景（垂直）
奈良・平安時代（掘流上面）2次調査全景（斜め　北→）
奈良・平安時代（掘流上面）3次調査全景（垂直）
奈良・平安時代（掘流上面）3次調査全景（斜め　西→）
奈良・平安時代（掘流上面）潜水地区全景（斜め　北→）
奈良・平安時代（掘流上面）潜水地区全景（斜め　南→）
PL4　1号住居（1次調査）
1号住居（2次調査）
1号住居土層断面
1号住居P4遺物出土状態
1号住居カマド
1号住居カマド土層断面
2号住居
2号住居カマド
PL5　3号住居
3号住居土層断面
4号住居
4号住居カマド
5号住居
5号住居土層断面
6号住居（北→）
6号住居（西→）
PL6　6号住居カマド
6号住居カマド
6号住居カマド土層断面
6号住居（2次調査）
7号住居
7号住居カマド
8号住居
8号住居土層断面
PL7　8号住居カマド
8号住居カマド掘り方
8号住居カマド土層断面
8号住居鈴帯巡方出土状態
9号住居
9号住居土層断面
9号住居貯蔵穴
9号住居カマド
PL8　10号住居
10号住居遺物出土状態
11号住居
12号住居
12号住居カマド土層断面
13号住居
13号住居カマド
13号住居カマド土層断面
PL9　14号住居
14号住居遺物出土状態
14号住居土層断面
14号住居貯蔵穴
14号住居貯蔵穴土層断面
14号住居カマド
14号住居カマド土層断面
14号住居カマド掘り方
PL10　15号住居
15号住居土層断面
16号住居
16号住居土層断面
17号住居
17号住居カマド
18号住居
18号住居カマド
PL11　19号住居
19号住居カマド
20号住居
21号住居
21号住居土層断面
21号住居貯蔵穴
21号住居貯蔵穴土層断面
22号住居
PL12　23号住居・24号住居（1次調査）
23号住居（2次調査）
23号住居カマド（2次調査）
25号住居
25号住居土層断面
25号住居カマド
26号住居
26号住居カマド
PL13　27号住居
27号住居貯蔵穴土層断面
27号住居カマド
27号住居カマド土層断面
28号住居
29号住居
30号住居
30号住居カマド
PL14　31号住居
31号住居土層断面
31号住居カマド土層断面
31号住居カマド土層断面
32号住居
32号住居カマド
32号住居カマド
32号住居カマド土層断面
PL15　33号住居
33号住居遺物出土状態
33号住居貯蔵穴
33号住居カマド
34号住居
34号住居貯蔵穴
34号住居カマド
34号住居カマド土層断面
PL16　35号住居
35号住居土層断面
35号住居カマド
35号住居カマド掘り方
36号住居・37号住居
36号住居カマド
36号住居カマド土層断面
36号住居カマド掘り方
PL17　37号住居カマド
37号住居カマド掘り方
38号住居
38号住居カマド
39号住居
39号住居カマド

40号住居
40号住居土層断面
PL18 40号住居カマド
40号住居カマド土層断面
40号住居カマド土層断面
40号住居カマド掘り方
41号住居
41号住居カマド・棚
41号住居カマド
41号住居カマド掘り方
PL19 42号住居
42号住居カマド
43号住居
43号住居土層断面
43号住居貯蔵穴
43号住居カマド周辺遺物出土状態
43号住居カマド
43号住居カマド土層断面
PL20 44号住居
44号住居土層断面
44号住居近東角遺物出土状態
44号住居貯蔵穴
44号住居カマド
44号住居カマド土層断面
44号住居カマド土層断面
44号住居カマド掘り方
PL21 45号住居
45号住居カマド
46号住居・26号土坑
47号住居
47号住居貯蔵穴
47号住居カマド
48号住居
48号住居土層断面
PL22 48号住居カマド
48号住居カマド土層断面
48号住居カマド土層断面
48号住居カマド掘り方
49号住居
49号住居カマド
50号住居
50号住居土層断面
PL23 50号住居カマド
50号住居カマド遺物出土状態
50号住居カマド掘り方
51号住居
51号住居土層断面
51号住居カマド
51号住居カマド土層断面
51号住居カマド土層断面
PL24 52号住居
52号住居カマド
52号住居カマド土層断面
52号住居カマド掘り方
53号住居・54号住居
53号住居カマド
55号住居
55号住居カマド
PL25 56号住居
56号住居土層断面
56号住居カマド
56号住居カマド土層断面
57号住居
57号住居土層断面
57号住居カマド
57号住居カマド掘り方
PL26 58号住居
58号住居土層断面
58号住居カマド
58号住居カマド
58号住居カマド遺物出土状態
59号住居
60号住居
60号住居土層断面
PL27 61号住居
61号住居カマド
62号住居
62号住居土層断面
62号住居カマド
63号住居
64号住居
64号住居カマド
PL28 65号住居
65号住居カマド
66号住居
66号住居土層断面
66号住居カマド
67号住居
67号住居カマド
67号住居カマド掘り方
PL29 68号住居
68号住居土層断面
68号住居カマド
68号住居カマド土層断面
69号住居
69号住居土層断面
69号住居カマド
69号住居カマド土層断面
PL30 70号住居
70号住居土層断面
70号住居カマド
70号住居カマド掘り方
71号住居
71号住居土層断面
71号住居カマド
71号住居カマド土層断面
PL31 72号住居
72号住居カマド
73号住居
73号住居カマド
74号住居
74号住居カマド
75号住居
75号住居土層断面
PL32 76号住居
76号住居カマド
77号住居(西→)
77号住居(南→)
77号住居土層断面
78号住居
78号住居カマド土層断面
78号住居カマド土層断面
PL33 79号住居・160号住居
79号住居土層断面
79号住居カマド
80号住居
80号住居遺物出土状態
80号住居遺物出土状態
80号住居カマド土層断面
80号住居カマド土層断面
PL34 81号住居(1次調査)
81号住居(3次調査)
81号住居(3次調査)
82号住居(1次調査)

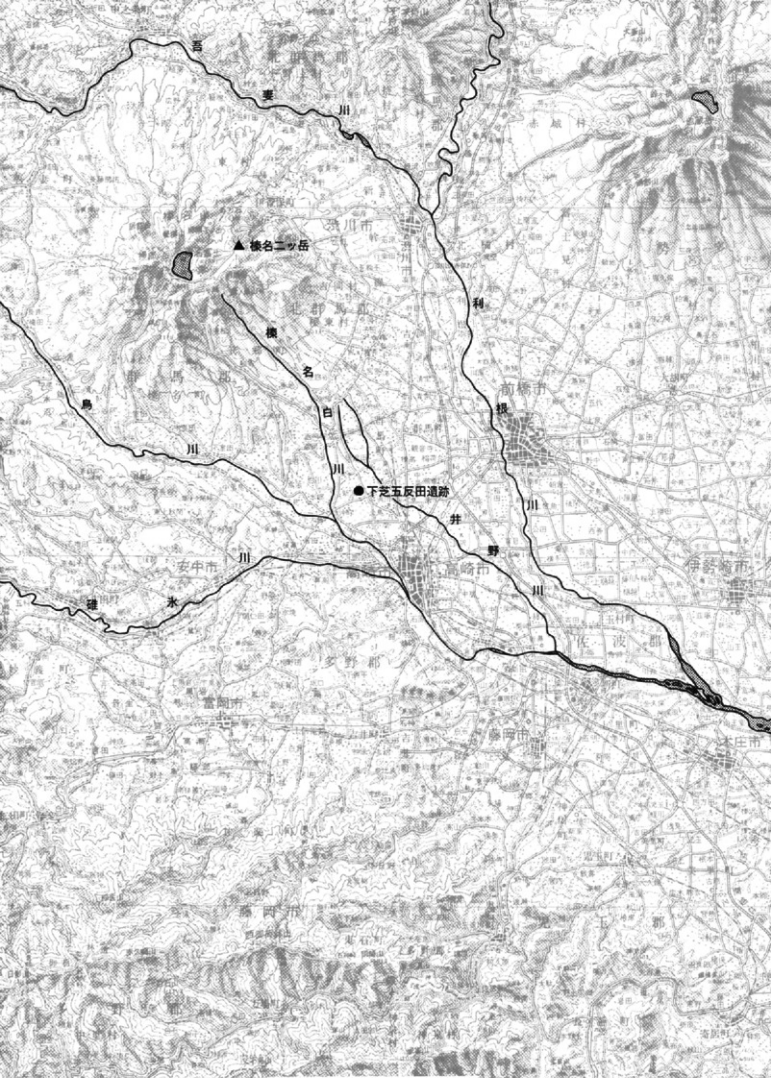
82号住居（1次調査）
82号住居（3次調査）
82号住居掘り方（3次調査）
82号住居カマド掘り方（3次調査）
PL35 83号住居（1次調査）
83号住居（3次調査）
83号住居遺物出土状態（3次調査）
83号住居カマド（3次調査）
83号住居カマド（3次調査）
83号住居カマド土層断面（3次調査）
83号住居カマド土層断面（3次調査）
83号住居カマド掘り方（3次調査）
PL36 84号住居
84号住居土層断面
84号住居遺物出土状態
84号住居遺物出土状態
85号住居
85号住居土層断面
85号住居カマド
85号住居カマド土層断面
PL37 86号住居
86号住居土層断面
86号住居カマド
86号住居カマド土層断面
87号住居
87号住居土層断面
87号住居カマド土層断面
87号住居カマド土層断面
PL38 88号住居
88号住居土層断面
88号住居カマド土層断面
88号住居カマド土層断面
89号住居
89号住居遺物出土状態
89号住居カマド
89号住居カマド土層断面
PL39 90号住居
91号住居
91号住居土層断面
91号住居カマド土層断面
91号住居カマド土層断面
92号住居
92号住居土層断面
92号住居土層断面
PL40 93号住居
93号住居土層断面
93号住居カマド
93号住居カマド土層断面
94号住居
94号住居土層断面
94号住居カマド土層断面
94号住居カマド土層断面
PL41 95号住居
95号住居土層断面
95号住居遺物出土状態
95号住居カマド
95号住居カマド土層断面
96号住居
97号住居
97号住居土層断面
PL42 97号住居カマド
97号住居カマド土層断面
97号住居カマド土層断面
97号住居カマド掘り方
98号住居
98号住居土層断面
98号住居カマド
98号住居カマド掘り方
PL43 99号住居
99号住居土層断面
99号住居カマド
99号住居カマド掘り方
100号住居
100号住居カマド
100号住居カマド土層断面
100号住居カマド掘り方
PL44 101号住居
101号住居カマド土層断面
101号住居カマド土層断面
102号住居
102号住居土層断面
102号住居土層断面
102号住居カマド土層断面
102号住居カマド土層断面
PL45 103号住居
103号住居カマド
103号住居カマド土層断面
103号住居カマド土層断面
104号住居
104号住居土層断面
104号住居カマド
104号住居カマド土層断面
PL46 105号住居
105号住居土層断面
105号住居カマド
105号住居カマド遺物出土状態
105号住居カマド土層断面
105号住居カマド土層断面
105号住居カマド掘り方
106号住居
PL47 107号住居
107号住居カマド
108号住居
108号住居カマド土層断面
108号住居カマド土層断面
109号住居
109号住居カマド土層断面
109号住居カマド土層断面
PL48 110号住居
111号住居
111号住居カマド
111号住居カマド土層断面
111号住居カマド掘り方
112号住居
112号住居土層断面
112号住居カマド
PL49 113号住居
113号住居カマド
114号住居
114号住居カマド土層断面
114号住居カマド土層断面
115号住居
115号住居カマド
115号住居カマド土層断面
PL50 116号住居
116号住居土層断面
116号住居遺物出土状態
117号住居
117号住居カマド
118号住居
118号住居カマド
118号住居カマド掘り方
PL51 119号住居
120号住居

120号住居土層断面
120号住居カマド
121号住居
121号住居土層断面
121号住居カマド
121号住居カマド土層断面
P L.52 139号住居
140号住居・141号住居
142号住居
143号住居・159号住居
143号住居・159号住居土層断面
144号住居
144号住居土層断面
144号住居砥帯石製丸鞆出土状態
P L.53 146号住居
146号住居遺物出土状態
146号住居カマド
146号住居カマド掘り方
147号住居
147号住居カマド
147号住居掘り方
147号住居カマド掘り方
P L.54 148号住居
148号住居土層断面
148号住居カマド
148号住居掘り方
148号住居カマド掘り方
149号住居
149号住居カマド
149号住居掘り方
P L.55 150号住居
150号住居土層断面
150号住居カマド
150号住居カマド土層断面
150号住居掘り方
150号住居カマド掘り方
151号住居
151号住居土層断面
P L.56 151号住居カマド
151号住居掘り方
151号住居カマド掘り方
152号住居
152号住居遺物出土状態
152号住居土層断面
152号住居カマド
152号住居カマド掘り方
P L.57 153号住居
153号住居遺物出土状態
153号住居土層断面
153号住居カマド
153号住居カマド遺物出土状態
153号住居カマド土層断面
153号住居掘り方
153号住居カマド掘り方
P L.58 154号住居
154号住居遺物出土状態
154号住居土層断面
154号住居柱穴土層断面
154号住居カマド
154号住居カマド遺物出土状態
154号住居カマド土層断面
154号住居カマド掘り方
P L.59 155号住居
155号住居遺物出土状態
155号住居土層断面
155号住居カマド
155号住居カマド遺物出土状態
155号住居掘り方
155号住居カマド掘り方
155号住居カマド掘り方土層断面
P L.60 156号住居
156号住居土層断面
156号住居土層断面
156号住居カマド
156号住居カマド土層断面
156号住居カマド土層断面
156号住居掘り方
156号住居カマド掘り方
P L.61 157号住居
157号住居遺物出土状態
157号住居土層断面
157号住居カマド
157号住居カマド遺物出土状態
157号住居カマド土層断面
157号住居カマド土層断面
157号住居カマド掘り方
P L.62 158号住居
158号住居遺物出土状態
158号住居土層断面
158号住居カマド
158号住居カマド遺物出土状態
158号住居カマド土層断面
158号住居カマド土層断面
158号住居カマド掘り方
P L.63 1号建物(西→)
1号建物(南→)
1号建物石列
1号建物八稜鏡出土状態
2号建物(南→)
3号建物(北→)
3号建物(南→)
4号建物(西→)
P L.64 5号建物(南→)
5号建物柱穴土層断面
5号建物柱穴土層断面
6号建物(東南→)
1号井戸
1号井戸土層断面
2号井戸
2号井戸土層断面
P L.65 3号井戸
3号井戸土層断面
4号井戸
4号井戸確認状態
4号井戸土層断面
1号土坑
3号土坑・4号土坑
8号土坑
P L.66 9号土坑
9号土坑土層断面
9号土坑遺物出土状態
13号土坑
15号土坑
27号土坑
27号土坑遺物出土状態
28号土坑
P L.67 29号土坑
29号土坑遺物出土状態
30号土坑
31号土坑
33号土坑
35号土坑
38号土坑・141号土坑
38号土坑・141号土坑土層断面

PL68	39号土坑
	40号土坑・142号土坑
	42号土坑
	43号土坑
	44号土坑
	45号土坑
	46号土坑
	47号土坑
PL69	48号土坑
	49号土坑
	50号土坑
	51号土坑
	53号土坑
	54号土坑
	55号土坑
	56号土坑
PL70	57号土坑
	58号土坑
	59号土坑
	60号土坑・61号土坑
	62号土坑
	63号土坑
	64号土坑
	65号土坑
PL71	66号土坑
	67号土坑
	68号土坑
	69号土坑
	70号土坑
	71号土坑
	72号土坑
	73号土坑
PL72	74号土坑
	75号土坑
	76号土坑
	77号土坑
	78号土坑
	79号土坑
	80号土坑
	81号土坑
PL73	82号土坑
	103号土坑
	105号土坑
	106号土坑
	107号土坑
	108号土坑
	109号土坑
	110号土坑
PL74	111号土坑
	112号土坑
	113号土坑
	114号土坑
	115号土坑
	117号土坑・118号土坑
	121号土坑・122号土坑
	123号土坑
PL75	125号土坑
	126号土坑
	127号土坑
	128号土坑
	129号土坑
	132号土坑
	133号土坑
	134号土坑
PL76	1号溝・2号溝・7号溝・8号溝
	3号溝
	4号溝・5号溝
	11号溝
	10号溝・12号溝
	10号溝・12号溝土層断面
	10号溝土層断面
PL77	10号溝土層断面
	12号溝土層断面
	13号溝
	13号溝土層断面
	17号溝
	17号溝土層断面
	18号溝
	18号溝土層断面
PL78	19号溝・20号溝
	21号溝
	21号溝土層断面
	21号～24号溝
	25号溝
	25号溝土層断面
	26号溝
	27号溝
PL79	Ⅲ(As-B)層下水田(1次本線区　垂直)
	Ⅲ(As-B)層下水田(1次本線区　東→)
	Ⅲ(As-B)層下水田(1次変電所区　垂直)
	Ⅲ(As-B)層下水田(1次変電所区　北→)
	Ⅲ(As-B)層下水田(1次変電所区　西→)
	Ⅲ(As-B)層下水田(1次変電所追加区　垂直)
	Ⅲ(As-B)層下水田(1次変電所追加区東　北→)
	Ⅲ(As-B)層下水田(1次変電所追加区西　西→)
PL80	Ⅲ(As-B)層下水田(2次変電所区　垂直)
	Ⅲ(As-B)層下水田(2次変電所区　南→)
	Ⅲ(As-B)層下水田(2次本線区　垂直)
	Ⅲ(As-B)層下水田(2次本線区　東→)
	Ⅲ(As-B)層下水田(3次　垂直)
	Ⅲ(As-B)層下水田(3次　東→)
	Ⅲ(As-B)層下水田(3次南　東→)
	Ⅲ(As-B)層下水田(3次北　東→)
PL81	Ⅲ(As-B)層下水田アゼ・田面(2次)
	Ⅲ(As-B)層下水田アゼ・田面(2次)
	Ⅲ(As-B)層下水田アゼ・田面(2次)
	Ⅲ(As-B)層下水田水口(2次)
	Ⅲ(As-B)層下水田アゼ(2次)
	Ⅲ(As-B)層下水田アゼ(2次)
	Ⅲ(As-B)層下水田近接(3次)
	Ⅲ(As-B)層下水田田面耕作痕(3次)
PL82	Ⅱa層下水田(東北→)
	Ⅱa層下水田(北→)
	Ⅱa層下水田(北→)
	Ⅱa層下水田(西→)
	Ⅱa層下水田(南→)
	Ⅱa層下水田土層断面
	Ⅱa層下水田水口
	Ⅱa層下水田アゼ断面
PL83	石葬遺構(南側)
	石葬遺構
	石葬遺構方形台部上部土層断面
	石葬遺構(北側)
	石葬遺構(北側)
PL84	1号住居出土遺物(1)
PL85	1号住居出土遺物(2)
PL86	1号住居出土遺物(3)
	2号住居出土遺物
	3号住居出土遺物(1)
PL87	3号住居出土遺物(2)
	4号住居出土遺物(1)
PL88	4号住居出土遺物(2)
	5号住居出土遺物
	6号住居出土遺物(1)

P L 89	6号住居出土遺物(2)
P L 90	6号住居出土遺物(3)
	7号住居出土遺物(1)
P L 91	7号住居出土遺物(2)
	8号住居出土遺物(1)
P L 92	8号住居出土遺物(2)
P L 93	8号住居出土遺物(3)
	9号住居出土遺物(1)
P L 94	9号住居出土遺物(2)
	10号住居出土遺物(1)
P L 95	10号住居出土遺物(2)
	11号住居出土遺物
	12号住居出土遺物(1)
P L 96	12号住居出土遺物(2)
P L 97	12号住居出土遺物(3)
	13号住居出土遺物
	14号住居出土遺物(1)
P L 98	14号住居出土遺物(2)
P L 99	15号住居出土遺物
	16号住居出土遺物
	17号住居出土遺物
P L 100	18号住居出土遺物
	19号住居出土遺物(1)
P L 101	19号住居出土遺物(2)
P L 102	20号住居出土遺物
	21号住居出土遺物
	22号住居出土遺物
P L 103	23号住居出土遺物(1)
P L 104	23号住居出土遺物(2)
	24号住居出土遺物
	25号住居出土遺物
P L 105	26号住居出土遺物
	27号住居出土遺物
	28号住居出土遺物
P L 106	29号住居出土遺物(1)
P L 107	29号住居出土遺物(2)
P L 108	30号住居出土遺物
	31号住居出土遺物
	32号住居出土遺物(1)
P L 109	32号住居出土遺物(2)
	33号住居出土遺物(1)
P L 110	33号住居出土遺物(2)
P L 111	33号住居出土遺物(3)
P L 112	33号住居出土遺物(4)
P L 113	34号住居出土遺物(1)
P L 114	34号住居出土遺物(2)
	35号住居出土遺物(1)
P L 115	35号住居出土遺物(2)
	36号住居出土遺物(1)
P L 116	36号住居出土遺物(2)
	37号住居出土遺物(1)
P L 117	37号住居出土遺物(2)
	38号住居出土遺物(1)
P L 118	38号住居出土遺物(2)
	39号住居出土遺物
P L 119	40号住居出土遺物(1)
P L 120	40号住居出土遺物(2)
	41号住居出土遺物
	42号住居出土遺物(1)
P L 121	42号住居出土遺物(2)
	43号住居出土遺物(1)
P L 122	43号住居出土遺物(2)
P L 123	43号住居出土遺物(3)
P L 124	43号住居出土遺物(3)
	44号住居出土遺物(1)
P L 125	44号住居出土遺物(2)
	45号住居出土遺物(1)
P L 126	45号住居出土遺物(2)
	47号住居出土遺物
	48号住居出土遺物
	49号住居出土遺物
	50号住居出土遺物(1)
P L 127	50号住居出土遺物(2)
	51号住居出土遺物
	52号住居出土遺物(1)
P L 128	52号住居出土遺物(2)
P L 129	52号住居出土遺物(3)
	53号住居出土遺物
P L 130	54号住居出土遺物
	55号住居出土遺物(1)
P L 131	55号住居出土遺物(2)
	56号住居出土遺物
P L 132	57号住居出土遺物
	58号住居出土遺物
P L 133	59号住居出土遺物
	60号住居出土遺物
	61号住居出土遺物
P L 134	63号住居出土遺物
P L 135	64号住居出土遺物
	65号住居出土遺物
P L 136	66号住居出土遺物
	67号住居出土遺物
P L 137	68号住居出土遺物
	69号住居出土遺物(1)
P L 138	69号住居出土遺物(2)
	70号住居出土遺物(1)
P L 139	70号住居出土遺物(2)
P L 140	70号住居出土遺物(3)
P L 141	71号住居出土遺物
	72号住居出土遺物
P L 142	73号住居出土遺物
	74号住居出土遺物
	75号住居出土遺物(1)
P L 143	75号住居出土遺物(2)
	76号住居出土遺物(1)
P L 144	76号住居出土遺物(2)
	77号住居出土遺物
P L 145	78号住居出土遺物(1)
P L 146	78号住居出土遺物(2)
	79号住居出土遺物
	80号住居出土遺物(1)
P L 147	80号住居出土遺物(2)
	81号住居出土遺物
	82号住居出土遺物
P L 148	83号住居出土遺物(1)
P L 149	83号住居出土遺物(2)
	84号住居出土遺物(1)
P L 150	84号住居出土遺物(2)
P L 151	85号住居出土遺物
	86号住居出土遺物
P L 152	87号住居出土遺物
	88号住居出土遺物
	89号住居出土遺物(1)
P L 153	90号住居出土遺物
	91号住居出土遺物(1)
P L 154	91号住居出土遺物(2)
	92号住居出土遺物
	93号住居出土遺物
	94号住居出土遺物
P L 155	95号住居出土遺物(1)
P L 156	95号住居出土遺物(2)
	96号住居出土遺物
	97号住居出土遺物(1)
P L 157	97号住居州土遺物(2)

98号住居出土遺物
P L 158　99号住居出土遺物
P L 159　100号住居出土遺物
101号住居出土遺物(1)
P L 160　101号住居出土遺物(2)
102号住居出土遺物(1)
P L 161　102号住居出土遺物(2)
103号住居出土遺物
104号住居出土遺物(1)
P L 162　104号住居出土遺物(2)
105号住居出土遺物
P L 163　106号住居出土遺物
107号住居出土遺物
P L 164　108号住居出土遺物
109号住居出土遺物(1)
P L 165　109号住居出土遺物(2)
110号住居出土遺物
111号住居出土遺物(1)
P L 166　111号住居出土遺物(2)
112号住居出土遺物(1)
P L 167　112号住居出土遺物(2)
113号住居出土遺物
114号住居出土遺物
P L 168　115号住居出土遺物
116号住居出土遺物
117号住居出土遺物
118号住居出土遺物
119号住居出土遺物
120号住居出土遺物(1)
P L 169　120号住居出土遺物(2)
P L 170　120号住居出土遺物(3)
121号住居出土遺物
139号住居出土遺物
P L 171　140号住居出土遺物
141号住居出土遺物
142号住居出土遺物
P L 172　143号住居出土遺物(1)
P L 173　143号住居出土遺物(2)
144号住居出土遺物
146号住居出土遺物(1)
P L 174　146号住居出土遺物(2)
147号住居出土遺物(1)
P L 175　147号住居出土遺物(2)
148号住居出土遺物(1)
P L 176　148号住居出土遺物(2)
149号住居出土遺物
P L 177　150号住居出土遺物
P L 178　151号住居出土遺物
152号住居出土遺物
153号住居出土遺物
P L 179　154号住居出土遺物
155号住居出土遺物(1)
P L 180　155号住居出土遺物(2)
156号住居出土遺物
P L 181　157号住居出土遺物
158号住居出土遺物(1)
P L 182　158号住居出土遺物(2)
159号住居出土遺物(1)
P L 183　159号住居出土遺物(2)
160号住居出土遺物
P L 184　9号土坑出土遺物(1)
P L 185　9号土坑出土遺物(2)
15号土坑出土遺物
P L 186　土坑出土遺物(1)
P L 187　土坑出土遺物(2)
P L 188　土坑出土遺物(3)
P L 189　土坑出土遺物(4)
P L 190　土坑出土遺物(5)
溝　出土遺物(1)
P L 191　溝　出土遺物(2)
P L 192　遺構外出土遺物(1)
P L 193　遺構外出土遺物(2)
P L 194　遺構外出土遺物(3)
P L 195　遺構外出土遺物(4)
P L 196　遺構外出土遺物(5)
P L 197　遺構外出土遺物(6)
P L 198　遺構外出土遺物(7)
P L 199　遺構外出土遺物(8)
P L 200　遺構外出土遺物(9)
P L 201　遺構外出土遺物(10)
P L 202　遺構外出土遺物(11)
P L 203　遺構外出土遺物(12)
P L 204　遺構外出土遺物(13)
P L 205　遺構外出土遺物(14)
P L 206　遺構外出土遺物(15)
P L 207　遺構外出土遺物(16)
P L 208　遺構外出土遺物(17)



第１図　遺跡位置図（S＝1/200,000）

Ⅰ　発掘調査の経過

1．発掘調査の経過

北陸新幹線建設に伴う発掘調査の経緯については、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団報告第183集『行力春名社遺跡　北陸新幹線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第1集』1994年発行第1章(P1～6）に詳しく記載されているので参照していただきたい。

下芝五反田遺跡は、箕郷町の南部、高崎市との境界近くに位置する。発掘調査範囲は、北陸新幹線高崎起点7,640m～7,700m（清水地区)、7,700m～7,820mの本線用地とその北側に位置する箕郷変電所用地（五反田地区）である。発掘調査を行った面積は、清水地区が1,000㎡、五反田地区が8,050㎡の合計9,050㎡である。

発掘調査の期間は、清水地区が1992年10月1日から1993年5月31日までの8ヶ月で実施した。五反田地区は、用地買収の進捗状況や変電所建設変更の影響により1993年9月1日から1994年7月31日（1次調査)、9月14日から11月30日（2次調査)、1995年8月17日から10月13日（3次調査）にかけての3次にわたる15.5ヶ月で実施した。

発掘調査地は、黄褐色砂層下、浅間山B軽石（As－B）層下、Hr-FA・Hr-FP泥流層上面、Hr-FA層下面、黒褐色土（Hr-FA層下畠耕作土）層下の各面より遺構を検出した。なお、黄褐色砂層下の遺構は、変電所用地の北東部の450㎡だけで水田遺構が確認された。Hr-FA・Hr-FP泥流層及びHr-FA層下面については変電所用地西側から本線用地にかけてはトレンチ調査で埋没河川の存在が確認され遺構が存在しないことが確認されたことからHr-FA層下の調査は清水地区と五反田地区の変電所用地で行った。また、Hr-FA層下の発掘調査は、地表下4～4.5mと深所になるため安全対策を行って実施した。安全対策は、遺構確認面が地表面より4～4.5m下の深所に及び泥流層がϕ1mの礫を含むため掘削すると崩落しやすいため調査区周囲にH鋼を打設し、地表面から約1m下より45度ほどの傾斜をとって遺構確認面までの掘削をおこない、傾斜下には湧水排出用の溝を配置した。

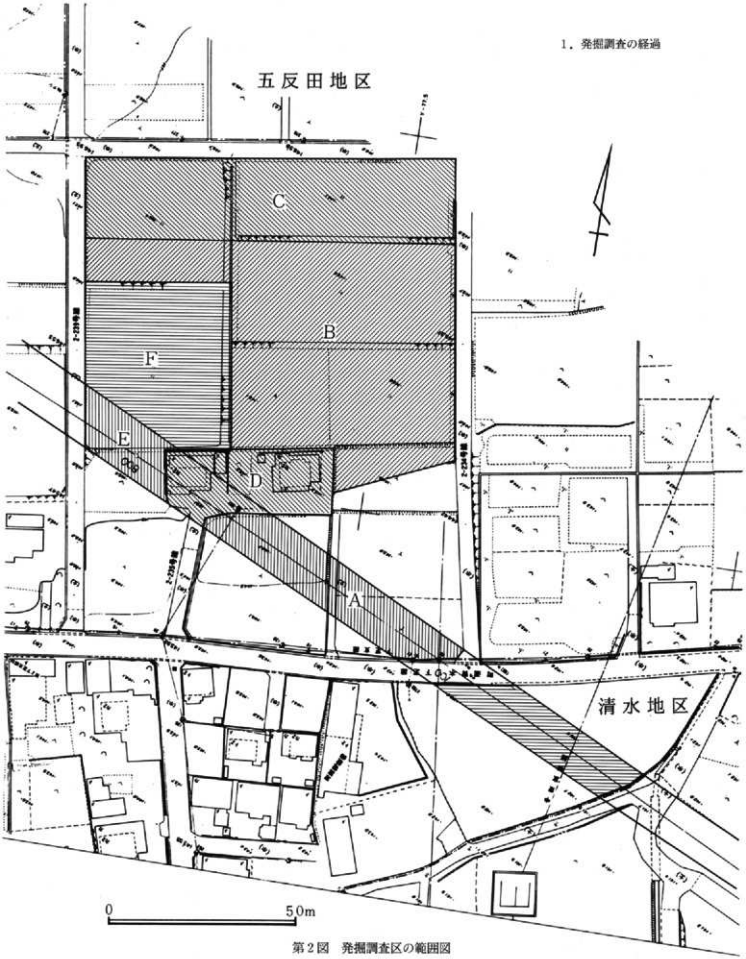
発掘調査は、清水地区では各遺構確認面ごとに実施したが、箕郷町教育委員会が担当する東京電力の送電用鉄塔移設工事に伴う発掘調査地と隣接し工期が同じことから鉄塔用地と同一に掘削、調査、安全対策を実施した。

五反田地区では、用地買収済の箇所ごとに順次に実施した。93年度は、本線用地の東側(第3図のA）と変電所用地東側・北側（第3図のB）について着手したが、変電所用地の未買収地は交渉に難航が予想されたため発掘調査中に設計が変更になり当初予定地の北側部分（第3図のC）が追加になった。なお、93年度は、A・B・C部分のHr-FA・Hr-FP泥流層上面までについて調査を実施し、B・C部分はHr-FA・Hr-FP泥流層の掘削及び下面調査のための安全対策についても行った。

94年度は、前年度調査した変電所部分（B・C）のHr-FA・Hr-FP泥流層、Hr-FA層下の古墳時代の遺構について調査を実施した。また、9月より調査が可能になった本線・起電区分所部分の残り（第3図のD）について調査を実施し、さらにその後、用地買収が完了した本線用地（第2図のE）について調査を実施した。

95年度は、新たに追加して用地買収を行った地点に建設される「コ」の字状の構造物建築部分（第3図のF）について調査を実施した。

奈良・平安時代以降の発掘調査は、各地区でⅢ(As－B）層上面まで重機で掘削し、上面の遺構確認・調査を行い、そして下面で確認した水田遺構等の調査、Ⅴ（泥流）層上面で確認した住居群をはじめとする遺構の調査の手順で実施した。



第２図　発掘調査区の範囲図

II　調査の方法

1．基本層序

下芝五反田遺跡は、白川扇状地の標高143～146.5mの北から南へかけてのごく緩い傾斜地に立地する。遺跡地は、行力春名社遺跡や下芝天神前遺跡を初めとするこの地域で観察できる榛名二ッ岳噴火によって起きた土石流災害で堆積した泥流層が奈良・平安時代と古墳時代の遺構確認面の間に3～3.5mの厚さで堆積している。

遺跡地の基本的な土層の堆積状態は、周辺の遺跡とは大きな違いは見られない。

遺跡地の基本土層の様相は、古墳時代編II－1で示したとおりである。

I層　地表面より現在の耕作土である表土層。

II層　浅間B軽石（As－B）を多く含む黒褐色土層。調査区北東部では、洪水堆積による灰黄色砂（IIa）が確認された。この洪水層は、この他の所では観察されなかった。なお、II層の主体である黒褐色土をIIbで表記する。なお、IIb層は、III層上位に存在するため後の耕作によるIII層間での鋤き込みによるためか多量のAs－Bを含んでいる。

III層　浅間B軽石（As－B）が堆積した層、10号溝埋没土や調査区の部分的に軽石層の上位ににぶい橙色を呈す降灰層が観察された。As－Bは、1108年(天仁元年)に浅間山が噴火した際の軽石である。なお、III層は、五反田地区調査区本線部分の東半分から清水地区にかけての範囲では観察されなかった。

IV層　礫や軽石を含む暗褐色土、この層の上位は平安時代後期の水田耕作土であるが下位との差は色調が段々淡くなる程度で明確ではない。

V層　榛名二ッ岳Hr-FA・Hr-FP噴火による泥流層。内部は、黒色土が数層にわたって堆積しており細分が可能である。

VI層　榛名二ッ岳火山灰（Hr-FA）層。6世紀初頭榛名二ッ岳噴火の際の堆積物。

VII層　若干の浅間C軽石（As－C）を含む黒色土層。As－Cは、4世紀中頃に浅間山噴火した際の軽石である。

VIII層　若干の浅間C軽石（As－C）を含む灰褐色砂質土層。

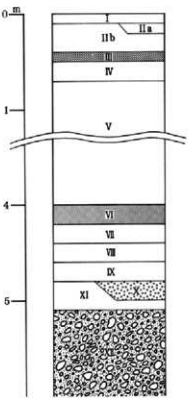
IX層　多少のAs－Cを含む灰白色シルト層。

X層　浅間C軽石層（As－C）この層は、部分的に存在しない箇所や堆積の厚さに差が見られる。また、一部の堆積層は、2次的な堆積の可能性もみられる。

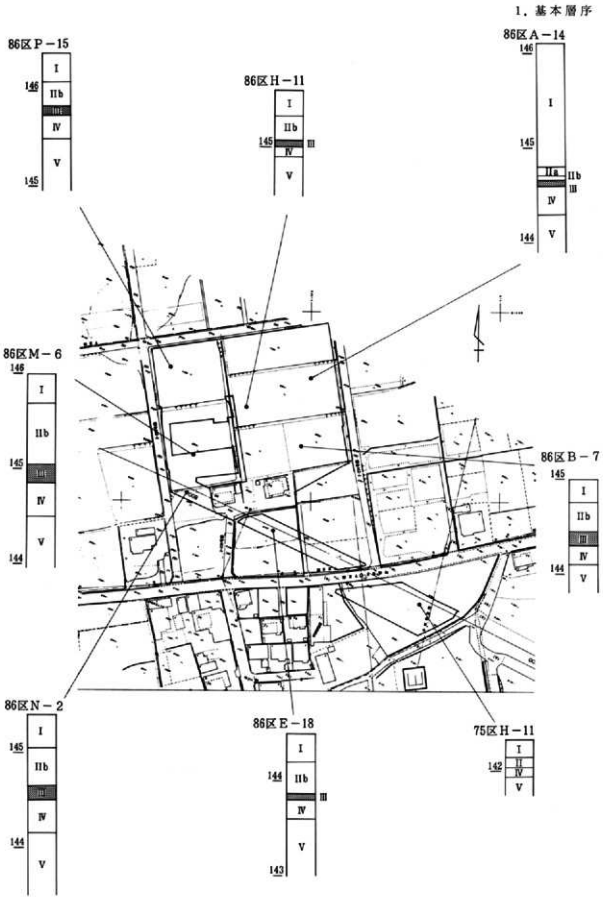
XI層　粒子の粗い灰褐色砂層。

XII層　砂礫層。この層は起伏がみられ一部ではVII層上部まで起伏している。

遺構の確認面は、II層上位の灰黄色砂層（IIa）下より中世の水田を検出し、その下層のIII層（As－B）下より平安時代後期の水田（As－B層下水田）を検出した。この水田の耕作土であるIV層下、V層上面で奈良・平安時代の集落を検出した。



第3図　基本土層概念図



第4図　調査区土層柱状図

2．調査区の設定

北陸新幹線地域埋蔵文化財発掘調査では、これに伴う遺跡発掘調査での調査区の設定を全域を網羅するように設定した。

調査区の設定は、「国家座標」に基づき北陸新幹線地域の全域を網羅する１km四方の大区画を設定した。大区画は、北陸新幹線の起点である高崎駅東南の国家座標値X＝＋35,000.0m・Y＝－73,000.0mを起点とし、北陸新幹線の路線に沿って高崎から安中方面に向けて25の区画を設定した。（第６図）これを「地区」（大区画）と呼称した。

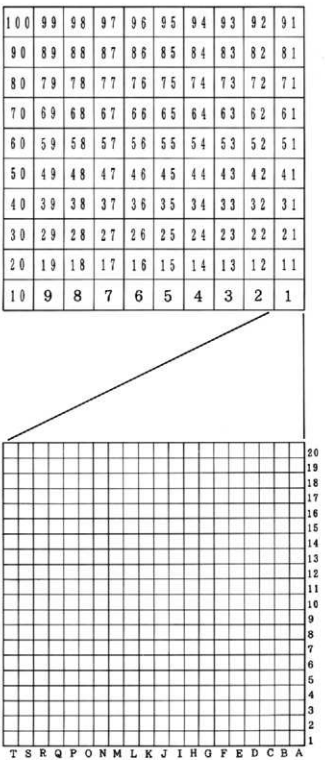
次にこの１km四方の各地区（大区画）の中を一辺100m四方の区画で100等分に区画し、この100四方の区画を「区」（中区画）と呼称した。この「区」では、東から西へそして南から北にかけて１～100区までを設定した。（第５図）

さらに「区」と呼称した100m四方の中区画の内部を一辺５mの小区画で400等分し、この小区画を「グリッド」と呼称した。「区」内部の呼称方法は、東南隅を起点としてX軸（西方向）にアルファベットをそしてY軸（北方向）に数字を用いた。すなわち１つの中区画内部は、X軸がAから始まりTまでY軸が１から20まで進んだ後次の「区」に移ることになる。

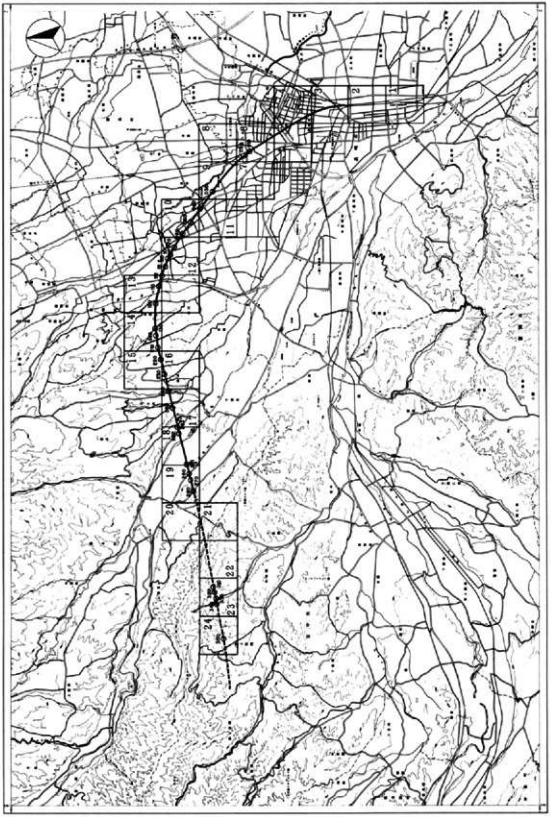
下芝五反田遺跡は、大区画が12地区、中区画が清水地区は75区に相当し、五反田地区は75区、76区、85区、86区に相当する。

なお、発掘調査範囲にかかる各中区画のA－１の座標値は、以下のとおりである。

75区　X＝＋41,700.0m、Y＝－77,400.0m
76区　X＝＋41,700.0m、Y＝－77,500.0m
85区　X＝＋41,800.0m、Y＝－77,400.0m
86区　X＝＋41,800.0m、Y＝－77,500.0m



第５図　調査区設定図(中・小区画)



第6図　調査区の設定図（大区間）

Ⅲ　周辺の環境

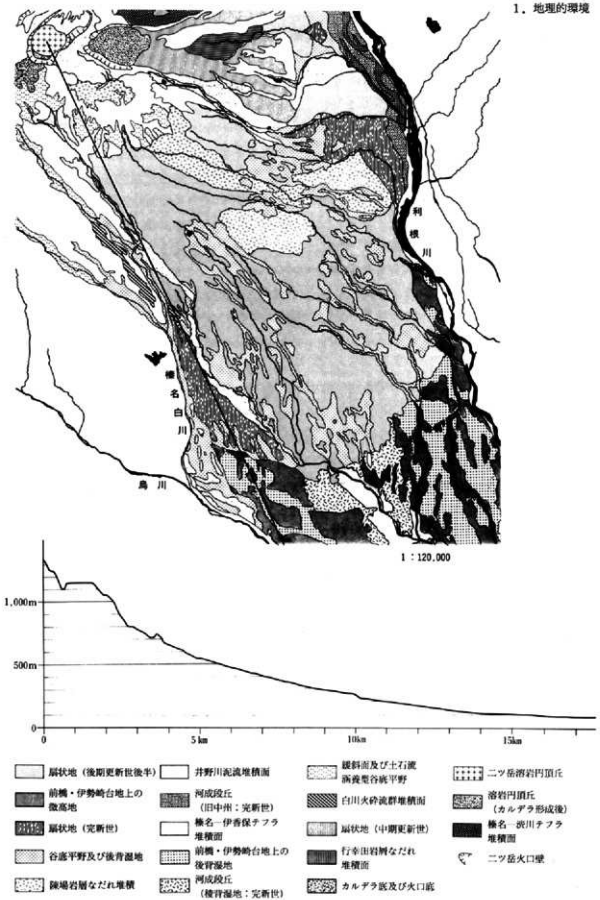
1．地理的環境

下芝五反田遺跡は、群馬県群馬郡箕郷町大字下芝字五反田に所在する。箕郷町は、群馬県の中央よりやや西よりに位置し、榛名天目山から南南東におよそ幅3～4kmで長さ12kmの範囲の町である。町域の大部分は、榛名山東南麓に立地する。下芝五反田遺跡は、箕郷町でももっとも南部の高崎市に近い位置にあり、山麓から平野部への変換部分に立地する。北陸新幹線の起点である高崎駅からは、北西へ直線距離で7.2kmほどである。遺跡地の現在の標高は、142.6～147.0mである。

下芝五反田遺跡は、地勢的には榛名山(標高1,448m）東南麓の一部に小規模に発達した「白川扇状地」（下の写真参照）に立地する。榛名山東南麓には、渋川市から榛東村、箕郷町の東部にかけて広範囲に「相馬ケ原扇状地」が占める。南麓は、箕郷町の西部に流れる榛名白川から西側で発達した開析谷が存在する古期扇状地面である「十文字面」が占めている。「白川扇状地」は、この「相馬ケ原扇状地」と「十文字面」の間に位置する。その範囲は、概ね榛名白川と井野川に挟まれた範囲である。扇頂は、箕郷町西明屋付近で扇端部は不明であるとの見解が示されている。

「白川扇状地」のその主たる形成要因は、北から南へ流れる榛名白川と北西から南東へ流れる井野川に挟まれた地域への古墳時代後期初頭に起きた榛名二ッ岳の噴火に伴う二次的洪水堆積物の流入である。この洪水堆積物は、古墳時代後期初頭、6世紀初頭と前半の2度にわたって起きた火山噴火によって発生したものである。この火山噴火の6世紀初頭に起きた際のテフラは、本遺跡の基本層序Ⅵ層である火山灰（Hr-FA）を噴出したものであり、この噴火に伴う洪水堆積物をHr-FA泥流と呼称している。6世紀前半に起きた噴火に伴うものは、子持村黒井峰遺跡や白井遺跡群を埋没させた火山軽石で有名なHr-FPであるが、本遺跡の存在する榛名東南麓ではほとんど堆積していない。そしてこの噴火に伴う洪水堆積物をHr-FP泥流と呼称している。このHr-FA泥流層とHr-FP泥流層の間には、僅かに5～10cmの黒色土が堆積しており火山活動の休止が窺えるが、Hr-FA泥流による被害が甚大であったため井野川左岸に位置する同遺遺跡にみられるような災害復旧は行われなかった。この2度にわたる泥流堆積層は、本遺跡付近では、約4～5m、南に位置する浜川遺跡群では2.5～3m、御布呂遺跡では1～1.5mほどの厚さが見られる。本遺跡の北側については、発掘調査が行われていないためデータがないため不明である。なお、この地域の泥流層下の旧地形については、「行力春名社遺跡」の報告書中で考察しているので参照されたい。

上空から見た白川扇状地



第７図　遺跡地周辺の地形図

2．歴史的環境

下芝五反田遺跡の周辺遺跡としては、東2.3kmに位置する豪族居館として三ッ寺Ⅰ遺跡、その西側に三ッ寺Ⅰ遺跡の奥津城として愛宕塚古墳、八幡塚古墳、薬師塚古墳の全長100m前後の３基の大型前方後円墳を中心とする保渡田古墳群等が存在し、古墳時代中期から後期初頭にかけて一大勢力を誇っていた地域として知られている。

本編では、掲載する泥流層上面の遺構である奈良・平安時代から中世を中心に記載する。

古墳時代

榛名二ッ岳の２度にわたる大噴火は、榛名山麓に多大な火山災害を与えている。その結果は、子持村黒井峰遺跡や渋川市中筋遺跡そして下芝五反田遺跡、下芝天神遺跡、浜川遺跡群などのHr-FA・Hr-FP泥流層下の成果によって明らかである。

榛名白川と井野川に挟まれた下芝五反田遺跡周辺では、土石流災害で壊滅的な被害を受け100年近く土地利用が行われなかったようである。この付近の住民は、土石流災害の影響を受けなかった丘陵部で新たな集落を形成したと考えられる。こうした地域での集落遺跡として和田山天神前遺跡、海行Ａ・海行Ｂ遺跡などが見つかっている。そうしたなかで北陸新幹線地域の浜川遺跡群長町遺跡では、土石流災害後の６世紀後半代の住居が２軒検出されているが継続性は見られず短期間の存続である。

それに対して井野川左岸の土石流災害を受けていない地域では、三ッ寺Ⅱ遺跡、三ッ寺Ⅲ遺跡、保渡田遺跡などでは集落の継続が確認されている。下芝五反田遺跡周辺の再利用は、７世紀中葉の榛名神社古墳のような墳墓としての利用が最初である。この付近では、「上毛古墳綜覧」に古墳の確認がされなかった地域であるが、近年下芝五反田遺跡の東にある榛名神社で古墳が確認されている。そして下芝五反田遺跡27号溝の埋没土からは台付長頸壺の出土が見られることなどから榛名神社古墳だけでなく周辺には数基の後期古墳の存在が推測される。

奈良・平安時代

下芝五反田遺跡が所在する地域は、奈良・平安時代には上野国群馬郡に属しており、群馬郡には、「和名類聚抄」によると長野、井出、小野、八木、上郊、畦切、島名、群馬、桃井、有馬、利刈、駅家、白衣の13郷が設置されており遺跡地は長野郷に属すると推定される。群馬郡には、上野国府が設置されていた。国府は、現在の前橋市元総社町に推定されているが、国庁をはじめとする諸施設は確認されていない。下芝五反田遺跡は、国府より西へ約７kmの距離である。国府周辺には、北西に国分僧寺・国分尼寺、北に「放光寺」と想定される山王廃寺などが存在し古代上野国の中枢的な地域であった。国府・国分寺周辺では鳥羽遺跡や上野国分僧寺・尼寺中間地域など大規模な集落遺跡が展開しているが、その周辺部になると集落規模も徐々に小規模や遺構の密度が粗になっている。

下芝五反田遺跡の周辺では、南に位置する御布呂遺跡や熊野堂遺跡、菅谷遺跡などでは、東山道と推定される道路が検出され、これらの道路遺構はほぼ一直線上に位置している。これらの道路遺構は、1974年に金坂清則氏によって発表された上野国内の東山道に該当している。1995年に坂爪純一氏が境町牛堀遺跡、矢ノ原遺跡などで見つかった道路遺構の成果から奈良時代の東山道ルートを設定したことから現在では「国府ルート」と呼ばれている。

下芝五反田遺跡の周辺では、奈良・平安時代の遺跡が数多く確認されているが、大部分は一般的な集落遺跡である。そうした中で大八木屋敷遺跡では、「上野国交代実録帳」に記載されている群馬郡衙別院の「八木院」と推定される遺構が検出されている。この大八木屋敷遺跡の周辺遺跡からは、下小鳥遺跡で漆紙、雨壺遺跡で陶質円面硯、熊野堂遺跡で奈良三彩陶小壺、融通寺遺跡で灰釉陶器唾壺など官衙と結びつけられる遺物が出土している。

一般集落遺跡では、井野川左岸の保渡田東遺跡、三ッ寺Ⅱ遺跡、三ッ寺Ⅲ遺跡、保渡田遺跡、井出村東遺跡、熊野堂遺跡などが存在する。このうち保渡

田東遺跡は、7世紀末から8世紀にかけて形成される集落であるが、その他は古墳時代から継続する集落遺跡である。

そして下芝五反田遺跡が立地する井野川右岸、榛名白川左岸では、下芝五反田遺跡以南では行力遺跡群榛名社、遺跡高崎市長野北部遺跡群舞台・清水・江原・中屋敷・上屋敷遺跡、浜川北遺跡、道場遺跡群長町・踏分遺跡、館遺跡で平安時代の集落・住居が検出されている。こうした状況から井野川右岸、榛名白川左岸では、榛名二ッ岳噴火による土石流災害の影響が大きく開発が奈良時代後半から平安時代になってようやく行われている。なお、下芝五反田遺跡以北では、現在まで発掘調査例が報告されていないため状況は不明である。

集落以外の遺構には、As－Bで埋没した水田がほとんどの遺跡から検出されている。古代末の遺跡地周辺は、「青木荘」の荘域に含まれていたと推定される。青木荘に関する記録は、近世以降の「和田記」、「上野国風土記」、「上野誌」などの諸誌に見られるが、遺跡地の東に残る「青木」の地を中心とする範囲であったと推定されている程度で詳細は不明である。

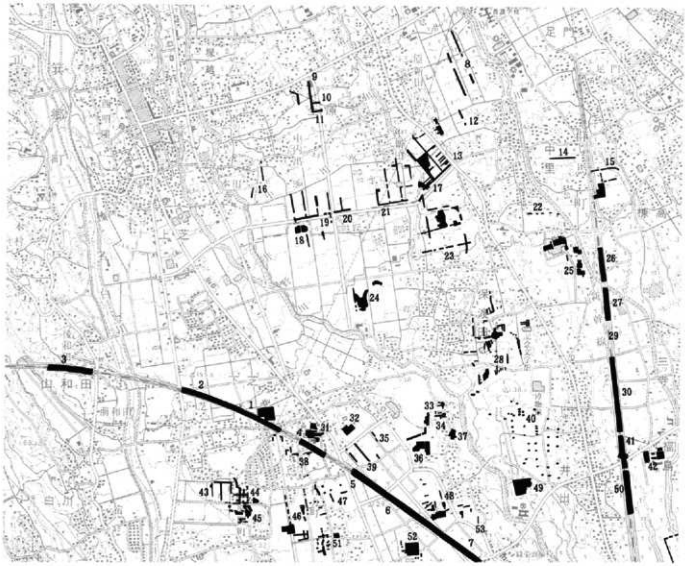
中　世

中世では、室町時代になって箕輪城主長野氏台頭に伴って色々な文献が見られるが、鎌倉時代は文献がほとんど残されておらず一部伝説が伝えられている程度である。その伝説は、鎌倉幕府の御家人和田義盛が乱を起こし敗北後八男義国が和田山に逃れたと言うものである。そしてこれを裏付ける遺物として建治元年（1275年）の銘のある板碑が抜鉾神社に保存されている。そして鎌倉時代の館跡としては、14世紀代の銘のある板碑を出土している井出東館があるが長野氏の武士団の館の可能性もあり明確でない。

室町時代では、箕輪城を中心に長野氏の武士団の館跡が群馬町井出地区や高崎市浜川地区をはじめとして多く知られている。館以外の遺跡としては、和田山天神前遺跡で「西上野年中行事識」に記載されている「極楽寺」と推定される寺院跡が検出されている。この寺院跡からは、室町時代前期の銅製水瓶、蓬萊双雀鏡などが出土している。

文　献

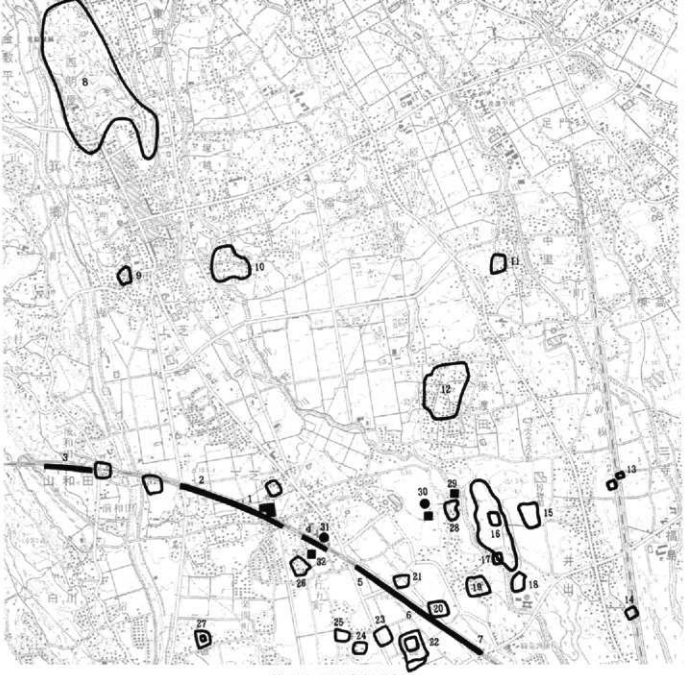
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団発行
1．「下芝天神遺跡・上田原遺跡」1998年
2．「行力春名社遺跡」1994年
3．「浜川遺跡群」1998年
4．「岡道遺跡」1983年
5．「三ッ寺Ⅰ遺跡」1998年
6．「三ッ寺Ⅱ遺跡」1991年
7．「三ッ寺田遺跡・保渡田遺跡・中里天神塚遺跡」1985年
箕郷町教育委員会発行
8．「下芝・原遺跡」1983年
9．「生原・善龍寺前遺跡」1996年
10．「海行A・B遺跡」1988年
群馬町教育委員会発行
11．「保渡田Ⅱ・中林遺跡」1982年
12．「保渡田田遺跡」1983年
13．「群馬町の遺跡」1986年
14．「保渡田東遺跡」1986年
15．「保渡田荒神前・皿掛遺跡」1988年
16．「保渡田Ⅶ遺跡」1990年
17．「中里遺跡群西芝・中道・押出・薬師前遺跡・昆沙門遺跡(1)」1991年
18．「井出地区遺跡群」1992年
19．井出村東遺跡調査会「井出村東遺跡」1993年
高崎市教育委員会発行
20．「長野北部遺跡中屋敷（Ⅰ）・殿田・清水（Ⅰ）・舞台（Ⅰ）遺跡」1993年
21．「長野北部遺跡群舞台（Ⅱ）・清水（Ⅱ）遺跡」1984年
22．「長野北部遺跡群中屋敷（Ⅰ）・舞台（Ⅲ）遺跡」1985年
23．「長野北部遺跡群一丁田・榛名社西遺跡」1988年
24．「浜川北遺跡」1989年
25．「道場遺跡」1989年
26．「行力遺跡群榛名社遺跡」1990年
27．「寺ノ内遺跡」1979年
28．「矢島遺跡・御布呂遺跡」1979年
29．山崎　一「群馬県古城墓址の研究」
30．群馬県教育委員会「群馬県の中世城館跡」1988年
31．高崎市「新編高崎市史　資料編3中世Ⅰ」1996年



第８図　周辺遺跡図(奈良・平安時代)

第１表　奈良・平安時代周辺遺跡

No.	遺跡名	所在地	古墳	集落	生産	文献	No.	遺跡名	所在地	古墳	集落	生産	文献
1	下芝五反田遺跡	箕郷町大字下芝字五反田		○	○		28	保渡田VII遺跡	群馬町大字保渡田字八幡塚他	○			16
2	下芝天神遺跡	箕郷町大字下芝字天神			○	1	29	井出地区遺跡群(B)	群馬町大字井出字上井出		○		18
3	和田山天神前遺跡	箕郷町大字和田山字		○			30	三ッ寺II遺跡	群馬町大字三ッ寺I字街道		○		6
4	行力春名社遺跡	高崎市行力町字春名社			○	2	31	椿名社遺跡	高崎市行力町字椿名社			○	26
5	浜川貝町遺跡	高崎市浜川町字高田			○	3	32	浜川北遺跡(西)	高崎市浜川町字踏分			○	24
6	浜川貝町遺跡	高崎市浜川町字長町			○	3	33	保渡田皿掛遺跡	群馬町大字保渡田字掛皿			○	15
7	浜川館遺跡	高崎市浜川町字館			○	3	34	谷津遺跡	高崎市浜川町字谷津			○	25
8	保渡田II遺跡	群馬町大字中里		○		11	35	踏分遺跡	高崎市浜川町字踏分			○	25
9	八反畠遺跡	箕郷町大字生原字八反畠		○		10	36	浜川北遺跡(東)	高崎市浜川町字谷乙		○		24
10	中新田遺跡	箕郷町大字生原字中新田		○		10	37	道場遺跡	高崎市浜川町字道場		○		25
11	諏訪遺跡	箕郷町大字生原字諏訪		○		10	38	一丁田・椿名社西遺跡	高崎市行力町字一丁田他			○	23
12	西芝遺跡	群馬町大字中里字西芝		○		10	39	長町遺跡	高崎市浜川町字中町			○	25
13	海行B遺跡	箕郷町大字生原字海行		○		10	40	井出地区遺跡群(A)	群馬町大字井出字元井出			○	18
14	中道遺跡	群馬町大字中里字中道				17	41	三ッ寺I遺跡	群馬町大字三ッ寺字藤塚街道			○	5
15	中里天神塚古墳	群馬町大字中里字見沙門	○			7	42	中林遺跡	群馬町大字三ッ寺字		○	○	11
16	薬師遺跡	群馬町大字中里字薬師		○		17	43	下芝・原遺跡	箕郷町大字下芝字原			○	8
17	海行A遺跡	箕郷町大字生原字海行		○		10	44	清水遺跡	高崎市薬間町字清水			○	20 21
18	堀ノ内遺跡	箕郷町大字生原字堀ノ内		○		10	45	舞台遺跡	高崎市薬間町字舞台		○		20~22
19	佐藤遺跡	箕郷町大字生原字佐藤		○		10	46	殿田遺跡	高崎市薬間町字殿田			○	20
20	飯盛遺跡	箕郷町大字生原字飯盛		○		10	47	中屋敷遺跡	高崎市行力町中屋敷			○	22
21	善龍寺前遺跡	箕郷町大字生原字善龍寺前	○	○		9	48	高田遺跡	高崎市浜川町字高田			○	25
22	押出遺跡	群馬町大字中里字押出				17	49	同道遺跡	群馬町大字井出字同道			○	4
23	保渡田荒神前遺跡	群馬町大字保渡田字荒神前		○		15	50	井出村東遺跡	群馬町大字井出字村東		○		19
24	保渡田III遺跡	群馬町大字保渡田字地蔵前			○	12	51	中屋敷西遺跡	高崎市行力町中屋敷西			○	20
25	保渡田東遺跡	群馬町大字保渡田字中里前		○		14	52	矢島遺跡	高崎市浜川町字矢島				28
26	保渡田遺跡	群馬町大字保渡田字街道		○		7	53	館遺跡	高崎市浜川町字館		○		27
27	三ッ寺III遺跡	群馬町大字三ッ寺字街道		○		7							



第９図　周辺遺跡図(中世)

第２表　中世周辺遺跡

No.	遺跡名	所在地	遺跡の内容	文献
1	下芝五反田遺跡	箕郷町大字下芝字五反田	瓦字状建物、水田	
2	下芝入畑・上田尻遺跡	箕郷町大字下芝字矢神地	耕作地	
3	和田山矢神前遺跡	箕郷町大字和田山字矢神前	館、寺院　信貴型銅製水瓶	99年度刊行
4	行力巻名社遺跡	高崎市行力町字巻名社	耕作地	2
5	岡川荒町遺跡	高崎市岡川町字荒町	館	3
6	岡川高田遺跡	高崎市岡川町字高田	館関連遺構	3
7	岡川館遺跡	高崎市岡川町字館	土塁・濠	3
8	箕輪城跡	箕郷町大字箕輪城・東明屋	長野氏居城	29・30
9	下田尻館跡	箕郷町大字上芝字内出	下田氏館居城、堀が現存	29・30
10	生原の内出跡	箕郷町大字生原字中内出	堀、土居が現存	29・30
11	中屋敷館跡	群馬町大字中屋字屋敷	堀が現存	29・30
12	保渡田城跡	群馬町大字保渡田字屋敷廻	天正10年　堀、土塁、戸口、櫓台が現存	29・30
13	ニッヶ塚墓遺跡	群馬町大字ニッヶ塚西原遺跡	堀を発掘調査	29・30
14	井出東館跡	群馬町大字井出字東井出	14C.代　堀を一部発掘調査	29・30
15	熊野館跡	群馬町大字井出字熊野	堀が現存	29・30
16	笛塚館跡	群馬町大字井出字笛井出	16C.代　堀、戸口が残存　元井出要害の砦	29・30
17	元井出館跡	群馬町大字井出字元井出	16C.代　堀が残存　元井出要害の砦	29・30
18	長渡館跡	群馬町大字井出字長渡	16C.代　堀を発掘調査	4
19	岡川館跡	高崎市岡川町字館	16C.代　堀、土居を発掘調査	29・30・31
20	高田屋敷跡	高崎市岡川町字高田	一重の堀　発掘調査	29・30・31
21	与平屋敷跡	高崎市岡川町字与平	堀が残存	29・30・31
22	矢島の砦跡	高崎市岡川町字矢島	堀、土居、櫓台、戸口等を発掘調査	29・30・31
23	長町屋敷跡	高崎市岡川町字長町		29・30・31
24	行力上屋敷跡	高崎市行力町字上屋敷		31
25	行力中屋敷跡	高崎市行力町字中屋敷		31
26	行力上屋敷跡	高崎市行力町字上屋敷		31
27	井野屋敷跡	高崎市柴崎町字石田	16C.代　堀が現存	29・30・31
28	乙巻館跡	高崎市岡川町字乙巻	長野氏第代の館	29・30・31
29	遊場遺跡	高崎市岡川町字遊場	横穴式墓構	23
30	岡川北遺跡	高崎市岡川町字北ノ	横穴式墓構、墓地	24
31	稲名社遺跡	高崎市行力町字稲名社	小祠と墓地遺構	26
32	一丁田・稲名社遺跡	高崎市行力町字一丁田・稲名社	横穴式遺構	23

Ⅳ　検出した遺構・遺物

1．概　要

奈良・平安時代以降の遺構は、住居142軒、建物6棟、井戸4基、土坑126基、溝27条、水田2面、石葺遺構3ヵ所を検出した。そしてこれらの遺構・遺構外から出土した遺物は、土師器、須恵器、青磁・白磁、施釉陶器、土製品、石器・石製品、鉄器・鉄製品などがあり、これら遺物の総量はパン箱で300箱に及ぶ。

遺構の確認面は、上位よりⅡａ層の洪水堆積層である灰黄色砂層下、Ⅲ層の As－Ｂ層上面、As－Ｂ層下、そしてⅣ層の水田耕作土下でⅤ層の Hr-FA・Hr-FP 泥流層上面である。

Ⅱａ層自体は、五反田地区調査区の北東隅の一部しか堆積が確認されなかったが、その層下からは水田を検出した。Ⅲ層上面では、八稜鏡を出土した建物や土坑、溝を検出した。検出した遺構数は、僅かである。Ⅲ層下では、清水地区と１次調査区本線部分の東半分を除いたほぼ全面で水田を検出し、五反田地区調査区の東側では水田に伴う水路である10号溝を検出した。Ⅳ層は、Ⅲ（As－Ｂ）層下水田耕作土であるためこの層中での遺構検出は困難であった。しかし、この層中からは、多量の遺物出土があるため遺構確認のためⅤ層上面まで掘削は人力によって行い出土遺物は可能な限り最小単位の調査区グリッドによって取り上げた。Ⅴ層上面では、住居、建物、井戸、土坑、溝等の数多くの遺構を検出した。

遺構の時期は、Ⅱａ層下水田から出土した遺物が全くないため年代を明らかにすることは難しいがⅢ層上面で確認した遺構が13世紀から14世紀に比定されることから15世紀代かそれ以降に起きた洪水で埋没したと考えられる。

Ⅲ（As－Ｂ）層下水田は、As－Ｂ降下（1108年、天仁元年の浅間山噴火のさいの噴出軽石）によって埋没したものである。この水田の開田は、下層に存在する住居群が８世紀後半から11世紀前葉の年代観が与えられることから11世紀中葉頃から行われ50年前後の耕作の後火山災害の被害を受けたと考えられる。

Ⅴ層で検出した住居群は、前述のように８世紀後半から11世紀初頭にかけてであるが、その主体は９世紀から10世紀にかけてである。

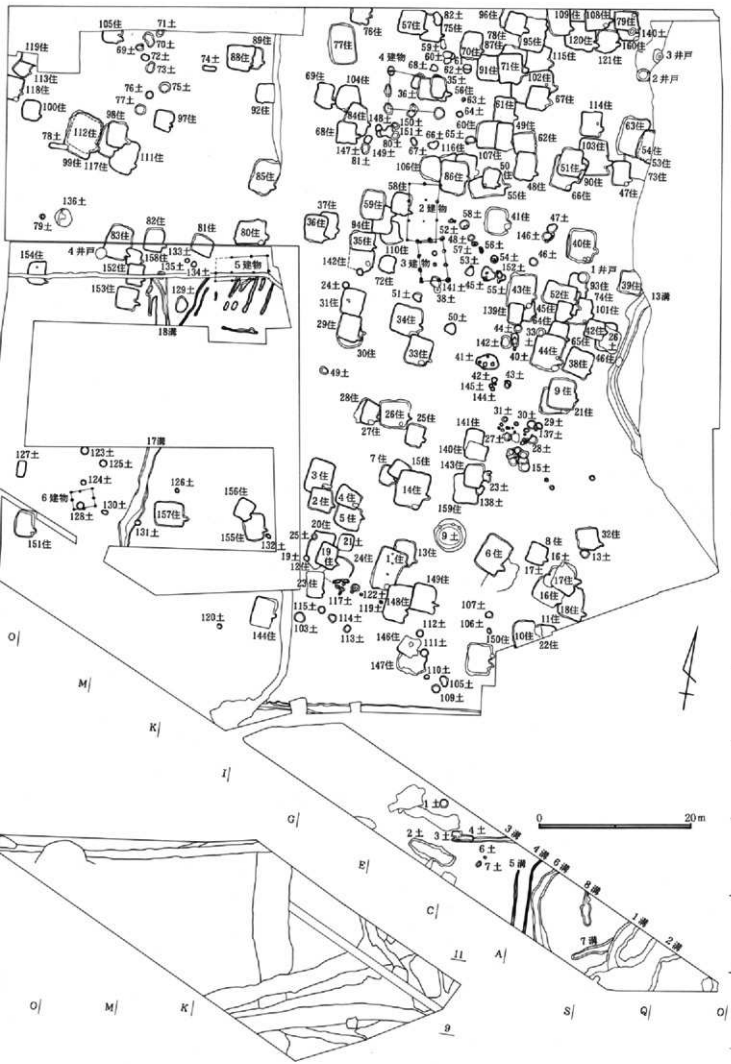
遺構の分布は、それぞれの層位で検出した遺構によって分布の状況が異なる。

Ⅲ（As－Ｂ）層下水田は、東部の五反田地区調査区本線部分東半分から清水地区にかけては存在していない。しかし、東に隣接す行力春名社遺跡は、全面で同時期の水田の存在する可能性がしてきされていることから五反田地区調査区本線部分東半分から清水地区でも水田遺構が存在した可能性は考えられる。

水田遺構は、当時の地表面をそのまま開田しただけでなく１区画の面積を広く確保するために数カ所で土木工事的な改良を行っている。そうした影響が現在の地表面でも確認される。

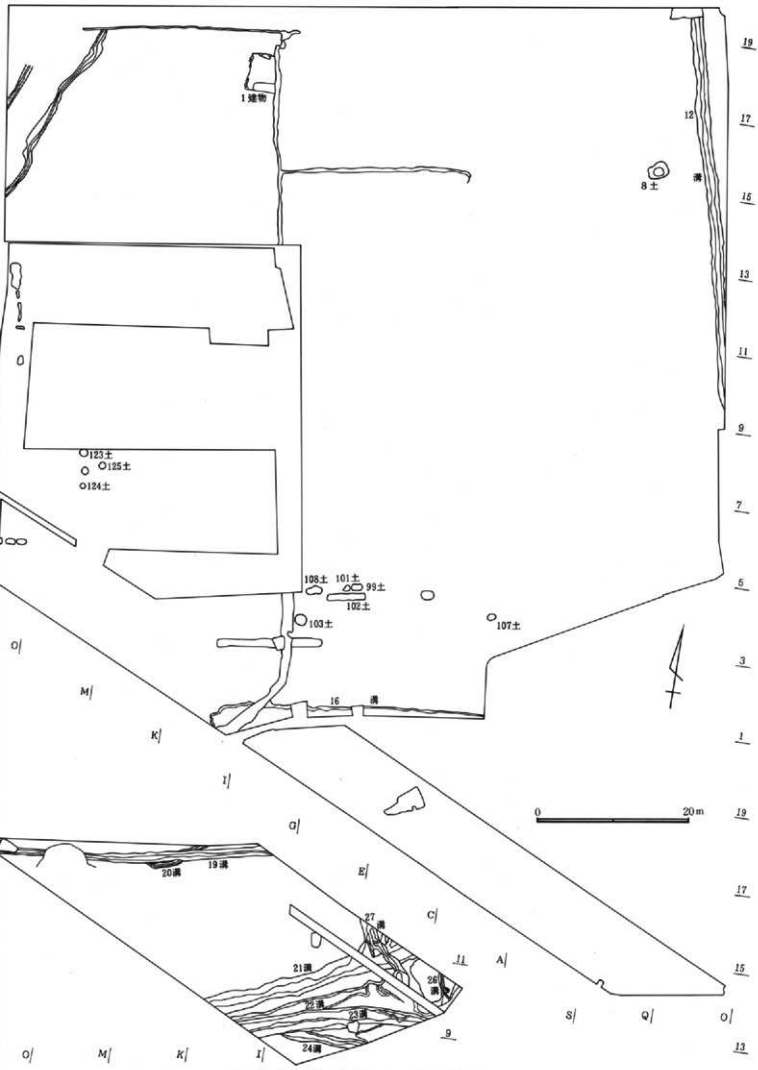
住居の分布は、調査区の東半分に集中し、西側になると希薄になっている。そして西に隣接する下芝天神遺跡の調査区では、検出されていない。また、調査区東で箕郷町教育委員会が実施した個人住宅建築に伴う確認調査でも As－Ｂ層下水田は見つかっているものの住居は確認されていない。このような状況から集落の範囲は、下芝五反田遺跡の調査区の範囲より北側に若干広がるが南北100m＋α、東西100mほどのなかに展開していると考えられる。

出土した遺物は、集落に伴う９世紀から10世紀にかけての土器が主体である。そのなかでも住居やⅣ層内より出土した「大甘」の鋼印、「物」・「犬」などの墨書・刻書が施された土器、そして多量の灰釉陶器などが注目される。その後の遺物としては、Ⅲ層上面で検出した１号建物から出土した鏡面に鏡像が彫られた八稜鏡や僅かな出土量であるが青磁・白磁が注目される。



第10図　奈良・平安時代V層上面遺構全体図

第11図　平安時代III(As-B)層下面遺構全体図



第12図　平安時代～中世III(As-B)層上面遺構全体図

2．住　居

1号住居

本住居は、調査区の南部、86区E－2･3グリッドに位置する。調査は用地の関係で２次に分割して行った。他遺構との重複関係は、13号住居･148号住居と重複する。新旧関係は、148号住居より前出で13号住居より後出である。

形態は、東辺でカマドの北側と南側で約１ｍほどの差が見られやや鍵形状であるがほぼ長方形を呈す。残存状態は、重複する148号住居によって東南角の貯蔵穴東側と泥流層下調査時の安全対策のために設置したH鋼によって住居南よりを東西に欠き、確認面から床面まで残存高が低いためあまり良好な状態ではない。

規模は、長軸5.66m、短軸3.77m、北辺3.76m、東辺5.30m、南辺2.75m、西辺5.84mを測る。床面積は、16.38m²である。主軸方位は、N－104°－Eを指す。壁高は、北壁９～23cm、東壁９～20cm、南壁９～11cm、西壁11～23cm、平均14cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも検出された。柱穴は、小規模なピットではあるが東辺と西辺の中間に４基を検出した。それぞれの規模はP1が径20×18cm、深度５cm、P2が27×20cm、深度７cm、P3が32×22cm、深度10cm、P4が35×32cm、深度15cmである。なお、P4からは10の土師器杯と19の須恵器椀が出土している。周溝は、北辺と西辺の壁下を全長3.8mほど巡る。規模は幅10～15cm、深度２～３cmである。貯蔵穴は、東南隅に存在し、形態はやや不整の楕円形を呈す。規模は径86×80cm、深度10cmである。貯蔵穴内部からは土師器杯・甕、須恵器椀・鉢などとφ10～20cmの円礫が多量に出土している。床面の状態は、大部分が地山をそのまま踏み固めている。

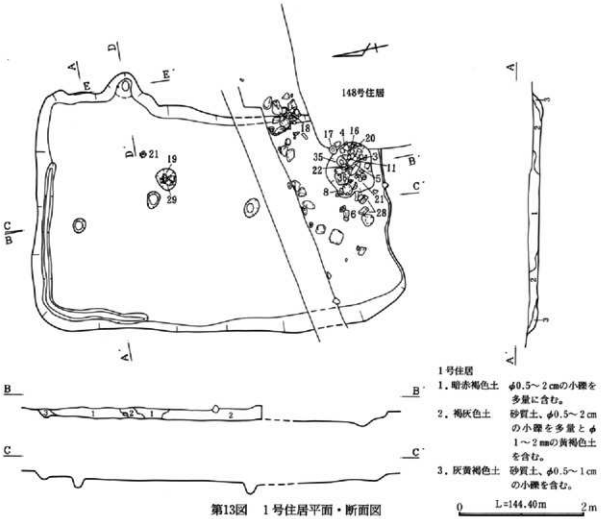
カマドは、東辺の北よりに構築されている。残存状態は、燃焼部と想定できる掘り込みが僅かに確認できる程度で粘土や焼土・灰などもほとんど残存しておらず、天井部や袖の痕跡は全く確認できなかった。規模は、全長60cm、幅85cm、燃焼部の一部から煙道にかけては壁外に50cm延びる。

掘り方は、東南部の一部で浅い土坑状のものが確認された程度である。

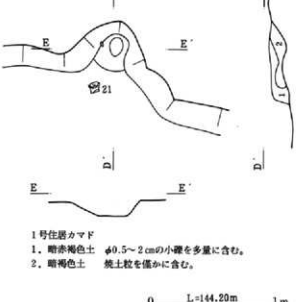
埋没状態は、確認面から床面までが浅く自然埋没・人為的埋没の判断が難しいが壁面近くに泥流層の黄褐色砂が流れ込んでいることから自然埋没であると考えられる。

遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器、石製品など634点が出土しているが、須恵器椀の小片が多くを占めている。出土状態は、住居南側の貯蔵穴周辺にややまとまった出土が見られる。特にこの付近からは、３～５・８・９の土師器杯、16・20～22の須恵器椀、35・36の石製品が貯蔵穴、６・17・28の土師器杯、須恵器椀、灰釉陶器椀がその周囲に集中して出土している。

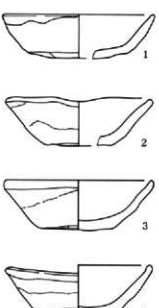
本住居の時期は、出土遺物から９世紀末から10世紀第１四半期に比定される。本住居重複する148号住居も10世紀第１四半期に比定されることから１号住居→148号住居への継続性も考えられる。



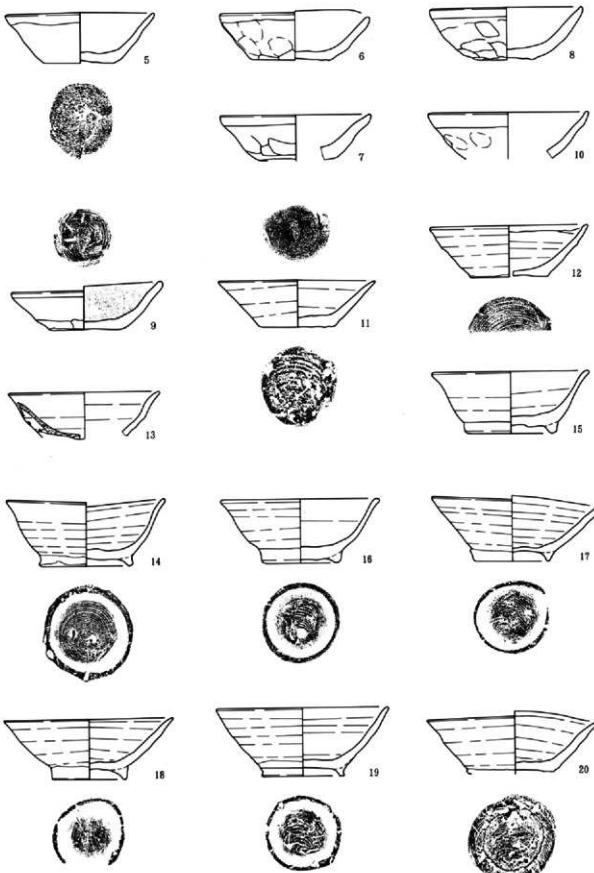
第13図　1号住居平面・断面図



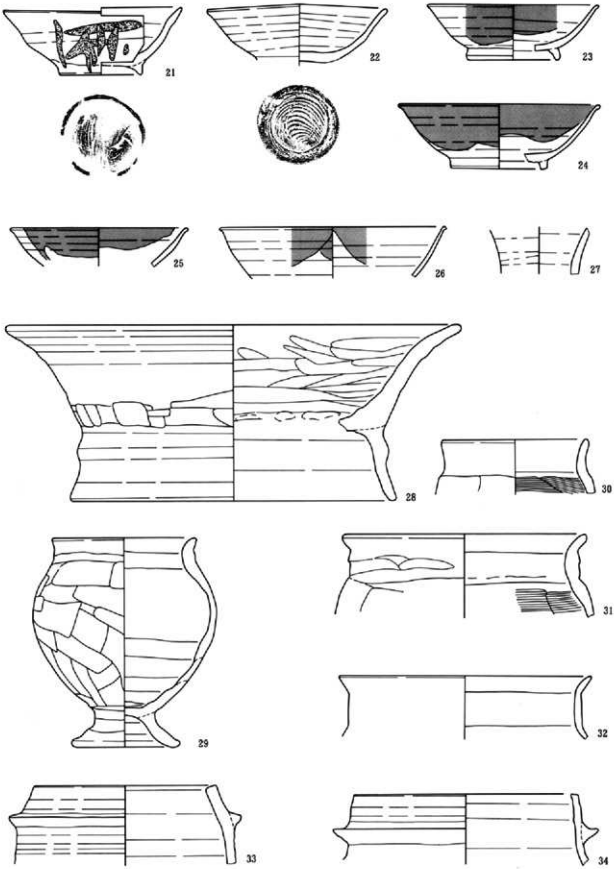
第14図　1号住居カマド図



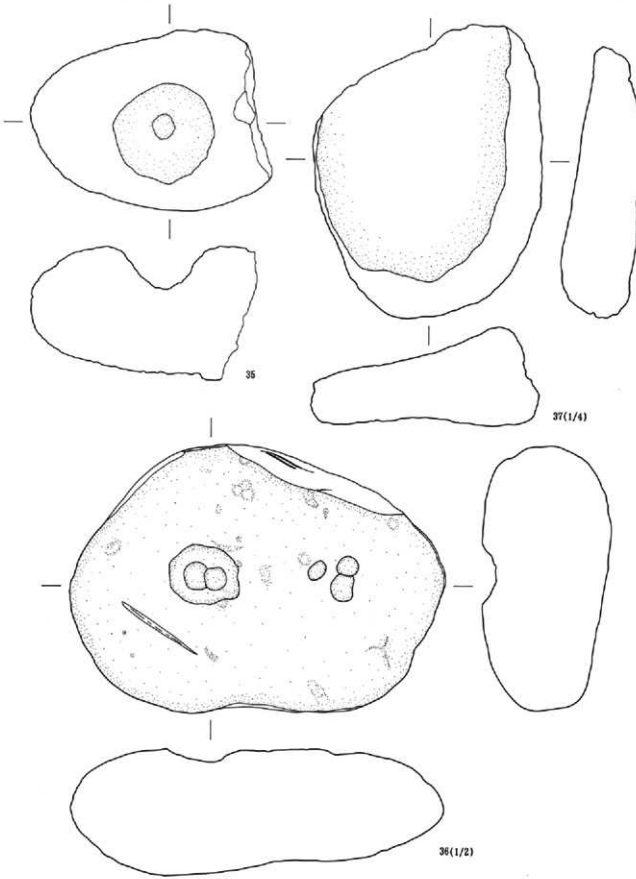
第15図　1号住居出土遺物図(1)



第16図　1号住居出土遺物図(2)



第17図　1号住居出土遺物図(3)



第18図　1号住居出土遺物図(4)

2号住居

本住居は、調査区中ほど、86区G－5グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、3号住居と重複する。新旧関係は、本住居のほうが前出である。形態は、北辺がやや短いがほぼ正方形を呈す。残存状態は、確認面から床面まで残存高が低いためあまり良好な状態ではない。

規模は、長軸3.16m、短軸3.12m、北辺3.24m、東辺3.16m、南辺3.16m、西辺3.00mを測る。床面積は、7.72㎡である。主軸方位は、N－97°－Eを指す。壁高は、北壁2～8cm、東壁5～14cm、南壁10～13cm、西壁9～13cm、平均9cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固める。

カマドは、東辺の中ほどよりやや南に構築されている。残存状態は、燃焼部と袖の痕跡が残る程度で天井部や煙道は残存していない。規模は全長が89cm、幅が65cmで壁外に70cm延びる。袖は両袖とも竪穴内部に造り出さず壁外の地山を利用し、φ10～25cmの礫を立てて補強に使用している。燃焼部は径70×45cmの楕円形で焚口側に灰が堆積し、中央部は焼土化しており相当の間使用されたと想定される。

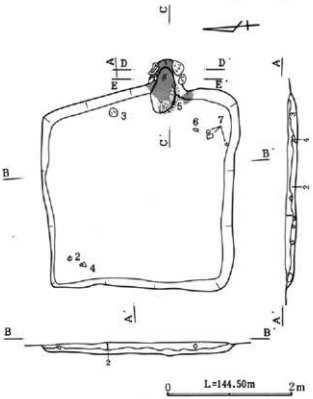
掘り方は、確認されなかった。

埋没状態は、確認面から床面まで残存高が低いため明確ではないが土層観察断面で上下2層が確認できることから自然埋没と考えられる。

遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器など271点が出土しているが半数は土師器甕片である。出土状態は、6・7の土師器甕が東南部の床面より6～10cm程上位、2・4の須恵器杯が北東隅の床面から出土している。

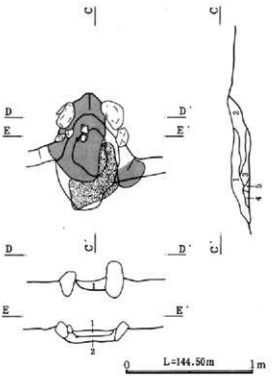
本住居の時期は、出土遺物から9世紀第3四半期に比定される。

2号住居カマド
1．黒褐色土　φ0.1～1cmの焼土が少量含まれる。
2．黒褐色土　φ0.1～0.5cmのFP、炭化物、焼土を少量含む。
3．黒褐色土　炭化物、焼土を多量に含む。
4．黒褐色土　φ0.1～1cmのFPを少量含む。
5．褐色土　炭化物少量含む。

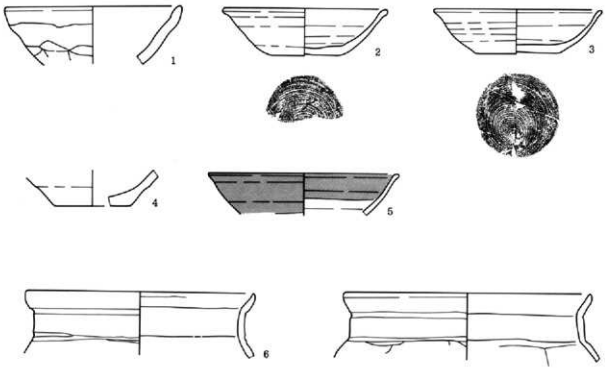


2号住居
1．黒褐色土　φ0.2～2cmのFPを多量と焼土が少量含む。
2．黒褐色土　φ0.2～0.5cmのFPが少量含む。
3．黒色土　黒色灰を多量と炭化物・焼土を少量含む。
4．褐色土　地山土のブロック。

第19図　2号住居平面・断面図



第20図　2号住居カマド図



第21図　2号住居出土遺物図

3号住居

本住居は、調査区の中ほど、86区G－2・3グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、2号住居と重複する。新旧関係は、本住居のほうが後出である。形態は、若干北辺が短いがほぼ長方形を呈する。残存状態は、重複する2号住居によって東南部分を欠き、確認面から床面まで残存高が低いためあまり良好な状態ではない。

規模は、長軸4.56m、短軸3.46m、北辺3.28m、東辺は残存部分で3.56m、南辺は推定で3.46m、西辺4.60mを測る。床面積は、推定14m²である。主軸方位は、N－100°－Eを指す。壁高は、北壁5.5～9cm、東壁6.5～11.5cm、南壁6.5～11.5cm、西壁3～11cm、平均8cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも残存部分では確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

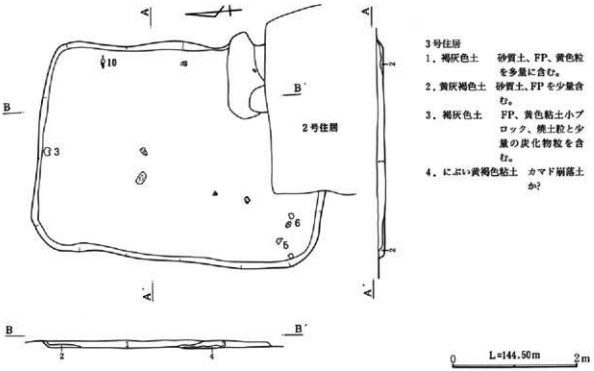
カマドは、東辺の南よりに構築されている。残存状態は、楕円形に焼土ブロック・黄褐色粘土ブロックの範囲が確認できる程度で袖・燃焼部などの確認はできなかった。規模は全長135cm、幅75cmで壁外に20cmほど延びる。

掘り方は、確認されなかった。

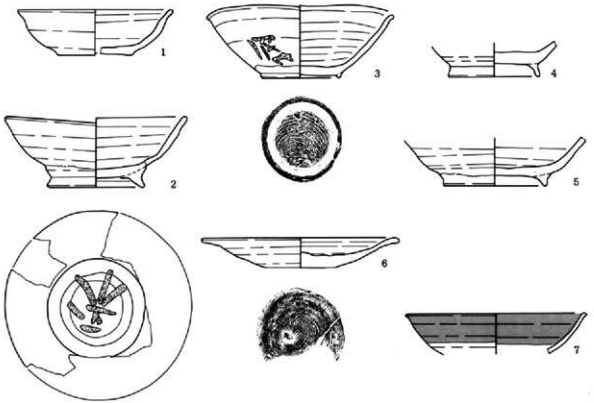
埋没状態は、確認面から床面までが残存高が低いため明確でないが、壁際に黄灰褐色砂の流入が見られる他は褐灰色土の堆積が確認できるだけであることから自然埋没と考えられる。

遺物は、土師器、須恵器、鉄器・鉄製品など164点が出土しているが半数は土師器甕が占めている。出土状態は、3の須恵器椀が北辺際の床面、5・6の須恵器椀・皿が南西隅の床面及びやや上位より出土している。

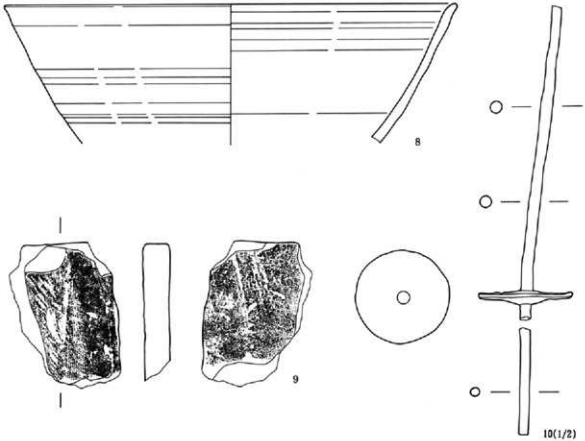
本住居の時期は、出土遺物から10世紀第1四半期に比定される。



第22図　3号住居平面・断面図



第23図　3号住居出土遺物図(1)



第24図　3号住居出土遺物図(2)

4号住居

本住居は、調査区の中ほど、F～G－5グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、5号住居と重複する。新旧関係は、本住居のほうが後出である。形態は、東辺が他の辺より0.6mほど短い台形状を呈す。残存状態は、確認面から床面まで残存高が低いためあまり良好な状態ではない。

規模は、長軸3.32m、短軸2.76m、北辺2.72m、東辺2.04m、南辺2.80m、西辺2.74mを測る。床面積は、6.80m²である。主軸方位は、N－110°－Eを指す。壁高は、北壁7～9cm、東壁1.5～4cm、南壁5～6cm、西壁5.5～8cm、平均6cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

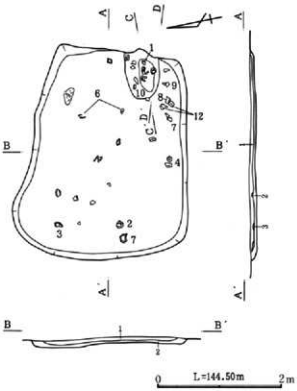
カマドは、東辺の南よりに構築されている。残存状態は、燃焼部が確認できる程度で袖・天井部などは確認できない状態である。規模は、全長76cm、幅55cmで確認面では壁外に僅かに延びる。燃焼部には焼土粒・炭化材などは確認されたが明確な火床面は確認されなかった。

掘り方は、確認されなかった。

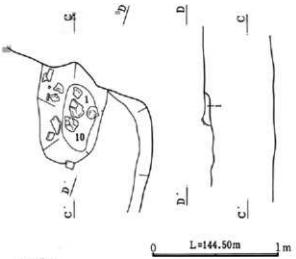
埋没状態は、確認面から床面まで残存高が低いため明確ではないが埋没土は、上下2層が確認できることから自然埋没と考えられる。

遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器など387点が出土しているが土師器甕と須恵器杯・椀が大部分を占めている。出土状態は、住居全域から散漫な状態であるが、その中でもカマド右側の南東角は集中した出土が見られた。また、1・10の土師器杯、甕がカマド、7の灰釉陶器椀、12の須恵器甕が床面から出土している。

本住居の時期は、出土遺物から10世紀第1四半期に比定される。



第25図　4号住居平面・断面図



4号住居

1．黒褐色土　φ0.1～1cmのFPを多量に含む。

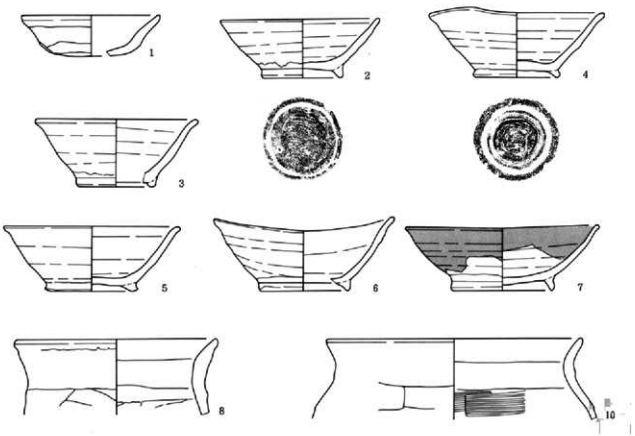
2．黒褐色土　φ0.1～0.5cmのFPを極少量含む。

3．黒色土　黒色灰に炭化物を含む。

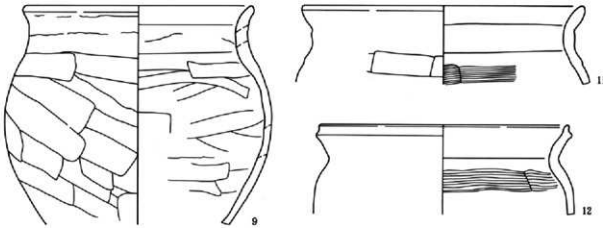
4号住居カマド

1．暗褐色土　焼土、炭化物が多量に含まれ、φ0.5～1cmのFPが少量含まれる。

第26図　4号住居カマド図

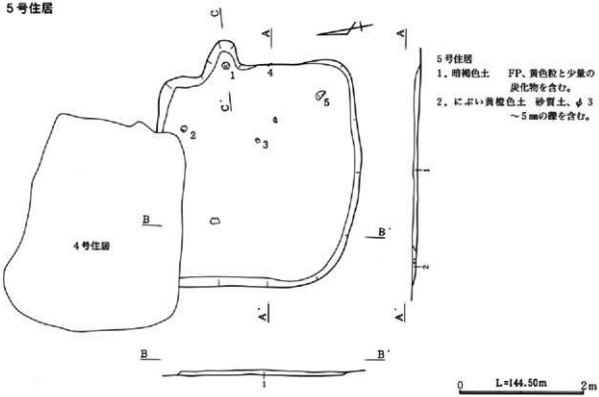


第27図　4号住居出土遺物図(1)

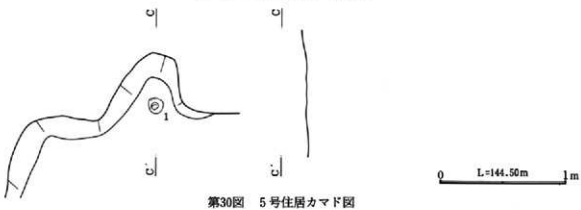


第28図　4号住居出土遺物図(2)

5号住居



第29図　5号住居平面・断面図



第30図　5号住居カマド図

5号住居

本住居は、調査区の中ほど、F－4グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、4号住居と重複する。新旧関係は、本住居のほうが前出である。形態は、北西部が4号住居との重複で不明であるが南西角がやや丸い方形を呈する。残存状態は、重複する4号住居によって北西角部分を欠き、確認面から床面までごく残存高が低いため一部では確認時に床面が見られるような不良な状態である。

規模は、長軸3.51m、短軸3.30m、北辺は推定3.26m、東辺2.92m、南辺3.32m、西辺は推定2.88mを測る。床面積は、推定9.54m²である。主軸方位は、N－102°－Eを指す。壁高は、北壁2cm、東壁1cm、南壁3cm、西壁2～4cm、平均2cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

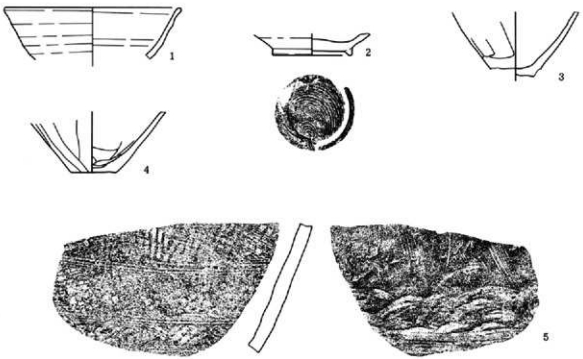
カマドは、東辺の中央よりやや北よりに構築されている。残存状態は、燃焼部と想定される部分が壁外に延び僅かに焼土・炭化物の存在からカマドと想定される状態である。規模は、全長70cm、幅60cmで壁外に55cm延びる。燃焼部の中央からは1の須恵器椀が出土している。

掘り方は、確認できなかった。

埋没状態は、確認面から床面まで残存高が低いため不明確である。

遺物は、土師器甕、須恵器椀・甕が11点出土しているだけである。出土状態は、カマドから出土している1の須恵器椀の他は確認面から床面まで残存高が低いため床面直上からの出土である。

本住居の時期は、出土遺物から9世紀第3四半期に比定される。



第31図　5号住居出土遺物図

6号住居

本住居は、調査区の東南部、86区B・C－4・5グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、窪み状の22号土坑と重複する。新旧関係は、本住居のほうが後出である。形態は、僅かに南辺が短いがほぼ長方形を呈す。残存状態は、上部はAs－B層下水田の耕作により不明であるが、住居のなかでも確認面から床面まで残存高が深く比較的良好な状態である。

規模は、長軸4.88m、短軸3.80m、北辺3.54m、東辺4.54m、南辺3.36m、西辺4.50mを測る。床面積は、15.12㎡である。主軸方位は、N－119°－Eを指す。壁高は、北壁14.5～23.5cm、東壁11～15.5cm、南壁13.5～14cm、西壁16～24.5cm、平均16cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

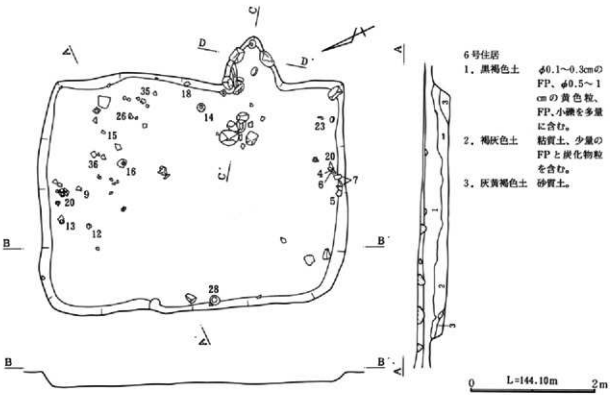
カマドは、東辺の中央よりやや南よりに構築されている。残存状態は、天井部は崩落し、袖に使用されていたと想定される礫はカマド前部に廃棄された状態であることなどから住居廃絶時に破壊されたと考えられる。規模は、全長117cm、幅90cmで壁外に87cm延びる。燃焼部は径66×55cmの楕円形の窪みが検出され灰の堆積が確認された。袖は壁外に設けられ一部は抜き取られてカマド前部に廃棄されているがϕ15～30cmの礫を4～6個列べて補強している。天井部は灰色粘土・黄色粘土を使用している。

掘り方は、確認できなかった。

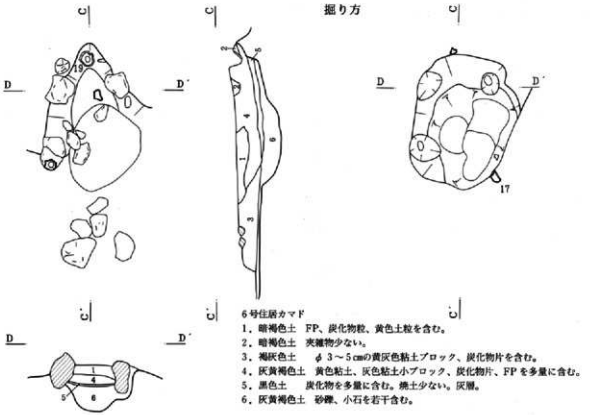
埋没状態は、壁際で黄褐色砂の三角堆積、中ほどは褐灰色土によって短時間に埋没した自然埋没と考えられる。

遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器など650点が出土しているがそのほとんどは須恵器椀が占めている。出土状態は、南辺中ほどと北東部分に集中した出土が見られた。そして17・19の須恵器椀はカマドから4～7の須恵器杯、20の須恵器椀が南辺中ほどの床面に集中して出土しているが北東部分は床面より若干上位からの出土である。

本住居の時期は、出土遺物を観察すると多少の時期差が観られるが9世紀第4四半期に比定される。



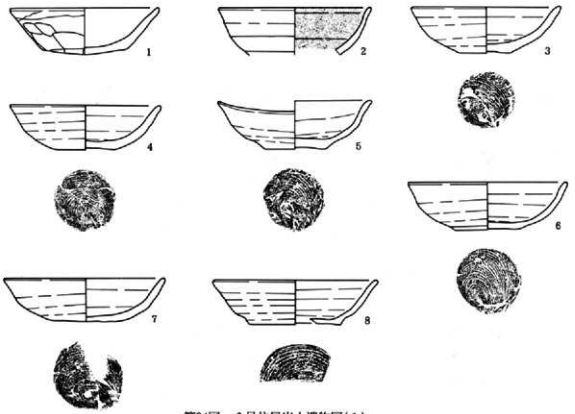
第32図　6号住居平面・断面図



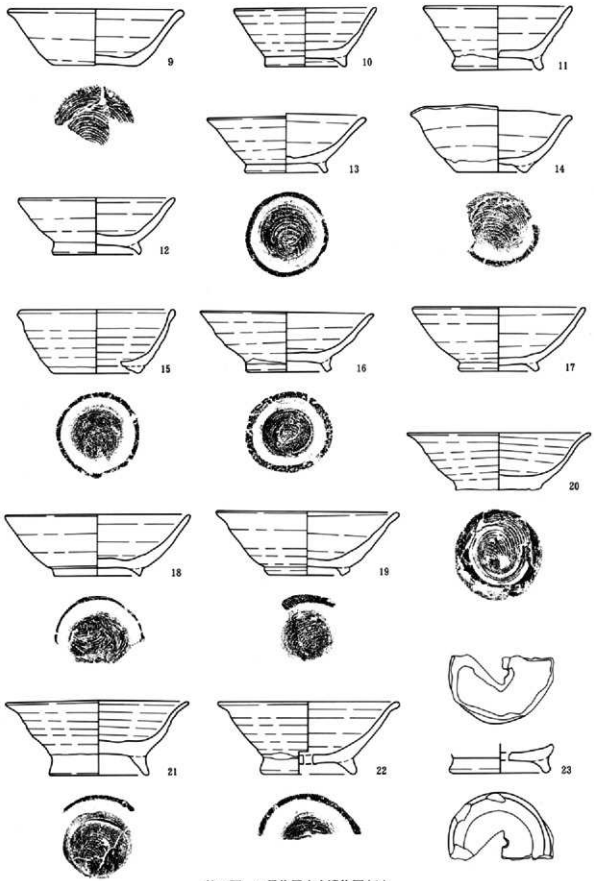
6号住居カマド
1．暗褐色土　FP、炭化物粒、黄色土粒を含む。
2．暗褐色土　夾雑物少ない。
3．褐灰色土　φ 3～5cmの黄灰色粘土ブロック、炭化物片を含む。
4．灰黄褐色土　黄色粘土、灰色粘土小ブロック、炭化物片、FPを多量に含む。
5．黒色土　炭化物を多量に含む。焼土少ない。灰層。
6．灰黄褐色土　砂礫、小石を若干含む。

第33図　6号住居カマド図

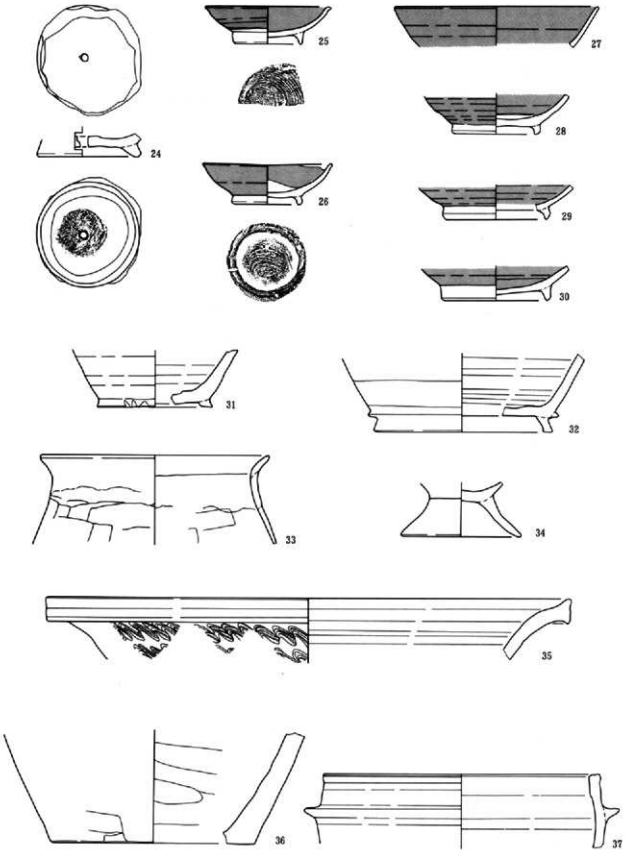
0　L=144.20m　m



第34図　6号住居出土遺物図(1)



第35図　6号住居出土遺物図(2)



第36図　6号住居出土遺物図(3)

7号住居

本住居は、調査区の中ほど、E－5・6グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、15号住居と重複する。新旧関係は、本住居のほうが前出である。

形態は、北東部の4分の1ほどが15号住居との重複で不明であるが、南辺が短い台形状を呈すと想定される。残存状態は、住居のなかでも確認面から床面まで残存高が深く比較的良好な状態であるが、北東部の4分の1は重複する15号住居により欠く。

規模は、長軸2.68m、短軸2.12m、北辺は推定2.20m、東辺は推定2.56m、南辺1.66m、西辺2.50mを測る。床面積は、推定4.13m²である。主軸方位は、N－93°－Eを指す。壁高は、北壁15～20cm、東壁13～18cm、南壁6～13cm、西壁10～17cm、平均14cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

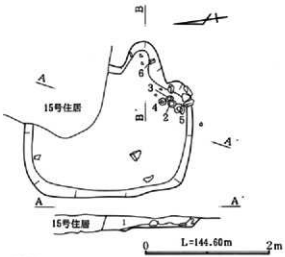
カマドは、東辺の南よりに構築されている。残存状態は、燃焼部だけの確認で袖は壁外に構築されたと想定されるが痕跡は残存していなかった。規模は、全長63cm、幅76cmで壁外に50cm延びる。天井部・煙道などは残存部分では確認されなかった。

掘り方は、確認できなかった。

埋没状態は、壁際の黒褐色土の状態から自然埋没と考えられる。

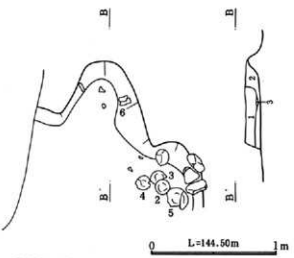
遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器など511点が出土しているが土師器甕と須恵器杯・椀片で約8割を占めている。出土状態は、カマドの南側、東南角に2～5の須恵器杯・椀が集中して出土している。

本住居の時期は、出土遺物から9世紀末から10世紀初頭に比定される。



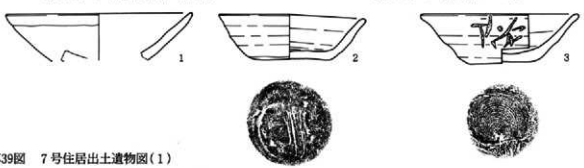
7号住居
1．暗褐色土　φ0.5～2cmの砂、小石を含む。φ0.5～1cmの炭化物片を少量含む。
2．褐色土　φ0.3～0.5cmの砂粒多く含む。

第37図　7号住居平面・断面図

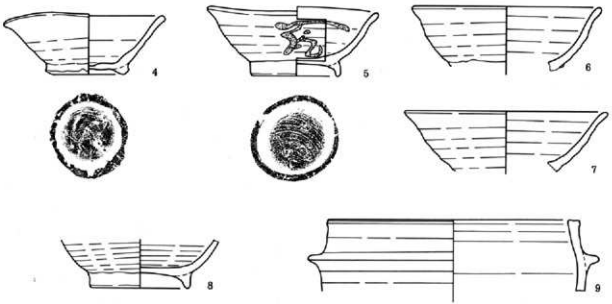


7号住居カマド
1．黒褐色土　FP粒、φ0.5～0.8cmの炭化物片、φ0.5～0.8cmの砂礫と少量の橙色土粒を含む。
2．黒褐色土　炭化物片を多量に含む。
3．焼土ブロック。

第38図　7号住居カマド図

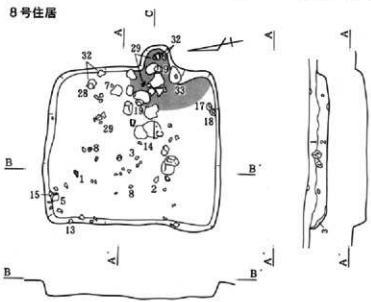


第39図　7号住居出土遺物図(1)



第40図　7号住居出土遺物図(2)

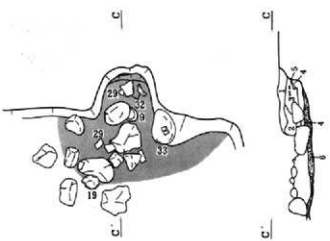
8号住居



8号住居
1．灰黄褐色土　φ 1～3cmのFP、φ0.5～1cmの黄褐色粒、小礫を多量に含む。
2．褐灰黄色土　やや砂質土。FP、黄色粒、炭化物片を含む。
3．灰黄褐色土

0　L=144.00m　2m

第41図　8号住居平面・断面図



8号住居カマド
1．黒褐色土　焼土粒、炭化物粒を含む。
2．にぶい黄褐色粘土。
3．褐灰色土　焼土粒、にぶい黄褐色粘土粒、炭化物を含む。
4．灰。
5．焼土ブロック。
6．灰。

0　L=144.00m　1m

第42図　8号住居カマド図

8号住居

本住居は、調査区の東部、86区A・B－4・5グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、確認されず単独で占地する。形態は、北辺がやや短いがほぼ長方形を呈する。残存状態は、調査範囲の住居群のなかでも確認面から床面まで残存高が深く比較的良好な状態である。

規模は、長軸2.84m、短軸2.52m、北辺2.36m、東辺2.62m、南辺2.56m、西辺2.72mを測る。床面積は、5.72m²である。主軸方位は、N－103°－Eを指す。壁高は、北壁16～21cm、東壁12～24cm、南壁19～21cm、西壁20～21cm、平均19cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

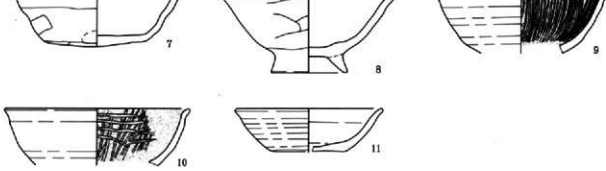
カマドは、東辺の南よりに構築されている。残存状態は、天井部は崩落しているが、左袖や煙道部の一部は残存している。規模は、全長65cm、幅90cmで壁外に45cm延びる。天井部は、崩落しているが黄褐色粘土を使用している。袖は、φ20～30cmの礫を補強に使用し竪穴内部に若干作り出されている。燃焼部は灰が3～5cmの厚さで堆積し一部はカマド前部の床面まで広がりが見られる。

掘り方は、確認できなかった。

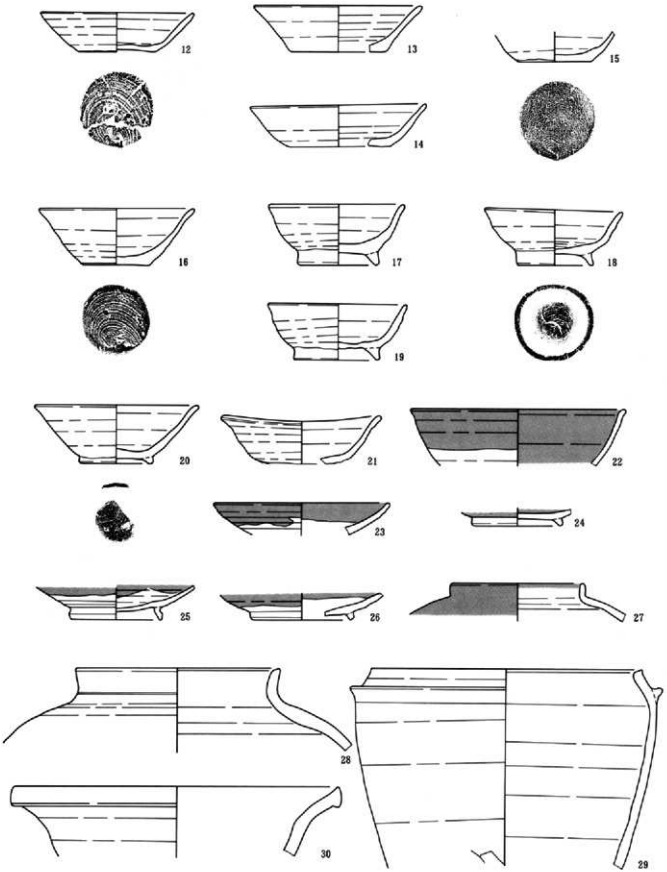
埋没状態は、壁際に黄褐色砂の流込みが観られ、全体は褐灰色砂質土で短期間に埋没した自然埋没と考えられる。

遺物は、土師器、黒色土器、須恵器、灰釉陶器など1,165点が出土しているが、そのうち土師器と須恵器の杯・椀が9割を占め煮炊具の割合が3％と非常に少量である。出土状態は、カマド左側から北西角にかけての出土が見られる。そして9の黒色土器椀、29の須恵器羽釜、32・33の須恵器甕がカマドから7、14、17～19の土師器杯、須恵器杯、須恵器椀が床面から出土しているが他は床面よりやや上位や埋没土中からの出土である。

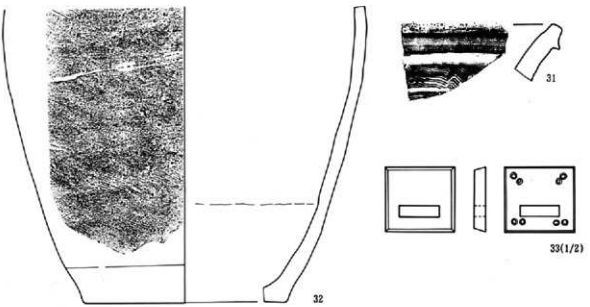
本住居の時期は、出土遺物から10世紀第3四半期に比定される。



第43図　8号住居出土遺物図（1）



第44図　8号住居出土遺物図(2)



第45図　8号住居出土遺物図(3)

9号住居

本住居は、調査区の東部、86区A・B－8・9グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、21号住居と重複する。新旧関係は、本住居のほうが後出である。

形態は、カマドの両側に張り出しをもつ長方形を呈す。残存状態は、住居のなかでも確認面から床面まで残存高が深く比較的良好な状態である。

規模は、長軸4.16m、短軸3.68m、北辺3.42m、東辺3.84m、南辺3.64m、西辺3.82mを測る。床面積は、12.50m²である。張り出し部分は、長さ1.70m、幅0.20mである。主軸方位は、N－90°－Eを指す。壁高は、北壁22～30cm、東壁12～30cm、南壁18～28cm、西壁24～28cm、平均22cmである。

内部施設は、周溝を検出したが、柱穴、貯蔵穴は確認されなかった。周溝は、北辺から西辺そして南辺の一部にかけての壁下を巡る。規模は幅10～20cm、深度1～4cmである。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

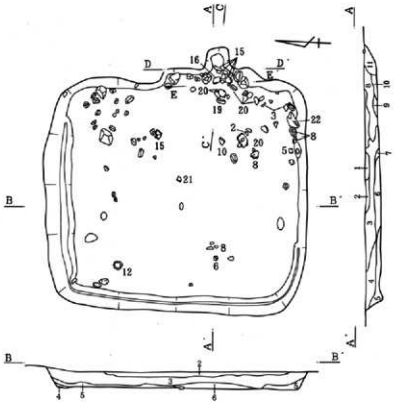
カマドは、東辺の南よりに構築され、カマドの両側の辺は左側75cm、右側約40cmの長さが30cm程突出している。残存状態は、天井部は崩落し、袖はカマド前部の礫の状態から竪穴内部に造られていたようであるが住居廃絶時に破壊されたようである。規模は、全長は灰の範囲から100cm前後と推定され、幅は70cmで壁外には37cm延びる。袖は、φ15～20cmの礫を補強に使用している。

掘り方は、確認できなかった。

埋没状態は、レンズ状に近い堆積が観察できることから自然埋没であると考えられる。

遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器など1,084点が出土しているが、そのうち土師器甕片が7割を占め土師器、須恵器の杯・椀などの食膳具は5％と少量である。出土状態は、カマドやカマド右側の東南部分に割合集中した出土が見られた。そして15、16、19の土師器甕、20の須恵器羽釜がカマドから1、3、8、12、21の須恵器杯、椀、土師器甕が床面から出土し、その他は床面よりやや上位と埋没土中からの出土である。

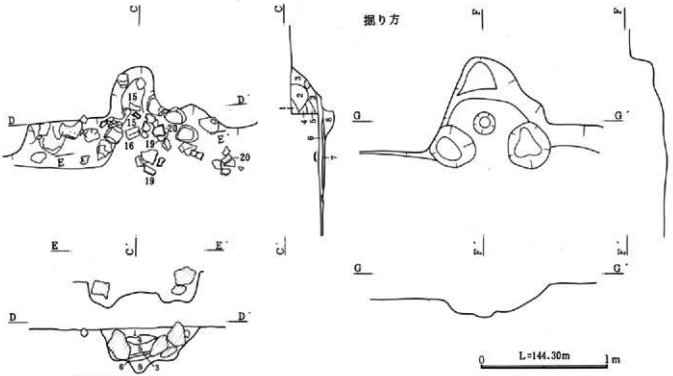
本住居の時期は、出土遺物より9世紀末から10世紀初頭に比定される。



9号住居

1．黒褐色土　砂質土、FPを多量に含む。
2．黒褐色土　砂質土、FP、炭化物粒、φ0.5cm程の橙色粒を含む。
3．黒褐色土　φ 1～2cmの小礫、1～2cmの炭化物を多く含む。
4．暗褐色土　φ0.5～1cmの小礫、1～2cmの炭化物片、にぶい黄橙色砂を含む。
5．暗褐色土　炭化物片、灰を多量に含む。
6．暗褐色土　炭化物ブロックを含む。
7．暗褐色土　φ0.5～1cmのにぶい黄橙色粘土ブロックを含む。
8．にぶい黄橙色土　φ 1～2cmの暗褐色土小ブロックを混じる。
9．にぶい黄橙色土　焼土粒、炭化物粒を含む。
10．にぶい黄橙色土　φ 1～2cmの焼土ブロックを多量に含む。
11．暗褐色土　粘質土、φ0.5cmの暗褐色土小ブロックを少量と炭化物片を含む。

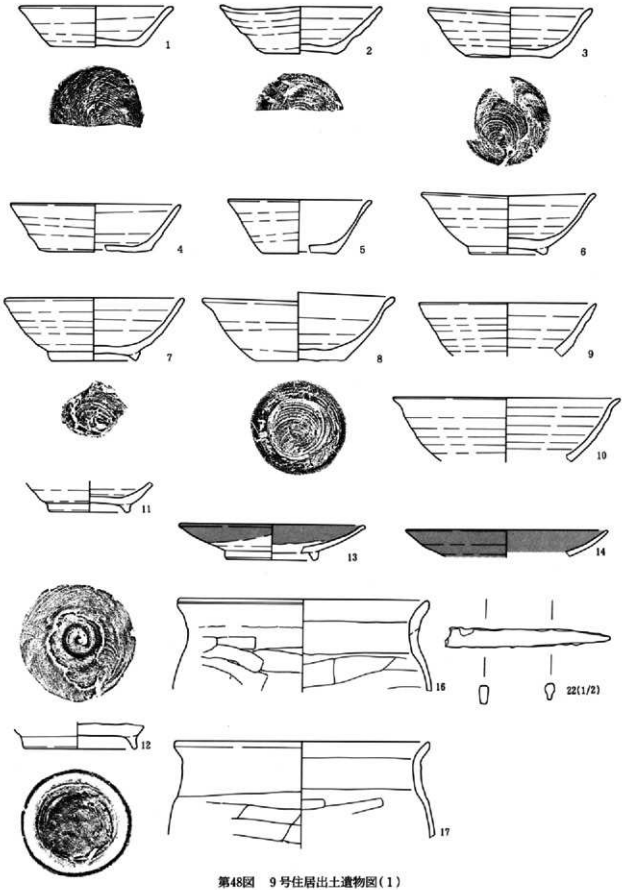
第46図　9号住居平面・断面図



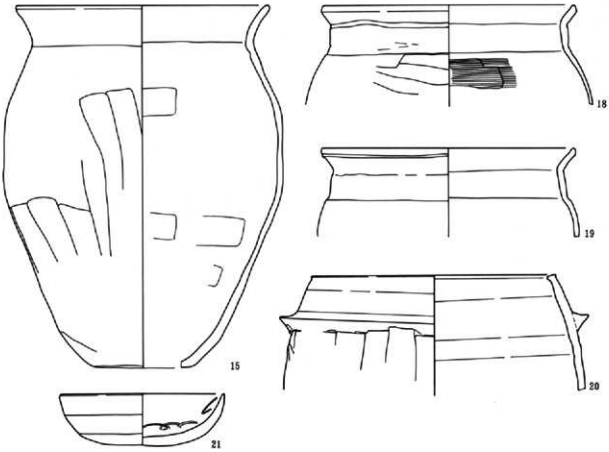
9号住居カマド

1．暗褐色土　φ0.1～0.3cmの黄褐色粘土ブロックを含む。
2．黄褐色粘土
3．暗褐色土　粘質土、少量の焼土粒を含む。
4．暗褐色土　夾雑物はほとんどない。
5．暗褐色土　φ0.5～2cmの焼土ブロックを含む。
6．黒褐色土　炭化物を多く、焼土ブロックを若干含む。
7．にぶい黄橙色土　φ0.5～2.3mmの砂礫、小石を多量に含む。
8．暗褐色土　φ 1mmの焼土粒、炭化物粒、FP粒を少量含む。

第47図　9号住居カマド図



第48図　9号住居出土遺物図(1)



第49図　9号住居出土遺物図（2）

10号住居

本住居は、調査区の南端、A・B－2・3グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、11号住居・22号住居と重複する。新旧関係は、本住居のほうが後出である。

形態は、南側3分の1ほどが調査区外に延びるため不明であるが、隅丸長方形を呈すると想定される。残存状態は、確認面から床面まで残存高が低いためあまり良好な状態ではない。

規模は、長軸は調査区内で3.12m、短軸3.00m、北辺2.92m、東辺、西辺は調査区内の長さが2.44m、2.72mを測る。床面積は、調査区内で3.12m²、全体では4.5m²前後と推定される。主軸方位は、N－79°－Eを指す。壁高は、北壁6～14cm、東壁2cm、西壁11～24cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

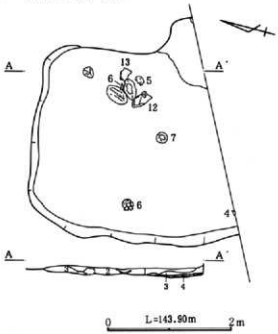
カマドは、東辺に構築されている。残存状態は、ほとんど上部が削平されているため灰の範囲が確認できる程度である。規模は、全長110cm、壁外に50cm延びる。

掘り方は、確認できなかった。

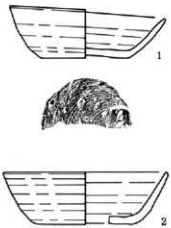
埋没状態は、確認面から床面まで残存高が低いため明確ではないが自然埋没と考えられる。

遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器など345点が出土しているが土師器甕片が6割、須恵器杯・椀片が3割を占めている。出土状態は、カマドの左手前に集中した出土が見られた。そして6～8、13の須恵器椀、皿、甕が床面から出土している。

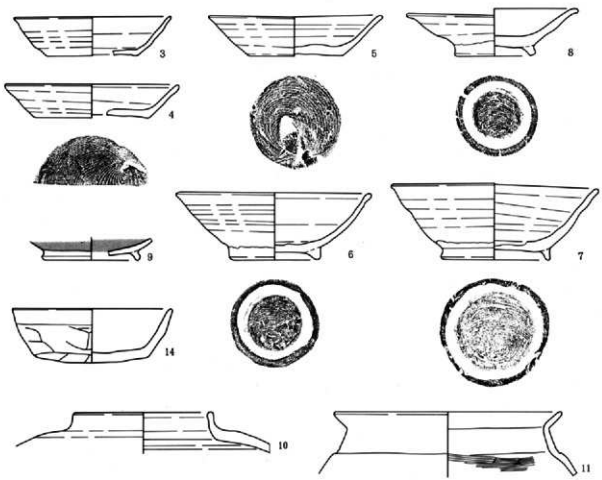
本住居の時期は、出土遺物より9世紀第3四半期に比定される。



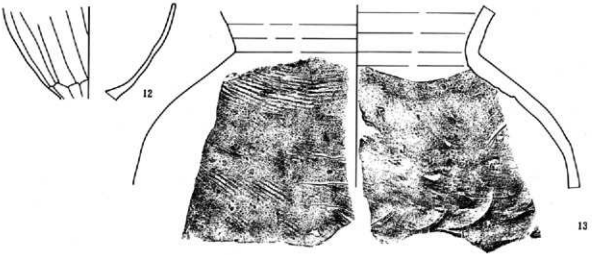
10号住居
1．灰黄褐色土　粘質土、灰、黄色粘土小ブロックを含む。
2．黒褐色土　黄色粒を含む。
3．灰黄褐色土　砂質土。
4．黒色土　灰。



第50図　10号住居平面・断面図



第51図　10号住居出土遺物図(1)



第52図　10号住居出土遺物図（2）

11号住居

本住居は、調査区の南端、85区T－3・4グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、10号住居と22号住居と重複する。新旧関係は、10号住居より前出で22号住居より後出である。

形態は、方形または長方形を呈すると想定される。残存状態は、重複する10号住居によって西側4分の1程度欠き、南半分は調査区外に延びるため、4分の1程度しか残存していない。

規模は、残存部分が少ないため計測できない。床面積は、残存範囲で2.48m²である。主軸方位は、N－約80°－Eを指す。壁高は、北壁2.0～5.5cm、平均3.3cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

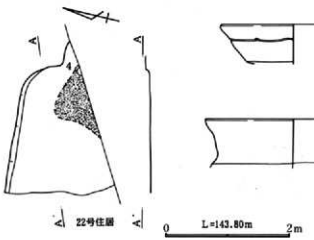
カマドは、東辺北寄りに構築されている。残存状態は、大部分が調査区外に存在するため不明であるが残存部分では僅かに焼土、灰などが確認できる程度しか残っておらず、規模等は計測不能である。

掘り方は、確認できなかった。

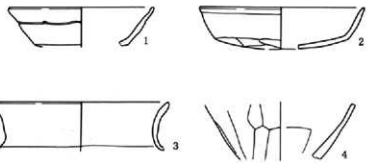
埋没状態は、確認面から床面まで僅かしか残存していないため確認不能である。

遺物は、土師器杯・甕、須恵器杯・椀など71点が出土しているだけである。

本住居の時期は、出土遺物より9世紀第2四半期に比定される。



第53図　11号住居平面・断面図



第54図　11号住居出土遺物図

12号住居

本住居は、調査区の南より、86区G－3グリッドに位置する。他遺構との重複関係は19号住居・23号住居と重複する。新旧関係は、本住居のほうが前出と想定されるが確認面から床面までが浅く断面などでの確認ができないため不明確である。なお、出土遺物での時期差は3軒とも同様な様相であり新旧を明らかにすることはできない。

形態は、長方形を呈する。残存状態は、全体の3分の1程度である。

規模は、長軸1.92m＋α、短軸2.96m、南辺3.04m、東辺、西辺は残存するところで1.90m、1.52mを測る。床面積は、残存部分で2.96m²である。主軸方位は、N－41°－Eを指す。壁高は、西壁が僅かに1.5cmほど残存している程度である。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は中ほどだけを踏み固めて硬化面としている。

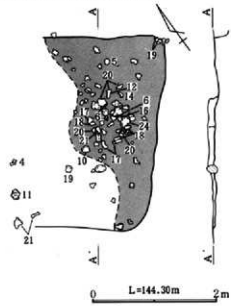
カマドは、存在しないと考えられる。

掘り方は、確認できなかった。

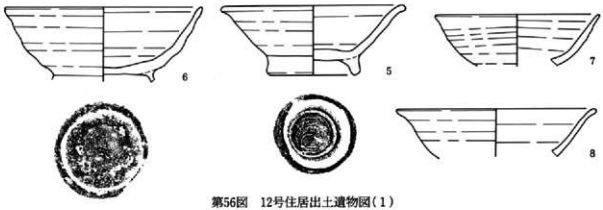
埋没状態は、確認面から床面までが僅かしかなく確認できなかった。

遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器など432点が出土している。出土状態は、残存部分の中央から拡散するような状態で5、11、16がやや床面より上位からであるがその他は床面からの出土である。

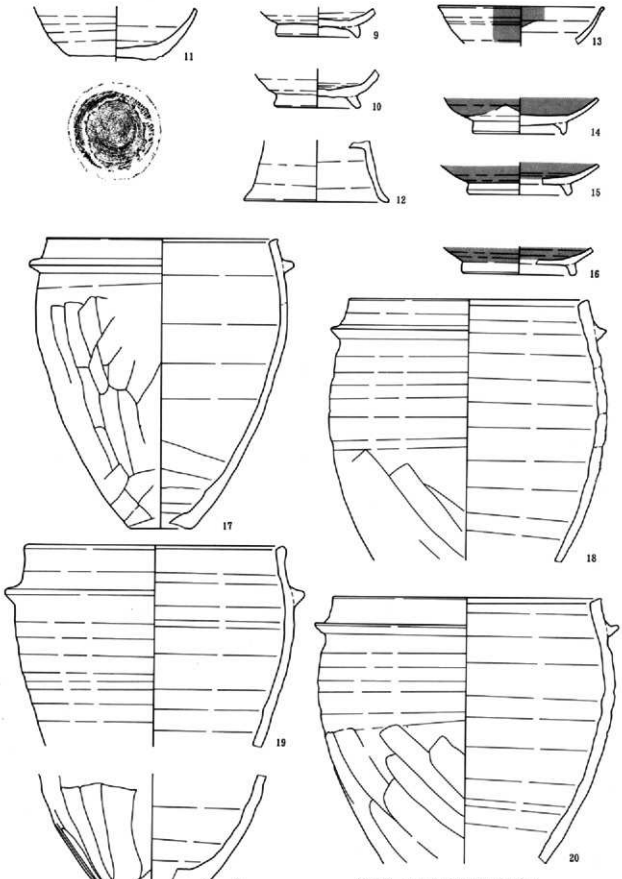
本住居の時期は、出土遺物より10世紀第3四半期に比定される。



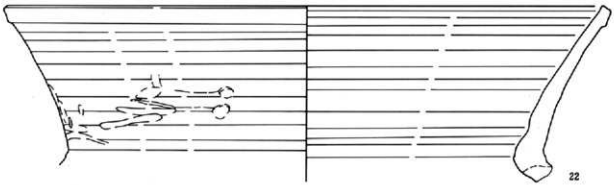
第55図　12号住居平面・断面図



第56図　12号住居出土遺物図(1)

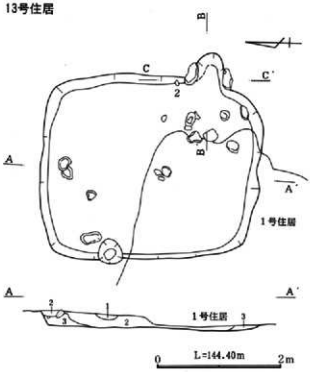


第57図　12号住居出土遺物図（2）



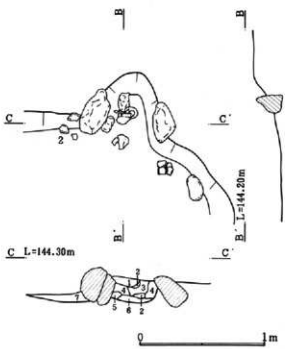
第58図　12号住居出土遺物図（3）

13号住居



13号住居
1．褐灰色土　砂質土、小礫を含む。
2．1層とにぶい黄橙色砂との混土　φ 3～5cmの小礫、FP、炭化物を含む。
3．にぶい黄橙色土　砂質土、φ 3～5cmの小礫を含む。

第59図　13号住居平面・断面図



13号住居カマド
1．明黄褐色粘土　焼土粒、少量の炭化物を含む。
2．明黄褐色粘土ブロック
3．灰黄褐色砂質土　焼土粒、炭化物を含む。
4．灰黄褐色砂質土　黄色土粒を含む。
5．褐灰色土　焼土粒、炭化物粒を多く含む。
6．褐灰色土　灰、明黄褐色粘土ブロックを多量に含む。
7．にぶい黄橙色土　FPを含む。

第60図　13号住居カマド図

13号住居

本住居は、調査区の南より、86区D・E－4グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、1号住居と重複する。新旧関係は、本住居のほうが前出である。

形態は、隅丸長方形を呈する。残存状態は、確認面から床面まで残存高が低いが比較的良好な状態である。

規模は、長軸3.44m、短軸2.88m、北辺2.80m、東辺3.40m、南辺2.60m、西辺3.28mを測る。床面

積は、7.58m²である。主軸方位は、N－91°－Eを指す。壁高は、北壁12.0～19.0cm、東壁12.0～17.0cm、南壁8.0～21.0cm、西壁4.0～22.0cm、平均14.4cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

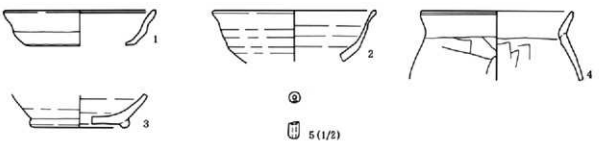
カマドは、東辺の東南角よりに構築されている。残存状態は、天井部が崩落しているが袖は両側にφ30cmほどの扁平な円礫が残存している。規模は、全長57.0cm、幅72.0cm、煙道は壁外に40.5cm延びる。天井部は明黄褐色粘土を使用し、袖は地山をそのまま利用して構築されている。燃焼部には多少の灰の堆積が確認された。

掘り方は、確認できなかった。

埋没状態は、確認面から床面まで残存高が低いため不明確であるが壁際の観察から自然埋没と考えられる。

遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器など108点が出土している。出土状態は、2の須恵器椀がカマド左側の床面、4の土師器甕がカマド掘り方からの出土である。

本住居の時期は、出土遺物が9世紀後半から10世紀前半と幅広いが重複関係にある1号住居が10世紀第1四半期であることから9世紀後半代に比定される。



第61図　13号住居出土遺物図

14号住居

本住居は、調査区の中央部、86区E－5グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、15号住居と重複する。新旧関係は、本住居のほうが後出である。

形態は、南辺がやや短いがほぼ長方形を呈する。残存状態は、確認面から床面まで残存高が低いためあまり良好な状態ではない。

規模は、長軸4.88m、短軸4.44m、北辺3.92m、東辺4.92m、南辺3.36m、西辺4.68mを測る。床面積は、17.81m²である。主軸方位は、N－90°－Eを指す。壁高は、北壁14.5～20.0cm、東壁5.0～9.5cm、南壁2.5～5.5cm、西壁8.5～12.5cm、平均9.8cmである。

内部施設は、貯蔵穴が東南角で検出した。形態は楕円形を呈し、規模は径89.2×62.8cm、深度23.0cmである。柱穴、周溝は確認されなかった。

床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

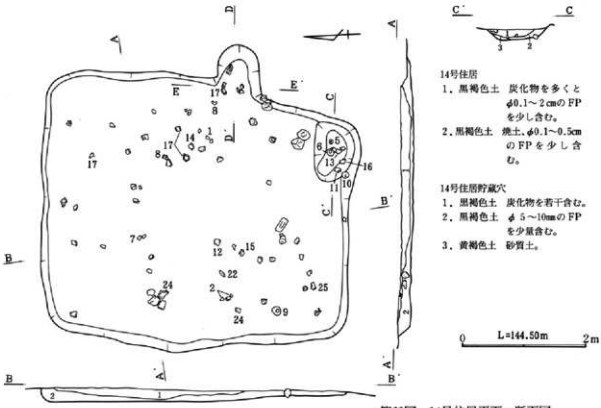
カマドは、東辺の中ほどに構築されている。残存状態は天井部が崩落し袖も不明瞭であった。規模は、全長75.0cm、幅79.5cm、焚口幅58.5cm、壁外に51.0cm延びる。

掘り方は、確認できなかった。

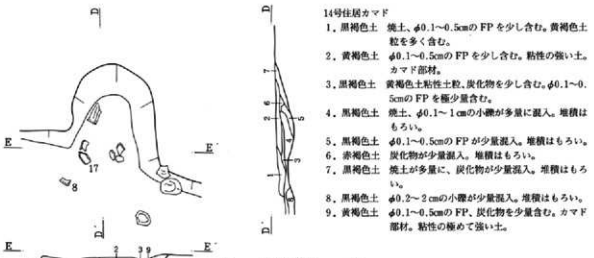
埋没状態は、レンズ状の堆積が確認できることから自然埋没であると考えられる。

遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器など1,681点が出土しておりその中でも須恵器杯・椀の破片が6割を占めている。出土状態は、住居全域に散在しているが、5、6、10、11、13、16の須恵器杯・椀は貯蔵穴から17の須恵器椀はカマドから1、7、8、12、15、22、23の須恵器杯・椀・甑・羽釜は床面から出土している。

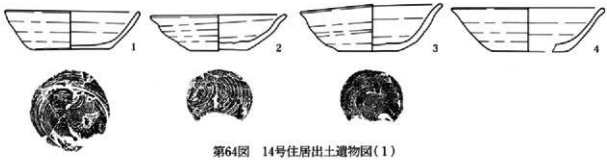
本住居の時期は、出土遺物より10世紀第1四半期に比定される。



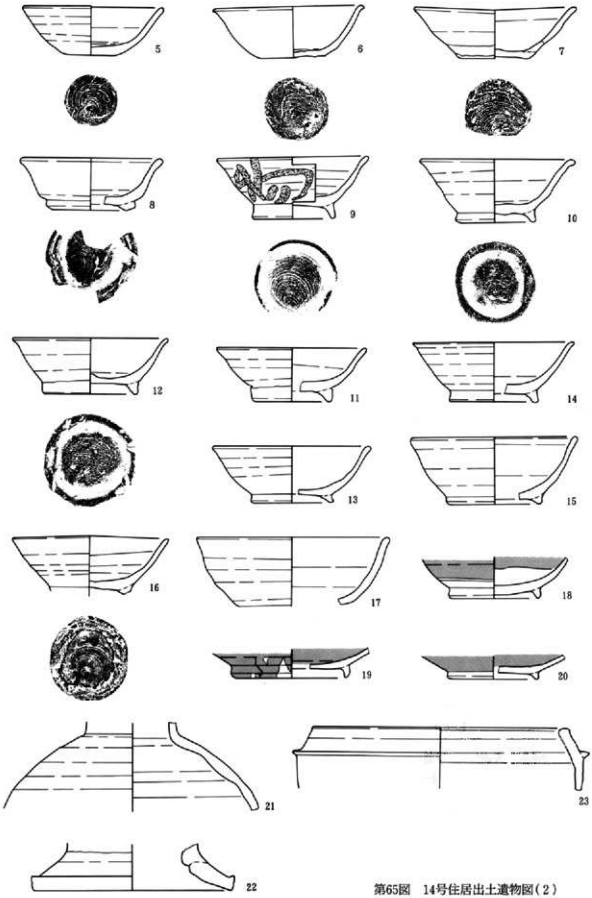
第62図　14号住居平面・断面図



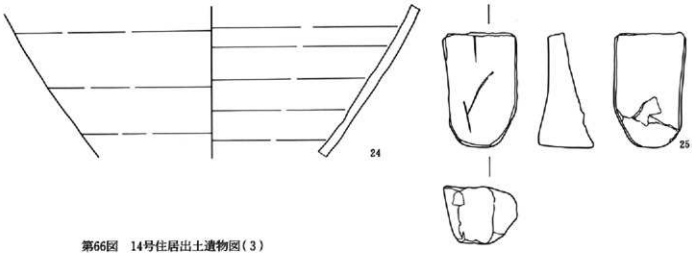
第63図　14号住居カマド図



第64図　14号住居出土遺物図(1)



第65図　14号住居出土遺物図(2)



第66図　14号住居出土遺物図（3）

15号住居

本住居は、調査区の中央部、86区E－6グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、7号住居・14号住居と重複する。新旧関係は、本住居のほうが14号住居より前出で7号住居より後出である。

形態は、ほぼ方形を呈する。残存状態は、重複する14号住居によってカマドと東南部分が残存状態不良であるが、その他は確認面から床面まで残存高が多少深いため比較的良好な状態であった。

規模は、長軸2.48m、短軸2.48m、北辺2.48m、東辺2.52m、南辺2.56m、西辺2.36mを測る。床面積は、4.99m²である。主軸方位は、N－118°－Eを指す。壁高は、北壁28.0～31.0cm、東壁6.0cm、南壁19.0～22.0cm、西壁18.5～24.5cm、平均19.4cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

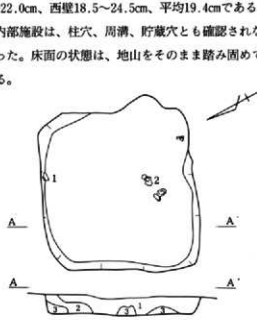
カマドは、東辺の南よりに構築されている。残存状態は、14号住居との重複でほとんど残存しておらず、僅かに残る焼土・粘土粒からカマドと確認した。規模は、全長20cm、幅70cmで壁外に20cm延びる。

掘り方は、確認できなかった。

埋没状態は、土層断面でブロック状の堆積が観察されることから人為的な埋め戻しが行われた可能性が考えられる。

遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器など164点が出土している。出土状態は、大部分が埋没土中からである。

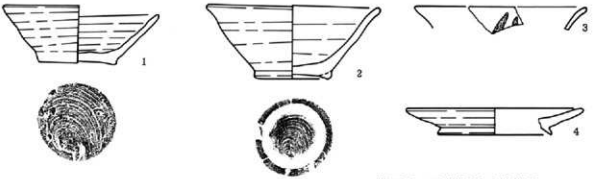
本住居の時期は、遺物の出土状態や埋没状態などから出土遺物より時期を比定するのは疑問しされるが重複関係にある住居の時期から9世紀末から10世紀初頭に比定される。



15号住居
1．灰黄褐色土　φ0.3～2.3cmの砂礫、φ 2～5mmの黄褐色粒をやや多く含む。
2．褐色土　φ0.5～2.3cmの砂礫を多くとφ 2～5mmの明黄褐色粒を若干含む。
3．褐灰色土　φ 1mm前後の砂粒を多量とφ 2～5mmの明黄褐色粒をやや多く含む。

0　L=144.60m　2m

第67図　15号住居平面・断面図



第68図　15号住居出土遺物図

16号住居

本住居は、調査区の東南部、86区A－4グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、17号住居・18号住居、17号土坑と重複する。新旧関係は、17号住居、17号土坑より前出で18号住居より後出である。

形態は、隅丸長方形を呈する。残存状態は、重複する17号住居、17号土坑によって北辺際の面5分の1を欠き、確認面から床面までも残存高が低いため良好な状態ではない。

規模は、長軸3.92m、短軸は推定で3.04m、北辺3.64m、東辺2.52m、南辺3.48m、西辺2.96mを測る。床面積は、推定10.96m²である。主軸方位は、N－120°－Eを指す。壁高は、東壁6.0cm、西壁10.5～19.0cm、平均10.4cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

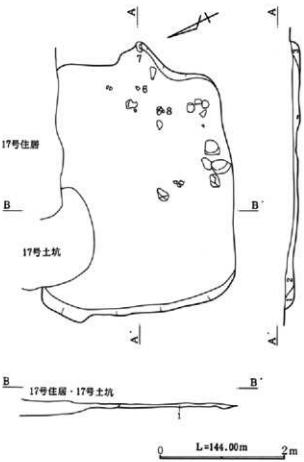
カマドは、東辺のほぼ中央に構築されている。残存状態はほとんど火床面や煙道底面の範囲しか確認できない状態であった。規模は、全長約40cm、幅約100cmで壁外に35cm延びる。

掘り方は、確認できなかった。

埋没状態は、確認面から床面までが残存高が低いため不明瞭で断定することはできない。

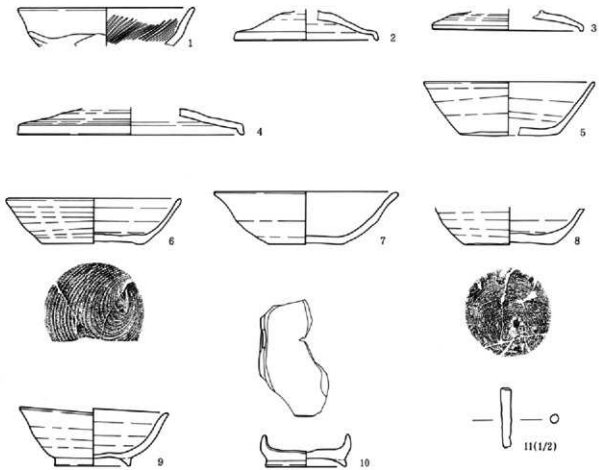
遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器など226点が出土している。出土状態は、東南部分に割合まとまっているが、全体的に床面よりやや上位からの出土である。そのなかでも6の須恵器杯がカマド前の床面からの出土である。

本住居の時期は、出土遺物は8世紀後半から9世紀後半までの時期のものが含まれているが、床面からの出土遺物や重複する遺構の新旧関係から9世紀第1四半期に比定される。



16号住居
1．黒褐色土　砂質土、φ1～2cmの小礫、炭化物細片を含む。
2．暗褐色土　砂質土、壁崩落の黄褐色砂を多く含む。
3．黒褐色土　に近い黄褐色粘土ブロック、φ5mmの炭化物粒を含む。

第69図　16号住居平面・断面図



第70図　16号住居出土遺物図

17号住居

本住居は、調査区の東南部、85区T－4グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、16号住居・18号住居、16号土坑・17号土坑と重複する。新旧関係は、本住居のほうが後出である。

形態は、東辺が東南角寄りで屈曲する不整方形を呈する。残存状態は、西辺が確認面から床面まで残存高が低いためあまり良好な状態ではない。

規模は、長軸3.68m、短軸3.24m、北辺1.84m、東辺4.20m、南辺4.20m、西辺3.28mを測る。床面積は、9.1m²である。主軸方位は、N－116°－Eを指す。壁高は、北壁21.0～32.0cm、東壁7.0～17.5cm、南壁4.5～9.0cm、平均15.2cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山や重複する住居の埋没土をそのまま踏み固めている。

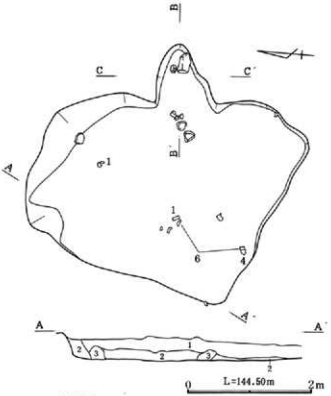
カマドは、東辺の中ほどに構築されている。残存状態は、天井部は崩落し流出している。燃焼部火床面は、焼土・炭化物が若干残る程度である。規模は、全長103.5cm、幅97.5cm、焚口幅94.5cm、燃焼部から煙道は壁外に84.0cm延びる。

掘り方は、確認できなかった。

埋没状態は、北側から土砂が流れ込んだ様子が観察できることから自然埋没であると考えられる。

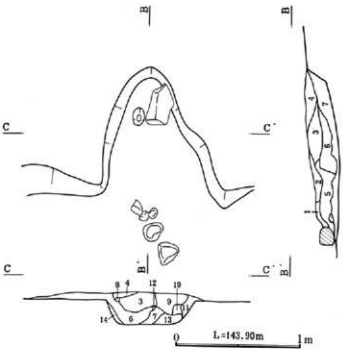
遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器など334点が出土している。出土状態は、散漫な状態で全体的に床面よりやや上位からの出土である。

本住居の時期は、出土遺物より9世紀第2四半期に比定される。



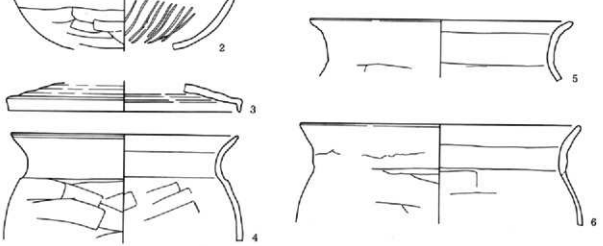
17号住居
1．にぶい黄褐色土　φ0.5～3cmの砂礫を多く含む。
2．にぶい黄褐色土　φ0.5～5cmの砂礫をやや多く含む。
3．黄褐色砂

第71図　17号住居平面・断面図



17号住居カマド
1．灰黄褐色土　焼土、炭化物を多量に含む。
2．灰黄褐色土　φ0.5～1.2cmの砂粒、焼土を若干含む。
3．黒褐色土　φ0.5～1.2cmの砂礫、黄褐色粒子を少量含む。
4．にぶい黄橙色土　φ0.5～2.3cmの砂礫、黄褐色粒子を多く含む。
5．にぶい黄橙色土　φ0.5～3.4cmの砂礫、炭化物をやや多く含む。
6．にぶい黄褐色土　φ 1～2cmの砂礫、小石を若干含む。
7．にぶい褐色土　焼土、砂礫、小石を若干、炭化物を少量含む。
8．灰黄褐色土　φ0.5～2cmの砂礫、黄褐色粒子を多く含む。
9．灰黄褐色土　φ0.5～2.3cmの炭化物、焼土を若干含む。
10．橙色土　焼土をベースとし、φ0.5～3cmの砂礫を若干含む。
11．灰黄褐色土　φ 1～3cmの砂礫をやや多く含む。
12．にぶい褐色土　φ0.5～2.3cmの砂礫、小石をやや多く含む。
13．褐灰色土　φ 1～2cmの砂礫、小石、炭化物を少量含む。
14．灰黄褐色土　φ 1mm以下の微細な砂粒を若干含む。

第72図　17号住居カマド図



第73図　17号住居出土遺物図

18号住居

本住居は、調査区の東南部、85区T－3グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、16号住居・17号住居と重複する。新旧関係は、16号住居・17号住居より前出である。

形態は、西辺が東辺に比べて0.7mほど短いが長方形に近い形態を呈する。残存状態は、重複する17号住居によって北辺の東よりから北西角までの床面付近まで欠くがその他は比較的良好な状態であった。

規模は、長軸4.44m、短軸3.40m、北辺2.90m、東辺4.52m、南辺3.44m、西辺3.88mを測る。床面積は、12.88m²である。主軸方位は、N－90°－Eを指す。壁高は、北壁0.5～7.0cm、東壁7.0～16.5cm、南壁19.5～21.5cm、西壁9.5～17.5cm、平均12.4cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

カマドは、東辺の南よりに構築されている。残存状態は、天井部は崩落し、袖も補強に使用されたφ20cmほどの円礫が残存している程度で構築している粘土などは流失している。規模は、全長69.0cm、幅78.0cm、焚口幅72.0cm、燃焼部から煙道にかけては壁外に58.5cm延びる。

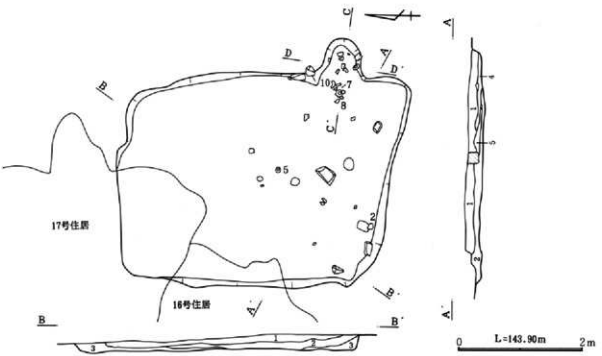
掘り方は、確認できなかった。

埋没状態は、レンズ状に近い堆積が確認できることから自然埋没であると考えられる。

遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器など682点が出土している。出土状態は、散漫な状態であるが、7・8の灰釉陶器椀・皿、10の土師器甕はカマド前部から出土している。

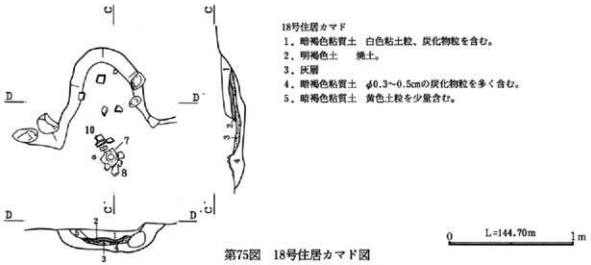
本住居の時期は、出土遺物は9世紀前半代から10世紀前半のものが見られるが重複する他遺構との新旧関係や出土遺物などから9世紀第1四半期に比定される。

18号住居は16号住居との関係から8世紀後半か。

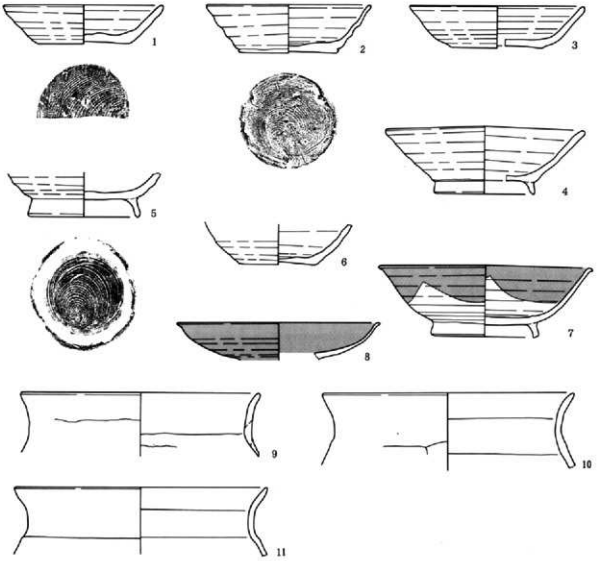


18号住居
1．黒褐色土　φ0.5～1cmの砂礫、FPを多くとφ0.1～0.3cmの炭化物粒を少量含む。
2．黒褐色土　φ0.5～0.8cmの砂礫、φ1cmの炭化物片を多くとFPを少量含む。
3．　褐色土　φ0.5cmの砂礫、黄灰色砂ブロックを含む。
4．暗褐色土　粘質土、にぶい黄褐色土粘土ブロック、炭化物粒を含む。
5．暗褐色土　炭化物粒を多く含む。

第74図　18号住居平面・断面図



第75図　18号住居カマド図



第76図　18号住居出土遺物図

19号住居

本住居は、調査区の南より、86区G－3グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、12号住居・20号住居・24号住居、21号土坑と重複する。新旧関係は、本住居のほうが後出である。

形態は、北辺がやや短いがほぼ長方形を呈する。残存状態は、確認面から床面まで残存高が低いが比較的良好な状態である。

規模は、長軸3.20m、短軸2.63m、北辺2.42m、東辺3.23m、南辺2.72m、西辺3.20mを測る。床面積は、6.84㎡である。主軸方位は、N－107°－Eを指す。壁高は、北壁8.0～18.0cm、東壁8.0～14.0cm、南壁4.0～11.0cm、西壁8.0～18.0cm、平均10.4cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山や重複する遺構の埋没土をそのまま踏み固めている。

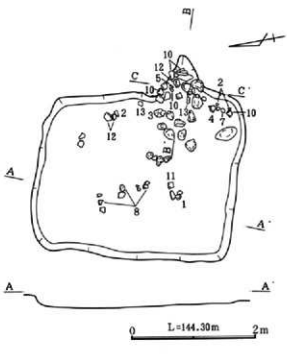
カマドは、東辺の南よりに構築されている。残存状態は、天井部や袖に補強で使用した礫が多く出土しているが天井部は崩落、袖は流失している。規模は、全長73.5cm、幅78.0cm、焚口幅55.5cm、燃焼部から煙道かけては壁外に57.0cm延びる。燃焼部の火床面には、多量の灰・炭化物が見られた。

掘り方は、確認できなかった。

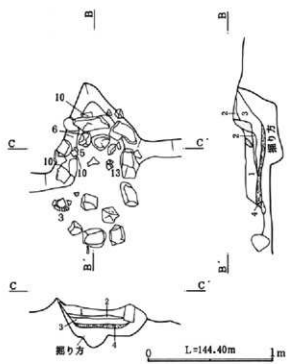
埋没状態は、水平な堆積が観察できることから自然埋没であると考えられる。

遺物は、土師器、須恵器、土製品瓦片など321点が出土している。出土状態は、カマド内とカマド周辺に集中して出土がみられ、3、5、6の須恵器椀と10、12の須恵器羽釜がカマド内から出土している。

本住居の時期は、出土遺物より10世紀第2～3四半期に比定される。

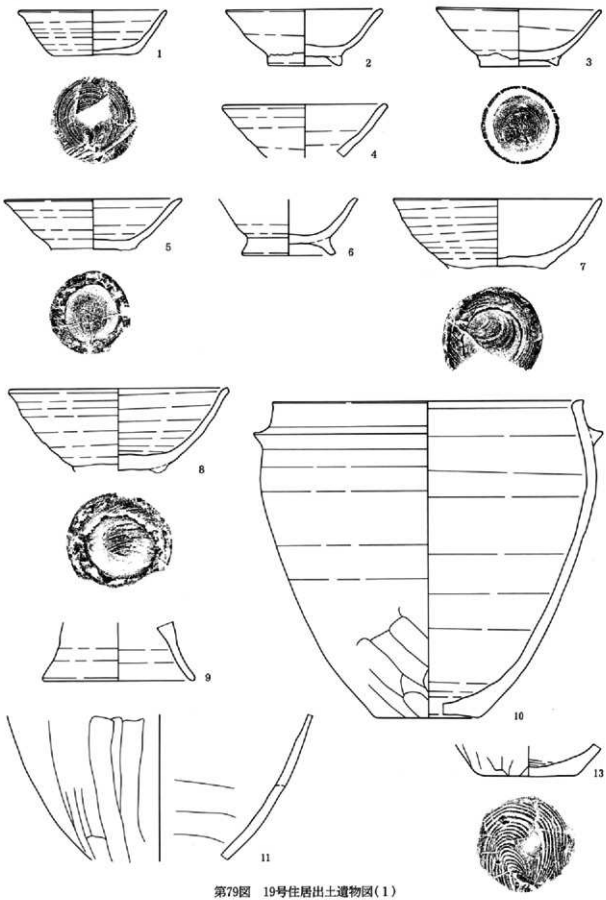


第77図　19号住居平面・断面図

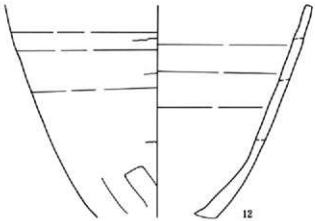


19号住居カマド
1．黒褐色砂質土　　焼土粒、炭化物粒を多く含む。
2．黄橙色土ブロック　焼土ブロック。
3．黒褐色砂質土　　φ1～2cmの焼土小ブロックを含む。
4．灰。

第78図　19号住居カマド図



第79図　19号住居出土遺物図(1)



第80図　19号住居出土遺物図（２）

20号住居

本住居は、調査区の南より、86区G－３グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、12号住居・19号住居、19号土坑・25号土坑と重複する。新旧関係は、本住居のほうが前出である。

形態は、北側５分の１が幅狭い鍵形を呈する。残存状態は、東南部分を重複関係にある住居で欠く。

規模は、長軸5.44m、短軸3.28m、北辺3.44m、東辺5.36m、南辺3.08m、西辺5.28mを測る。床面積は、推定15.87㎡である。主軸方位は、N－90.5°－Eを指す。壁高は、北壁4.0～7.0cm、東壁3.1～6.7cm、西壁3.0～6.5cm、平均5.1cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

カマドは、本遺跡で検出した住居では東辺に位置していることから重複する19号住居によって壊されたと考えられる。

掘り方は、確認できなかった。

埋没状態は、土層断面がブロック状の状態で観察できることから人為的な埋め戻しが行われた可能性がある。

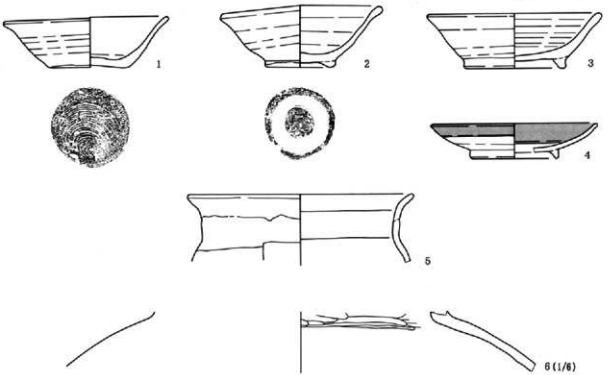
遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器など305点が出土している。出土状態は、住居全体に散漫な状態であるが３、４、６の須恵器椀・甕、灰釉陶器皿が床面から出土している。

本住居の時期は、出土遺物より９世紀第４四半期に比定される。

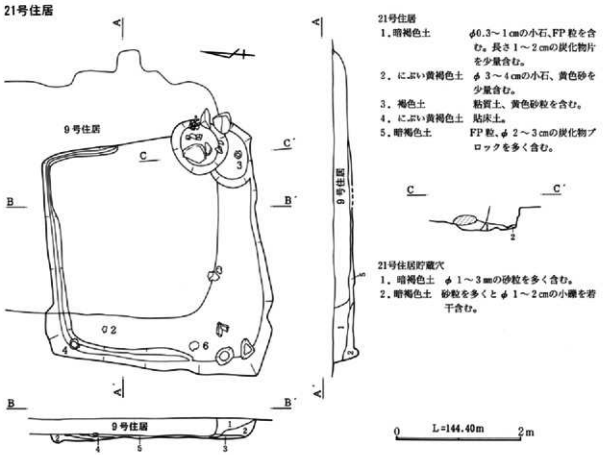
20号住居

1．黒褐色土　　橙色粒、FP 細粒を多量に含む。
2．黒褐色土　　少量の橙色粒、多量の炭化物、灰を含む。
3．黒褐色土　　FP 細粒、橙色粒、炭化物を含む。
4．にぶい黄褐色土　橙色粒、φ0.5～１cmの FP、炭化物粒を含む。
5．黒褐色土　　FP、橙色粒、炭化物粒を少量含む。

第81図　20号住居平面・断面図



第82図　20号住居出土遺物図



第83図　21号住居平面・断面図

21号住居

本住居は、調査区の東より、86区A－8グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、9号住居と重複する。新旧関係は、本住居のほうが前出である。

形態は、南壁がやや長いがほぼ方形を呈する。残存状態は、重複する9号住居によって上部を削平されているためあまり良好な状態ではない。

規模は、長軸3.64m、短軸3.60m、北辺3.00m、東辺3.32m、南辺3.84m、西辺3.24mを測る。床面積は、10.83㎡である。主軸方位は、N－89°－Eを指す。壁高は、北壁9.0～13.0cm、東壁4.0～6.0cm、南壁23.0～31.0cm、西壁17.0～28.0cm、平均16.4cmである。

内部施設は、周溝と貯蔵穴を検出されたが、柱穴は確認されなかった。周溝は、東壁の中ほどから北壁、西壁の中ほどまで巡る。規模は幅10～20cm、深度1～6cmである。貯蔵穴は東南角に位置しているが一部9号住居貯蔵穴で欠損している。形態は楕円形を呈し、規模は径102.0×70.0cm、深度7.0cmである。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

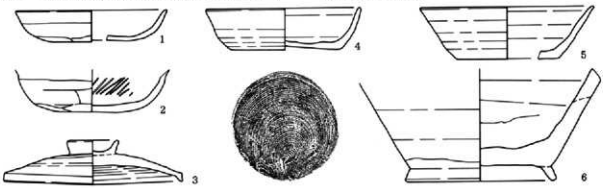
カマドは、東辺の中ほどに構築されているが、僅かに焼土・灰等が確認できる程度で9号住居によりほとんど欠損している。

掘り方は、確認できなかった。

埋没状態は、土層断面でレンズ状の観察ができることから自然埋没と考えられる。

遺物は、土師器、須恵器など199点が出土している。出土状態は、散漫な状態であるが3の須恵器杯蓋が貯蔵穴、4の須恵器杯が周溝のやや上位、2の土師器杯と6の須恵器壺が床面からの出土である。

本住居の時期は、出土遺物より8世紀第3～4四半期に比定される。



第84図　21号住居出土遺物図

22号住居

本住居は、調査区の南端、86区A－2グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、10号住居・11号住居と重複する。新旧関係は、本住居のほうが前出である。

形態は、南側2分の1から3分の2程度が調査区外に存在するため不明確であるが、方形または長方形を呈すると推定される。

規模は、長軸4.76m、短軸2.32m＋α、北辺4.40m、東辺と西辺は残存する部分で1.4m、2.16mを測る。床面積は、残存部分で7.74㎡である。主軸方位は、N－66.5°－Eを指す。壁高は、北壁19.0～29.0cm、東壁45.0～48.0cm、西壁22.0cm、平均34.2cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

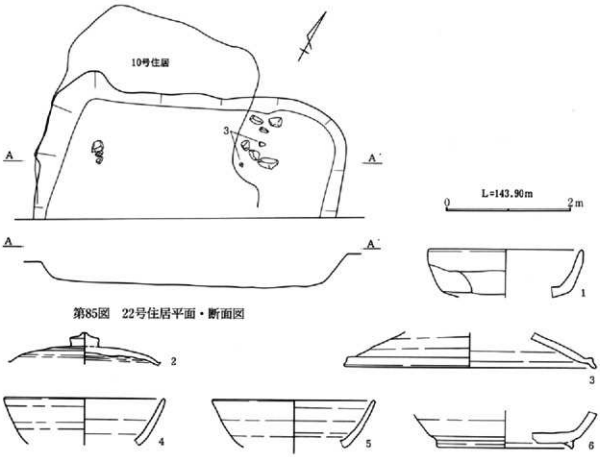
カマドは、調査区内では確認されなかった。

掘り方は、確認できなかった。

埋没状態は、自然埋没である。

遺物は、土師器、須恵器など113点が出土している。出土状態は、北東部分に土器や礫のややまとまった出土が確認されたが全体的に床面よりやや上位からの出土である。

本住居の時期は、出土遺物より8世紀第3四半期に比定される。



第85図　22号住居平面・断面図

第86図　22号住居出土遺物図

23号住居

本住居は、調査区の南より、86区G－3グリッドに位置する。調査は1次と2次に分割して行った。他遺構との重複関係は、24号住居と重複する。新旧関係は、本住居のほうが後出である。

形態は、南辺が北辺に比べて約40cmほど短い台形状を呈する。残存状態は、確認面より床面まで残存高が低く不良で特に北壁側はほとんど残存していない状態である。

規模は、長軸3.40m、短軸2.40m、北辺2.40m、東辺3.24m、南辺2.00m、西辺3.32mを測る。床面積は、7.04m²である。主軸方位は、N－89°－E指す。壁高は、東壁10.0cm、南壁11.0cm、西壁27.0cm、平均12.0cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

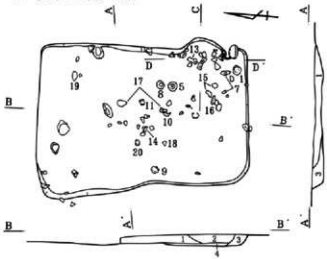
カマドは、東辺の東南角よりに構築されている。残存状態は、天井部が崩落し袖も残存していない状態であった。規模は、全長30.0cm、幅76.5cm、焚口幅72.0cm、燃焼部から煙道は壁外に22.5cm延びる。燃焼部には3～5cm程度の灰が堆積していた。

掘り方は、確認できなかった。

埋没状態は、中央部で1層しか確認できないが壁際の観察から自然埋没であると考えられる。

遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器など247点が出土している。出土状態は、多少の差はあるが住居全域に散在した状態で13の須恵器羽釜がカマド、10、14、18の須恵器椀・羽釜・甕がやや床面より上位からの出土の他は床面からの出土である。

本住居の時期は、出土遺物より10世紀第3四半期に比定される。

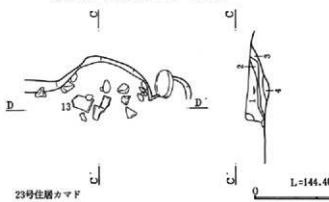


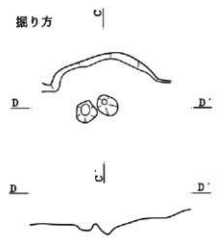
23号住居
1．灰黄褐色土　FPを1％と焼土粒を2～3％と炭化物粒を1％含む。
2．暗褐色土　φ5～10mmの円礫を含む。
3．暗褐色土　砂質土。
4．褐色土　黄色土ブロックを20％含む。

0　L=144.30m　2m

第87図　23号住居平面・断面図

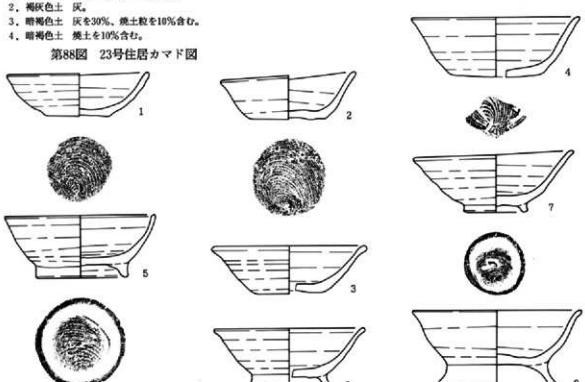
掘り方



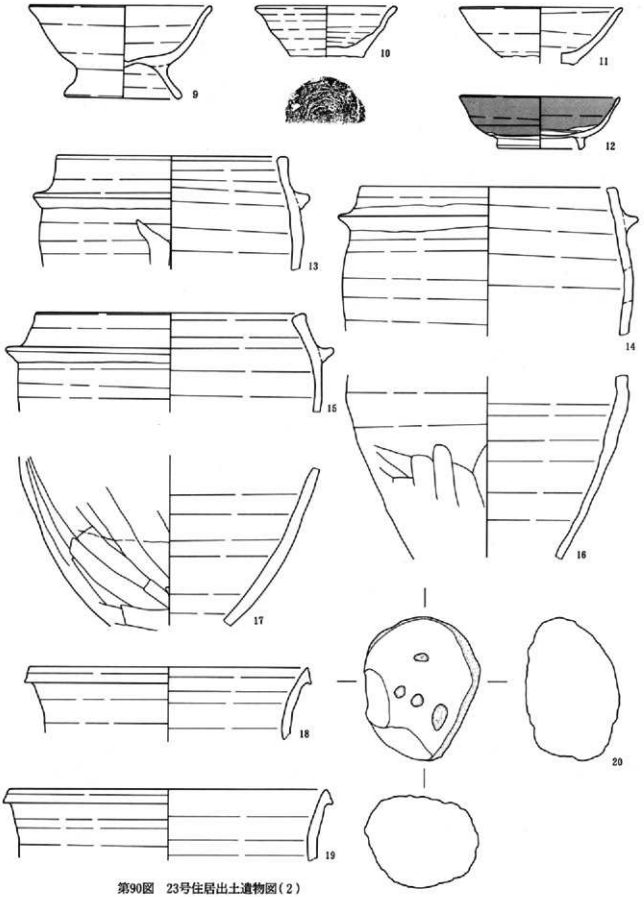


23号住居カマド
1．黒褐色土　焼土、灰を3～5％含む。
2．褐灰色土　灰。
3．暗褐色土　灰を30％、焼土粒を10％含む。
4．暗褐色土　焼土を10％含む。

第88図　23号住居カマド図



第89図　23号住居出土遺物図(1)



第90図　23号住居出土遺物図（2）

24号住居

本住居は、調査区の南より、86区F－3グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、19号住居・23号住居と重複する。新旧関係は、本住居のほうが前出である。

形態は、南側が僅かに形態が解る程度しか残存していない状態であるが北辺が短い台形状を呈する。

規模は、長軸3.68m、短軸3.30m、北辺2.68m、東辺3.20m、南辺3.38m、西辺3.48mを測る。床面積は、推定10.44m²である。主軸方位は、N－110°－Eを指す。壁高は、北壁5.0～11.5cm、東壁4.5～5.0cmで南壁と西壁は残存していない。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面は北側半分が残存しているだけであるが、残存部分は地山をそのまま踏み固めている。

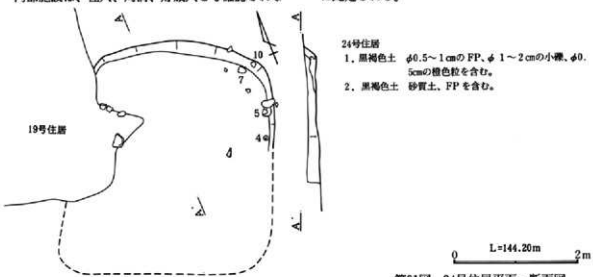
カマドは、確認されなかった。

埋没状態は、中央部では1層しか確認できないが北壁際の観察から自然埋没であると考えられる。

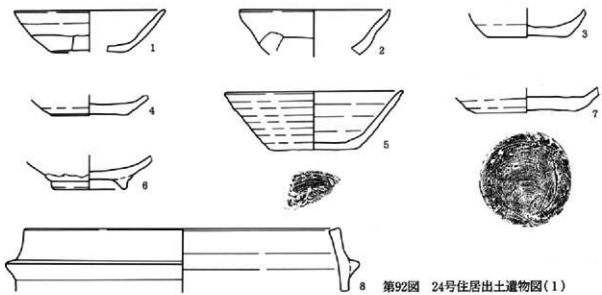
掘り方は、確認できなかった。

遺物は、土師器、須恵器など248点が出土している。出土状態は、北東角から東辺北半分の壁際に多少のまとまりが見られるが4の須恵器杯が床面からの他は床面よりやや上位からの出土である。

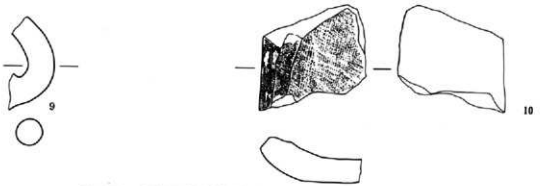
本住居の時期は、出土遺物より10世紀第1四半期に比定される。



第91図　24号住居平面・断面図



第92図　24号住居出土遺物図(1)



第93図　24号住居出土遺物図(2)

25号住居

本住居は、調査区の中央部、86区E－7グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、みられず単独で占地する。

形態は、長方形を呈する。残存状態は、東辺の壁高がやや低いが他の辺は確認面から床面まで20cm程度の残存高があり比較的良好な状態である。

規模は、長軸3.08m、短軸2.40m、北辺2.36m、東辺2.88m、南辺2.08m、西辺2.80mを測る。床面積は、5.6m²である。主軸方位は、N－100°－Eを指す。壁高は、北壁10.0～14.0cm、東壁4.0cm、南壁24.0～27.0cm、西壁22.5～27.5cm、平均16.6cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

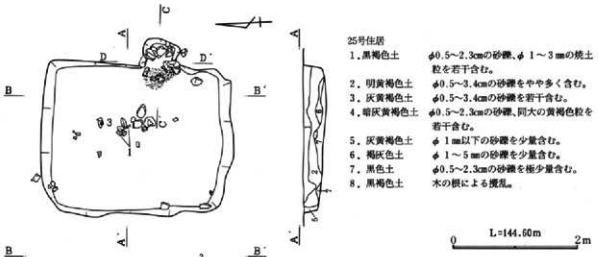
カマドは、東辺の南よりに構築されている。残存状態は、天井部は崩落し、袖に補強で使用されていた礫も倒れた状態であった。規模は、全長50cm、幅63cm、燃焼部から煙道は壁外に40.5cm延びる。燃焼部の左側からは炭化物を含んだ灰が多量に確認された。

掘り方は、確認できなかった。

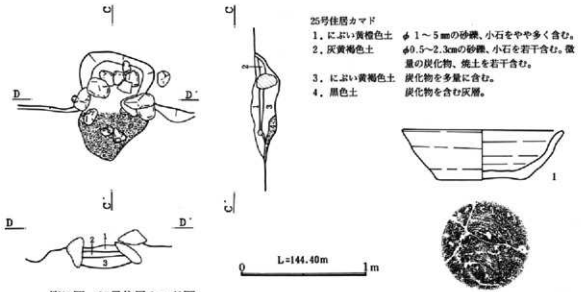
埋没状態は、埋没途中で一部掘り込まれた痕跡が観察できるが全体的にはレンズ状の堆積が観察され自然埋没であると考えられる。

遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器など560点が出土している。出土状態は、全体的に床面よりやや上位からの出土であるが1、3の須恵器椀が中央部の床面から出土している。

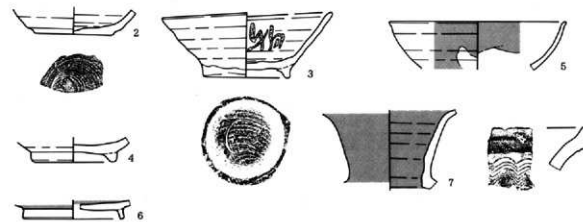
本住居の時期は、出土遺物より10世紀第1四半期に比定される。



第94図　25号住居平面・断面図



第95図　25号住居カマド図



第96図　25号住居出土遺物図

26号住居

本住居は、調査区の中央部、86区E－7グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、27号住居と西辺で接するように重複する。新旧関係は、本住居のほうが前出である。

形態は、南辺と西辺が北辺と東辺に比べて50cmずつ短い歪んだ方形を呈する。残存状態は、確認面から床面まで残存高が16～26cmと深いため比較的良好な状態である。

規模は、長軸4.16m、短軸3.9m、北辺4.08m、東辺3.68m、南辺3.52m、西辺3.08mを測る。床面積は、11.34m²である。主軸方位は、N－90.6'－Eを指す。壁高は、北壁20.5～26.0cm、東壁22.0～23.5cm、南壁20.5～25.0cm、西壁16.5～18.0cm、平均22.8cmである。

内部施設は、周溝と貯蔵穴を検出したが、柱穴は確認されなかった。周溝は、東辺北東角より南に1mのところから北辺から西辺を廻り南辺の西南角より東に1.58mのところまで壁下を巡っている。規模は幅10.0～18.0cm、深度1.0～2.0cmである。貯蔵穴は、東南角よりに位置し、形態は楕円形を呈す。規模は径45.0×48.0cm、深度53.0cmである。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

カマドは、東辺の中央よりやや南に構築されている。残存状態は、天井部が崩落し袖に補強で使用されていた礫が転倒した状態であった。規模は、全長63.0cm、幅73.5cm、焚口幅78.0cm、壁外に42.0cm延

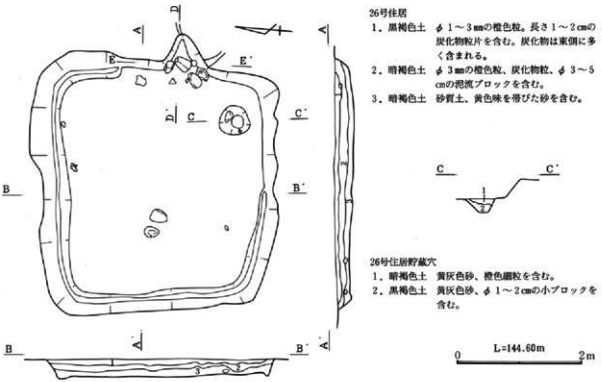
びる。燃焼部の奥には灰が厚く残存していた。

掘り方は、確認できなかった。

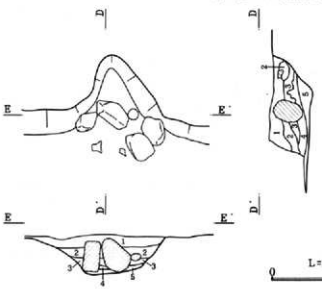
埋没状態は、ほぼ水平な堆積が観察できることから自然埋没と考えられる。

遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器など260点が出土しているが、確認面から床面まで比較的深い住居にしては遺物の残存量が少ない。出土状態は、4の土師器甕がカマド、貯蔵穴からも土師器甕が出土しているが小片のため図化していない。また、5の土師器台付甕は埋没土中から出土した破片と86区F－8グリッドから出土した破片が接合している。

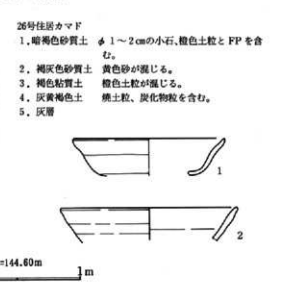
本住居の時期は、出土遺物より9世紀第3四半期に比定される。



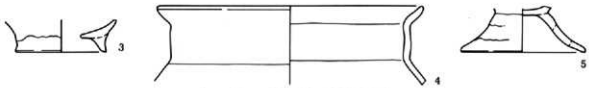
第97図　26号住居平面・断面図



第98図　26号住居カマド図



第99図　26号住居出土遺物図(1)



第100図　26号住居出土遺物図（2）

27号住居

本住居は、調査区の中央部、86区F－7グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、26号住居・28号住居と重複する。新旧関係は、26号住居・28号住居より後出である。

形態は、南辺が北辺より20cm、東辺が西辺より50cmほど短い歪んだ長方形を呈する。残存状態は、確認面から床面まで残存高が低いが比較的良好な状態である。

規模は、長軸3.24m、短軸2.40m、北辺2.24m、東辺2.80m、南辺2.04m、西辺3.32mを測る。床面積は、5.23m²である。主軸方位は、N－107°－Eを指す。壁高は、北壁13.0～14.0cm、東壁11.0cm、南壁5.0～13.0cm、西壁2.0～8.0cm、平均9.6cmである。

内部施設は、貯蔵穴を検出したが、柱穴、周溝とも確認されなかった。貯蔵穴は、東南角の壁下に位置し、隅丸長方形を呈す。規模は径65×60cm、深度12cmである。貯蔵穴からは2の土師器杯と礫が出土している。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

カマドは、東辺の南よりに構築されている。残存状態は、天井部は崩落し袖は補強で使用されていた礫が転倒・転落した状態であった。規模は、全長67.5cm、幅7.2cm、焚口幅55.5cm、燃焼部から煙道は壁外に52.5cm延びる。

掘り方は、確認できなかった。

埋没状態は、レンズ状の堆積が観察できることから自然埋没であると考えられる。

遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器352点が出土している。出土状態は、カマド前部から南辺にまとまりが見られ、2が貯蔵穴、12の土師器甕がカマド、3、6、10、13、14の須恵器椀・甕、土師器甕・台付甕が床面から出土している。

本住居の時期は、出土遺物より10世紀第1四半期に比定される。

28号住居

本住居は、調査区の中央部、86区F－7グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、27号住居と重複する。新旧関係は、本住居のほうが前出である。

形態は、重複する27号住居よって4分の3ほどを欠くため不明確であるがほぼ長方形を呈すると推定される。

規模は、長軸3.00m、短軸推定0.92m＋αで残存する西辺は2.92mを測る。床面積は、残存する部分で1.86m²である。主軸方位は、N－180°－Wを指す。壁高は、西壁が3.5～6.5cm、南辺はほとんど残存していない。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

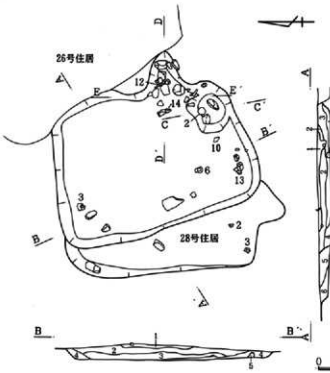
カマドは、南辺のやや西に構築されている。今回調査した住居のなかで南辺にカマドが位置する住居は本住居の1軒だけである。残存状態は、カマドの形態が解る程度しか残存していない。規模は、全長40cm、幅65cmである。

掘り方は、確認できなかった。

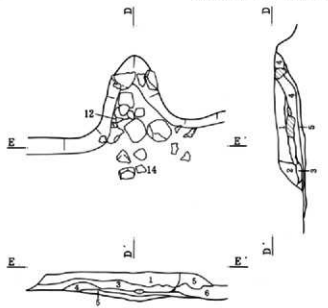
埋没状態は、壁際の堆積状態の観察から自然埋没であると考えられる。

遺物は、土師器、須恵器など僅かに8点が出土しているだけである。出土状態は、2、3の須恵器椀が東南部の床面から出土している。

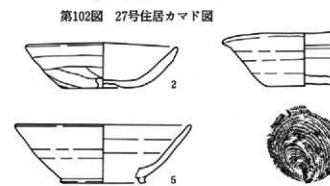
本住居の時期は、出土遺物より9世紀第3～4四半期に比定される。



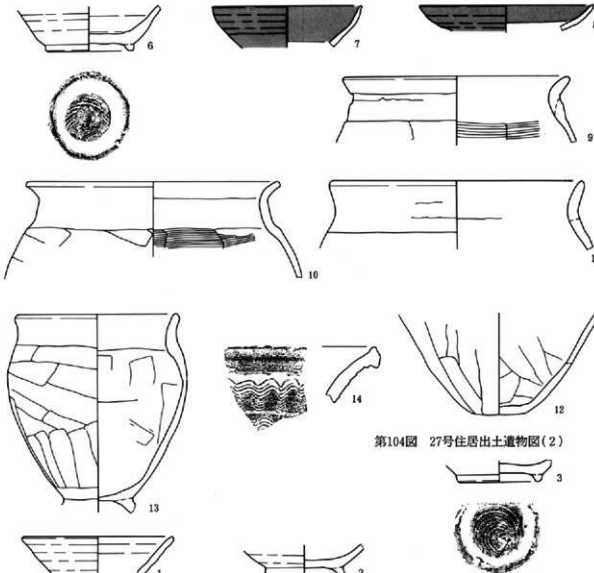
第101図　27・28号住居平面・断面図



第102図　27号住居カマド図



第103図　27号住居出土遺物図(1)



第104図　27号住居出土遺物図（2）

第105図　28号住居出土遺物図

29号住居

本住居は、調査区の中央部、86区G－9グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、30号住居・31号住居と重複する。新旧関係は、本住居のほうが後出である。

形態は、西辺が東辺に比べて20cmほど短いがほぼ長方形を呈する。残存状態は、確認面から床面まで残存高が16～30cmと深いため比較的良好な状態である。

規模は、長軸3.63m、短軸2.90m、北辺2.80m、東辺3.68m、南辺2.86m、西辺3.44mを測る。床面積は、8.7m²である。主軸方位は、N－94°－Eを指す。壁高は、北壁16.0～19.0cm、東壁19.0～25.0cm、南壁20.0～28.0cm、西壁28.0～30.0cm、平均23.1cmである。

内部施設は、周溝を検出したが柱穴、貯蔵穴は確認されなかった。周溝は、東辺の北よりから北辺、西辺の中ほどまで巡る。規模は幅12.0cm前後、深度1.0～3.0cmである。床面の状態は、地山や重複する30号住居の埋没土をそのまま踏み固めている。

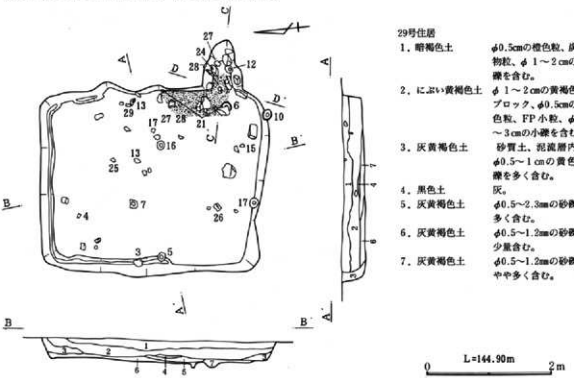
カマドは、東辺の東南角よりに構築されている。残存状態は、天井部は崩落し袖は補強で使用されていた礫が転倒・転落した状態であった。規模は、全長90.0cm、幅70.5cm、燃焼部から煙道にかけては壁外に82.5cm延びる。燃焼部とカマド前部には灰が厚く堆積していた。

掘り方は、確認できなかった。

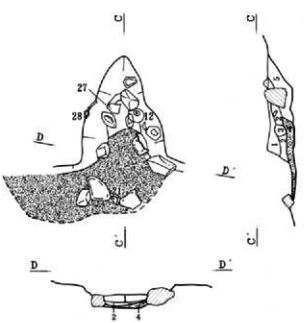
埋没状態は、レンズ状の堆積が観察できることから自然埋没であると考えられる。

遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器など503点が出土している。出土状態は、カマドとカマド周囲にややまとまった出土が見られる。9、12、13、21、23、24、27・28の須恵器椀・羽釜・甕、土師器甕がカマド、3、7、10、16、17、19の須恵器杯蓋・椀が床面からの出土である。

本住居の時期は、出土遺物より9世紀第4四半期から10世紀第1四半期に比定される。

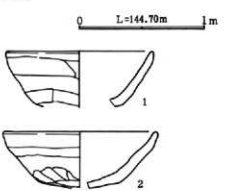


第106図　29号住居平面・断面図

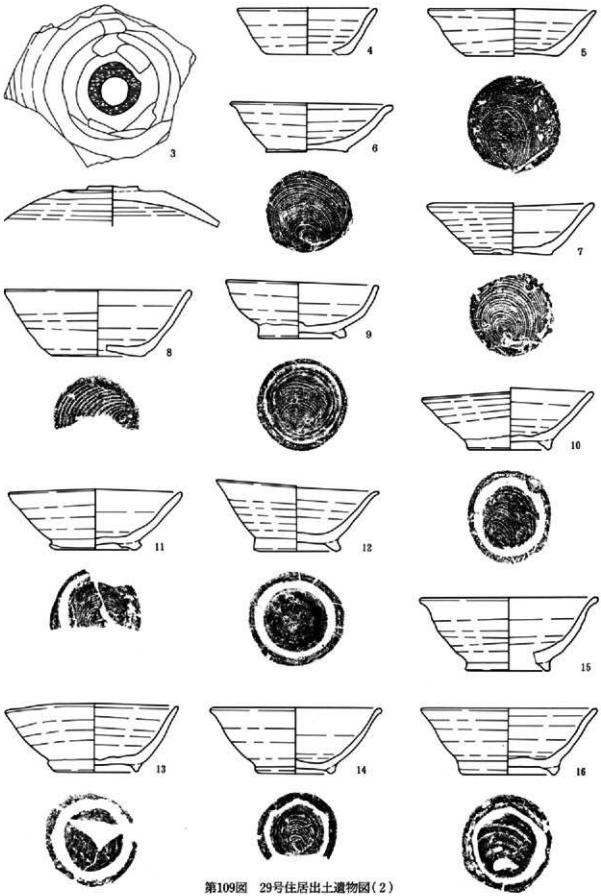


29号住居カマド
1．灰黄褐色土　φ0.5～1.2mmの砂礫・小石、φ0.5～2.3mmの炭化物を若干含む。
2．黒褐色土　φ 1～2mmの砂礫、黄褐色粒子を少量含む。
3．黒褐色土　φ0.5～1.2mmの炭化物を若干含む。
4．灰層
5．暗褐色土　φ0.5cm程の炭化物粒とφ0.1cm程の焼土粒を含む。

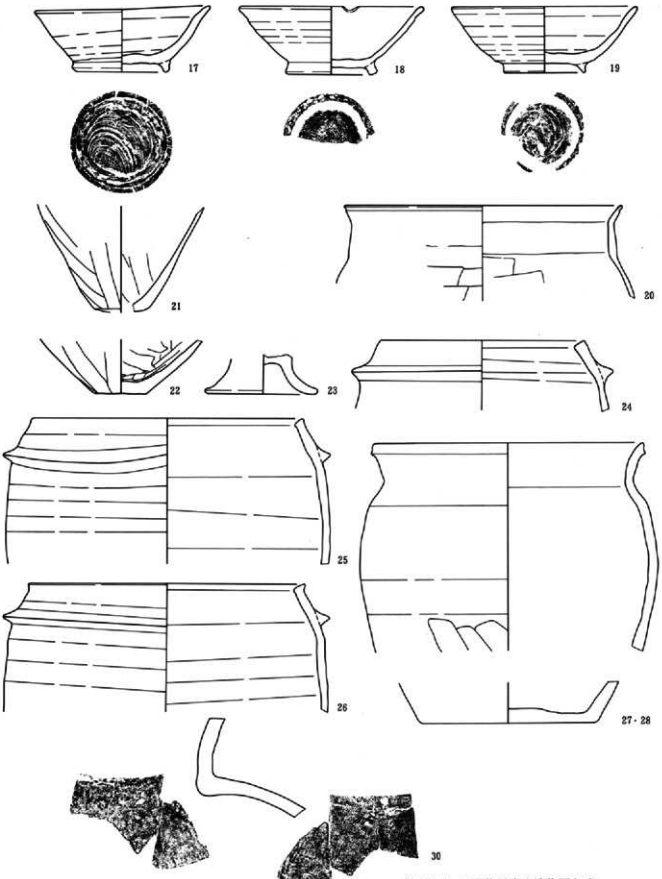
第107図　29号住居カマド図



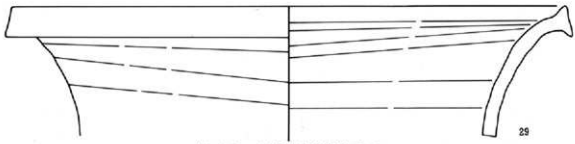
第108図　29号住居出土遺物図（1）



第109図　29号住居出土遺物図(2)



第110図　29号住居出土遺物図(3)



第111図　29号住居出土遺物図(4)

30号住居

本住居は、調査区の中央部、86区G－9グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、29号住居と重複する。新旧関係は、本住居のほうが前出である。

形態は、南辺が弧を描く隅丸長方形と長方形の間の形態を呈する。残存状態は、南辺側は比較的良好な状態であるがその他の部分は重複する29号住居によって欠くため不明確である。

規模は、長軸3.76m、短軸3.36m、北辺2.74m、東辺3.30m、南辺2.82m、西辺3.10mを測る。床面積は、9.06㎡である。主軸方位は、N－82°－Eを指す。壁高は、北壁8.0～18.0cm、東壁17.0～36.0cm、南壁35.0～40.5cm、西壁16.0～31.0cm、平均25.2cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

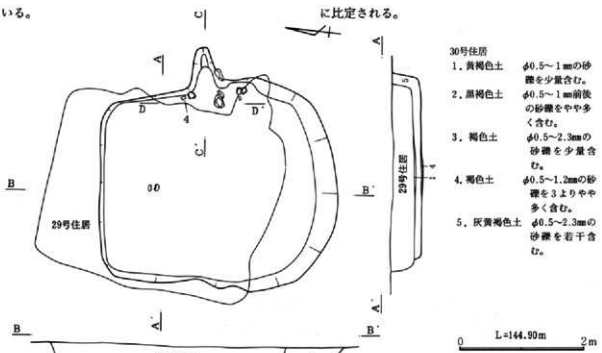
カマドは、東辺の中ほどに構築されている。残存状態は、天井部が崩落した状態である。規模は、全長69.0cm、幅60.0cm、燃焼部幅34.5cm、燃焼部から煙道にかけては壁外に57.0cm延びる。燃焼部には灰が3～5cmの厚さで堆積している。

掘り方は、確認できなかった。

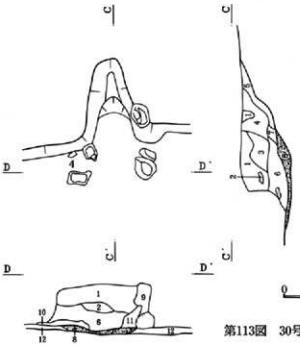
埋没状態は、重複する29号住居のため不明瞭であるが残存する部分の観察から自然埋没であると考えられる。

遺物は、土師器、須恵器など155点が出土している。出土状態は、4の土師器甕がカマド左脇の床面から出土しているだけで他は床面よりやや上位からの出土である。

本住居の時期は、出土遺物より8世紀第4四半期に比定される。



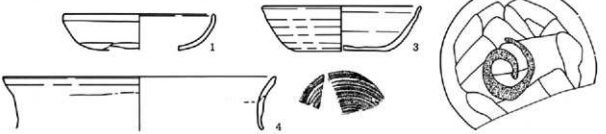
第112図　30号住居平面・断面図



30号住居カマド

1．暗褐色土　φ0.3～0.8cmの砂礫、黄褐色土粒、φ0.5～0.8cmの炭化物片を多く含む。
2．におい黄褐色粘質土　FP粒を含む。
3．におい黄褐色粘土　φ0.5～1cmの小ブロックとφ1～2cmの焼土小ブロックの混土。下位に灰を含む。
4．褐色土　粘質土、φ0.2～0.5cmのFP粒が目立つ。
5．灰黄褐色土　焼土粒、炭化物粒を少量含む。
6．暗褐色土　φ0.5～1.5cmのにおい黄褐色粘質土ブロック、炭化物粒、灰のブロックを含む。
7．におい褐色土　焼土粒を少量含む。
8．黒色土　灰。
9．暗褐色土　φ0.5～0.8cmのにおい黄褐色粘土粒、炭化物粒を含む。
10．褐色土　φ0.1cmの焼土粒を少量、灰を含む。
11．黄褐色土　φ0.5～1.5cmのにおい黄褐色粘土粒、炭化物粒を含む。
12．暗褐色土　φ0.1～0.3cmの焼土粒・炭化物粒、φ1～3cmの黄褐色粘土小ブロックを含む。

第113図　30号住居カマド図



第114図　30号住居出土遺物図

31号住居

本住居は、調査区の中央部、86区G－11グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、29号住居と重複する。新旧関係は本住居のほうが、前出である。

形態は、南辺が北辺に比べて30cmほど短いがほぼ長方形を呈する。残存状態は、南辺を重複する29号住居により欠く。

規模は、長軸3.46m、短軸3.06m、北辺3.07m、東辺3.50m、南辺2.78m、西辺3.48mを測る。床面積は、推定9.21㎡である。主軸方位は、N－6°－Eを指す。壁高は、北壁7.0～15.0cm、東壁4.0～6.0cm、西壁10.0～15.0cm、平均9.5cmである。

内部施設は、柱穴と周溝を検出したが貯蔵穴は確認されなかった。柱穴は、中央よりやや西側に位置し、形態は不整形を呈す。規模は径53.0×35.0cm、深度70.0cmである。周溝は、南辺を除く西辺の南西角よりから北辺の北東角の手前までと東辺の北半の壁下を巡る。規模は幅16.0cm、深度0～3.0cmである。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

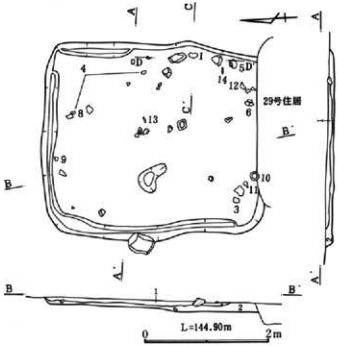
カマドは、東辺の中央よりやや南に構築されている。残存状態は、焼土や炭化物と補強に使用された礫が散乱している。規模は、明確な範囲が不明なため計測できない。

掘り方は、確認できなかった。

埋没状態は、レンズ状の堆積が観察できることから自然埋没であると考えられる。

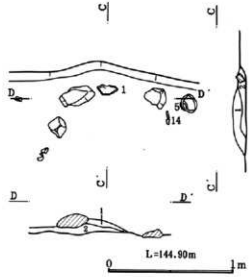
遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器など282点が出土している。出土状態は、散漫な状態であるが、1の土師器杯がカマドからと5、6、9、14の須恵器椀、灰釉陶器椀が床面よりやや上位からの他は床面からの出土である。

本住居の時期は、出土遺物より9世紀第4四半期に比定される。



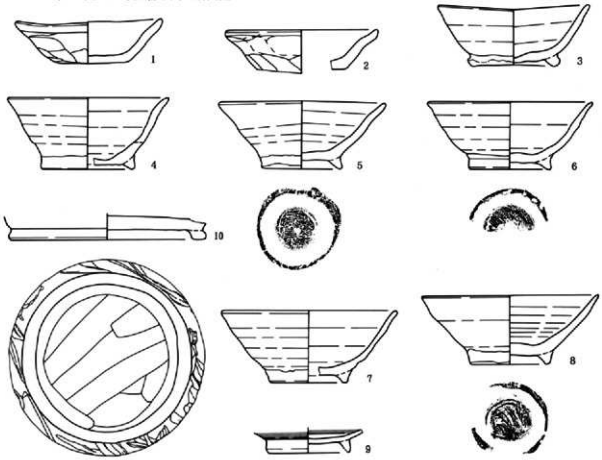
31号住居
1．灰黄褐色土　φ0.5～3.4mmの砂礫を多く含む。
2．暗褐色土　φ0.5～2.3mmの砂礫を若干含む。

第115図　31号住居平面・断面図

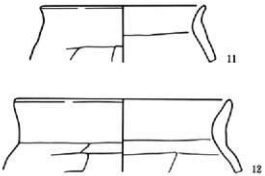


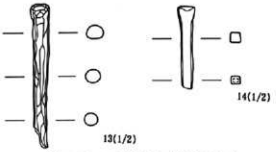
31号住居カマド
1．褐色土　φ0.3～0.5cmの橙色粒、炭化物粒を含む。白色粘土粒を少量含む。
2．暗褐色土　φ0.1～0.2cmの白色粘土粒、橙色粒を少量含む。

第116図　31号住居カマド図



第117図　31号住居出土遺物図(1)





第118図　31号住居出土遺物図（2）

32号住居

本住居は、調査区の東南部、85区T－5グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、13号土坑と重複する。新旧関係は、本住居のほうが後出である。

形態は、南辺と西辺が北辺、東辺に比べて10cmほど短いためやや歪んだ方形を呈す。残存状態は、確認面から床面まで残存高が約30cmと深く比較的良好な状態である。

規模は、長軸3.12m、短軸2.88m、北辺2.72m、東辺2.68m、南辺2.60m、西辺2.56mを測る。床面積は、6.8m²である。主軸方位は、N－76.5°－Wを指す。壁高は、北壁26.5～32.5cm、東壁23.5～36.5cm、南壁18.5～26.0cm、西壁28.5～32.5cm、平均28.0cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

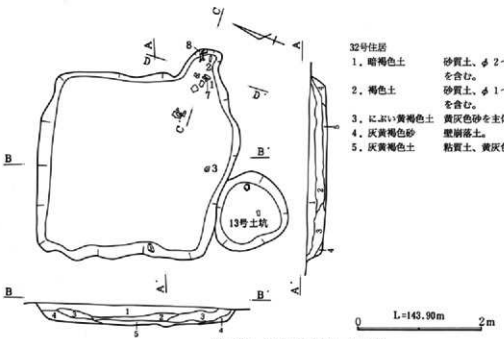
カマドは、東辺の南東角際に構築されている。残存状態は天井部が崩落し、袖は流出してしまっている。規模は、全長75.0cm、幅88.5cm、燃焼部から煙道にかけては壁外に57.0cm延びる。

掘り方は、確認できなかった。

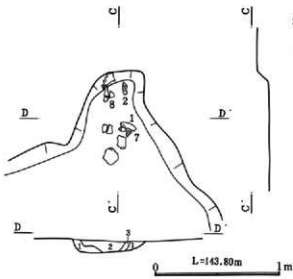
埋没状態は、レンズ状の堆積が観察できることから自然埋没であると考えられる。

遺物は、土師器、須恵器など115点が出土している。出土状態は、1、2、7、8の土師器杯・甕、須恵器杯蓋がカマドから出土している。

本住居の時期は、出土遺物より8世紀第4四半期に比定される。

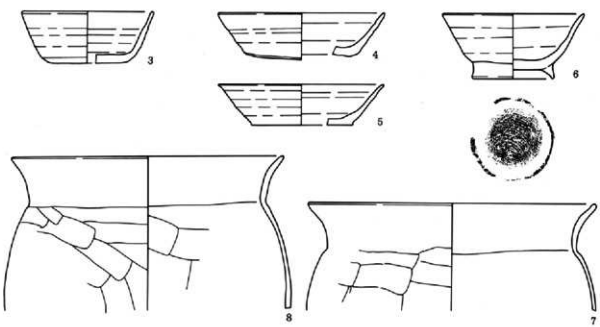


第119図　32号住居平面・断面図



32号住居カマド
1．暗褐色土　やや粘質土、FP粒を含む。
2．黒褐色土　1に類似、φ 1～2cmの褐色土ブロック、炭化物粒を少量含む。
3．黒褐色土　炭化物、白色粘土粒を少量含む。

第120図　32号住居カマド図



第121図　32号住居出土遺物図

33号住居

本住居は、調査区の中央部、86区E－9グリッドに位置する。他遺構との重複関係は34号住居と重複する。新旧関係は本住居のほうが後出である。

形態は、南辺が北辺に比べて僅かに短い長方形を呈する。残存状態は、確認面から床面まで残存高が低いが比較的良好な状態である。

規模は、長軸3.92m、短軸3.16m、北辺3.16m、東辺3.88m、南辺3.08m、西辺3.96mを測る。床面積は、10.51m²である。主軸方位は、N－101°－Eを指す。壁高は、北壁11.0～16.0cm、東壁15.0～19.5cm、南壁8.5～17.0cm、西壁10.0～23.5cm、平均15.1cmである。

内部施設は、貯蔵穴を検出したが柱穴、周溝は確認されなかった。貯蔵穴は、南東角に位置し、形態は楕円形を呈する。規模は、径84.0×64.0cm、深度30.0cmである。貯蔵穴内部からは土器、礫などが多く出土している。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

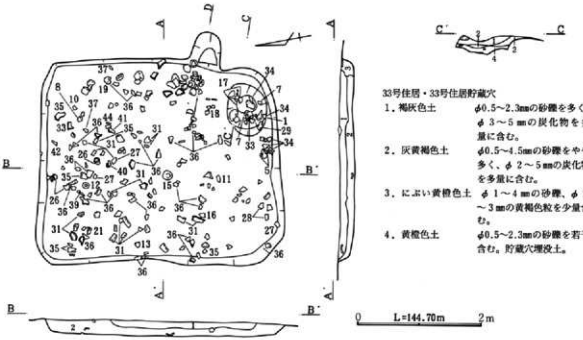
カマドは、東辺の東南角よりに構築されている。残存状態は、天井部・袖とも崩落、流出して壁外に位置する煙道が確認できる程度で住居内の残存状態は極めて悪い。規模は、全長61.5cm、幅57.0cm、煙道は壁外に46.5cm延びる。カマド掘り方は、袖の補強に使用した礫を設置したと考えられる径10～30cmの小孔が５カ所見られた。

住居全体の掘り方は、確認できなかった。

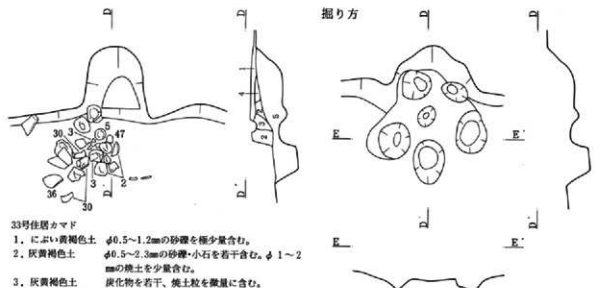
埋没状態は、一応レンズ状の堆積が観察できることから自然埋没であると考えられる。

遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器、石製品、鉄器・鉄製品など978点が出土している。出土状態は、住居全域から出土しているが、カマド及びカマド周囲、貯蔵穴に集中が見られる。

本住居の時期は、出土遺物より10世紀第１～２四半期に比定される。



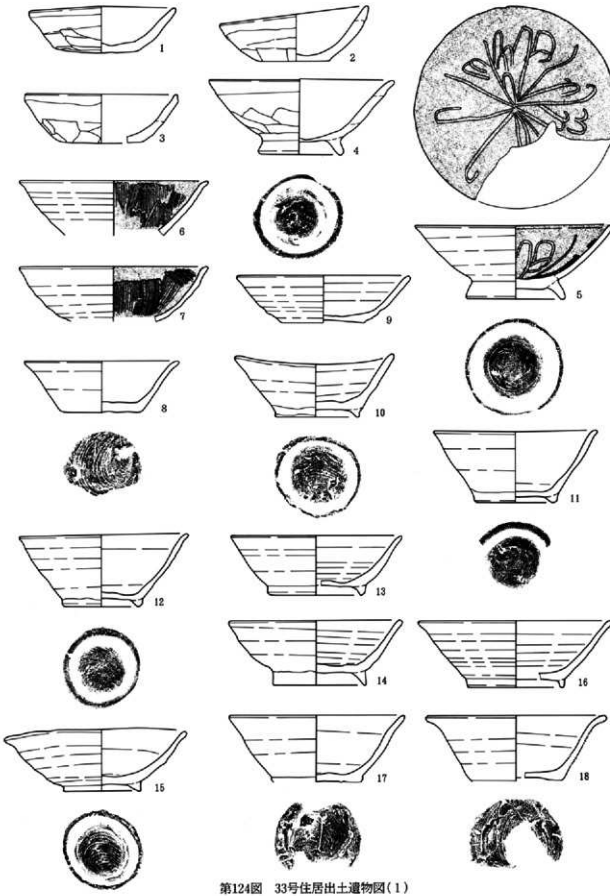
第122図　33号住居平面・断面図



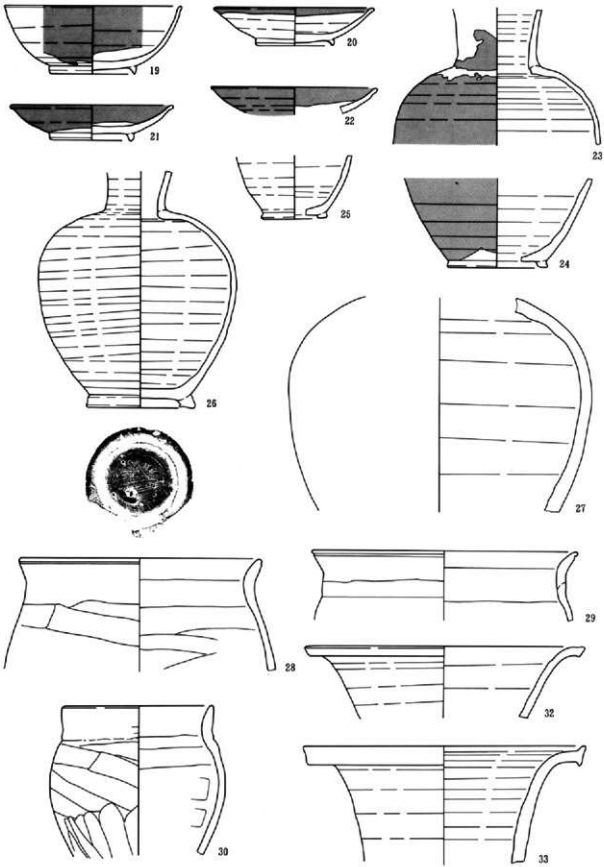
33号住居カマド

1．にぶい黄褐色土　φ0.5～1.2mmの砂礫を極少量含む。
2．灰黄褐色土　φ0.5～2.3mmの砂礫・小石を若干含む。φ１～２mmの焼土を少量含む。
3．灰黄褐色土　炭化物を若干、焼土粒を微量に含む。
4．にぶい黄褐色土　φ0.5～1.2mmの砂礫を極少量含む。
5．灰黄褐色土　φ0.5～1.2mmの砂礫・小石、φ0.5～2.3mmの焼土を若干含む。φ１～２mmの炭化物を少量含む。

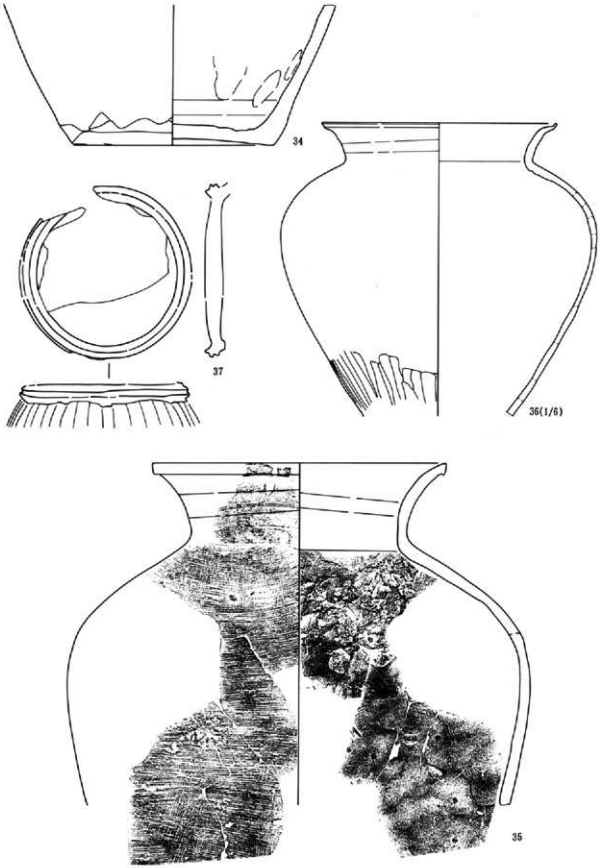
第123図　33号住居カマド図



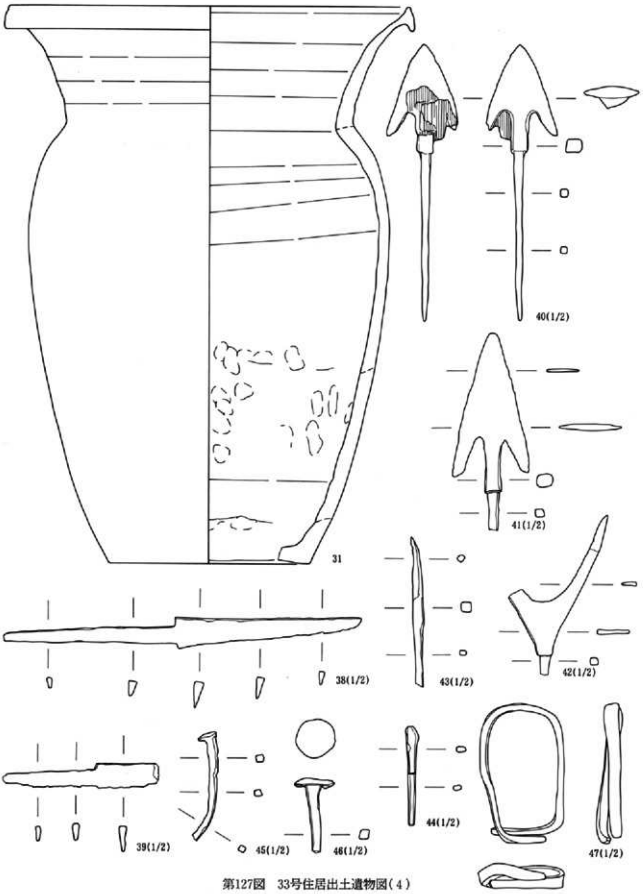
第124図　33号住居出土遺物図(1)



第125図　33号住居出土遺物図(2)



第126図　33号住居出土遺物図(3)



第127図　33号住居出土遺物図(4)

34号住居

本住居は、調査区の中央部、86区E－10グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、33号住居と重複する。新旧関係は、本住居のほうが前出である。

形態は、東辺が他の辺より0.6mほど長くやや弧を描いているがほぼ方形を呈する。残存状態は、東南角部分を重複する33号住居によって欠くが、他は比較的良好な状態である。

規模は、長軸4.16m、短軸3.90m、北辺3.54m、東辺4.20m、南辺3.60m、西辺3.64mを測る。床面積は、推定で13.89m²である。主軸方位は、N－94°－Eを指す。壁高は、北壁19.5～22.0cm、東壁16.0～18.5cm、南壁8.0～19.0cm、西壁18.0～21.0cm、平均17.8cmである。

内部施設は、貯蔵穴を検出したが柱穴、周溝は確認されなかった。貯蔵穴は、東南角に位置し、形態は楕円形を呈する。規模は径94.0×76.0cm、深度15.0cmである。貯蔵穴内部からは多少の土器、礫が出土している。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

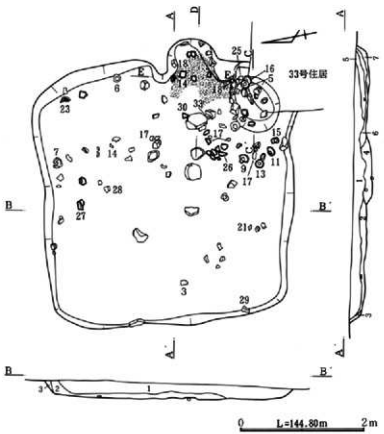
カマドは、東辺の中央よりやや南に構築されている。残存状態は、天井部が崩落し、袖は左側が残存しているが右側は流出している。規模は、全長70.5cm、幅78.0cm、焚口幅63.0cm、左袖31.5cm、燃焼部から煙道にかけては壁外に30.0cm延びる。燃焼部には灰の堆積がみられた。

掘り方は、確認できなかった。

埋没状態は、北・東から土砂が流れ込んだ堆積が観察されることから自然埋没であると考えられる。

遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器、鉄器など936点が出土している。出土状態は、カマド、カマド周囲、貯蔵穴に集中が見られ、住居東半分からの出土が多く見られる。

本住居の時期は、出土遺物より10世紀第1～2四半期に比定される。



34号住居

1．褐灰色土　φ0.5～2.3mmの砂礫、φ1～2mmの黄褐色粒を少量含む。

2．黒褐色土　φ1mm以下の砂礫を若干とφ1～5mmの黄褐色粒を極少量含む。

3．黄褐色土　φ0.5～2.3mmの砂礫、赤褐色粒を少量含む。

4．にぶい黄褐色土　φ1～5mmの砂礫をやや多くと泥流層の黄褐色粒を多量に含む。

5．灰黄褐色土　φ1～4mmの砂礫を若干とφ0.5～2.3mmの焼土、炭化物を極少量含む。

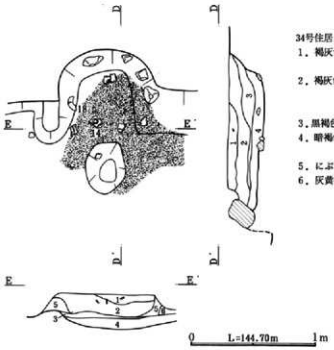
6．にぶい黄褐色土　泥流層の黄褐色粒をやや多く含む。

7．褐灰色土　φ0.5～2.3mmの砂礫、φ1mm以下の焼土、炭化物粒を若干含む。（カマド堆積土）

34号住居貯蔵穴

8．にぶい黄褐色土　φ1mm以下の微細な砂粒、小礫を若干とφ0.5～2.3mmの炭化物、焼土粒を少量含む。

第128図　34号住居平面・断面図



34号住居カマド

1．褐灰色土　φ0.5～3.4mmの砂礫・小石、φ1～2mmの黄褐色粒子、φ0.5～2.3mmの炭化物を少量含む。

2．褐灰色土　φ0.5～2.3mmの砂礫・小石をやや多く、φ0.5～3.4mmの黄褐色・赤褐色粒子を多く、φ1～4mmの炭化物ブロックを若干含む。

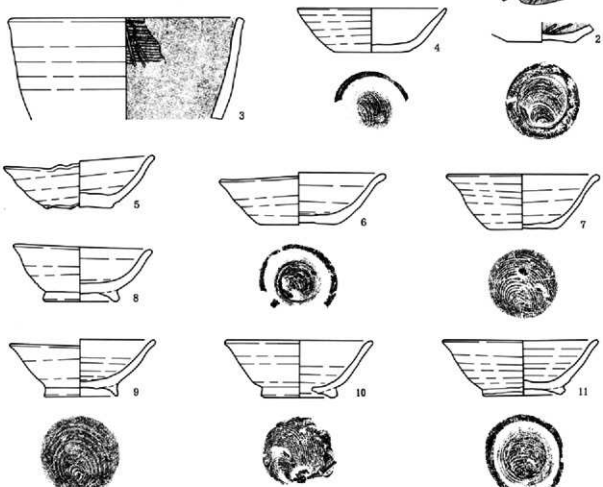
3．黒褐色土　炭化物を多量に、φ0.5～1.2mmの砂礫・小石を若干含む。

4．暗褐色土　φ0.5～2cmの黄褐色土ブロックを若干、φ0.5～2.3mmの砂粒・暗橙色焼土粒子・炭化物を若干含む。

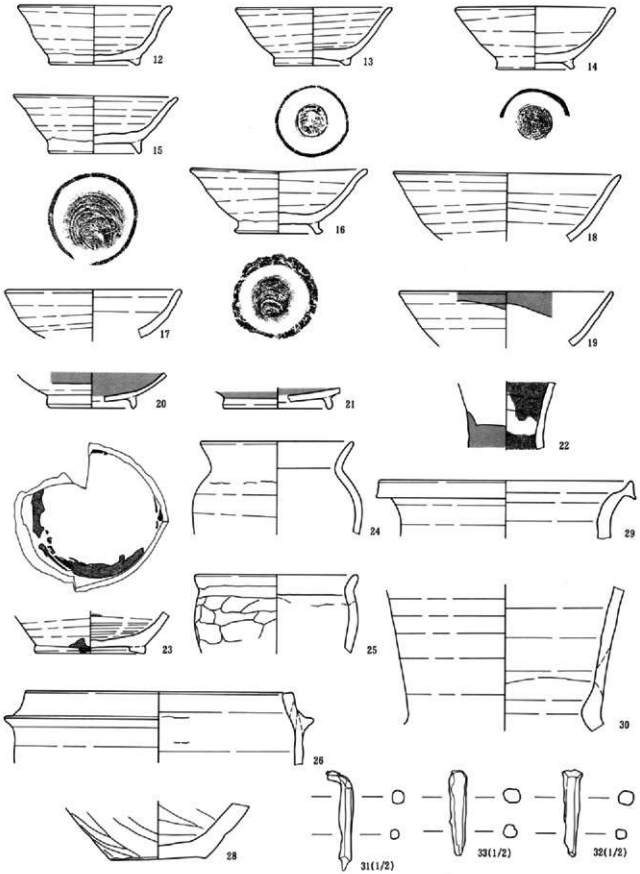
5．にぶい黄褐色土　φ1～3mmの砂礫・小石を少量含む。

6．灰黄褐色土　炭化物、焼土を若干含む。

第129図　34号住居カマド図



第130図　34号住居出土遺物図(1)



第131図　34号住居出土遺物図(2)

第132図　34号住居出土遺物図（3）

35号住居

本住居は、調査区の中央部、86区G－12グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、142号住居と重複する。新旧関係は、本住居のほうが後出である。

形態は、南辺が30cmほど短いがほぼ長方形を呈する。残存状態は、確認面から床面まで残存高が低いが比較的良好である。

規模は、長軸3.52m、短軸2.64m、北辺3.20m、東辺2.44m、南辺2.96m、西辺2.64mを測る。床面積は、7.18m²である。主軸方位は、N－90°－Eを指す。壁高は、北壁20.5～27.7cm、東壁8.3～24.5cm、南壁10.4～22.5cm、西壁8.8～33.3cm、平均19.5cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

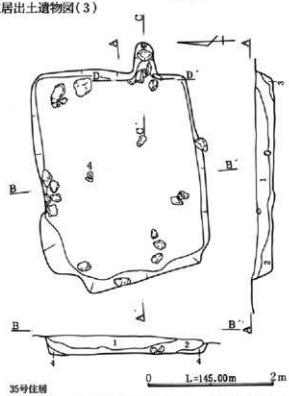
カマドは、東辺の南よりに構築されている。残存状態は、天井部が崩落しているが、袖は補強に使用された礫がそのまま残存しており比較的良好な状態であった。規模は、全長63.0cm、幅42.0cm、燃焼部から煙道にかけては壁外に46.5cm延びる。

掘り方は、確認できなかった。

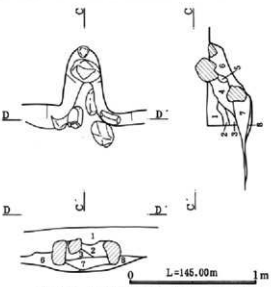
埋没状態は、レンズ状の堆積が観察できることから自然埋没であると考えられる。

遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器など97点が出土している。出土状態は、5の須恵器椀がカマドからの他は床面よりやや上位からの出土である。

本住居の時期は、出土遺物より10世紀第3四半期に比定される。

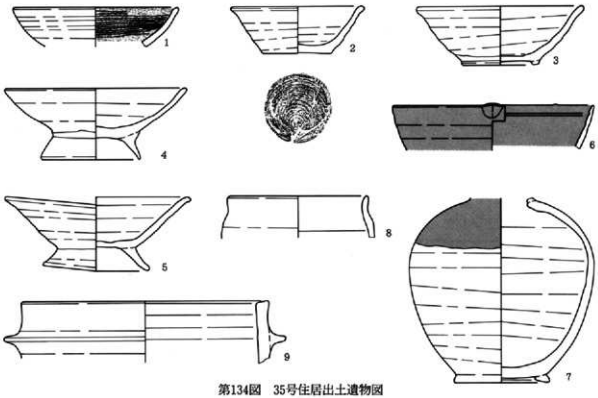


35号住居
1．褐色土　φ0.5～4mmの砂粒を多量に、φ0.5cmの橙色粒を含む。
2．暗褐色土　φ 1～2mmの砂粒を含む。橙色土細粒を少量含む。
（部分的にφ10cmの礫を含む。）
3．黒褐色土　φ0.5cm程の橙色粒を含む。
4．暗褐色土　砂質土、橙色粒、黄灰色砂を多く含む。



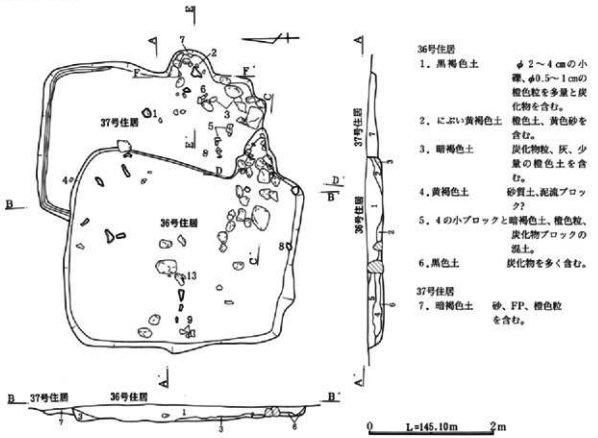
35号住居カマド
1．褐色土　φ0.3～1cmの砂利、φ0.5～2cmの黄色土粒を多く含む。
2．暗褐色土　φ0.6～1cmの砂利、少量のφ0.5cmの橙色土粒を含む。
3．暗褐色土　極少量の焼土粒、炭化物を含む。
4．暗褐色土　φ 1～2cmの橙色ブロックを多く含む。
5．褐色土　焼土ブロックを多く含む。
6．暗褐色土　焼土粒、炭化物を少量含む。
7．黒褐色土　焼土粒を少量含む。
8．黒褐色土　焼土、褐色土粒を少量含む。

第133図　35号住居平面・断面・カマド図



第134図　35号住居出土遺物図

36・37号住居



第135図　36・37号住居平面・断面図

36号住居

本住居は、調査区の中央部、86区H－12グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、37号住居と重複する。新旧関係は、本住居のほうが後出である。

形態は、南辺が50cmほど短いがほぼ長方形を呈する。残存状態は、確認面から床面まで残存高が30cmほどあるため比較的良好な状態である。

規模は、長軸3.68m、短軸3.12m、北辺3.08m、東辺3.60m、南辺2.52m、西辺3.40mを測る。床面積は、9.02m²である。主軸方位は、N－90°－Eを指す。壁高は、北壁3.2～30.5cm、東壁6.1cm、南壁13.8～20.5cm、西壁14.3～21.1cm、平均28.2cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

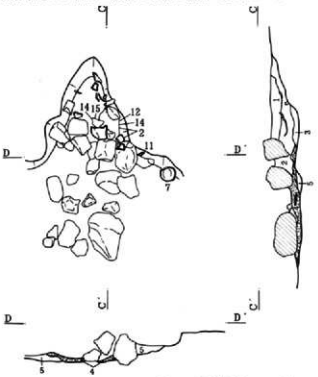
カマドは、東辺の東南角よりに構築されている。残存状態は天井部が崩落し、袖も補強に使用された礫が残存する程度でほとんど流出している。規模は、全長85.5cm、幅78.0cm、燃焼部から煙道にかけて壁外に79.5cm延びる。燃焼部からは φ20～40cmの円礫が出土しているが右袖に補強で使用された以外は左袖か天井部の補強に使用されたか不明である。

掘り方は、確認できなかった。

埋没状態は、レンズ状の堆積が観察できることから自然埋没であると考えられる。

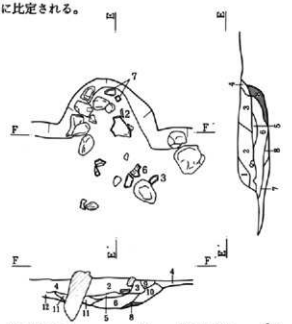
遺物は、住居内から土師器、須恵器、灰釉陶器など246点と36・37号住居遺構確認時の243点が出土している。出土状態は、2、7、11、12、14、15の土師器杯・甕、灰釉陶器皿、須恵器羽釜がカマドから出土している。

本住居の時期は、出土遺物より10世紀第３四半期に比定される。



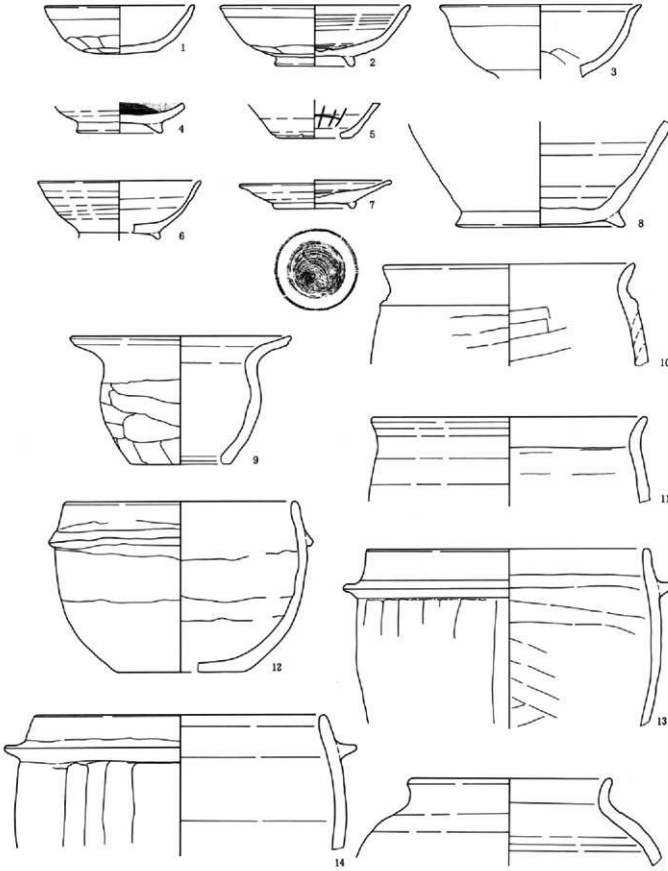
36号住居カマド
1．暗褐色土　φ0.3～１cmの砂利、φ0.1～0.3cmの橙色土粒を含む。
2．暗褐色土　φ0.3～0.5cmの焼土粒と、φ0.8～１cmの炭化物粒子を含む。
3．黒褐色土　φ0.2～0.5cmの砂粒を少量含む。
4．灰層
5．黒褐色土　φ0.2cm程の焼土粒と炭化物粒を少量含む。

第136図　36号住居カマド図

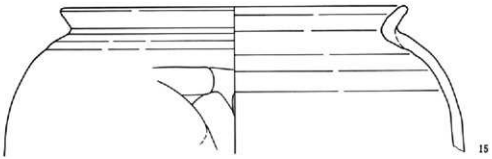


37号住居カマド
1．灰黄褐色土　焼土粒を含む。
2．黒褐色土　φ0.5～１cmのFP、炭化物粒を少量と焼土粒を多量に含む。
3．灰黄褐色土　やや粘質土、焼土粒、炭化物粒を含む。
4．暗褐色土　やや粘質土、焼土細粒、白色粘土粒を含む。
5．黒褐色土　炭化物粒、焼土粒を多く含む。
6．暗褐色土　炭化物粒、焼土粒を含む。
7．褐色土　砂質土、焼土粒を少し含む。
8．暗褐色土　やや粘質土、焼土粒を多く含む。
9．にぶい黄橙色の泥流ブロック。
10．褐色土　やや粘質土、焼土粒を少し含む。
11．褐色土　焼土粒、炭化物を少し含む。
12．褐色土　地山泥流層ブロック。

第137図　37号住居カマド図



第138図　36号住居出土遺物図（1）



第139図　36号住居出土遺物図（2）

37号住居

本住居は、調査区の中央部、86区H－12グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、36号住居と重複する。新旧関係は、本住居のほうが前出である。

形態は、重複する36号住居によって西側3分の1ほどを欠くため不明確であるがほぼ長方形を呈すると想定される。

規模は、長軸3.48m、短軸2.48m、北辺2.16m、東辺3.20m、南辺は推定で2.36m、西辺は推定で3.20mを測る。床面積は、推定7.47m²である。主軸方位は、N－91°－Eを指す。壁高は、北壁3.4～4.7cm、東壁3.5～10.5cm、西壁2.6～7.5cm、平均5.4cmである。

内部施設は、周溝を検出したが柱穴、貯蔵穴は確認されなかった。周溝は、東辺の北よりから北辺、西辺の36号住居とも重複部分までの壁下を巡る。規模は幅8.0cm、深度0.4～1.2cmである。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

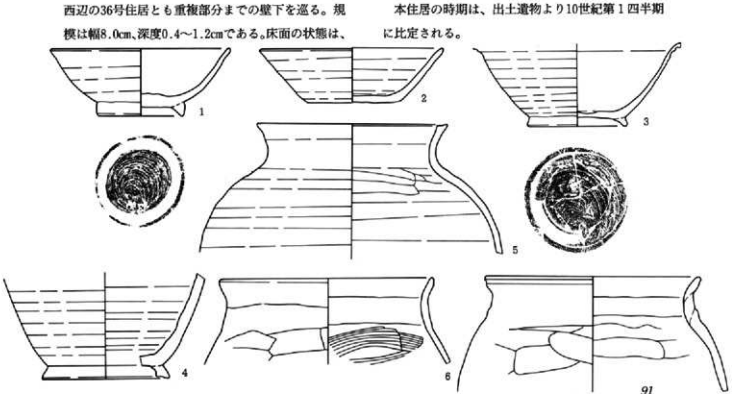
カマドは、東辺の南よりに構築されている。残存状態は天井部が崩落し、袖も補強に使用された礫が転倒・流出した状態である。規模は、全長51.0cm、幅78.0cm、燃焼部から沿道部にかけて壁外に36.0cm延びる。燃焼部の火床面は厚く焼土化している。

掘り方は、確認できなかった。

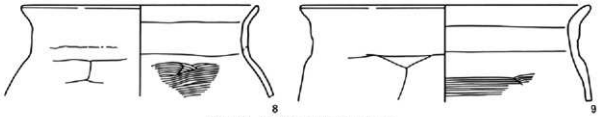
埋没状態は、レンズ状の堆積が観察できることから自然埋没であると考えられる。

遺物は、土師器、須恵器など163点が出土している。出土状態は、2、3、6、7の須恵器椀、土師器甕がカマド、1、3、5の須恵器椀・壺が床面から出土している。

本住居の時期は、出土遺物より10世紀第1四半期に比定される。



第140図　37号住居出土遺物図（1）



第141図　37号住居出土遺物図(2)

38号住居

本住居は、調査区の東より、86区A－9グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、確認されず単独で占地する。

形態は、北辺が南辺に比べ15cmほど短いがほぼ方形を呈する。残存状態は、確認面から床面まで残存高が低いためあまり良好な状態ではない。

規模は、長軸3.56m、短軸3.36m、北辺3.40m、東辺3.68m、南辺3.56m、西辺3.56mを測る。床面積は、11.04m²である。主軸方位は、N－106°－Eを指す。壁高は、北壁5.5～19.5cm、東壁5.0～14.0cm、南壁3.5～17.0cm、西壁2.0～20.0cm、平均10.8cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

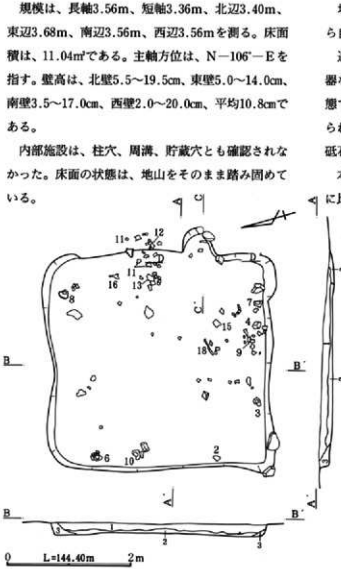
カマドは、東辺の南よりに構築されている。残存状態は、確認面から床面まで残存高が低いため上半が削平された状態である。規模は、全長49.5cm、幅55.5cm、燃焼部から煙道にかけて壁外に37.5cm延びる。

掘り方は、確認できなかった。

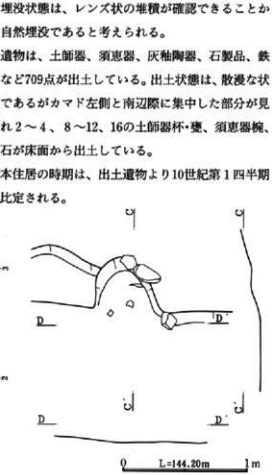
埋没状態は、レンズ状の堆積が確認できることから自然埋没であると考えられる。

遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器、石製品、鉄器など709点が出土している。出土状態は、散漫な状態であるがカマド左側と南辺際に集中した部分が見られ2～4、8～12、16の土師器杯・甕、須恵器椀、砥石が床面から出土している。

本住居の時期は、出土遺物より10世紀第1四半期に比定される。

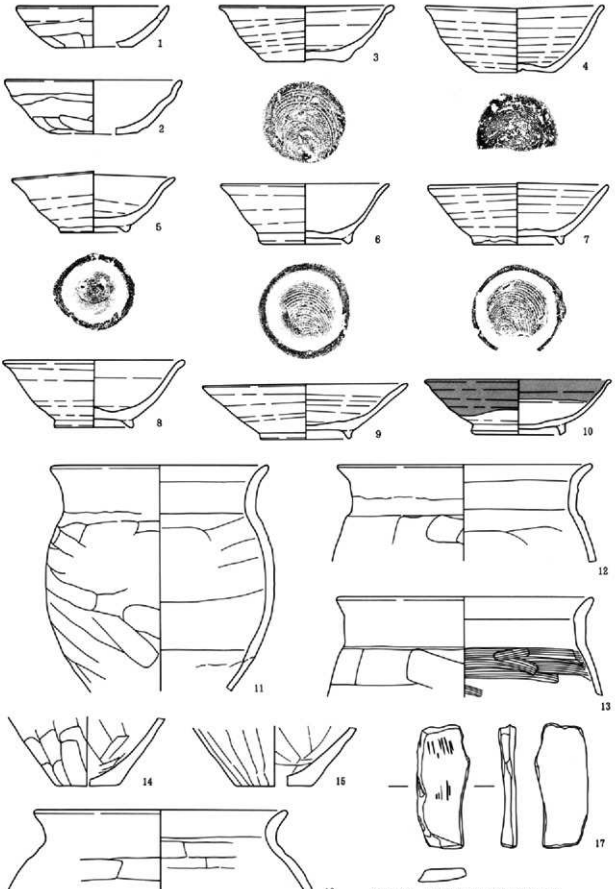


第142図　38号住居平面・断面図

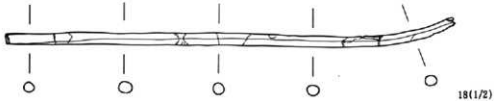


38号住居
1．暗褐色土　φ0.5～1cmのFPを多量に含む。
2．暗褐色土　φ0.5～1cmのFPを少量含む。
3．暗褐色土　φ5cmのブロックを少量含む。

第143図　38号住居カマド図



第144図　38号住居出土遺物図（1）



第145図　38号住居出土遺物図(2)

39号住居

本住居は、調査区の東より、85区T－12グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、10号溝と重複する。新旧関係は、10号溝より前出である。

形態は、北東部分が重複する10号溝によって欠くがほぼ方形を呈する。

規模は、長軸3.16m、短軸3.10m、北辺残存するところでは1.64m、東辺残存するところでは1.60m、南辺3.12m、西辺2.88mを測る。床面積は、7.97㎡である。主軸方位は、N－88.7°－Eを指す。壁高は、北壁20.0～28.0cm、東壁5.0～7.0cm、南壁15.5～19.0cm、西壁18.0～30.0cm、平均17.8cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

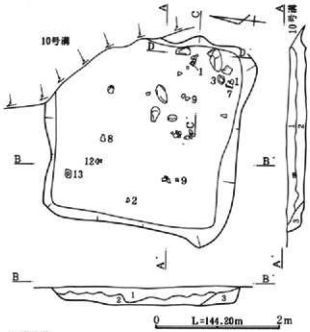
カマドは、東辺の南よりに構築されている。残存状態は焼土粒や補強に使用された礫が僅かに残存する程度である。規模は、全長21.0cm、幅66.0cm、壁外に10.5cm延びる。

掘り方は、確認できなかった。

埋没状態は、レンズ状の堆積が確認できることから自然埋没であると考えられる。

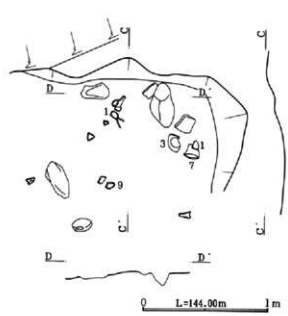
遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器、石製品など198点が出土している。出土状態は、住居全域から散漫な状態であるが、1の土師器杯がカマド、2、7の須恵器杯と土師器甕が床面から出土している。

本住居の時期は、出土遺物より9世紀第1四半期に比定される。

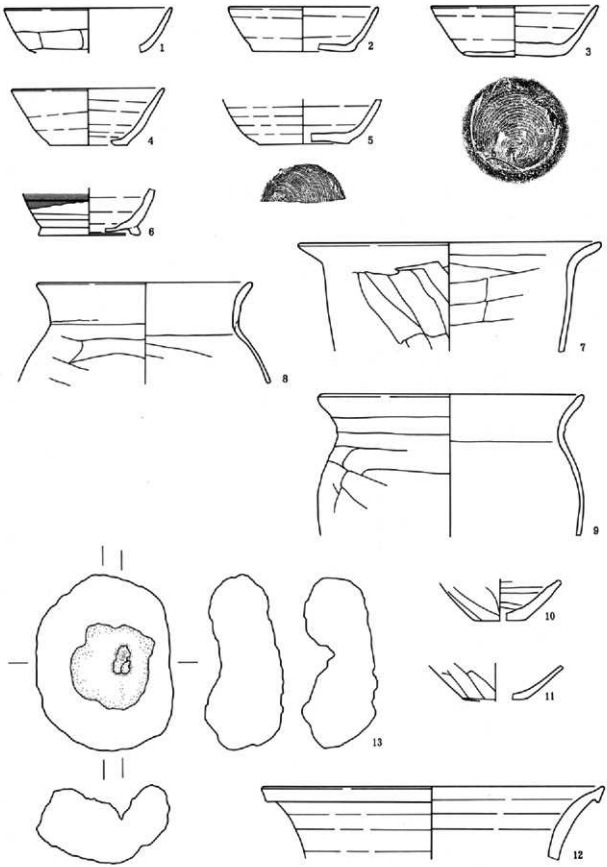


39号住居
1．暗褐色土　φ0.5～1cmのFPを少量含む。
2．暗褐色土　φ0.5～1cmのFP、小礫、炭化物を少量含む。
3．暗褐色土　φ0.5～1cmのFP、φ1～3cmの小礫を多量に含む。

第146図　39号住居平面・断面図



第147図　39号住居カマド図



第148図　39号住居出土遺物図

40号住居

本住居は、調査区の東より、86区A－12グリッドに位置する。他遺構との重複は、確認されず単独で占地する。

形態は、西辺が東辺に比べて40cmほど短いがほぼ長方形を呈する。残存状態は、確認面から床面まで残存高が30cmほどの深さがあるため比較的良好な状態である。

規模は、長軸4.48m、短軸3.88m、北辺3.72m、東辺4.36m、南辺3.52m、西辺3.92mを測る。床面積は、11.44m²である。主軸方位は、N－88.5°－Eを指す。壁高は、北壁32.5～34.5cm、東壁30.5～37.5cm、南壁37.0～44.0cm、西壁33.0～43.0cm、平均36.5cmである。西壁は、中位に幅20～30cmの平坦面を持つ。

内部施設は、貯蔵穴と柱穴を検出したが周溝は確認されなかった。貯蔵穴は、東南角に位置し、形態は楕円形を呈す。規模は径56.0×44.0cm、深度22.0cmである。貯蔵穴の上には長さ40cm、径20cmの礫が横たわるように出土している。柱穴は、貯蔵穴の西際に位置し、形態は楕円形を呈す。規模は径44.0×40.0cm、深度12.0cmである。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

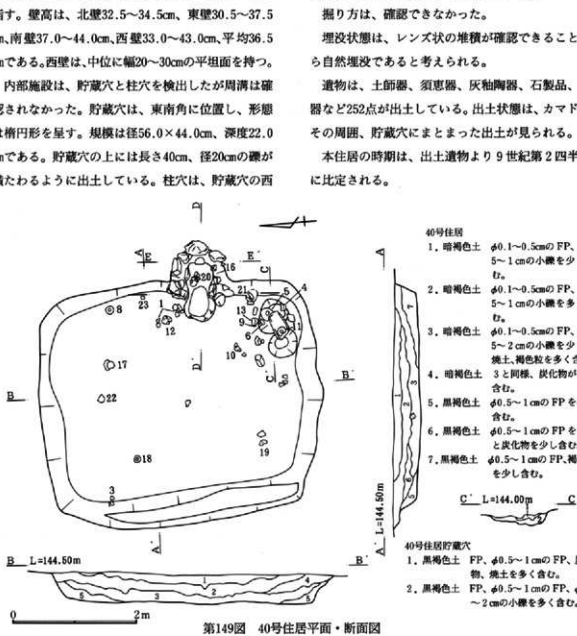
カマドは、東辺の中央よりやや南に構築されている。残存状態は、天井部が崩落し袖の大部分は流出しているが、壁外に掘り込んだ袖や煙道の補強用の礫は設置した状態で残存している。規模は、全長106.5cm、幅105.0cm、燃焼部から煙道にかけては壁外に45.0cm延びる。燃焼部には径60×50cm、深さ10cmの落ち込みが見られ灰が厚く堆積している。

掘り方は、確認できなかった。

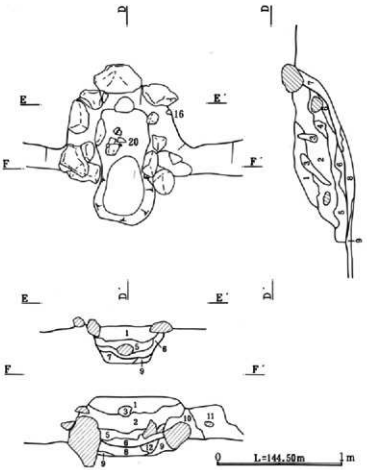
埋没状態は、レンズ状の堆積が確認できることから自然埋没であると考えられる。

遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器、石製品、鉄器など252点が出土している。出土状態は、カマドとその周囲、貯蔵穴にまとまった出土が見られる。

本住居の時期は、出土遺物より9世紀第2四半期に比定される。



第149図　40号住居平面・断面図



40号住居カマド

1．暗褐色土　炭化物粒、焼土粒、φ0.1～0.5cmの小礫を多く含む。φ0.5～1.5cmのFPを少し含む。

2．暗褐色土　φ0.5～1cmのFPを少し含む。褐色土粒を多く含む。

3．暗褐色土　φ0.1～0.5cmのFPを少し含む。

4．暗褐色土　φ0.1～0.5cmのFPを少し含む。焼土粒を少し含む。

5．黒褐色土　炭化物粒、焼土を少し含む。φ0.1～0.5cmのFPを少し含む。

6．黒褐色土　炭化物粒多く、焼土を少し含む。φ0.1～0.5cmのFPを少し含む。

7．褐色土　炭化物を多く、焼土を含む。

8．黒褐色土　炭化物を多く、焼土を少し含む。堆積はもろい。

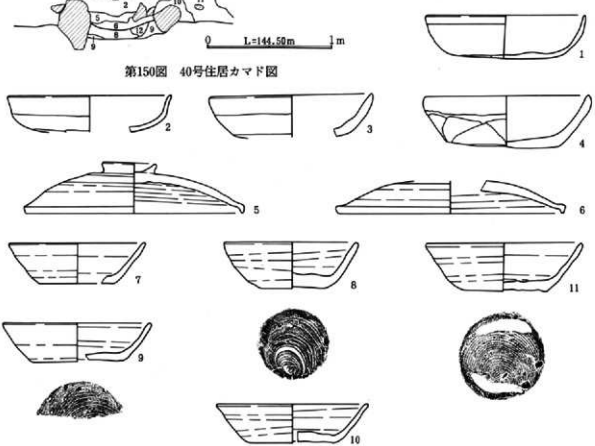
9．黒褐色土　炭化物を多く、褐色土を少し含む。堆積はもろい。

10．褐色土　粘性の強い土、φ0.1～0.5cmのFPを極少し含む。

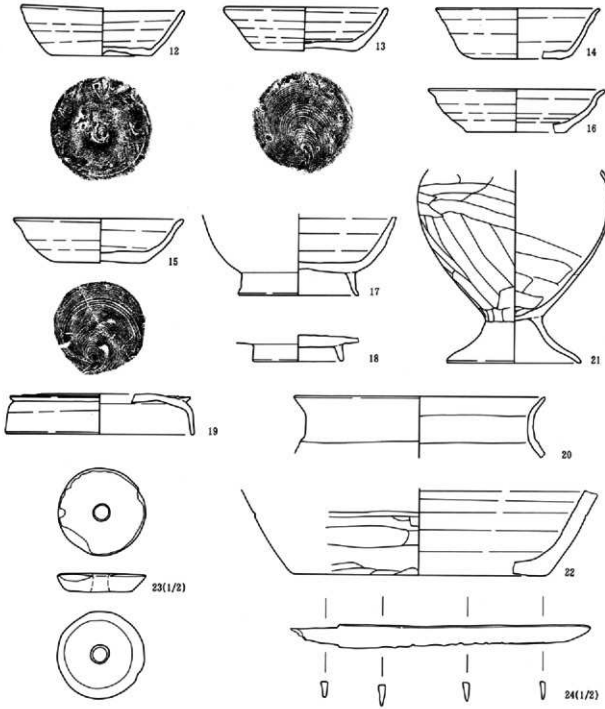
11．暗褐色土　焼土、φ0.1～0.5cmのFPを多く含む。

12．褐色土　粘性の強い土、炭化物、焼土を少し含む。

第150図　40号住居カマド図



第151図　40号住居出土遺物図(1)



第152図　40号住居出土遺物図(2)

41号住居

本住居は、調査区の中央部、86区D－13グリッドに位置する。他遺構との重複はみられない。

形態は、各角が丸みを持つ隅丸長方形を呈する。残存状態は、確認面から床面まで残存高が30cm近い深さがあるため比較的良好な状態である。

規模は、長軸3.64m、短軸3.02m、北辺2.56m、東辺3.04m、南辺2.50m、西辺3.46mを測る。床面積は、7.15m²である。主軸方位は、N－90°－Eを指す。壁高は、北壁21.0～24.0cm、東壁19.0～30.0cm、南壁30.5～33.0cm、西壁24.0～40.0cm、平均27.7cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかったが、東辺のカマド右側に床面より10cmほど高

い部分を壁外に掘り込み棚状の平坦面を設けている。この平坦面は台形状を呈し、規模は60×50cmで9の須恵器羽釜が出土している。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

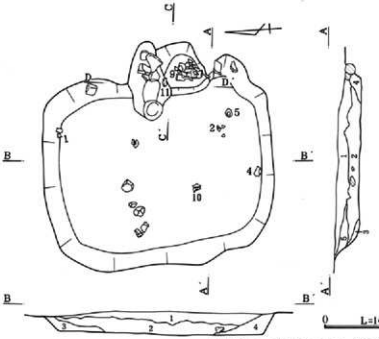
カマドは、東辺の中ほどに構築されている。残存状態は、天井部は崩落し袖は流出しており良好ではない。規模は、全長75.0cm、幅121.5cm、燃焼部の一部と煙道は壁外に48.0cm延びる。燃焼部には径30cm、深さ10cmの円形の掘り込みが見られる。

掘り方は、確認できなかった。

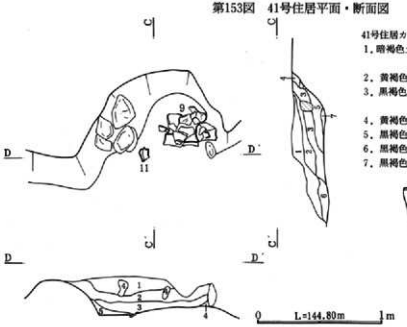
埋没状態は、レンズ状の堆積が観察できることから自然埋没であると考えられる。

遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器など185点が出土している。出土状態は、10の須恵器羽釜がカマド、5の須恵器椀が床面、9の須恵器羽釜が棚から出土している他は床面より10cm以上上位から出土している。

本住居の時期は、出土遺物より10世紀第3四半期に比定される。

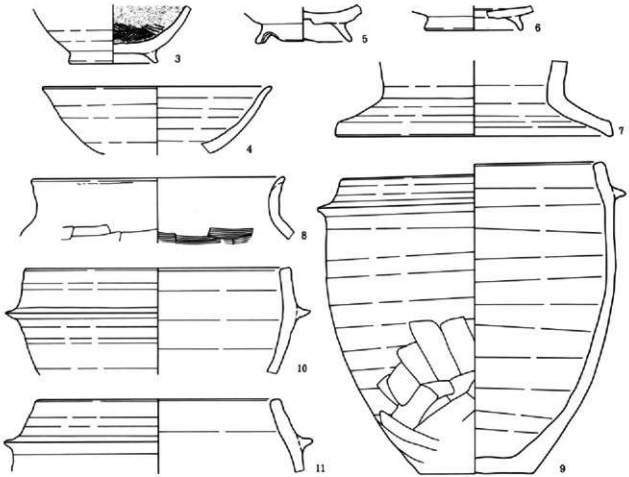


第153図　41号住居平面・断面図



第154図　41号住居カマド図

第155図　41号住居出土遺物図(1)



第156図　41号住居出土遺物図（2）

42号住居

本住居は、調査区の東より、86区A－10・11グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、46号住居・101号住居、26号土坑と重複する。新旧関係は、本住居のほうが後出である。

形態は、北辺が南辺に比べて30cmほど短いがほぼ方形を呈している。残存状態は、確認面から床面まで残存高が低いためあまり良好な状態ではない。

規模は、長軸2.50m、短軸2.48m、北辺2.30m、東辺2.50m、南辺2.60m、西辺2.46mを測る。床面積は、5.41m²である。主軸方位は、N－97°－Eを指す。壁高は、北壁1.0～4.0cm、東壁0～3.0cm、南壁10.0～13.0cm、西壁1.0～8.0cm、平均5.0cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

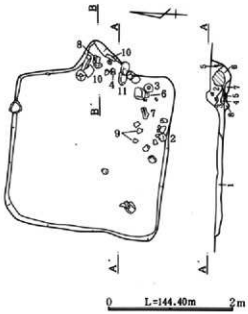
カマドは、東辺の中ほどに構築されている。残存状態は天井部が崩落し、補強に使用されていた瓦が燃焼部火床面より出土している。袖も流出し補強に使用されていた礫が転倒している。規模は、全長49.5cm、幅102.0cm、燃焼部の一部から煙道にかけては壁外に46.5cm延びる。

掘り方は、確認できなかった。

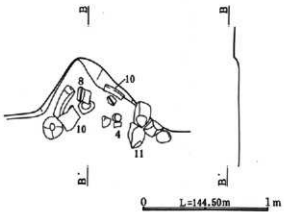
埋没状態は、確認面から床面まで残存高が低いため明確ではないが一部レンズ状に近い堆積が確認できることから自然埋没と考えられる。

遺物は、土師器、須恵器、石製品など33点が出土している。出土状態は、出土量自体が他の住居に比べて少ないが9、11の瓦、石製品がカマド、5の須恵器椀が床面から出土している。

本住居の時期は、出土遺物より10世紀第2四半期に比定される。



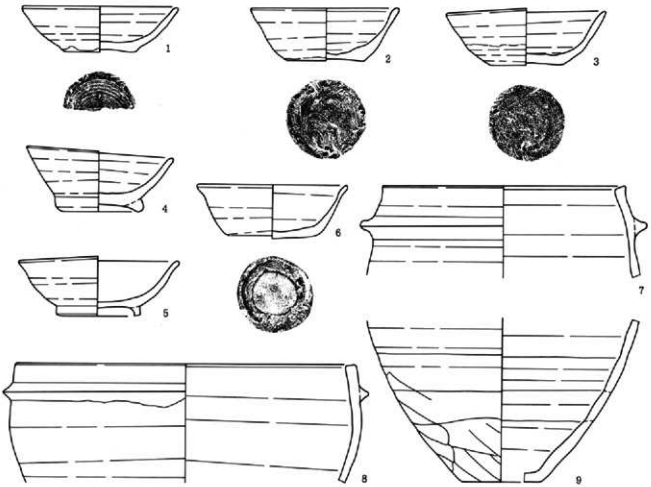
第157図　42号住居平面・断面図



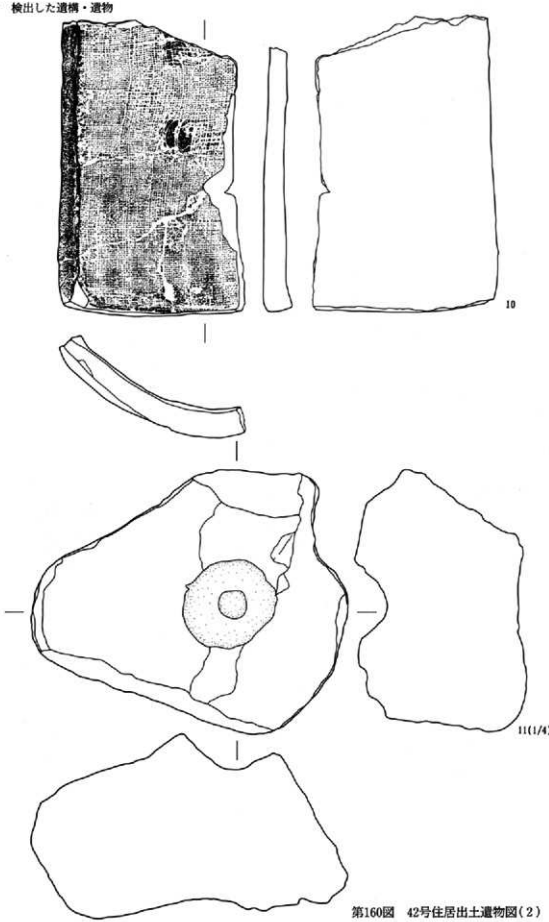
42号住居

1．黒褐色土　φ 1～2cmの小礫を少量と φ0.3～0.8cmの橙色粒を多量に含む。
2．暗褐色土　φ0.5～1cmの小礫、φ 3～5cmの FP を少量、長さ 1cmの炭化物片、φ0.5～1cmの橙色粒を多量に含む。
3．暗褐色土　φ9.3cmの橙色粒を極僅かと長さ 1～2cmの炭化物片を多く含む。
4．黒色土　灰。
5．明黄褐色粘質土ブロック
6．黒褐色土　φ0.1cm程の焼土粒、炭化物粒を含む。
7．にぶい黄褐色土　φ0.5～0.8cmの砂礫を含む。
8．暗褐色土　φ0.1～0.2cmの砂粒を含む。

第158図　42号住居カマド図



第159図　42号住居出土遺物図(1)



第160図　42号住居出土遺物図（２）

43号住居

本住居は、調査区の東より、86区C・D—11・12グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、64号住居、139号住居と重複する。新旧関係は、64号住居より後出で139号住居より前出である。

形態は、長方形を呈する。残存状態は、南辺より部分の上半を重複する139号住居によって欠くが確認面から床面まで残存高が30cmほどの深さがあるため比較的良好な状態である。

規模は、長軸4.82m、短軸3.81m、北辺3.40m、東辺4.88m、南辺3.42m、西辺4.78mを測る。床面積は、13.86m²である。主軸方位は、N—92°—Eを指す。壁高は、北壁23.0～29.0cm、東壁8.0～13.0cm、南壁33.0～37.0cm、西壁35.0～40.0cm、平均27.3cmである。

内部施設は、周溝と貯蔵穴が検出されたが柱穴は確認されなかった。周溝は、東辺の北半分の壁下と西辺から南辺の一部にかけての壁下を巡る。規模は14.0～16.0cm、深度3.0～5.0cmである。貯蔵穴は、東南角に位置し、形態はほぼ円形を呈す。規模は径73.0×71.0cm、深度26.0cmで南側から φ15cm、長さ50cmの細長い円礫が出土している。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

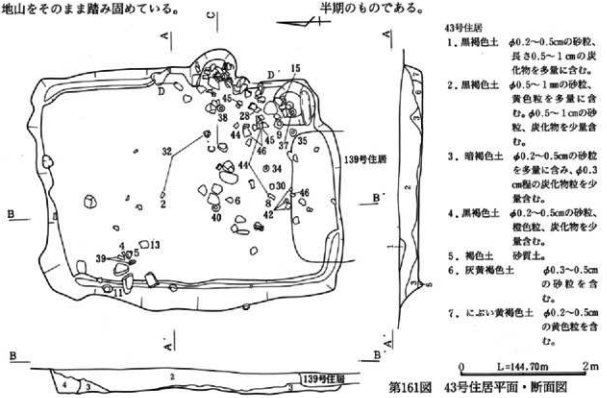
カマドは、東辺の中央よりやや南よりに構築されている。残存状態は、天井部は崩落し、住居内に造られた袖は流出している。袖の補強に使用された礫は一部転倒しているが、壁際のものは原一を保っている。規模は、全長64.5cm、幅72.0cm、燃焼部幅37.5cm、燃焼部の一部から煙道にかけては壁外に39.0cm延びる。燃焼部火床面には炭化物を含む灰が堆積している。

掘り方は、確認できなかった。

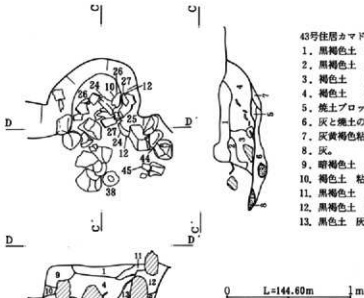
埋没状態は、壁よりで三角堆積が観察できることから自然埋没であると考えられる。

遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器、鉄器など927点が出土している。出土状態は、カマドとカマド右側、貯蔵穴の周囲にまとまった出土がみられる。住居内から出土した遺物の多くは床面より10～30cmとやや上位からの出土である。

本住居の時期は、カマド、貯蔵穴、床面など本住居に伴う出土遺物より9世紀第3四半期に比定される。遺物NO.31からの本住居とは供伴しないと考えられる埋没土中の遺物などは、おもに10世紀第3四半期のものである。



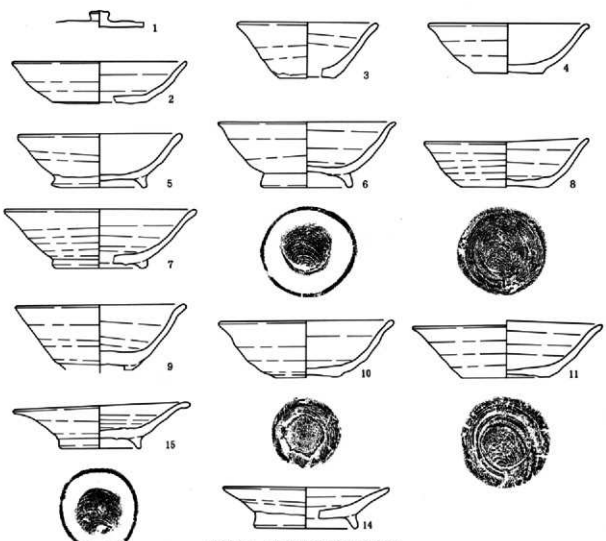
第161図　43号住居平面・断面図



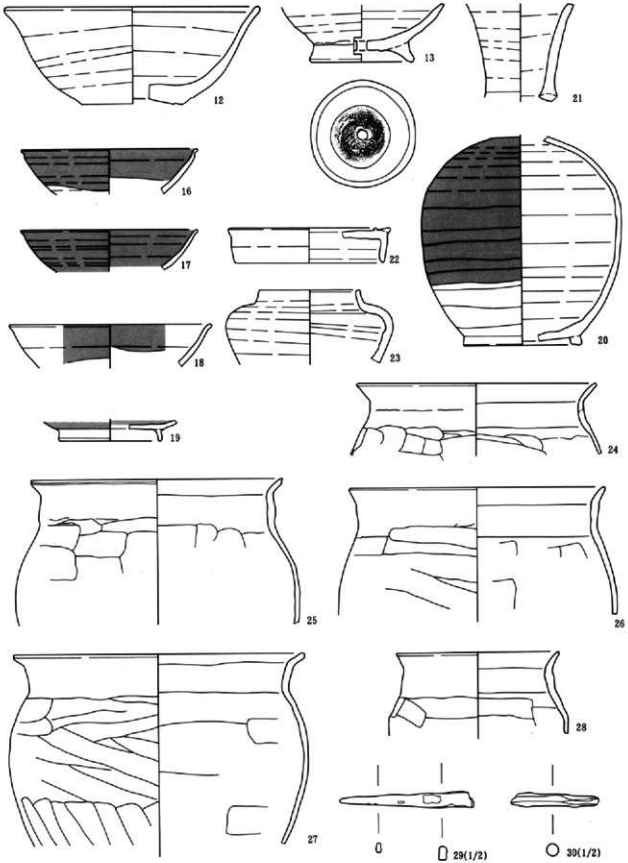
43号住居カマド

1．黒褐色土　φ0.3～0.5cmの焼土粒、黄色土粒、炭化物粒を含む。
2．黒褐色土　φ0.5～1cmの褐色土小ブロックを少量含む。
3．褐色土　粘質土、φ0.5～1cmの暗褐色土小ブロックを少量含む。
4．褐色土　粘質土、φ0.1cm程の炭化物粒、砂粒を含む。
5．焼土ブロック。
6．灰と焼土の互層。
7．灰黄褐色粘土　φ0.2～0.5cmの炭化物粒、焼土粒を多量に含む。
8．灰。
9．暗褐色土　φ0.1～0.3cmの黄色土粒を含む。
10．褐色土　粘質土、炭化物粒を含む。
11．黒褐色土　φ0.8～1cmの黄色粘質土ブロックを含む。
12．黒褐色土　焼土粒を少量含む。
13．黒色土　灰、炭化物。

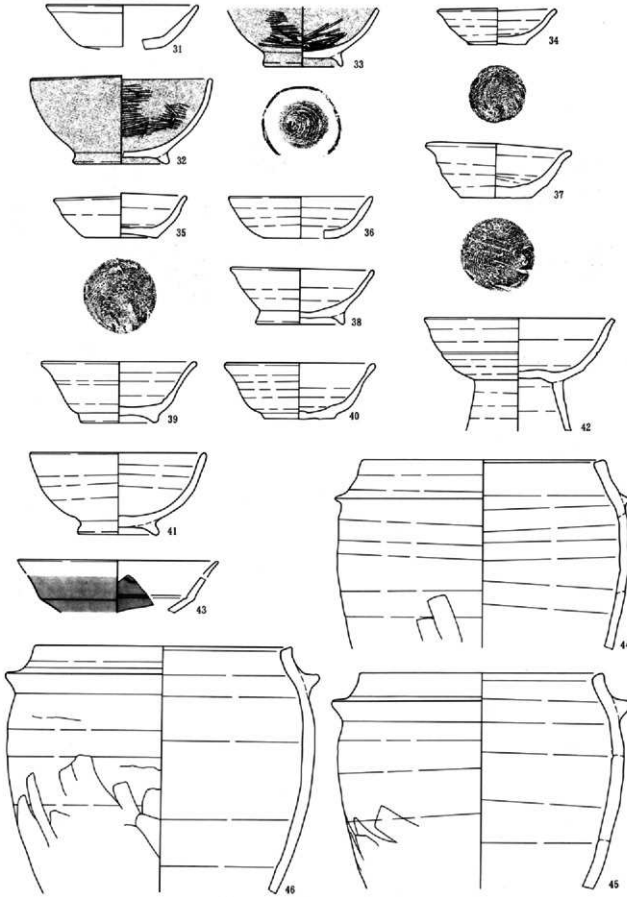
第162図　43号住居カマド図



第163図　43号住居出土遺物図(1)



第164図　43号住居出土遺物図（2）



第165図　43号住居出土遺物図（3）

44号住居

本住居は、調査区の東より、86区A・B－9・10グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、65号住居、33号土坑と重複する。新旧関係は、本住居のほうが33号土坑より前出で65号住居より後出である。

形態は、西辺が東辺よりやや短いがほぼ長方形を呈する。残存状態は、北西角が重複する33号土坑によって欠くが、確認面から床面まで残存高がやや深いため比較的良好な状態である。

規模は、長軸5.08m、短軸3.96m、北辺3.80m、東辺4.56m、南辺3.72m、西辺4.16mを測る。床面積は、15.80m²である。主軸方位は、N－94.5°－Eを指す。壁高は、北壁13.0～17.0cm、東壁17.0～21.0cm、南壁28.0～29.0cm、西壁23.0～29.5cm、平均22.3cmである。

内部施設は、周溝と貯蔵穴を検出したが柱穴は確認されなかった。周溝は、東辺の北から1.10mのところから南へ全長0.95mと西辺から南辺にかけての壁下を巡る。規模は幅14.4～22.0cm、深度1.0～3.5cmである。貯蔵穴は、東南角に位置し、形態は楕円形を呈す。規模は径97.0×84.0cm、深度11.0cmである。貯蔵穴からは、2の須恵器椀が出土しているだけである。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

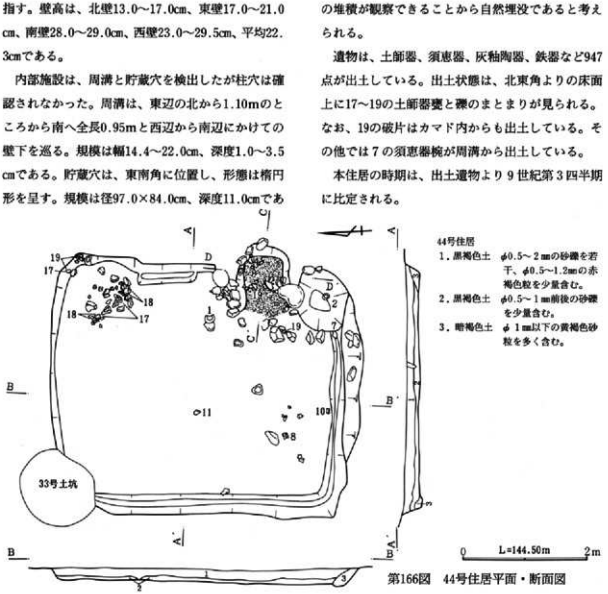
カマドは、東辺の南よりに構築されている。残存状態は、天井部が崩落しているが、袖は左側が残存し右側も補強に使用された礫が据えたままの状態で検出された。規模は、全長112.5cm、幅100.5cm、右袖34.5cm、燃焼部の一部から煙道にかけては壁外に43.5cm延びる。燃焼部には灰が5cmほどの厚さで堆積している。

掘り方は、確認できなかった。

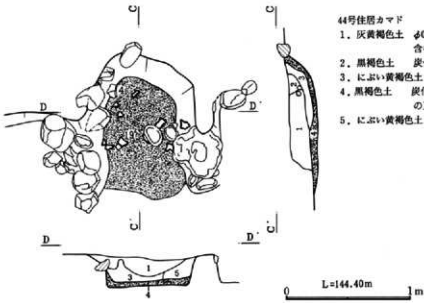
埋没状態は、壁際で三角堆積、中央部でレンズ状の堆積が観察できることから自然埋没であると考えられる。

遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器、鉄器など947点が出土している。出土状態は、北東角よりの床面上に17～19の土師器甕と礫のまとまりが見られる。なお、19の破片はカマド内からも出土している。その他では7の須恵器椀が周溝から出土している。

本住居の時期は、出土遺物より9世紀第3四半期に比定される。

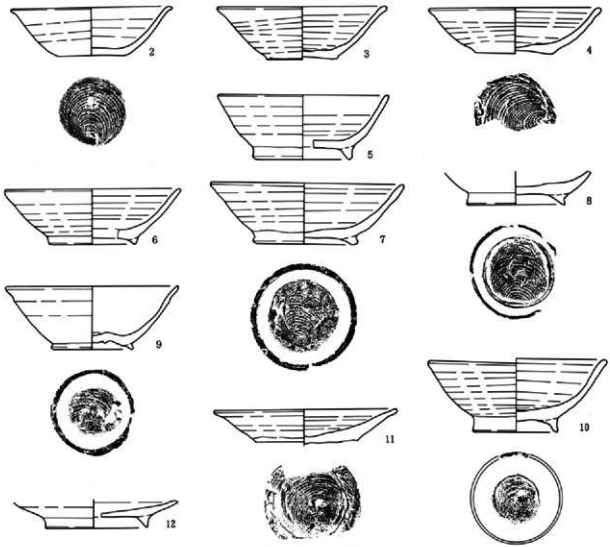


第166図　44号住居平面・断面図

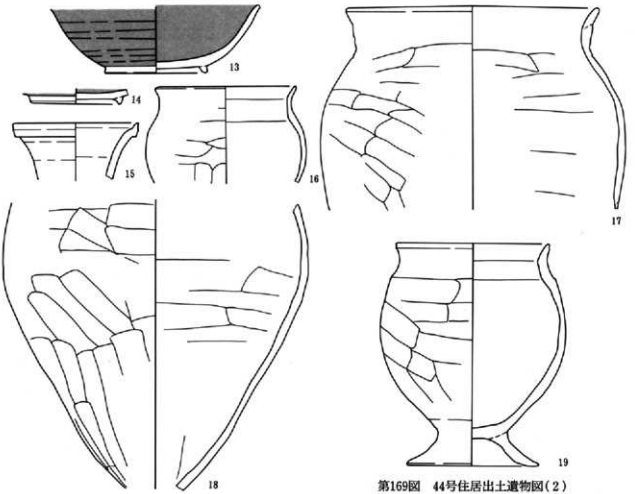


44号住居カマド
1．灰黄褐色土　φ0.5～1.2mmの砂礫・小石・炭化物をやや多く含む。
2．黒褐色土　炭化物を多量に含む。
3．にぶい黄褐色土　φ 1～5mmの砂礫を多く含む。
4．黒褐色土　炭化物を多量に含む灰層。(炭化物と黄褐色土の互層)
5．にぶい黄褐色土　φ 1～5mmの砂礫を多く含む。

第167図　44号住居カマド図



第168図　44号住居出土遺物図(1)



第169図　44号住居出土遺物図（2）

45号住居

本住居は、調査区の東より、86区A・B－11グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、52号住居・65号住居・74号住居・101号住居と重複する。新旧関係は、本住居のほうが後出である。

形態は、南辺が北辺に比べて50cmほど短い台形状を呈する。残存状態は、確認面から床面まで残存高が低いためあまり良好な状態ではない。

規模は、長軸2.86m、短軸2.14m、北辺2.24m、東辺2.58m、南辺1.70m、西辺3.04mを測る。床面積は、4.50m²である。主軸方位は、N－92°－Eを指す。壁高は、北壁4.0～8.5cm、東壁5.0～6.0cm、南壁6.0～11.0cm、西壁5.0～7.0cm、平均6.6cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

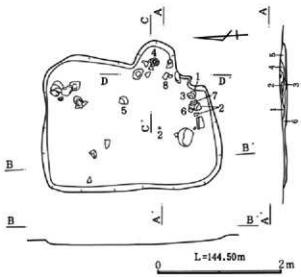
カマドは、東辺のやや南よりに構築されている。残存状態は天井部が崩落し袖が流出しているが袖の補強に使用された礫は原一に据えられたままで検出された。規模は、全長52.5cm、幅76.5cm、燃焼部幅66.0cm、燃焼部の一部から煙道にかけては壁外に43.5cm延びる。

掘り方は、確認できなかった。

埋没状態は、確認面から床面まで残存高が低いため土層断面の観察では判断ができない。

遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器など200点が出土している。出土状態は、カマドとカマドの周囲にまとまった出土がみられ、4、8の須恵器椀・羽釜がカマド、1、2、6、7の須恵器椀・羽釜が床面から出土している。

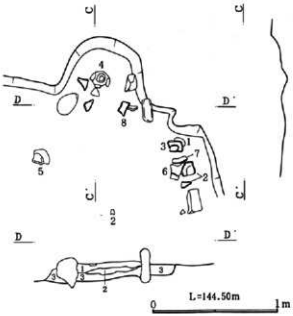
本住居の時期は、出土遺物より10世紀第3四半期に比定される。



45号住居

1．黒褐色土　炭化物を多量に含む。
2．にぶい黄褐色土　焼土、炭化物を多量に含む。
3．黒色土　炭化物が大部分を占める。
4．灰黄褐色土　焼土、炭化物をやや多く含む。
5．黒褐色土　炭化物を多量に含み、φ0.5～1.2mmの焼土、φ0.5～2.3mmの砂礫、黄褐色粒を少量含む。
6．黒褐色土　φ0.5～2.3mmの砂礫を少量含む。

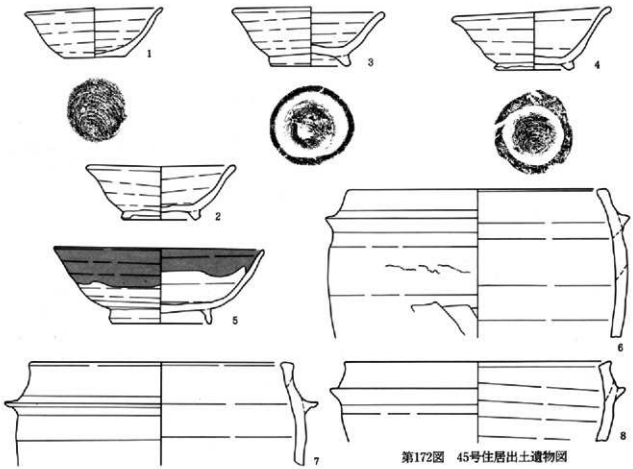
第170図　45号住居平面・断面図



45号住居カマド

1．黒褐色土　炭化物を多量に含む。
2．灰黄褐色土　焼土、炭化物をやや多く含む。
3．黒褐色土　炭化物を多量に、φ0.5～1.2mmの焼土、φ0.5～2.3mmの砂礫・黄褐色粒子を少量含む。

第171図　45号住居カマド図



第172図　45号住居出土遺物図

46号住居

本住居は、調査区の東より、85区T－10・11、86区A－10・11グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、42号住居、26号土坑と重複する。新旧関係は、本住居のほうが前出である。

形態は、重複する26号土坑により7割近くを欠くため不明な点が多いがほぼ長方形を呈する。

規模は、長軸3.80m、短軸2.64m、北辺2.44m、東辺は推定で3.60m、南辺は推定で2.48m、西辺3.56mを測る。床面積は、推定8.69㎡である。主軸方位は、N－90°－Eを指す。壁高は、北壁2.0～8.0cm、東壁4.0～4.5cm、南壁12.0cm、西壁1.5～21.0cm、平均8.2cmである。

内部施設は、周溝を検出したが柱穴、貯蔵穴は確認されなかった。周溝は、西辺・北辺と東辺の残存部分の各辺壁下を巡る。規模は幅20.0～28.0cm、深度4.0～11.0cmである。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

カマドは、東辺に構築されていた可能性があるが重複する26号土坑によって欠く。

掘り方は、確認できなかった。

埋没状態は、確認面から床面まで残存高が低いため観察できなかった。

遺物は、数点の礫が出土しているだけであった。

本住居の時期は、時期を判断できる出土遺物が出土していないため不明であるが重複遺構の時期により10世紀以前に想定される。

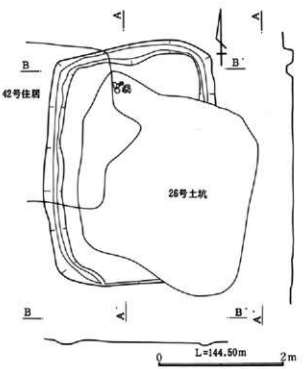
47号住居

本住居は、調査区の北東部、86区A・B－14・15グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、73号住居と重複する。新旧関係は、本住居のほうが後出である。

形態は、北辺が南辺より30cmほど長いため西辺が北よりで弧を描くが隅丸長方形に近い形態を呈する。残存状態は、確認面から床面まで残存高が低いためあまり良好な状態ではない。

規模は、長軸3.40m、短軸2.54m、北辺2.44m、東辺3.06m、南辺2.16m、西辺3.00mを測る。床面積は、6.60㎡である。主軸方位は、N－90°－Eを指す。壁高は、北壁10.5～12.0cm、東壁8.5～12.0cm、南壁5.5～9.5cm、西壁6.0～6.7cm、平均8.9cmである。

内部施設は、貯蔵穴を検出したが柱穴、周溝は確認されなかった。貯蔵穴は、東南角に位置し、形態



第173図　46号住居平面・断面図

が楕円形を呈す。規模は径46.0×57.0cm、深度23.0cmである。床面の状態は、73号住居の埋没土や地山をそのまま踏み固めている。

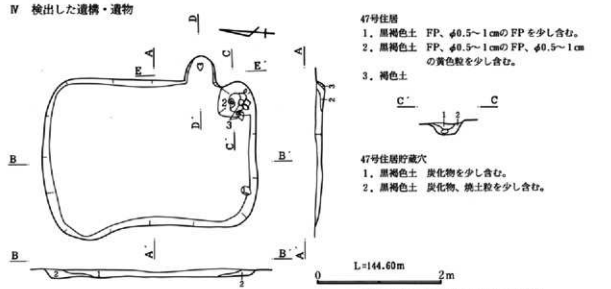
カマドは、東辺の南よりに構築されている。残存状態は確認面から残存高が低いため形態が解る程度しか残存していない。規模は、全長43.5cm、幅57.0cm、燃焼部の一部から煙道にかけては壁外に40.5cm延びる。

掘り方は、確認できなかった。

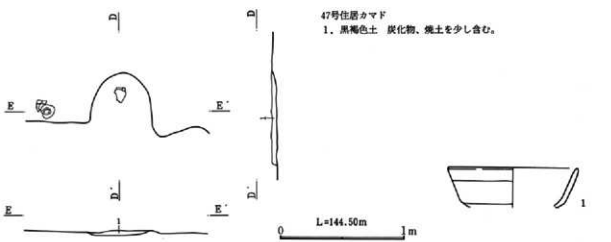
埋没状態は、確認面から床面まで残存高が低いため不明確であるが壁よりで三角堆積が観察できることから自然埋没であると考えられる。

遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器など214点が出土している。出土状態は、貯蔵穴にまとまった出土がみられ、2、3の須恵器椀が出土している。

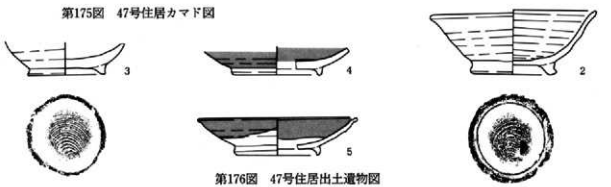
本住居の時期は、出土遺物より10世紀第2四半期に比定される。



第174図　47号住居平面・断面図



第175図　47号住居カマド図



第176図　47号住居出土遺物図

48号住居

本住居は、調査区の北東部の中央より、86区C—14・15グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、62号住居と重複する。新旧関係は、本住居のほうが後出である。

形態は、ほぼ長方形を呈する。残存状態は、確認面から床面まで残存高が低いが比較的良好な状態である。

規模は、長軸3.88m、短軸2.88m、北辺2.44m、東辺3.80m、南辺2.60m、西辺3.72mを測る。床面積は、8.88m²である。主軸方位は、N—93°—Eを指す。壁高は、北壁11.7～19.8cm、東壁10.9～20.9cm、南壁15.5～22.0cm、西壁16.8～24.3cm、平均15.2cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

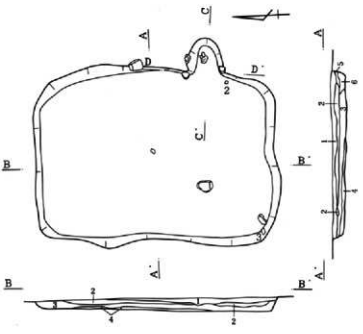
カマドは、東辺の南よりに構築されている。残存状態は、天井部が崩落し袖は流失しているが、右袖の補強に使用された礫は据えられたままで検出された。規模は、全長58.5cm、幅57.0cm、燃焼部幅43.5cm、燃焼部の一部から煙道にかけては壁外に51.0cm延びる。燃焼部には灰が厚く堆積している。

掘り方は、確認できなかった。

埋没状態は、周囲から土砂が流れ込んだ様子が観察できることから自然埋没であると考えられる。

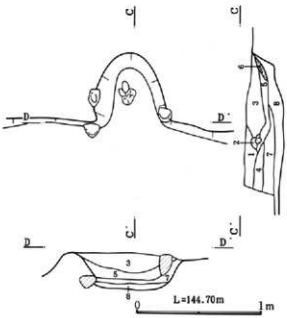
遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器など24点と非常に少ない出土である。出土状態は、ほとんど埋没土中からの出土でカマドや床面からの出土は見られなかった。

本住居の時期は、出土遺物より10世紀第１四半期に比定される。



48号住居

1．暗褐色土　　砂質土、φ１～３cmの黄褐色砂の小ブロックを含む。
2．にぶい黄褐色砂
3．黒褐色土　　φ１～３cmの黄褐色砂の小ブロックを含む。
4．にぶい黄褐色砂　φ１～３cmの黒褐色土のブロックを含む。
5．褐色土　　砂質土、夾雑物なし。
6．黒褐色土　　砂質土。

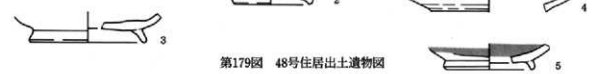


48号住居カマド

1．暗褐色土　φ0.2cm程の焼土粒・炭化物粒を少量、φ１～２cmのにぶい黄橙色砂小ブロックを少量含む。
2．暗褐色土　にぶい黄橙色小ブロックを含む。
3．黒褐色土　φ１～２cmの暗褐色ブロック、φ２～３cmのにぶい黄橙色土ブロックの混土。
4．にぶい黄橙色砂。
5．灰、炭化物、暗褐色土の混土。
6．焼土。
7．にぶい黄橙色土　砂質土、炭化物粒、にぶい黄橙色砂、φ0.3～0.5mmの砂粒を含む。
8．黒褐色土　炭化物を多量に、φ１～５mmの焼土粒を若干含む。

第177図　48号住居平面・断面図

第178図　48号住居カマド図



第179図　48号住居出土遺物図

49号住居

本住居は、調査区の北東部、86区D－15・16グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、60号住居・61号住居・62号住居と重複する。新旧関係は、本住居のほうが60号住居・61号住居より後出である。なお、62号住居との関係は遺構確認時では不明確であったが62号住居と重複する48号住居の時期から本住居のほうが後出であると判断される。

形態は、南辺が北辺より30cmほど短いがほぼ長方形を呈する。残存状態は、確認面から床面まで残存高が低いため良好な状態ではない。

規模は、長軸3.80m、短軸2.24m、北辺2.24m、東辺3.72m、南辺1.96m、西辺3.64mを測る。床面積は、6.65m²である。主軸方位は、N－85.5°－Eを指す。壁高は、北壁22.5～25.5cm、東壁13.5～23.5cm、南壁6.5～13.5cm、西壁7.5～35.5cm、平均18.5cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

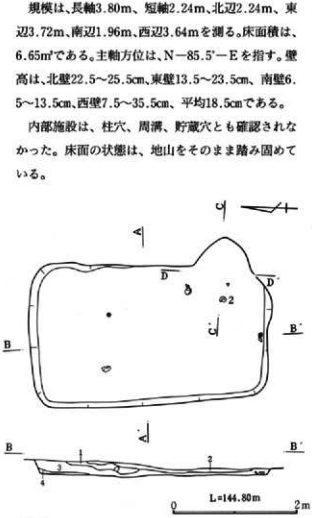
カマドは、東辺の東南角よりに構築されている。残存状態は、確認面から残存高が低いため形態が解る程度しか残存していない。規模は、全長49.5cm、幅97.5cm、燃焼部の一部から煙道にかけては壁外に49.5cm延びる。燃焼部火床面は、炭化物や焼土粒の堆積は確認されたが灰の堆積はほとんど見られなかった。

掘り方は、確認できなかった。

埋没状態は、西及び北から土砂が流れ込んだレンズ状の堆積が観察できることから自然埋没であると考えられる。

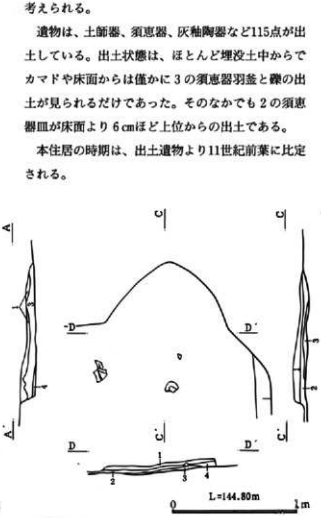
遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器など115点が出土している。出土状態は、ほとんど埋没土中からでカマドや床面からは僅かに3の須恵器羽釜と鞴の出土が見られるだけであった。そのなかでも2の須恵器皿が床面より6cmほど上位からの出土である。

本住居の時期は、出土遺物より11世紀前葉に比定される。



49号住居
1．にぶい黄褐色土　砂質土、φ0.1～0.5cmの黄色砂粒を含む。
2．黒褐色土　砂質土、炭化物片を多量に含む。
3．黒褐色土　砂質土、φ0.3～1cmの砂礫、φ0.5～1cmの黄色砂を多く含む。
4．にぶい黄褐色土　砂質土。

第180図　49号住居平面・断面図



49号住居カマド
1．黒褐色土　砂質土、φ1cm程の砂粒・炭化物片、φ0.2～0.5cmの焼土粒を多く含む。
2．黒褐色土　炭化物多く含む。φ0.2～0.5cmの焼土粒少し含む。
3．砂質土　炭化物少し含む。

第181図　49号住居カマド図

第182図　49号住居出土遺物図

50号住居

本住居は、調査区の北より、86区D－14グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、55号住居と重複する。新旧関係は、本住居のほうが後出である。

形態は、隅丸長方形に近い形態を呈する。残存状態は、確認面から床面まで残存高が低いが比較的良好な状態である。

規模は、長軸2.80m、短軸2.32m、北辺2.08m、東辺2.40m、南辺1.96m、西辺2.56mを測る。床面積は、4.80m²である。主軸方位は、N－94.6°－Eを指す。壁高は、北壁25.3～29.5cm、東壁13.1～14.0cm、南壁13.0～13.5cm、西壁15.0～25.6cm、平均18.7cmである。

内部施設は、柱穴を検出したが周溝、貯蔵穴は確認されなかった。柱穴は、1本だけであるが南西角に位置する。形態は楕円形を呈し、規模は径42×34cm、深度17.5cmである。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

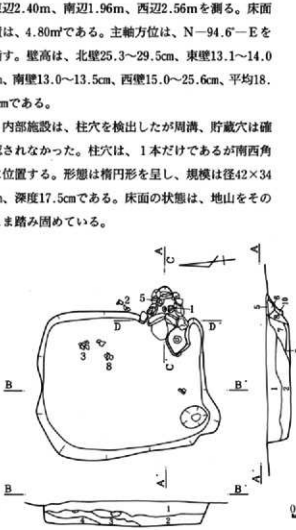
カマドは、東辺の東南角よりに構築されている。残存状態は天井部が崩落し、住居内に造られた左袖が流失している。規模は、全長84.0cm、幅81cm、右袖幅34.5cm、燃焼部の一部から煙道にかけては壁外に45.0cm延びる。袖と燃焼部の壁外に掘り込まれているその周りには補強に φ10～30cmの円礫が使用されている。天井部にも長さ20～30cmの礫が使用されているが内側がつぶれるように崩落している。

掘り方は、確認できなかった。

埋没状態は、レンズ状の堆積が観察できることから自然埋没であると考えられる。

遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器など244点が出土している。出土状態は、カマドに多少のまとまった出土が見られ、1、4、5の須恵器椀がカマドから出土している。

本住居の時期は、出土遺物より10世紀第1四半期に比定される。



50号住居

1．黒褐色土　φ0.1～0.3cmのFP、φ3～5cmのFP粒、φ0.5～1cmの炭化物粒、φ0.5cmの焼土粒を多量に含む。

2．黒褐色土　φ0.1～0.3cmのFP、φ0.1～0.3cmの炭化物粒、φ0.5cm程の橙色粒を含む。

3．灰黄褐色土　φ2～3cmの黄褐色砂の小ブロックを多量に含む。

4．灰黄褐色土　φ0.5～1cmの黄褐色砂の小ブロックを含む。

5．黒褐色土　φ0.5cmの焼土粒を多量に含む。

6．黒褐色土　にぶい黄褐色土の小ブロックを多量に含む。

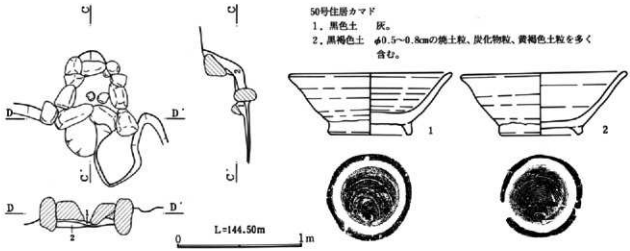
7．黒褐色土　φ5～7cmのにぶい黄褐色土のブロックを多量に含む。

8．黒褐色土　φ0.1～0.3cmの砂粒、炭化物粒、焼土粒を多量に含む。

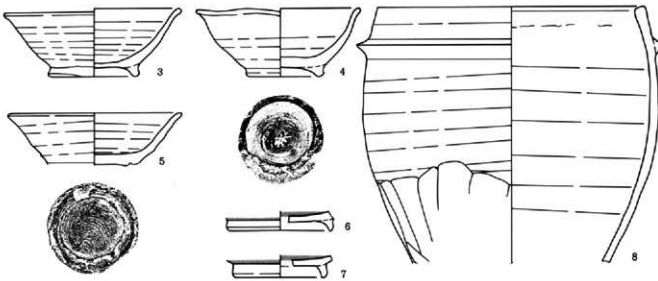
9．灰

10．黒褐色土　φ3～5cmの焼土ブロックを含む。

第183図　50号住居平面・断面図



第184図　50号住居カマド図



第185図　50号住居出土遺物図

51号住居

本住居は、調査区の北東部、86区B－14・15グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、66号住居・90号住居・103号住居と重複する。新旧関係は、本住居のほうが後出である。

形態は、ほぼ長方形を呈する。残存状態は、確認面から床面まで残存高が低いが比較的良好な状態である。

規模は、長軸3.76m、短軸3.24m、北辺3.00m、東辺3.72m、南辺2.92m、西辺3.56mを測る。床面積は、10.01m²である。主軸方位は、N－91°－Eを指す。壁高は、北壁20.0～21.7cm、東壁16.0～20.5cm、南壁16.0～18.5cm、西壁19.0～22.3cm、平均19.3cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

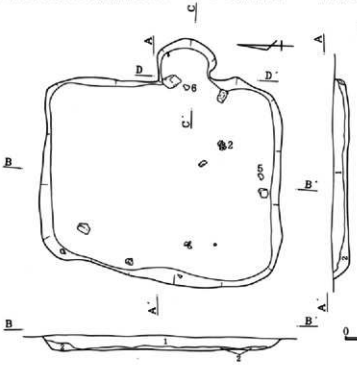
カマドは、東辺の中ほどよりやや南よりに構築されている。残存状態は、天井部が崩落し、袖も流失している。規模は、全長75.0cm、幅82.5cm、燃焼部幅75.0cm、燃焼部の一部から煙道にかけては壁外に64.5cm延びる。

掘り方は、確認できなかった。

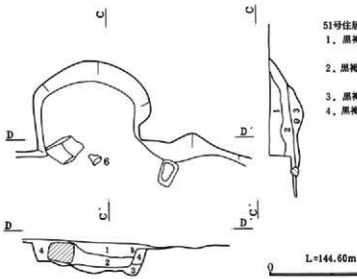
埋没状態は、レンズ状の堆積が観察できることから自然埋没であると考えられる。

遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器など429点が出土している。出土状態は、大部分が堆没土中からの出土であるが6の須恵器皿がカマド、2の須恵器椀が床面から出土している。

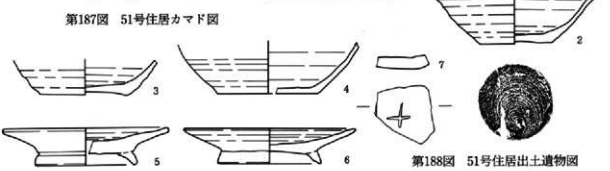
本住居の時期は、出土遺物より9世紀第3～4四半期に比定される。



第186図　51号住居平面・断面図



第187図　51号住居カマド図



第188図　51号住居出土遺物図

52号住居

本住居は、調査区の東より、86区A・B－11・12グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、45号住居・74号住居・91号住居・101号住居と重複する。新旧関係は、45号住居より前出で74号住居・91号住居・101号住居より後出である。

形態は、調査した住居の大多数が南北にやや長い形態をとる中で本住居は東西に長い長方形を呈する。残存状態は、確認面から床面まで浅く、東南部分の上半を重複する45号住居によって欠くが比較的良好な状態である。

規模は、長軸4.28m、短軸3.12m、北辺4.46m、東辺2.96m、南辺4.42m、西辺3.08mを測る。床面積は、11.32㎡である。主軸方位は、N－98°－Eを指す。壁高は、北壁11.0～25.5cm、東壁6.0～22.5cm、南壁7.2～20.5cm、西壁20.0～23.5cm、平均17.1㎝である。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

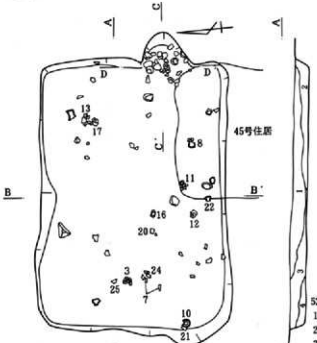
カマドは、東辺の南よりに構築されている。残存状態は天井部が崩落し袖が流失している。規模は、全長54.0cm、幅84.0cm、燃焼部幅78.0cm、燃焼部の一部から煙道にかけては壁外に42.0cm延びる。

掘り方は、確認できなかった。

埋没状態は、レンズ状の堆積が観察できることから自然堆積であると考えられる。

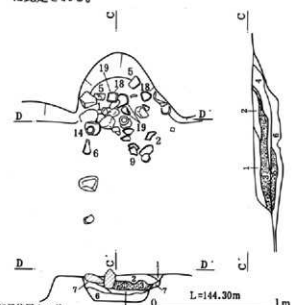
遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器、石製品など646点が出土している。出土状態は、住居全域に散漫な状態であるが、カマドにやや集中した出土が見られる。

本住居の時期は、出土遺物より10世紀第２四半期に比定される。



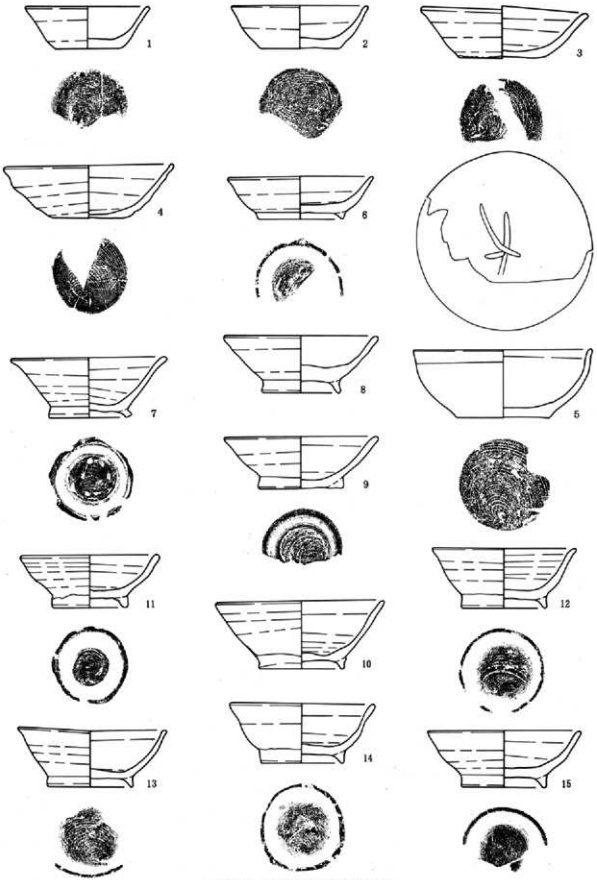
52号住居
1．暗褐色土　φ0.1～0.8cmの砂粒を多量に、φ0.1～0.3cmの橙色粒、φ0.2～0.3cmの白色パミスを含む。
2．黒褐色土　φ0.1cm程の焼土粒、炭化物粒、砂粒を含む。

第189図　52号住居平面・断面図

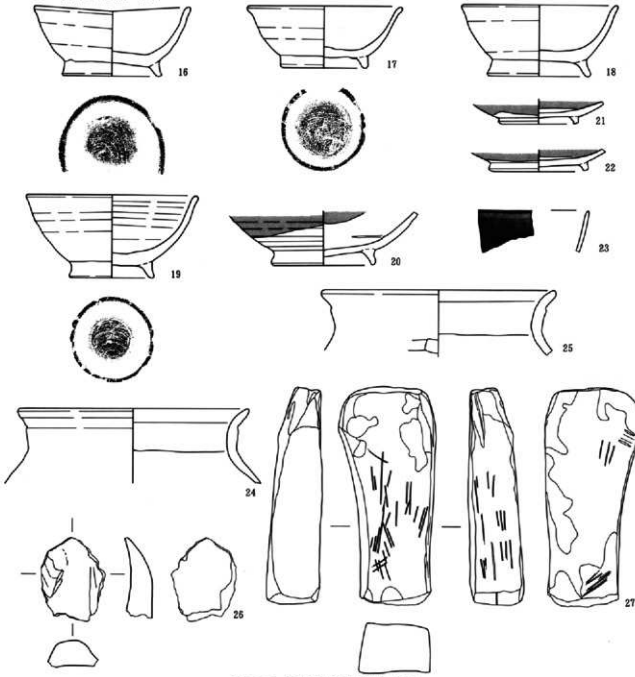


52号住居カマド
1．黒褐色土　黄褐色土粒を多量に、焼土粒を少量含む。
2．明黄褐色粘土ブロック　φ１～３cmの黒褐色土小ブロックを少量含む。
3．灰層　φ0.5～0.8cmの明黄褐色粘土ブロックを少量含む。
4．暗褐色土　φ0.3～0.5cmの炭化物粒、焼土粒を多く含む。
5．灰層
6．暗褐色土　φ0.3～0.5cmの焼土粒、炭化物粒、黄褐色土粒を多く含む。
7．黒褐色土　φ0.3～0.5cmの明黄褐色土粒、焼土粒を多く含む。
3．褐色土　φ0.1～0.3cmの砂粒と少量のφ３～４cmの砂礫を含む。
4．黒褐色土　φ３～４cmの黄褐色砂の小ブロックを含む。
5．暗褐色土　φ１～５cmの褐色土粘土ブロックを多く含む。
6．黒褐色土　φ0.1～0.3cmの炭化物粒、焼土粒を含む。

第190図　52号住居カマド図



第191図　52号住居出土遺物図(1)



第192図　52号住居出土遺物図（2）

53号住居

本住居は、調査区の北東部、85区T—15・16グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、54号住居・63号住居・73号住居、10号溝と重複する。新旧関係は、10号溝・54号住居より前出で63号住居・73号住居より後出である。

形態は、重複する10号溝によって東半分を欠くがほぼ長方形を呈すると想定される。残存状態は、東半分を欠き、住居の上部を重複する54号住居によって欠くなど良い状態ではない。

規模は、長軸4.20m、短軸は残存するところでは2.12mである。各辺は、西辺3.93m、北辺残存するところで1.30m、南辺残存するところで2.32mを測る。床面積は、残存範囲で7.09m²である。主軸方位は、N—99°—Eを指す。壁高は、北壁2.5～5.5cm、南壁5.0～12.0cm、西壁4.0～20.5cm、平均8.3cmである。

内部施設は、周溝を検出したが、柱穴、貯蔵穴は

確認されなかった。周溝は、土層断面観察箇所で周溝らしい落ち込みは見られたが、床面上では検出できなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

カマドは、残存部分では確認されなかった。

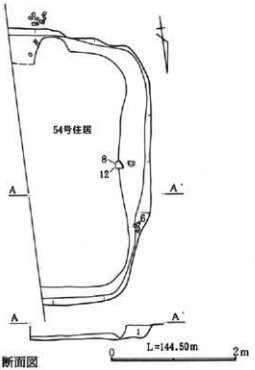
掘り方は、確認できなかった。

埋没状態は、土層断面の観察では重複する54号住居が大部分を占めているため判断できなかった。

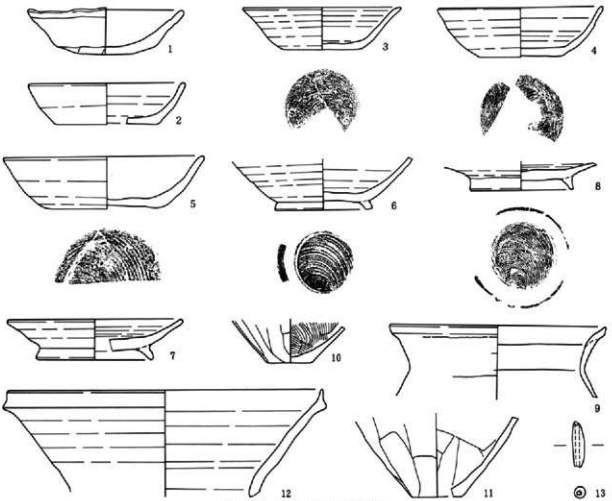
遺物は、土師器、須恵器など7点であるが、53号住居・54号住居の遺構確認中には622点が出土している。6の須恵器椀が床面から出土している。

本住居の時期は、出土遺物より9世紀第2四半期に比定される。

53号住居
1，黒褐色土　褐色粒を少量、φ0.5～2cmの小礫を多く含む。



第193図　53号住居平面・断面図



第194図　53号住居出土遺物図

54号住居

本住居は、調査区の北東部、85区T－15・16グリッドの53号住居の内側に収まるように位置する。他遺構との重複関係は、53号住居・63号住居・73号住居・10号溝と重複する。新旧関係は、10号溝より本住居のほうが前出で他の住居より後出である。

形態は、重複する10号溝によって東半分を欠くがほぼ長方形を呈すると想定される。残存状態は、東半分を欠き、確認面から床面まで残存高が低いためあまり良好な状態ではない。

規模は、長軸3.93m、短軸は残存するところで1.06mである。各辺は、西辺3.58m、北辺残存するところで1.34m、南辺残存するところで1.83mを測る。床面積は、残存範囲で5.71m²である。主軸方位は、N－99°－Eを指す。壁高は、北壁1.5～3.5cm、西壁1.0～2.5cm、平均2.2cmである。

内部施設は、周溝を検出したが、柱穴、貯蔵穴は確認されなかった。周溝は、西辺から南辺にかけての壁下を巡る。周溝の規模は幅14.0～38.0cm、深度8.0～9.0cmである。床面の状態は、重複する53号住居の埋没土を踏み固めて使用している。

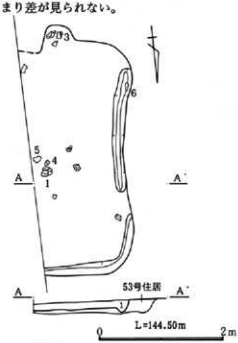
カマドは、南辺に焼土などが若干確認できる箇所が壁外に突出するように範囲が確認できたが明確ではない。

掘り方は、確認できなかった。

埋没状態は、土層観察面では1層しか観察できず判断ができなかった。

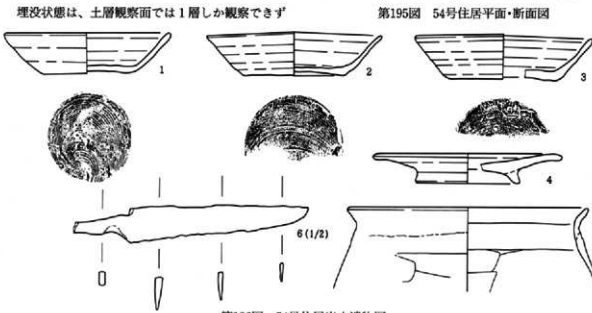
遺物は、土師器、須恵器など11点だけであるが53号住居・54号住居の遺構確認中には622点が出土している。出土状態は、3の須恵器杯がカマド、4・5の須恵器皿と土師器甕が床面、6の刀子が周溝から出土している。

本住居の時期は、出土遺物より9世紀第2四半期に比定される。出土遺物は、重複する53号住居の遺物とあまり差が見られない。



54号住居
1．黒褐色土　φ0.5～1cmのFPを少量含む。

第195図　54号住居平面・断面図



第196図　54号住居出土遺物図

55号住居

本住居は、調査区の北より、86区D・E－14グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、50号住居・107号住居と重複する。新旧関係は、50号住居より後出で107号住居より前出である。

形態は、西辺が東辺より60cmほど短いほぼ長方形であるが、52号住居や56号住居と同様な東西に長い形状である。残存状態は、北東部の４分の１を重複する50号住居によって欠くが、その他の部分は比較的良好な状態である。

規模は、長軸4.52m、短軸2.72m、北辺4.62m、東辺3.06m、南辺4.44m、西辺2.40mを測る。床面積は、11.22m²である。主軸方位は、N－74°－Eを指す。壁高は、北壁7.0～25.0cm、東壁10.0～18.0cm、南壁4.0～15.0cm、西壁23.0～26.0cm、平均16.0cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

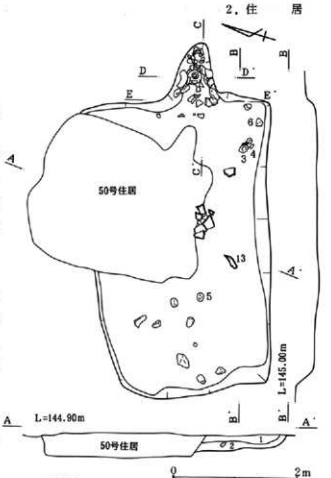
カマドは、東辺の中ほどよりやや南に構築されている。残存状態は天井部が崩落し、袖は流失しているが燃焼部から煙道にかけては良好である。規模は、全長91.5cm、幅91.5cm、燃焼部幅67.5cm、燃焼部の一部から煙道にかけては壁外に78.0cm延びる。壁外に位置する燃焼部から煙道は周囲に礫を補強に配置している。

掘り方は、確認できなかった。

埋没状態は、土層断面が一部しか設定できなかったが、その部分ではレンズ状の堆積が観察できることから自然埋没であると考えられる。

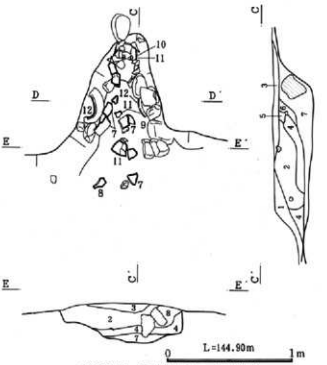
遺物は、土師器、須恵器、石製品など99点が出土している。出土状態は、カマドに集中した出土が見られ、７～12の須恵器横瓶、土師器甕がカマド、５の須恵器椀が床面から出土している。

本住居の時期は、出土遺物より８世紀第４四半期に比定される。

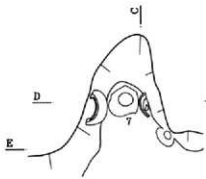


55号住居
1．黒褐色土　φ0.5cmの白色粒、橙色粒、炭化物粒を含む。
2．暗褐色土　にぶい黄褐色砂と砂粒を含む。

第197図　55号住居平面・断面図

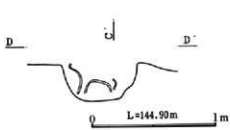


第198図　55号住居カマド図(1)

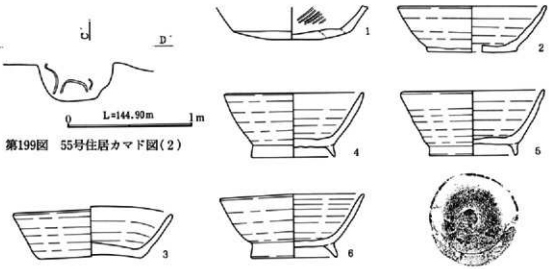


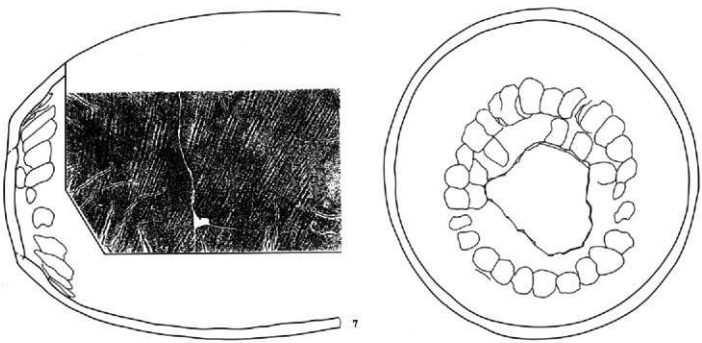
55号住居カマド

1．暗褐色土　φ 3～5cmの黄褐色土ブロック、φ0.5～1cmの炭化物粒を含む。
2．暗褐色土　砂質土、φ0.3～0.5cmの白色土粒、焼土粒を多く含む。
3．暗褐色土　φ0.3～0.5cmの焼土粒を多く含む。
4．暗褐色土　砂質土、φ 1～2cmの焼土粒、φ0.2～0.3cmの白色土粒、炭化物粒を多く含む。
5．褐色土　φ0.1～0.3cmの焼土粒を含む。
6．焼土ブロック
7．暗褐色土　φ0.3～0.5cmの焼土粒、炭化物粒を含む。
8．黄褐色粘質土

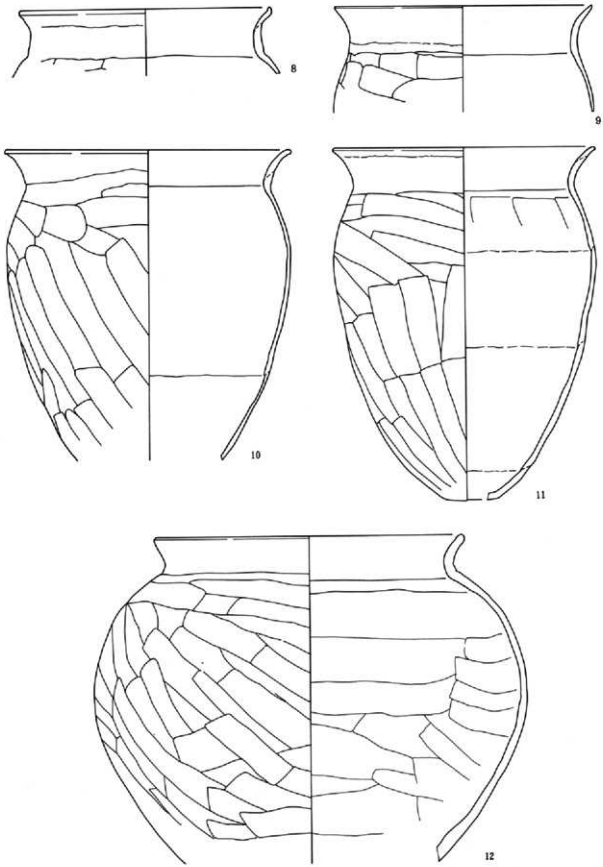


第199図　55号住居カマド図(2)

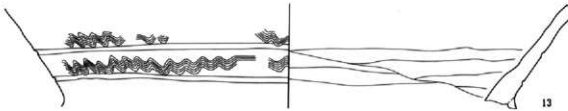




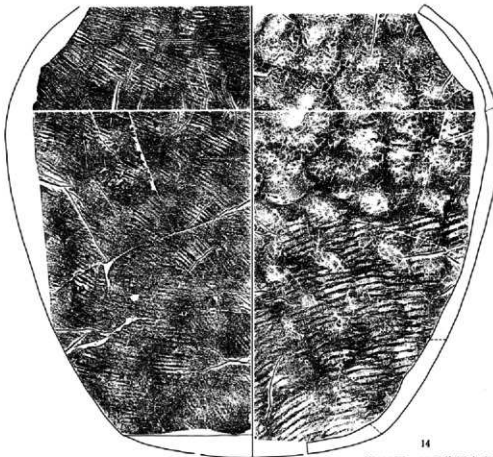
第200図　55号住居出土遺物図(1)



第201図　55号住居出土遺物図（2）



13



14

第202図　55号住居出土遺物図（3）

56号住居

本住居は、調査区の北より、86区F—16グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、35号土坑・36号土坑と重複する。新旧関係は、35号土坑より前出で36号土坑より後出である。

形態は、52号住居や55号住居と同様な東西に長い長方形を呈する。残存状態は、北東部分が35号土坑によって欠くため5分の3程度しか残存していない。

規模は、長軸4.00m、短軸3.06mである。各辺は、北辺が残存するところでは1.40m、東辺が残存するところでは1.44m、南辺3.88m、西辺2.80mを測る。床面積は、推定38.20m²である。主軸方位は、N—88°—Eを指す。壁高は、北壁38.2cm、東壁15.3cm、南壁15.0～28.7cm、西壁5.3～32.1cm、平均23.5cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

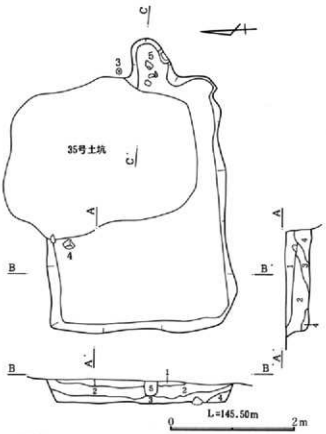
カマドは、東辺の南よりに構築されている。残存状態は天井部が崩落し、袖は流失している。規模は、全長79.5cm、幅75.0cm、燃焼部幅51.0cm、燃焼部の一部から煙道にかけては壁外に61.5cm延びる。

掘り方は、確認できなかった。

埋没状態は、レンズ状の堆積が観察できることから自然埋没であると考えられる。

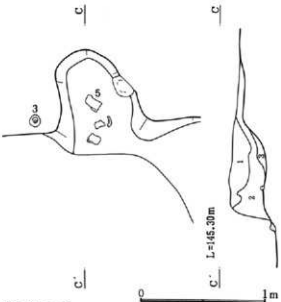
遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器など115点が出土している。出土状態は、4の土師器甕が床面、5の土師器甕がカマドから出土している。

本住居の時期は、出土遺物より10世紀第4四半期に比定される。



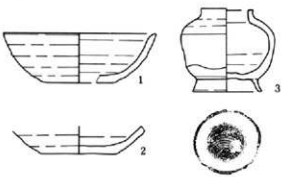
56号住居
1．黒褐色土　灰黄褐色砂質土を多く含む。φ1～2cmの黄褐色粒を少量含む。
2．黒褐色土　φ2～5cmの灰黄褐色砂質土のブロックを多く含む。
3．黒褐色土　φ0.8～1cmの灰黄褐色砂を多く含む。
4．黒褐色土　φ0.5～0.8cmの灰黄褐色砂を少量含む。
5．黒褐色土　φ0.2cm程のFPを少量含む。

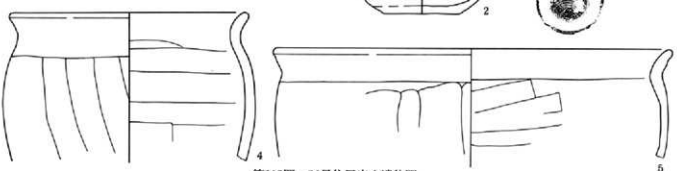
第203図　56号住居平面・断面図



56号住居カマド
1．灰黄褐色土　φ0.5～1.2mmの砂礫・黄褐色粒子・FPを多量に含む。
2．褐灰色土　φ0.5～3mmの砂礫・小石をやや多く、φ1～2mmの黄褐色粒子・橙褐色粒子を若干含む。
3．黒褐色土　φ0.5～1.2mmの砂礫・小石を若干、φ0.5～2.3mmの焼土・橙色粒子を少量、炭化物をやや多く含む。

第204図　56号住居カマド図





第205図　56号住居出土遺物図

57号住居

本住居は、調査区の北端、86区F・G—18グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、75号住居と重複する。新旧関係は、本住居のほうが後出である。

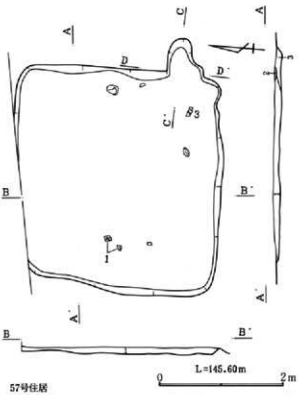
形態は、ほぼ長方形を呈する。残存状態は、西辺際が一部調査区外へ延び、確認面から床面までが残存高が低いためあまり良好な状態ではない。

規模は、長軸3.56m、短軸3.24m、北辺3.48m、東辺3.32m、南辺3.40m、西辺は調査区内で2.92mを測る。床面積は、9.94m²である。主軸方位は、N—90°—Eを指す。壁高は、北壁1.0～14.5cm、東壁3.

5～9.3cm、南壁3.5～4.5cm、西壁2.0～6.0cm、平均5.5cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

カマドは、東辺の東南角よりに構築されている。残存状態は天井部は崩落し袖は流失している。規模は、全長55.5cm、幅52.5cm、焚口幅40.5cm、燃焼部から煙道にかけては壁外に43.5cm延びる。



57号住居
1．灰黄褐色土　φ0.5～1.2mmの砂礫を若干、φ0.5～1.2mmの橙色粒を極少量含む。
2．黒褐色土　φ0.5～1.2mmの砂礫を極少量含む。
3．にぶい黄橙色土　φ0.5～1.2mmの砂礫を少量含む。

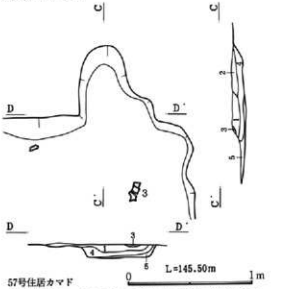
第206図　57号住居平面・断面図

掘り方は、確認できなかった。

埋没状態は、確認面から床面までが残存高が低いため明確ではないが土層断面の東辺付近で三角堆積が観察できることから自然埋没であると考えられる。

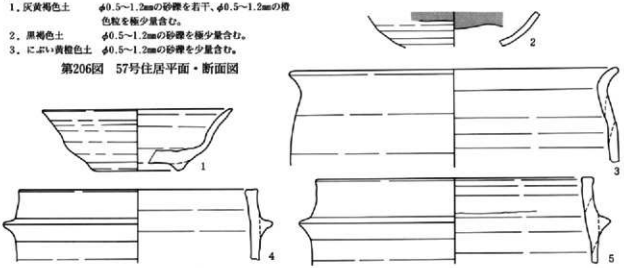
遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器など158点が出土している。出土状態は、大部分が埋没土中であるが3の須恵器甕が床面から出土している。

本住居の時期は、出土遺物より10世紀第3四半期に比定される。



57号住居カマド
1．黒褐色土　φ0.3～0.5cmの焼土粒・黄色土粒を少量含む。
2．暗褐色土　φ0.2cm程の焼土粒を含む。
3．灰層
4．黒褐色土　φ0.2cm程の焼土粒を含む。
5．黒褐色土　灰に炭化物を少量含む。

第207図　57号住居カマド図



第208図　57号住居出土遺物図

58号住居

本住居は、調査区の中央部、86区F・G－13グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、94号住居、2号建物と重複する。新旧関係は、本住居のほうが後出である。

形態は、北東角・北西角は丸みを持つがほぼ長方形を呈する。残存状態は、確認面から床面まで残存高が低いためあまり良好な状態ではない。

規模は、長軸3.08m、短軸2.52m、北辺2.46m、東辺3.12m、南辺2.20m、西辺2.92mを測る。床面積は、6.13㎡である。主軸方位は、N－98°－Eを指す。壁高は、北壁25.5～31.0cm、東壁28.0～30.5cm、南壁15.0～27.0cm、西壁18.5～26.0cm、平均25.2cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

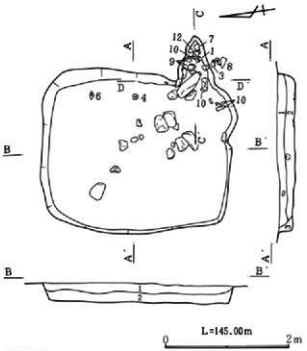
カマドは、東辺の東南角よりに構築されている。残存状態は天井部は崩落し袖は流失しているが、壁際の袖を補強した礫は据えられたままの状態で検出された。規模は、全長79.5cm、幅54.0cm、燃焼部幅52.5cm、燃焼部の一部から煙道にかけては壁外に64.5cm延びる。天井部には φ20cm、長さ45cmの礫が使用されていたが、出土状態から袖の補強の礫に渡されていたと想定される。

掘り方は、確認できなかった。

埋没状態は、レンズ状の堆積や南辺際の三角堆積から自然埋没であると考えられる。

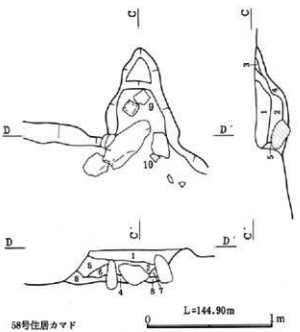
遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器など118点が出土している。出土状態は、カマドに集中した出土が見られ、1、3、7～9、12の黒色土器椀、須恵器羽釜がカマド、4の須恵器杯が床面から出土している。

本住居の時期は、出土遺物より10世紀第3四半期に比定される。



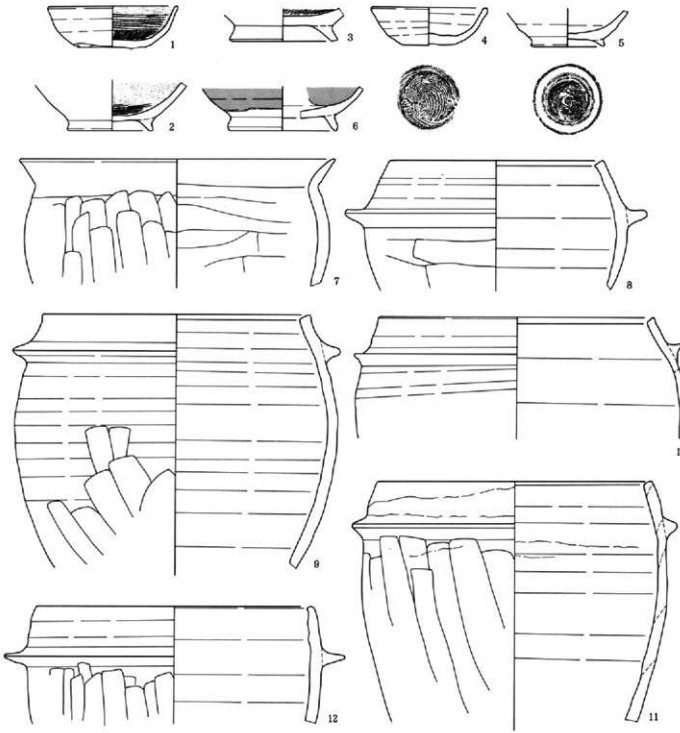
58号住居
1．黒褐色土　砂質土、φ 3～8cmの砂礫を少量、φ0.5～1cmの砂礫を多量に含む。φ0.5cm程の炭化物粒も少量含む。
2．黒褐色土　砂質土、φ0.5～1cmの砂礫、φ0.5～1.5cmの黄褐色砂の小ブロックを多量に含む。
3．黒褐色土　φ0.2～0.3cmの橙色粒を含む。

第209図　58号住居平面・断面図



58号住居カマド
1．灰黄褐色土　φ 1～5cmの明黄褐色粘土ブロックを多量に含む。
2．黒褐色土　φ0.2～0.3cmの焼土粒を少量含む。
3．焼土ブロック
4．灰黄褐色土　φ0.2～0.3cmの焼土粒を多量に含む。
5．褐灰色土　φ0.5cmの明黄褐色粘土を多く含む。
6．にぶい黄褐色土　粘質土。
7．にぶい黄褐色土　やや砂質土。ブロック状。
8．黒褐色土　φ0.5cmの明黄褐色粘土を多く含む。

第210図　58号住居カマド図



第211図　58号住居出土遺物図

59号住居

本住居は、調査区の中央部、86区G－13グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、94号住居と重複する。新旧関係は、本住居のほうが後出である。

形態は、ほぼ隅丸長方形を呈する。残存状態は、確認面から床面まで残存高が低いためあまり良好な状態ではない。

規模は、長軸4.00m、短軸3.22m、北辺2.80m、東辺3.68m、南辺3.00m、西辺3.88mを測る。床面積は、10.56m²である。主軸方位は、N－3°－Eを指す。壁高は、北壁14.0～22.0cm、東壁11.5～15.0cm、南壁

4.0～12.0cm、西壁7.8～14.0cm、平均12.5cmである。

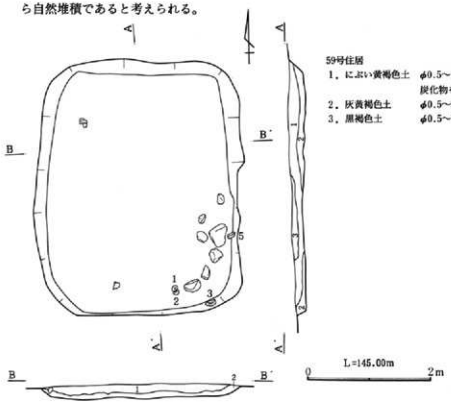
内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

カマドは、確認されなかった。掘り方も確認されなかった。

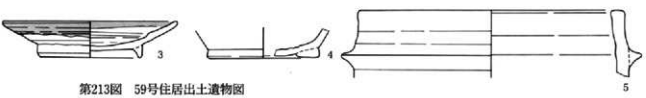
埋没状態は、レンズ状の堆積が観察できることから自然堆積であると考えられる。

遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器など131点が出土している。出土状態は、東南角付近にややまとまった出土が見られ、1～3の須恵器杯、灰釉陶器皿が床面から出土している。

本住居の時期は、出土遺物のうち1・2が11世紀前半代、3～5が10世紀第2四半期に比定されるが1～3はともに床面からの出土で判断が難しい。



第212図　59号住居平面・断面図



第213図　59号住居出土遺物図

60号住居

本住居は、調査区の北東部、86区D・E－15グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、49号住居・61号住居と重複する。新旧関係は、49号住居より前出で61号住居より後出である。

形態は、東西に長い長方形を呈すると推定される。残存状態は、重複する49号住居によって東辺側を欠くため全体の3分の2程度しか残存していない。

規模は、長軸3.56m＋α、短軸3.76m、北辺残存するところで3.60m、南辺残存するところで3.04m、西辺3.48mを測る。床面積は、残存範囲で7.54m²である。主軸方位は、N－88.5°－Eを指す。壁高は、北壁31.7～39.0cm、南壁8～31.8cm、西壁19.0～47.0cm、平均27.8cmである。

内部施設は、周溝を検出したが柱穴、貯蔵穴は確

認されなかった。周溝は、西辺と北辺の一部の壁下を巡る。規模は径10～12cm、深度３cmである。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

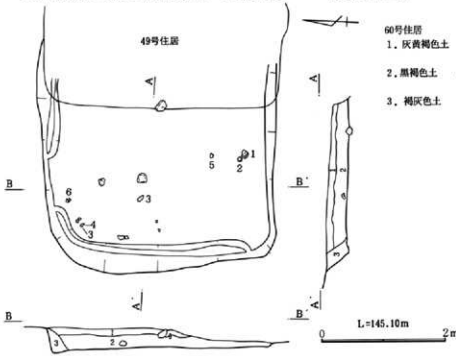
カマドは、重複する49号住居によって欠くと考えられる。

掘り方は、確認できなかった。

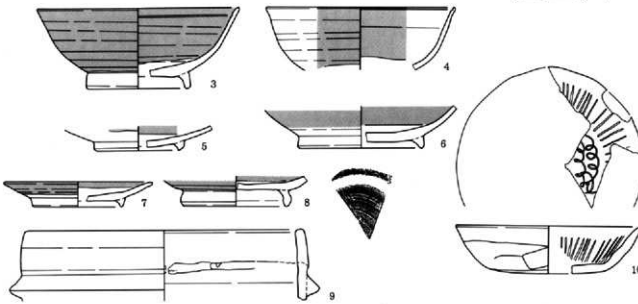
埋没状態は、壁際の三角堆積などから自然埋没であると考えられる。

遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器など24点が出土している。出土状態は、１、２、５、９の須恵器椀、灰釉陶器椀、須恵器羽釜が床面から出土している。

本住居の時期は、出土遺物より10世紀第３四半期に比定される。



第214図　60号住居平面・断面図



第215図　60号住居出土遺物図

61号住居

本住居は、調査区の北東部、86区D－16グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、49号住居・60号住居と重複する。新旧関係は、本住居のほうが前出である。

形態は、ほぼ長方形を呈する。残存状態は、南辺際を重複する49号住居によって欠き、確認面から床面まで残存高が低いためあまり良好な状態ではない。

規模は、長軸3.40m＋α、短軸2.84m、北辺2.88m、東辺3.24m、西辺3.44mを測る。床面積は、残存範囲で8.45m²である。主軸方位は、N－90°－Eを指す。壁高は、北壁9.0～11.0cm、東壁1.0～7.7cm、西壁6.0～11.0cm、平均7.6cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

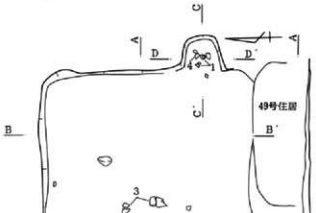
カマドは、東辺の東南角よりに構築されている。残存状態は、確認面から5cm程度の深さしかないため形態が解る程度しか残っていない。規模は、全長55.5cm、幅73.5cm、燃焼部幅58.5cm、燃焼部の一部から煙道にかけては壁外に45.0cm延びる。

掘り方は、確認できなかった。

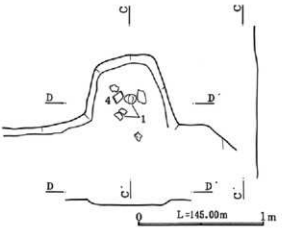
埋没状態は、確認面から床面まで残存高が低いため判断ができない。

遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器など73点が出土している。出土状態は、1、4の黒色土器椀と須恵器羽釜がカマド、3の灰釉陶器長頸壺が床面から出土している。

本住居の時期は、出土遺物より10世紀第2四半期に比定される。

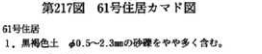


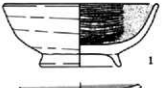
第216図　61号住居平面・断面図



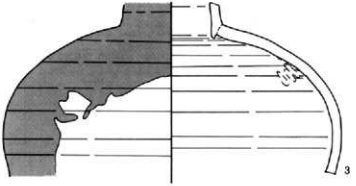
第217図　61号住居カマド図

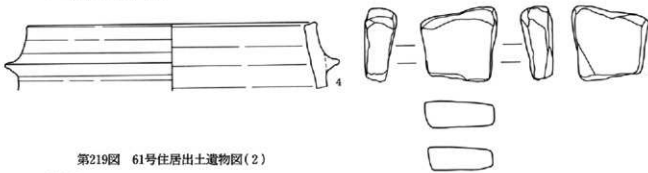
61号住居
1．黒褐色土　φ0.5～2.3mmの砂礫をやや多く含む。





第218図　61号住居出土遺物図（1）





第219図　61号住居出土遺物図(2)

62号住居

本住居は、調査区の北東部、86区C・D―15グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、48号住居・49号住居と重複する。新旧関係は、本住居のほうが前出である。

形態は、ほぼ長方形を呈する。残存状態は、南辺際を重複する48号住居により欠くが、残存部分では確認面から床面まで残存高が多少深いため比較的良好である。

規模は、長軸3.12m＋α、短軸2.92m、北辺3.04m、東辺3.04m、西辺2.60mを測る。床面積は、残存部分で7.59m²である。主軸方位は、N―78.1°―Eを指す。壁高は、北壁25.5～30.5cm、東壁8.5～9.0cm、西壁18.3～21.5cm、平均18.9cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

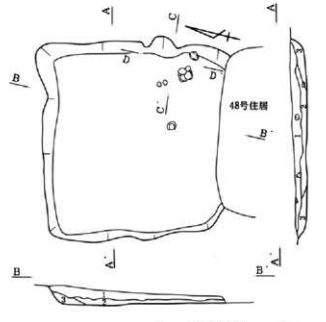
カマドは、東辺の中ほどよりやや南よりに構築されている。残存状態は、明確でなく床面に広がる燃焼部の焼土範囲によって範囲が推定できる程度である。規模は、全長33.0cm、幅52.5cmである。

掘り方は、確認できなかった。

埋没状態は、レンズ状の堆積が観察できることから自然埋没であると考えられる。

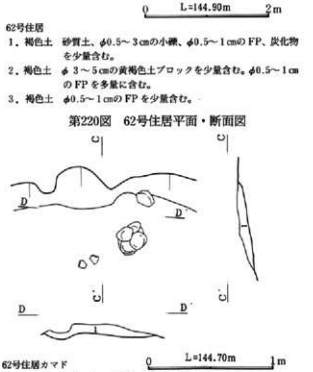
遺物は、土師器、須恵器など19点と少ない。出土状態は、大部分が埋没土中からの小片で実測可能なものはない状態である。

本住居の時期は、出土遺物より判断ができないが重複する48号住居が10世紀第1四半期に比定されることからそれ以前の時期である。



62号住居
1．褐色土　砂質土、φ0.5～3cmの小礫、φ0.5～1cmのFP、炭化物を少量含む。
2．褐色土　φ3～5cmの黄褐色土ブロックを少量含む。φ0.5～1cmのFPを多量に含む。
3．褐色土　φ0.5～1cmのFPを少量含む。

第220図　62号住居平面・断面図



62号住居カマド
1．褐色土　φ0.5～1cmのFP、炭化物を多く含む。

第221図　62号住居カマド図

63号住居

本住居は、調査区の北東部、85区T－15・16、86区A－15・16グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、53号住居・54号住居・73号住居と重複する。新旧関係は、53号住居・54号住居が前出で73号住居より後出である。

形態は、ほぼ長方形を呈すると推定される。残存状態は、重複する53号住居・54号住居によって東南側を欠くが、残存部分は確認面から床面まで残存高が多少深いため比較的良好な状態である。

規模は、長軸5.08m、短軸3.60m、北辺3.60m、東辺残存するところでは1.28m、南辺残存するところでは2.76m、西辺5.08mを測る。床面積は、推定15.70m²である。主軸方位は、N－92°－Eを指す。壁高は、北壁14.8～25.0cm、南壁11.0～18.0cm、西壁18.0～25.0cm、平均19.1cmである。

内部施設は、周溝を検出したが、柱穴と貯蔵穴は確認されなかった。周溝は、残存部分の各辺の壁下を巡る。規模は幅12.0～14.0cm、深度2.0～3.0cmである。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

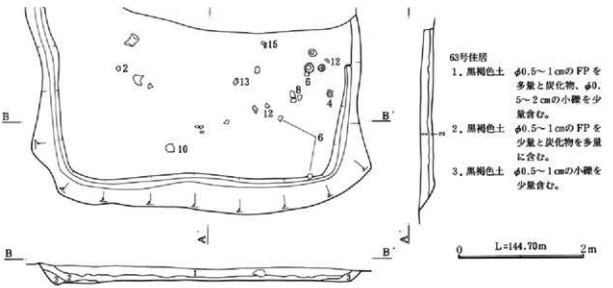
カマドは、残存部分では確認されなかった。

掘り方は、確認できなかった。

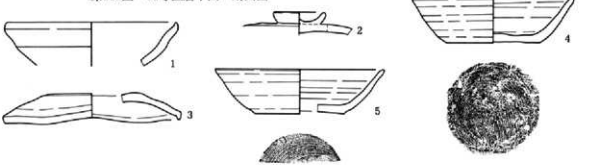
埋没状態は、レンズ状の堆積が観察できることから自然埋没であると考えられる。

遺物は、土師器、須恵器など558点が出土している。出土状態は、南半にやや多く出土している。4、6、8、12の須恵器杯・椀、土師器甕が床面から出土している。

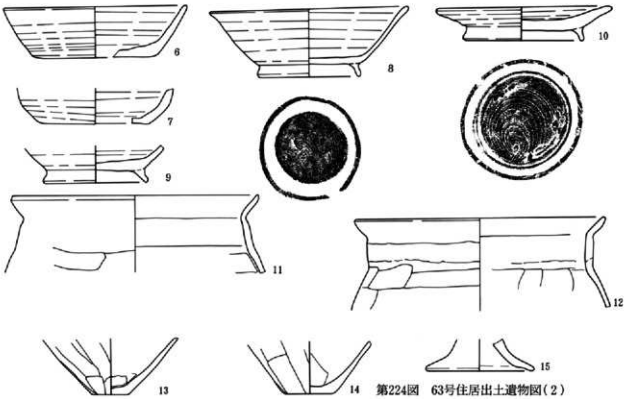
本住居の時期は、出土遺物より9世紀第3四半期に比定される。



第222図　63号住居平面・断面図



第223図　63号住居出土遺物図（1）



第224図　63号住居出土遺物図(2)

64号住居

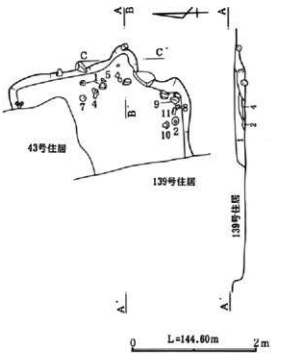
本住居は、調査区の東より、86区B・C－11グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、43号住居・139号住居と重複する。新旧関係は、本住居のほうが前出である。

形態は、方形ないしは長方形を呈すると推定されるが、東辺はカマドの両側で20cmほどのずれが見られる。残存状態は、重複する43号住居・139号住居によって6割程度を欠き残存部分も確認面から床面まで残存高が低いためあまり良好な状態ではない。

規模は、長軸2.80m、短軸1.72m＋αで東辺2.84m、その他の辺は残存部分、北辺0.40m、南辺1.24m、西辺1.36mを測る。床面積は、残存部分で2.62m²である。主軸方位は、N－88°－Eを指す。壁高は、北壁4.5～10.0cm、東壁6.0～11.5cm、南壁11.0～17.0cm、平均9.2cmである。

内部施設は、残存部分では柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

カマドは、東辺の中ほどよりやや南に構築されている。残存状態は、天井部が崩落し、袖が流失して



64号住居
1．にぶい黄褐色土　φ1～2mmの砂礫、黄褐色粒多量に含む。
2．にぶい黄褐色土　φ0.5～5mmの黄褐色粒を若干含む。
3．灰黄褐色土　焼土塊を多量に含む。
4．灰黄褐色土　φ0.5～1.2mmの砂礫を含む。

第225図　64号住居平面・断面図

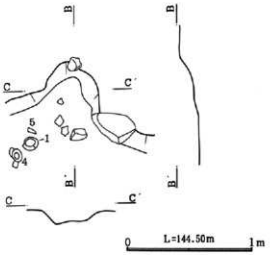
いる。規模は、全長37.5cm、幅46.5cm、燃焼部の一部から煙道にかけては壁外に25.5cm延びる。

掘り方は、確認できなかった。

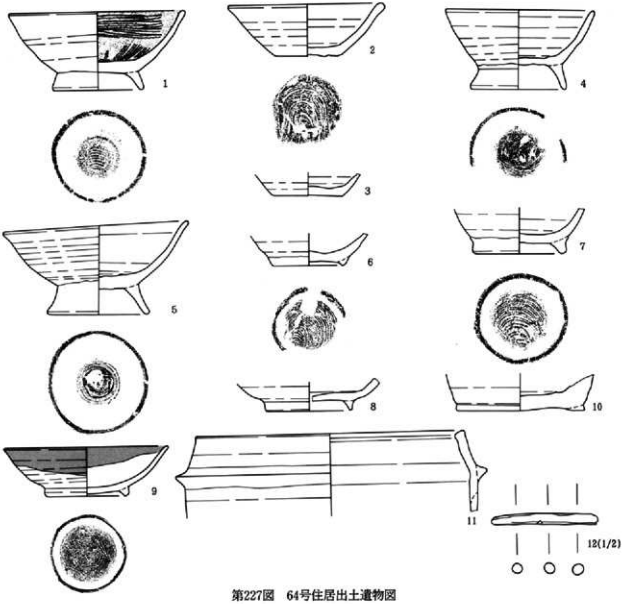
埋没状態は、レンズ状の堆積が観察できることから自然埋没であると考えられる。

遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器、鉄器など94点が出土している。出土状態は、カマド前部と東南角に集中した出土が見られ、2、4、5、7、9、10の須恵器椀、灰釉陶器椀・長頸壺が床面から出土している。

本住居の時期は、出土遺物より10世紀第2～3四半期に比定される。



第226図　64号住居カマド図



第227図　64号住居出土遺物図

65号住居

本住居は、調査区の東より、86区A・B—10・11グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、44号住居と重複する。新旧関係は、本住居のほうが前出である。

形態は、東辺と西辺が南に開く台形状を呈すると推定される。残存状態は、重複する44号住居よって全体の３分の１程度を欠き、確認面から床面まで残存高が低いためあまり良好な状態ではない。

規模は、長軸4.33m＋α、短軸2.64m、北辺2.33m、東辺は残存するところでは3.76m、西辺は残存するところでは2.00mを測る。床面積は、推定7.90m²である。主軸方位は、N—91°—Eを指す。壁高は、北壁0.5～3.2cm、東壁5.5～13.0cm、西壁6.0～15.0cm、平均7.2cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

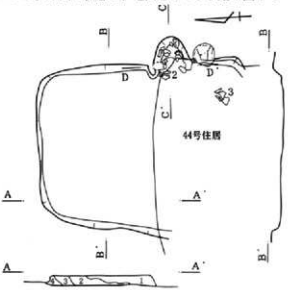
カマドは、東辺の中ほどよりやや南よりに構築されている。残存状態は、天井部が崩落し、右袖が流失している。規模は、全長57.0cm、幅61.5cm、焚口幅55.5cm、燃焼部の一部から煙道にかけては壁外に37.5cm延びる。袖は φ10cm、長さ20cmの円礫を補強に使用している。

掘り方は、確認できなかった。

埋没状態は、明確ではないがレンズ状に近い堆積が観察できることから自然埋没であると考えられる。

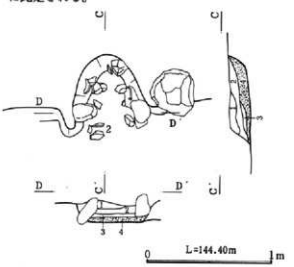
遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器など231点が出土している。出土状態は、２の土師器甕がカマドから出土している。

本住居の時期は、出土遺物より10世紀第１四半期に比定される。



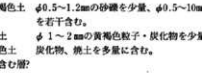
65号住居
1．にぶい黄褐色土　φ0.5～2.3mmの砂礫、黄褐色粒を若干含む。
2．黒褐色土　φ0.5～2.3mmの砂礫を少量含む。
3．にぶい黄褐色土　φ１～２mmの砂礫、黄褐色粒をやや多く含む。
4．黄褐色土　φ１mm以下の砂礫を極少量含む。

第228図　65号住居平面・断面図

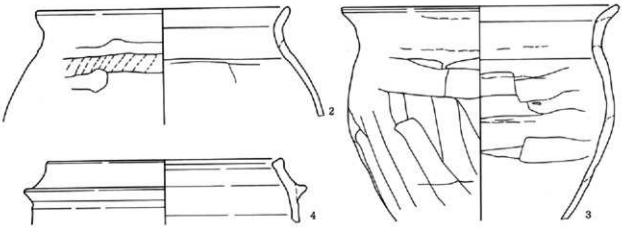


65号住居カマド
1．灰黄褐色土　φ0.5～1.2mmの砂礫を少量、φ0.5～10mmの焼土粒を若干含む。
2．褐色土　φ１～２mmの黄褐色粒子・炭化物を少量含む。
3．黒褐色土　炭化物、焼土を多量に含む。
4．灰を含む層?

第229図　65号住居カマド図

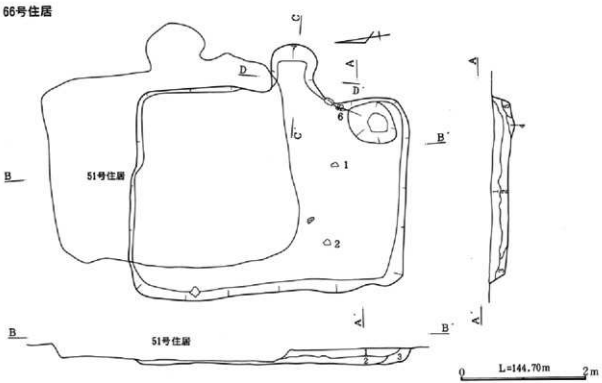


第230図　65号住居出土遺物図(１)



第231図　65号住居出土遺物図（2）

66号住居



66号住居

1．灰黄褐色土　φ0.5～2.3mmの砂礫、黄褐色粒を多量に含む。
2．黒褐色土　φ0.5～1.2mmの砂礫、黄褐色粒を若干含む。
3．褐色土　φ 1～2mmの黄褐色粒を多量に含む。
4．にぶい黄褐色土　φ0.5～2.3mmの黄褐色粒を多く、φ 1～3mmの焼土を若干含む。
5．黒褐色土　φ 1～2mmの砂礫を若干含む。

第232図　66号住居平面・断面図

本住居は、調査区の北東部、86区B—14・15グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、51号住居・90号住居と重複する。新旧関係は、51号住居より前出で90号住居より後出である。

形態は、長方形を呈する。残存状態は、北東部の上半を重複する51号住居により欠くがその他は比較的良好な状態である。

規模は、長軸4.38m、短軸3.32m、北辺3.16m、東辺4.08m、南辺2.88m、西辺4.16mを測る。床面積は、12.26m²である。主軸方位は、N—90°—Eを指す。

壁高は、北壁4.5～6.0cm、東壁2.7～12.2cm、南壁19.5～25.0cm、西壁19.0～29.4cm、平均14.8cmである。

内部施設は、貯蔵穴を検出したが、柱穴、周溝は確認されなかった。貯蔵穴は東南角に位置し、形態は台形状に近い楕円形を呈す。規模は径67×66cm、深度23cmである。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

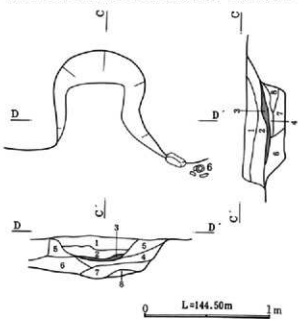
カマドは、東辺の南よりに構築されている。残存状態は、天井部が崩落し、袖も流失している。規模は、全長82.5cm、幅87.0cm、燃焼部の一部から煙道にかけては壁外に73.5cm延びる。

掘り方は、確認できなかった。

埋没状態は、レンズ状の堆積が観察できることから自然堆積であると考えられる。

遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器など305点が出土している。出土状態は、ほとんどが埋没土中から出土している。

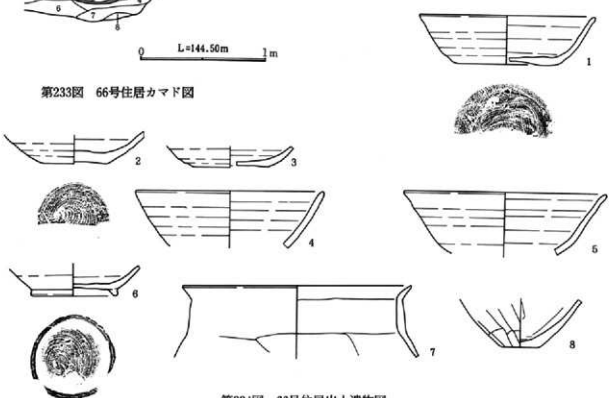
本住居の時期は、出土遺物より９世紀第３四半期に比定される。



第233図　66号住居カマド図

66号住居カマド

1．灰黄褐色土	φ0.5～2.3mmの砂礫・小石・黄褐色粒子を若干含む。
2．黒褐色土	φ１mm以下の微細な砂礫を少量含む。焼土、炭化物を若干含む。
3．黒褐色土	炭化物。
4．にぶい黄褐色土	φ0.5～2.3mmの焼土を多量に含む。
5．にぶい黄褐色土	φ1mm以下の砂礫、φ0.5～2.3mmの炭化物をやや多く含む。焼土を少量含む。
6．にぶい黄褐色土	灰、焼土をやや多く含む。
7．灰黄褐色土	炭化物、焼土を多量に含む。
8．黄褐色土	砂粒を多く含む。



第234図　66号住居出土遺物図

67号住居

本住居は、調査区の北東部、86区C－16・17グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、102号住居と重複する。新旧関係は、本住居のほうが後出である。

形態は、ほぼ長方形を呈する。残存状態は、確認面から床面まで残存高が25cmほどあるため比較的良好な状態である。

規模は、長軸3.12m、短軸2.80m、北辺2.68m、東辺3.12m、南辺2.76m、西辺3.08mを測る。床面積は、7.28m²である。主軸方位は、N－95°－Eを指す。壁高は、北壁23.0～30.5cm、東壁15.0～22.0cm、南壁18.5～28.5cm、西壁27.5～33.0cm、平均24.8cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

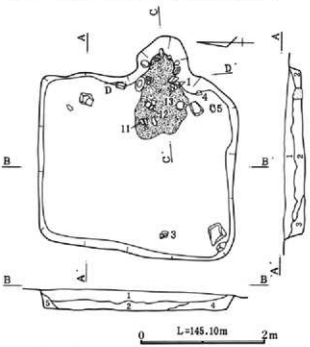
カマドは、東辺の中ほどよりやや南に構築されている。残存状態は、天井部が崩落し、袖が流失している。規模は、全長90.0cm、幅105.0cm、燃焼部の一部から煙道にかけては壁外に60.0cm延びる。燃焼部には灰の堆積が見られ、その範囲はカマド残存部の前部に50cmほどの広がりが見られることからカマド本来の全長は150cmほどであったと推定される。

掘り方は、確認できなかった。

埋没状態は、レンズ状の堆積が観察できることから自然堆積であると考えられる。

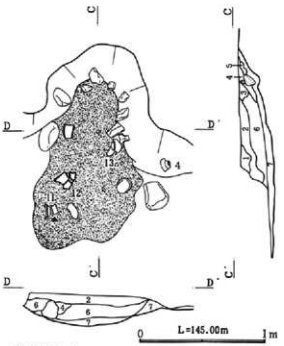
遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器、石製品など291点が出土している。出土状態は、1、4、6、10～12の黒色土器椀、須恵器椀・羽釜がカマド、5の須恵器椀が床面から出土している。

本住居の時期は、出土遺物より10世紀第3四半期に比定される。



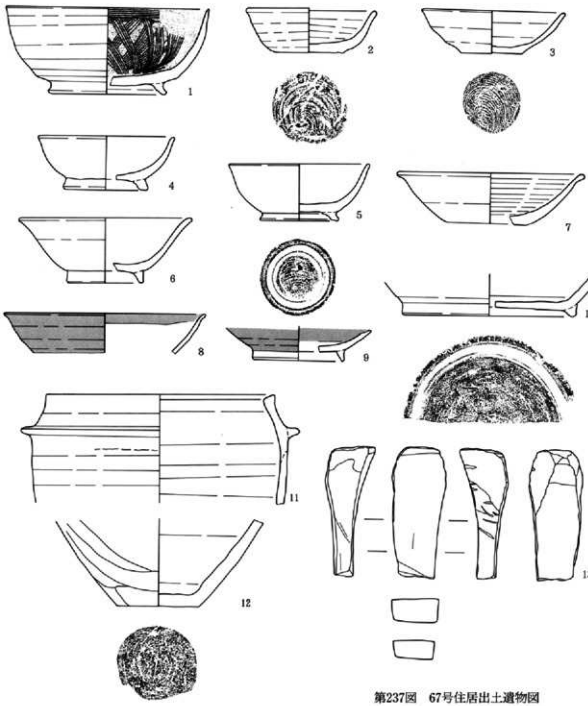
67号住居
1．黒褐色土　φ0.5～1cmのFPを多く含む。黄褐色粒を少量含む。
2．黒褐色土　φ0.5～2cmの黄褐色粒、φ0.5～1cmのFPを少量含む。
3．黒褐色土　φ0.5～1cmのFPを少量とφ0.5～2cmの黄褐色粒を極少量含む。
4．黒褐色土　φ0.5～3cmの小礫を多量に含む。
5．黒褐色土　粘質土、φ0.5～2cmのFPを少量含む。

第235図　67号住居平面・断面図



67号住居カマド
1．黒褐色土　φ0.5～1cmのFPを少量含む。
2．黒褐色土　φ0.5～1cmのFPを多く、炭化物・褐色土粒を少量含む。
3．黒褐色土　炭化物、黒色灰を多量に、FPを少量含む。堆積はもろい。
4．黒褐色土　φ0.5～1cmのFPを多く、焼土粒を少量含む。
5．明褐色土　焼土ブロック。
6．黒褐色土　炭化物を少量、褐色土粒を多く含む。
7．黒褐色土　炭化物、焼土を多く含む。（掘り方）

第236図　67号住居カマド図



第237図　67号住居出土遺物図

68号住居

本住居は、調査区の北より、86区H—14・15グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、84号住居と重複する。新旧関係は、本住居のほうが後出である。

形態は、南辺・西辺が北辺・東辺に比べて20～30cmほど長いがほぼ長方形を呈する。残存状態は、確認面から床面まで残存高が低いが比較的良好な状態である。

規模は、長軸2.92m、短軸2.84m、北辺2.60m、東辺2.72m、南辺2.84m、西辺3.04mを測る。床面積は、6.70㎡である。主軸方位は、N—85°—Eを指す。壁高は、北壁6.0～22.0cm、東壁6.0～17.0cm、南壁5.7～14.0cm、西壁9.0～14.7cm、平均14.2cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されな

かった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

カマドは、東辺の中ほどよりやや南よりに構築されている。残存状態は、天井部が崩落し、袖が流失している。

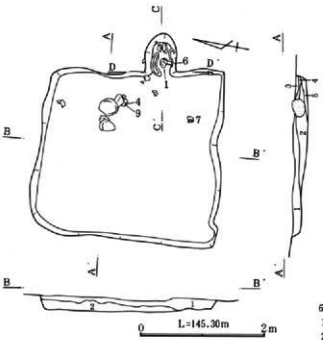
規模は、全長69.0cm、幅55.5cm、燃焼部幅31.5cm、燃焼部の一部から煙道にかけては壁外に57.0cm延びる。

掘り方は、確認できなかった。

埋没状態は、北・東から土砂が流入したレンズ状の堆積が観察できることから自然埋没であると考えられる。

遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器など135点が出土している。出土状態は、1、6、7の土師器杯、須恵器椀・皿がカマド、4、9の須恵器椀・甕が床面から出土している。

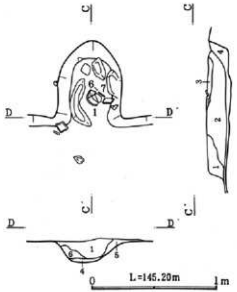
本住居の時期は、出土遺物より9世紀第3四半期に比定される。



68号住居

1．灰黄褐色土　φ0.5～1.2mの砂礫、黄褐色粒を少量含む。
2．灰黄褐色土　1層に類似、1より砂礫が小さい。
3．にぶい黄褐色土　炭化物を少量含む。
4．灰黄褐色土　φ0.5～2.3mの砂礫を若干含む。
5．灰黄褐色土　φ0.5～2.3mの砂礫をやや多くと炭化物、焼土含む。

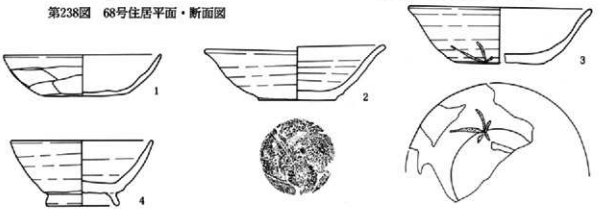
第238図　68号住居平面・断面図



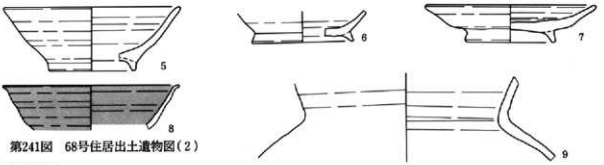
68号住居カマド

1．にぶい黄橙色土　φ0.5～1.2mの砂礫・炭化物を若干含む。
2．黒褐色土　φ0.5～5mmの炭化物・砂礫を若干含む。φ0.5～2.3mの焼土をやや多く含む。
3．灰黄褐色土　φ1mm以下の微小な砂礫を少量含む。
4．にぶい黄褐色土　φ0.5～2.3mの砂礫・炭化物をやや多く含む。
5．にぶい黄褐色土　φ0.5～1mmの微細な砂礫を極少量含む。
6．灰黄褐色土　φ1～3mmの炭化物・焼土を少量含む。

第239図　68号住居カマド図



第240図　68号住居出土遺物図(1)



第241図　68号住居出土遺物図(2)

69号住居

本住居は、調査区の北より、86区Ⅰ－15・16グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、104号住居と近接するが確認面での重複は認められず単独で占地する。

形態は、東辺が西辺より50cmほど長い台形状を呈する。残存状態は、確認面から床面まで残存高が低いが比較的良好な状態である。

規模は、長軸3.32m、短軸2.40m、北辺2.04m、東辺3.16m、南辺2.38m、西辺2.8mを測る。床面積は、6.28m²である。主軸方位は、N－91.5°－Eを指す。壁高は、北壁11.5～16.3cm、東壁11.0～13.6cm、南壁7.0～18.5cm、西壁13.5～15.5cm、平均13.4cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

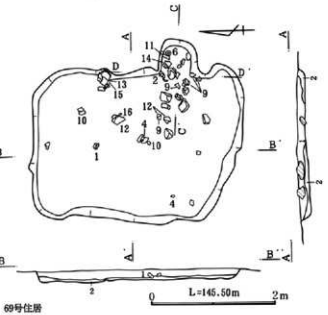
カマドは、東辺の南よりに構築されている。残存状態は、天井部が崩落し、袖が流失している。規模は、全長60.0cm、幅72.0cm、燃焼部幅48.0cm、燃焼部の一部から煙道にかけては壁外に42.0cm延びる。

掘り方は、確認できなかった。

埋没状態は、レンズ状の堆積が観察できることから自然埋没であると考えられる。

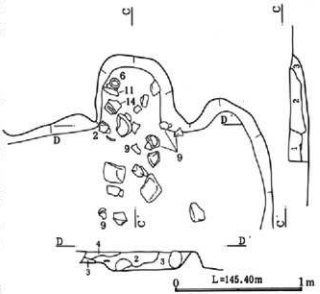
遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器など151点が出土している。出土状態は、カマドとカマド前部にまとまった出土が見られ、2、6、8、11、14の須恵器椀・羽釜、灰釉陶器椀がカマド、4、9、10、12、13、15、16の須恵器椀・羽釜、土師器甕が床面から出土している。

本住居の時期は、出土遺物より10世紀第1四半期に比定される。



69号住居
1．灰黄褐色土　φ0.5～2.3mmの礫を多く、φ0.5～5mmの焼土粒を極少量含む。
2．黒褐色土　φ0.5～1.2mmの礫、φ1mm以下の黄褐色粒、炭化物を若干含む。

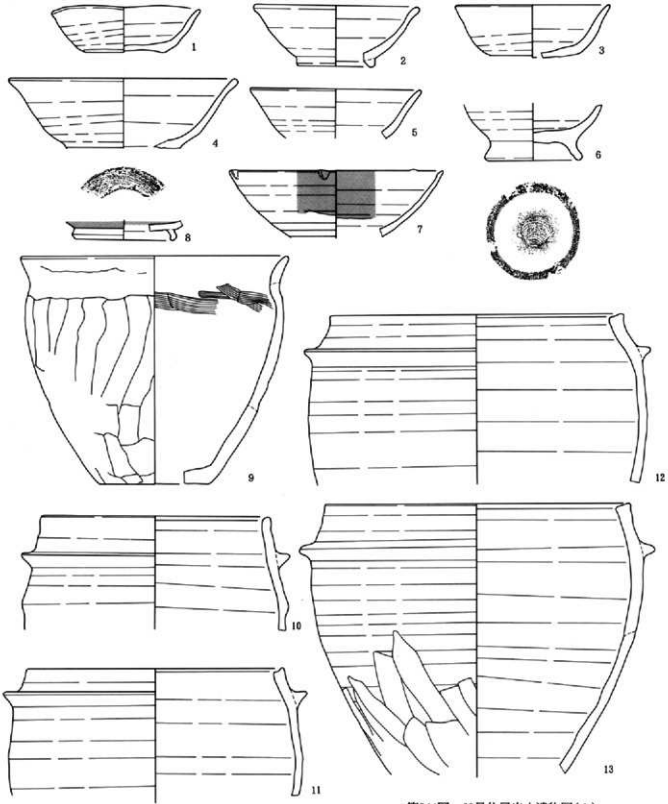
第242図　69号住居平面・断面図



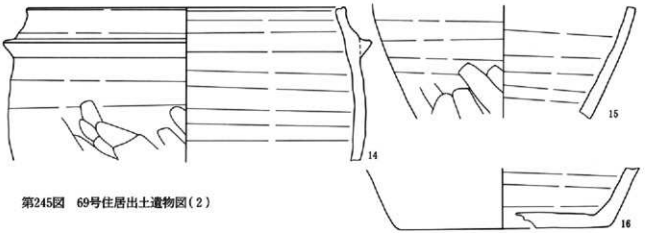
第243図　69号住居カマド図

69号住居カマド

1．黒褐色土　　φ0.5～8㎜の炭化物粒、φ0.1cm程のFPを多量に含む。
2．にぶい黄褐色土　やや粘質土、φ0.2～0.5cmの白色土粒・炭化物粒を多量に含む。
3．黒褐色土　　φ0.5～8㎜の炭化物粒を多量に、焼土粒を少量含む。
4．暗褐色土　　φ 1～3㎜の白色粘土粒・黄褐色土粒・炭化物粒を含む。



第244図　69号住居出土遺物図(1)



第245図　69号住居出土遺物図（2）

70号住居

本住居は、調査区の北部、86区E—17・18グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、91号住居と重複する。新旧関係は、本住居のほうが後出である。

形態は、北西角・南西角にやや丸みが見られるがほぼ長方形を呈する。残存状態は、確認面から床面まで残存高が35cm前後と深いため比較的良好な状態である。

規模は、長軸3.68m、短軸2.80m、北辺2.68m、東辺3.48m、南辺2.84m、西辺3.64mを測る。床面積は、8.43m²である。主軸方位は、N—92°—Eを指す。壁高は、北壁31.5～38.0cm、東壁15.0～29.0cm、南壁32.8～42.3cm、西壁37.8～46.0cm、平均34.1cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

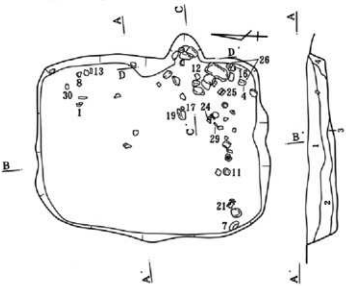
カマドは、東辺の中ほどよりやや南よりに構築されている。残存状態は、天井部が崩落し、袖が流失している。規模は、全長48.0cm、幅63.0cm、燃焼部幅40.5cm、燃焼部の一部から煙道にかけては壁外に34.5cm延びる。燃焼部と袖には補強に礫が使用されているが袖の流失によりカマド右側方向に転倒している。

掘り方は、確認できなかった。

埋没状態は、レンズ状の堆積が観察できることから自然埋没であると考えられる。

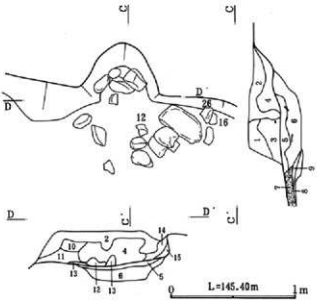
遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器、鉄器など767点が出土している。出土状態は、カマド前部と東南角よりにまとまった出土が見られるが多くは床面よりやや上位の埋没土中である。その中でも5、12、28の須恵器椀・羽釜がカマド、16、21、25、26の須恵器椀・羽釜、灰釉陶器椀が床面からの出土である。

本住居の時期は、出土遺物より10世紀第2四半期に比定される。



70号住居
1．灰黄褐色土　φ0.5～2.3mmの砂礫をやや多く含む。
2．黒褐色土　φ0.5～1.2mmの砂礫、焼土粒を少量含む。
3．褐灰色土　φ0.5～2.3mmの砂礫を多くとφ1mm以下の砂粒を多量に含む。
4．にぶい黄褐色土　φ0.5～2.3mmの砂礫をやや多くとφ2～5mmの炭化物をやや多く含む。

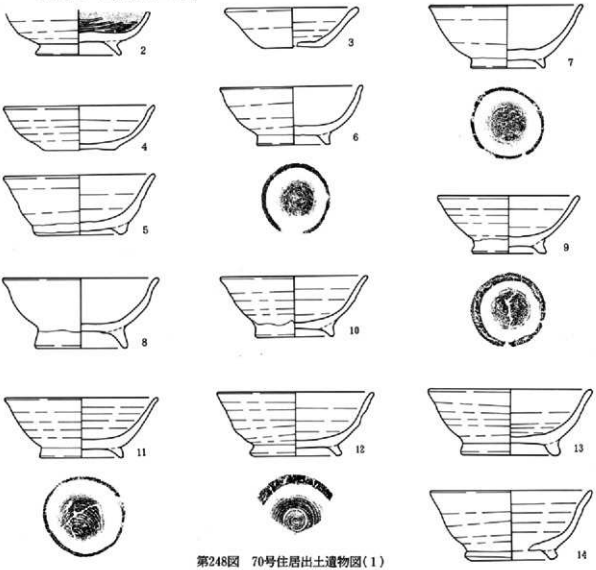
第246図　70号住居平面・断面図



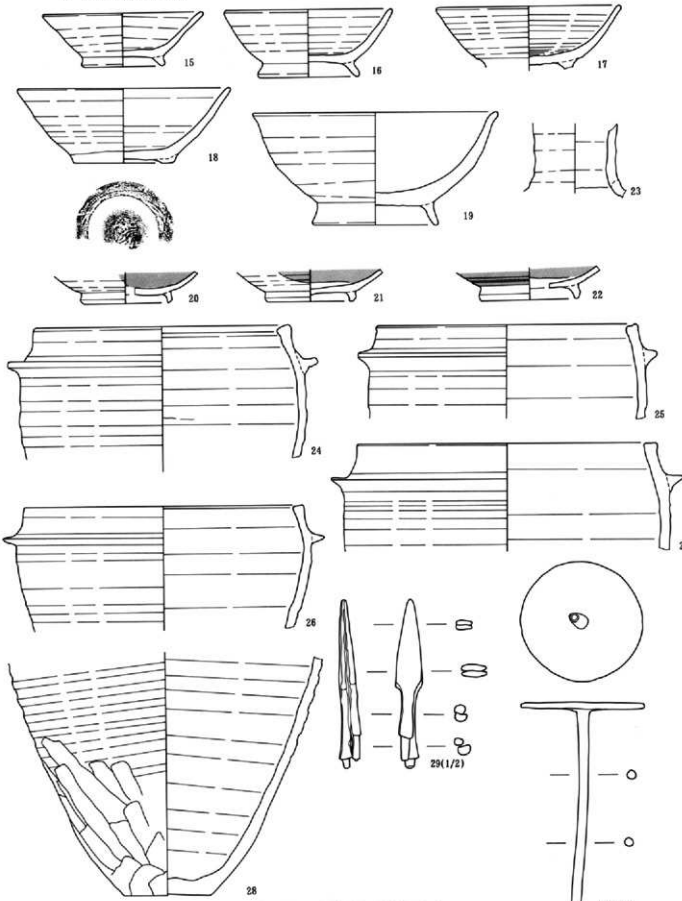
70号住居カマド

1．黒褐色土　φ0.5～1.2mmの砂礫・黄橙色粒子を若干含む。
2．灰黄褐色土　φ0.5～1.2mmの砂礫・小石・焼土を少量含む。
3．にぶい黄橙色土　φ0.5～2.3mmの砂礫・小石をやや多く含む。
4．にぶい黄橙色土　φ0.5～1mmの焼土粒をやや多く、炭化物を若干含む。
5．暗褐色土　φ0.5～1cmのFP、焼土粒を多く含む。
6．暗褐色土　φ0.5～1cmのFP、炭化物を多く含む。
7．黒褐色土　灰。
8．黄褐色土　粘質土、FPを少量含む。カマド部材。
9．褐色土　灰を多量に含む。堆積はもろい。
10．黒褐色土　φ0.5～1mmの砂礫・小石をやや多く含む。
11．灰黄褐色土　φ1mm以下の焼土粒を極少量含む。
12．にぶい黄褐色土　φ0.5～1.2mmの砂礫・炭化物をやや多く含む。
13．黒褐色土　φ1mm以下の砂粒を若干含む。
14．黒褐色土　焼土粒子を多量に含む。
15．にぶい黄褐色土　φ0.5～2.3mmの砂礫・小石を多く含む。

第247図　70号住居カマド図



第248図　70号住居出土遺物図(1)



第249図　70号住居出土遺物図（２）

71号住居

本住居は、調査区の北東部、86区D－17グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、87号住居・91号住居・102号住居と重複する。新旧関係は、本住居のほうが後出である。

形態は、南辺が北辺に比べて70cmほど短いがほぼ長方形を呈する。残存状態は、確認面から床面まで残存高が低いが比較的良好な状態である。

規模は、長軸4.16m、短軸3.38m、北辺3.20m、東辺4.04m、南辺2.52m、西辺3.92mを測る。床面積は、11.65m²である。主軸方位は、N－90.7°－Eを指す。壁高は、北壁17.0～21.0cm、東壁18.0～19.5cm、南壁15.0～20.2cm、西壁18.8～24.3cm、平均19.3cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

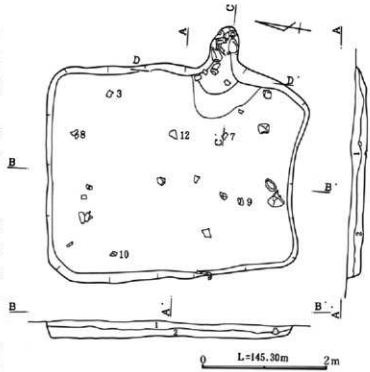
カマドは、東辺の南よりに構築されている。残存状態は、天井部が崩落し、袖が流失している。規模は、全長142.5cm、幅79.5cm、燃焼部幅57.0cm、燃焼部の一部から煙道にかけては壁外に67.5cm延びる。燃焼部には浅い掘り込みが見られ、奥には補強用の礫が据えられている。

掘り方は、確認できなかった。

埋没状態は、レンズ状の堆積が観察できることから自然埋没であると考えられる。

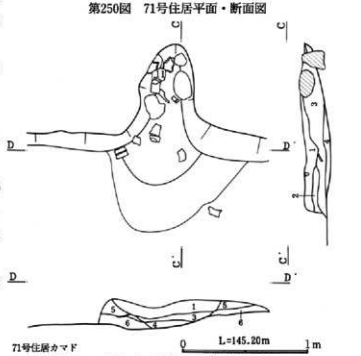
遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器、鉄器など656点が出土している。出土状態は、全体的に床面よりやや上位の埋没土中より出土であるが、11の須恵器羽釜がカマドから出土している。

本住居の時期は、出土遺物より10世紀第1四半期に比定される。



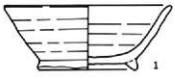
71号住居
1．褐灰色土　φ0.5～3cmの砂礫、φ0.5～2mmの黄褐色粒をやや多く含む。
2．黒褐色土　φ0.5～3cmの砂礫、φ0.5～2mmの褐色粒を少量含む。

第250図　71号住居平面・断面図

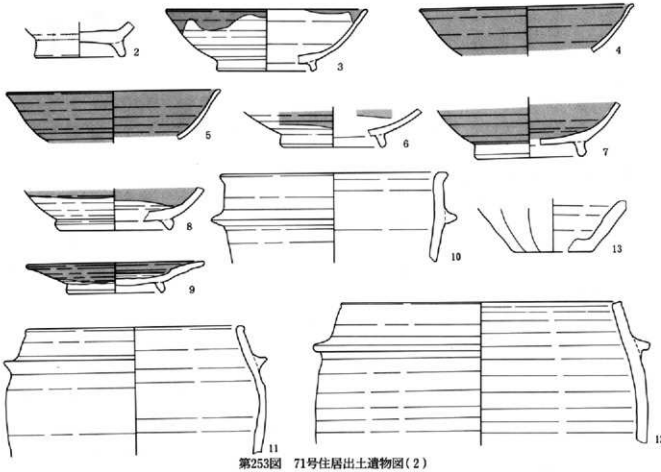


71号住居カマド
1．灰黄褐色土　φ 1～4mmの砂礫・小石をやや多く含む。
2．灰黄褐色土　φ0.5～2.3mmの砂礫・小石・炭化材をやや多く含む。
3．灰黄褐色土　炭化材・焼土をやや多く含む。
4．黒褐色土　炭化物を大量に含む灰。
5．にぶい黄褐色土　φ0.5～2.3mmの砂礫・焼土をやや多く含む。
6．灰黄褐色土　φ0.5～1mmの砂礫・小石を少量含む。

第251図　71号住居カマド図



第252図　71号住居出土遺物図(1)



第253図　71号住居出土遺物図（2）

72号住居

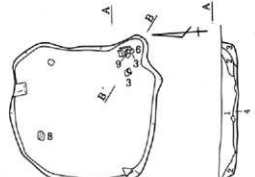
本住居は、調査区の中央部、86区F・G－11・12グリッドに位置する。他遺構との重複はみられず単独で占地する。

形態は、隅丸方形を呈する。残存状態は、確認面から床面まで残存高が低いが比較的良好な状態である。

規模は、長軸2.28m、短軸2.20m、北辺2.12m、東辺2.32m、南辺1.84m、西辺1.92mを測る。床面積は、4.01m²である。主軸方位は、N－104.5°－Eを指す。壁高は、北壁15.5～22.0cm、東壁17.0～22.0cm、南壁9.5～16.5cm、西壁21.5～24.5cm、平均18.6cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

カマドは、東辺の東南角よりに構築されている。残存状態は、天井部が崩落し、袖が流失している。



72号住居
1．灰黄褐色土　φ0.5～2.3mmの砂礫をやや多くとφ1～2mmの黄褐色粒を極少量含む。
2．灰黄褐色土　φ0.5～4.5mmの砂礫を少量と炭化物、焼土を若干含む。
3．にぶい黄橙色土　砂礫を大量に含む。
4．黒褐色土　炭化物、焼土を多く含む。

第254図　72号住居平面・断面図

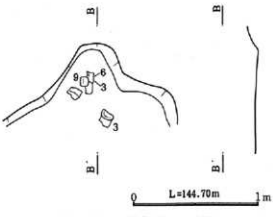
規模は、全長40.5cm、幅58.5cm、燃焼部幅57.0cm、燃焼部の一部から煙道にかけては壁外に25.5cm延びる。

掘り方は、確認できなかった。

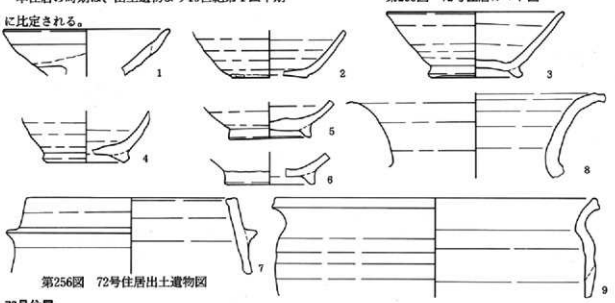
埋没状態は、レンズ状の堆積が観察できることから自然埋没であると考えられる。

遺物は、残存状態が比較的良好なわりには土師器、須恵器など83点しか出土していない。出土状態は、カマドにややまとまった出土が見られ、3、6、9の須恵器椀・甕が出土している。

本住居の時期は、出土遺物より10世紀第1四半期に比定される。



第255図　72号住居カマド図



第256図　72号住居出土遺物図

73号住居

本住居は、調査区の北東部、85区T－15・86区A－15グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、47号住居・53号住居・54号住居・63号住居・10号溝と重複する。新旧関係は、本住居のほうが重複するすべての遺構より前出である。

形態は、ほぼ方形を呈する。残存状態は、重複する住居により上半をそして10号溝によりカマド煙道部の一部を欠くが比較的良好な状態である。

規模は、長軸3.47m、短軸3.28m、北辺3.31m、東辺3.46m、南辺3.19m、西辺3.11mを測る。床面積は、9.42m²である。主軸方位は、N－89°－Eを指す。壁高は、北壁1.0～6.0cm、東壁1.0～6.5cm、南壁1.5～8.5cm、西壁2.0～11.0cm、平均4.5cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

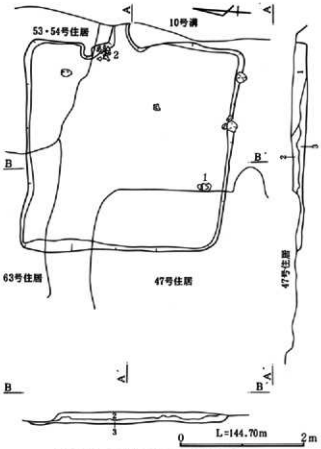
カマドは、東辺の中ほどよりやや西に構築されている。残存状態は、天井部が崩落し、右袖は流失しているが左袖の一部は残存している。規模は、全長50cm＋α、幅85.0cm、燃焼部の一部から煙道にかけては壁外に延びる。残存する左袖は、地山を掘り残して利用している。

掘り方は、確認できなかった。

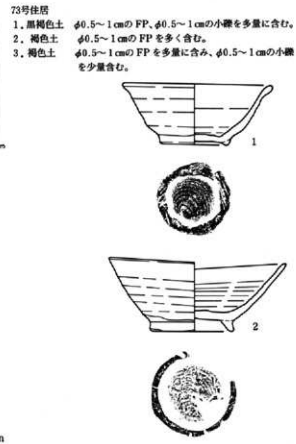
埋没状態は、レンズ状の堆積が観察できることから自然埋没であると考えられる。

遺物は、土師器、須恵器など11点が出土しているだけである。出土状態は、1、2とも床面より14cm上位の地点から出土している。

本住居の時期は、出土遺物より9世紀第4四半期に比定される。



第257図　73号住居平面・断面図



第258図　73号住居出土遺物図

74号住居

本住居は、調査区の東より、86区A・B―11・12グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、45号住居、52号住居、93号住居、101号住居と重複する。新旧関係は、45号住居、53号住居より前出で93号住居、101号住居より後出である。

形態は、長方形を呈すると想定される。残存状態は、重複する52号住居により西北部から中央部にかけての3分の2をそして45号住居により西南部の上半を欠くため僅かな範囲しか残存していない。

規模は、長軸3.28m、短軸3.20mで東辺3.16m、南辺3.16m、北辺、西辺は残存するところで0.48m、0.48mを測る。床面積は、推定9.01m²である。主軸方位は、N―95°―Eを指す。壁高は、北壁19.0cm、東壁17.3～18.5cm、南壁11.0～11.5cm、西壁14.0cm、平均15.6cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

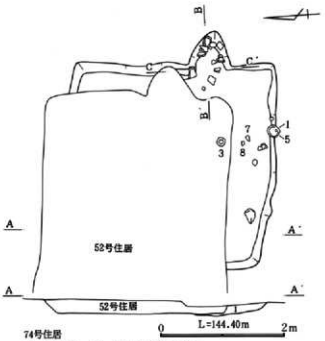
カマドは、東辺の中ほどより南よりに構築されている。残存状態は、天井部が崩落し、右袖は流失しているが左袖は残存している。規模は、全長76.5cm、幅66.0cm、左袖幅37.0cm、燃焼部の一部から煙道にかけては壁外に51.0cm延びる。袖と燃焼部壁面には、補強のために礫を使用している。

掘り方は、確認できなかった。

埋没状態は、確認面から床面まで残存高が低いため土層観察断面では1層しか観察できず判断ができない。

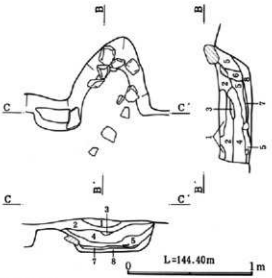
遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器、鉄器など100点が出土している。出土状態は、1、3、5、8の須恵器椀、灰釉陶器皿が床面から出土している。

本住居の時期は、出土遺物より10世紀第1四半期に比定される。



74号住居
1．黒褐色土　FP、黄褐色粒を多く含む。

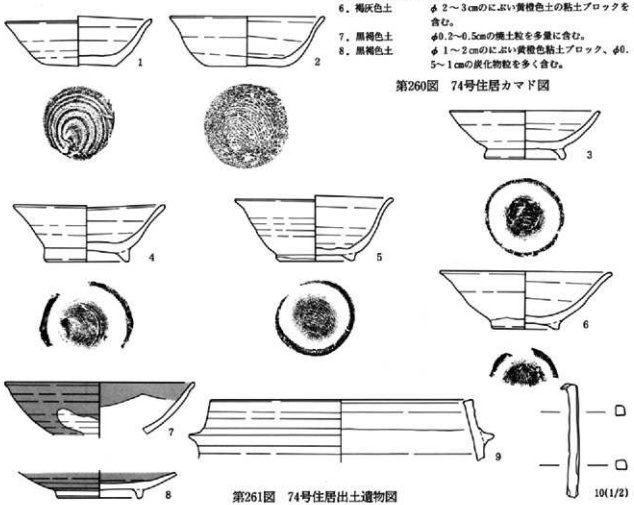
第259図　74号住居平面・断面図



74号住居カマド

1．にぶい黄橙色土	粘質土、黒褐色土を少量含む。
2．黒褐色土	やや砂質土、φ0.1～0.3cmの焼土粒・炭化物粒を含む。
3．にぶい黄褐色土	粘質土、ブロック状。
4．暗褐色土	にぶい黄褐色土、φ0.1～0.2cmの炭化物粒子を多量に含む。
5．にぶい黄橙色土	粘質土、φ0.2～0.5cmの炭化物粒を少量含む。
6．褐灰色土	φ 2～3cmのにぶい黄橙色土の粘土ブロックを含む。
7．黒褐色土	φ0.2～0.5cmの焼土粒を多量に含む。
8．黒褐色土	φ 1～2cmのにぶい黄橙色粘土ブロック、φ0.5～1cmの炭化物粒を多く含む。

第260図　74号住居カマド図



第261図　74号住居出土遺物図

75号住居

本住居は、調査区の北端、86区F－17・18グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、57号住居、土坑と重複する。新旧関係は、本住居のほうが前出である。

形態は、長方形を呈する。残存状態は、西辺側の上部を重複する57号住居によって欠き確認面から床面まで残存高が低いためあまり良好な状態ではない。

規模は、長軸3.56m、短軸2.92m、北辺2.92m、東辺3.48m、南辺2.88m、西辺3.52mを測る。床面積は、9.16m²である。主軸方位は、N－89°－Eを指す。壁高は、北壁4.0～19.4cm、東壁8.5～15.0cm、南壁10.5～15.7cm、西壁3.0～12.5cm、平均11.0cmである。

内部施設は、貯蔵穴は検出したが、柱穴、周溝は確認されなかった。貯蔵穴は、東南角に位置し、形態は楕円形を呈す。規模は径56.0×32.0cm、深度25.0cmである。内部からは φ20cmの礫と5、13の須恵器椀・羽釜が出土した。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

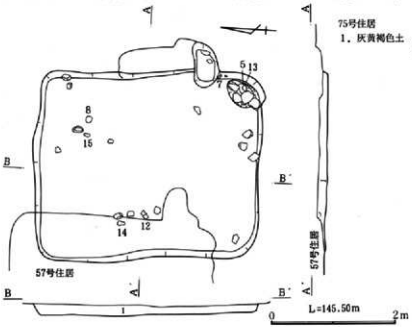
カマドは、東辺の南よりに構築されている。残存状態は、天井部が崩落し、袖が流失して燃焼部の落ち込みが残存しているだけである。規模は、全長70cm、幅48cm、壁外に44cm延びる。

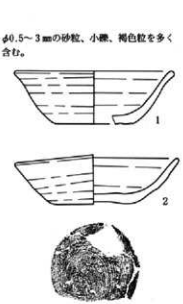
掘り方は、確認できなかった。

埋没状態は、確認面から床面まで残存高が低いため土層観察断面では1層しか観察できず判断ができない。

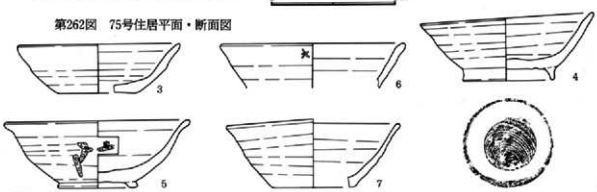
遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器、石製品など163点が出土している。出土状態は、7、8、14の須恵器椀・羽釜が床面から出土している。

本住居の時期は、出土遺物より10世紀第2四半期に比定される。

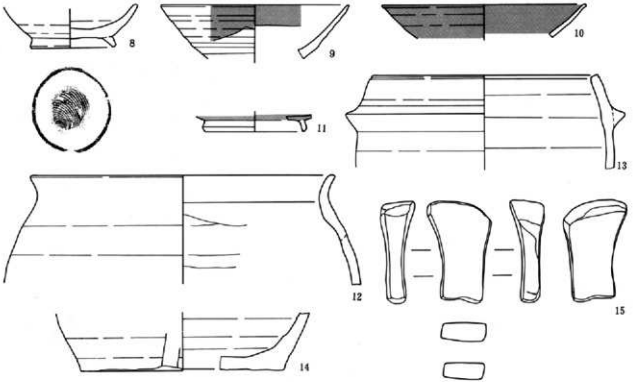




第262図　75号住居平面・断面図



第263図　75号住居出土遺物図(1)



第264図　75号住居出土遺物図（2）

76号住居

本住居は、調査区の北端、86区H－18グリッドに位置する。他遺構との重複はみられない。

形態は、長方形を呈すると想定される。残存状態は、北側が調査区外に延びるため欠く。

規模は、長軸2.56m＋α、短軸2.20mで、南辺2.52m、東辺、西辺は残存するところで2.20m、1.64mを測る。床面積は、推定4.29m²である。主軸方位は、N－92.5°－Eを指す。壁高は、東壁9.0～17.0cm、南壁12.0～14.5cm、西壁11.0～18.0cm、平均13.6cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

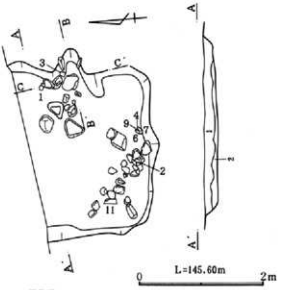
カマドは、東辺に構築されている。残存状態は、天井部が崩落し、左袖が流失しているが右袖は残存している。規模は、全長66.0cm、幅52.5cm、右袖27.0cm、燃焼部の一部から煙道にかけては壁外に31.5cm延びる。燃焼部には φ20cm、厚さ10cmの礫が上下に重なって出土している。

掘り方は、確認できなかった。

埋没状態は、レンズ状の堆積が観察できることから自然埋没であると考えられる。

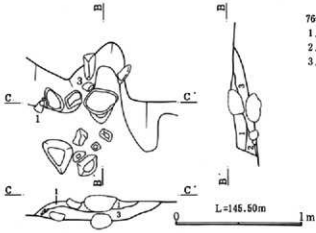
遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器、鉄器、石製品など115点が出土している。出土状態は、カマドと南西部にまとまった出土が見られる。東南部では、土器の他に φ20～50cmの礫も多く出土している。

本住居の時期は、出土遺物より10世紀第2四半期に比定される。



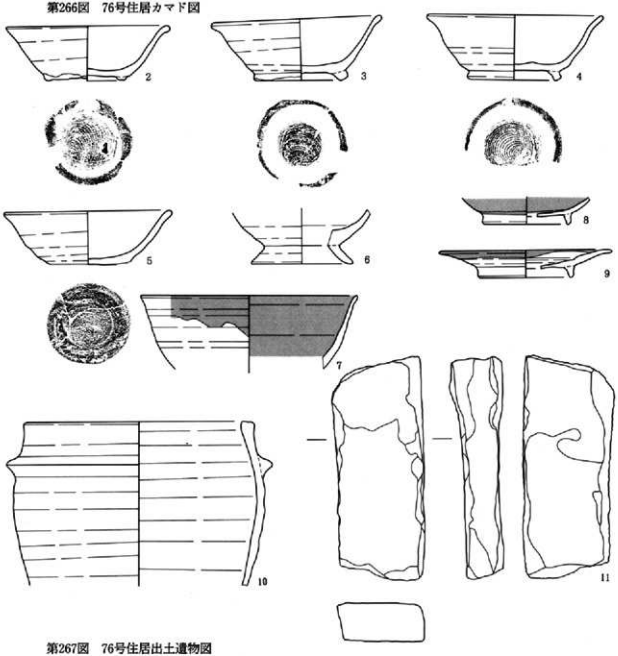
76号住居
1．にぶい黄褐色土　φ0.5～1cmの砂礫を多く含む。
2．にぶい黄褐色土　φ0.1～1cmの砂礫を多く含む。

第265図　76号住居平面・断面図



76号住居カマド
1．にぶい黄褐色土　φ1mm以下の砂礫を少量含む。
2．黄褐色土　φ0.5~2.3mmの砂礫をやや多く含む。
3．褐色土　焼土、炭化物を多く含む。

第266図　76号住居カマド図



第267図　76号住居出土遺物図

77号住居

本住居は、調査区の北より、86区H・I－16・17グリッドに位置する。他遺構との重複はみられず単独で占地する。

形態は、各角がやや丸みを持つがほぼ長方形を呈する。残存状態は、奈良・平安時代の住居の中では確認面から床面まで残存高が50cmほどと深いため良好な状態である。

規模は、長軸5.44m、短軸3.68m、北辺3.08m、東辺4.52m、南辺3.42m、西辺5.00mを測る。床面積は、15.08m²である。主軸方位は、N－13.4°－Eを指す。壁高は、北壁53.5～61.5cm、東壁36.0～44.0cm、南壁48.5～49.0cm、西壁46.5～61.5cm、平均50.1cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は地山をそのまま踏み固めている。

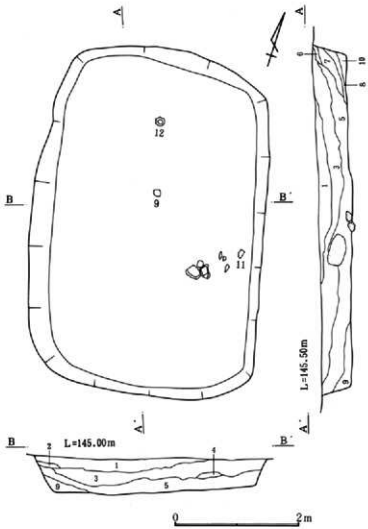
カマドは、確認されなかった。また、この他炉なども確認されなかった。

掘り方は、確認できなかった。

埋没状態は、レンズ状の堆積が観察できることから自然埋没であると考えられる。

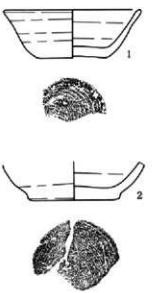
遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器、石製品など323点が出土している。出土状態は、大部分が床面より上位の埋没土中からの出土であるが11の須恵器羽釜が床面より出土している。

本住居の時期は、出土遺物より10世紀第２四半期に比定される。

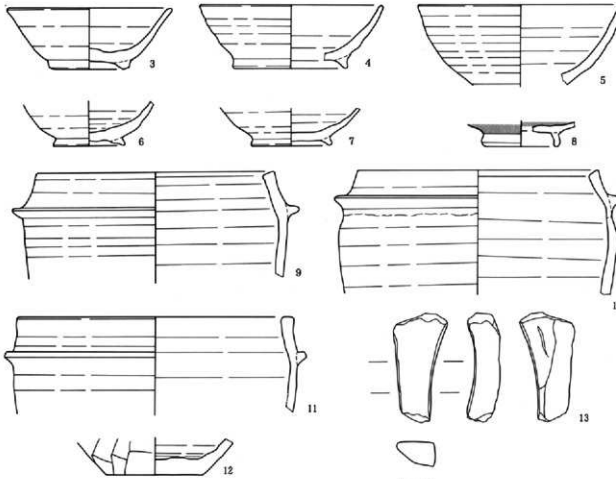


第268図　77号住居平面・断面図

77号住居
1．暗褐色土　φ２～５mmのFP、小礫を含む。
2．褐色土　1に類似。
3．褐色土　1、2に類似、φ２～３mmのFPを含む。
4．暗褐色土　3に類似。
5．暗褐色土　4に類似、小礫やFPを多く含む。
6．褐色土　5に類似、φ１～２mmの炭化物粒を含む。
7．暗褐色土　6に類似、φ２～３mmの炭化物をやや多くとφ0.5～1cmのFPを含む。
8．暗褐色土　7に類似、φ２～３mmの炭化物を多く含む。
9．褐色土　8に類似、φ５mm程の小礫を多く含む。
10．褐色土　9に類似。



第269図　77号住居出土遺物図(1)



第270図　77号住居出土遺物図（2）

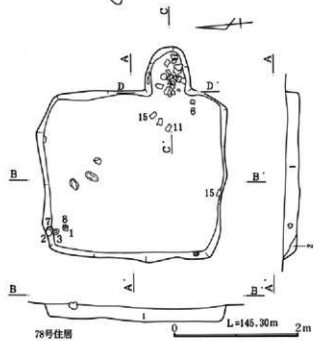
78号住居

本住居は、調査区の北東部、86区D－18・19グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、95号住居・96号住居と重複する。新旧関係は、本住居のほうが後出である。

形態は、ほぼ方形を呈する。残存状態は、確認面から床面まで残存高が低いが比較的良好な状態である。

規模は、長軸2.92m、短軸2.64m、北辺2.40m、東辺2.72m、南辺2.4m、西辺2.56mを測る。床面積は、6.55m²である。主軸方位は、N－97.2°－Eを指す。壁高は、北壁23.5～34.5cm、東壁19.5～20.5cm、南壁20.5～28.5cm、西壁24.0～26.5cm、平均24.7cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めて



78号住居
1．灰黄褐色土　φ0.5～1.2mの砂礫をやや多く含む。
2．にぶい黄橙色土　φ 1～5mmの砂礫を多く含む。

第271図　78号住居平面・断面図

いる。

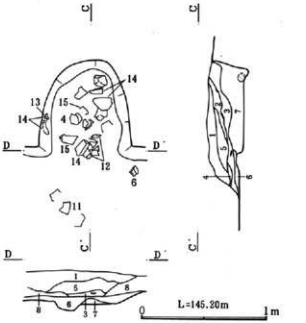
カマドは、東辺の中ほどよりやや南に構築されている。残存状態は、天井部が崩落し、袖が流失している。規模は、全長78.0cm、幅73.5cm、燃焼部幅51.0cm、燃焼部の一部から煙道にかけては壁外に66.0cm延びる。

掘り方は、確認できなかった。

埋没状態は、土層観察断面ではほとんど1層しか観察できないが西壁際で三角堆積が観察できることから一応自然埋没であると考えられる。

遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器など247点が出土している。出土状態は、カマドと北西角付近にまとまった出土がみられ、4、12～15の須恵器椀・羽釜がカマドから出土している。

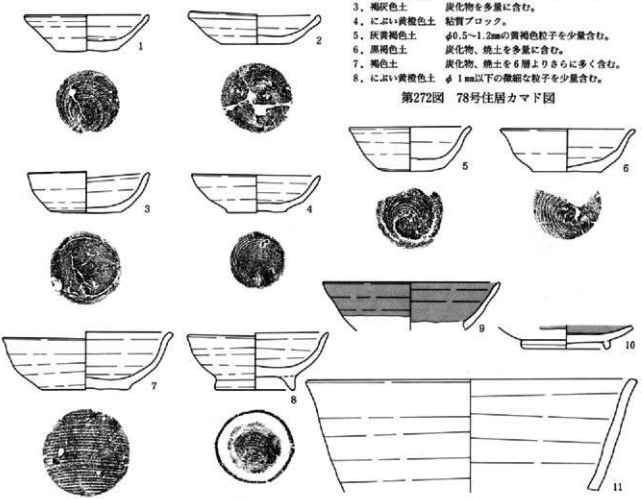
本住居の時期は、出土遺物より11世紀前葉に比定される。



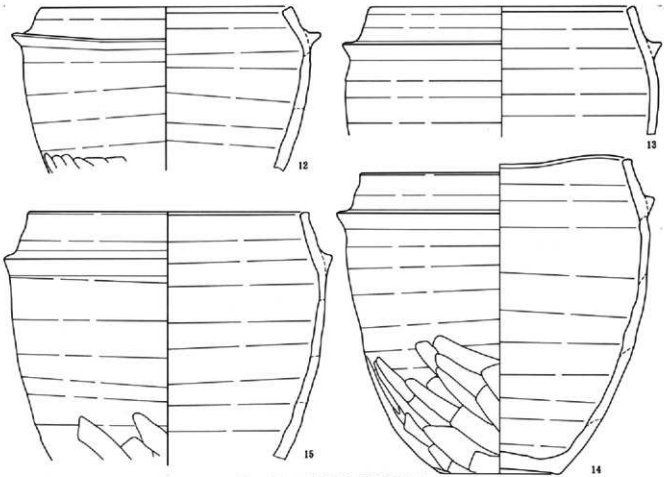
78号住居カマド

1．灰黄褐色土　φ0.5～1mmの砂礫・小石をやや多く含む。
2．にぶい黄褐色土　φ1mm以下の黄色粒子を多量に含む。
3．褐灰色土　炭化物を多量に含む。
4．にぶい黄橙色土　結質ブロック。
5．灰黄褐色土　φ0.5～1.2mmの黄褐色粒子を少量含む。
6．黒褐色土　炭化物、焼土を多量に含む。
7．褐色土　炭化物、焼土を6層よりさらに多く含む。
8．にぶい黄橙色土　φ1mm以下の微細な粒子を少量含む。

第272図　78号住居カマド図



第273図　78号住居出土遺物図(1)



第274図　78号住居出土遺物図(2)

79号住居

本住居は、調査区の北東部、86区A－18･19グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、160号住居、140号土坑と重複する。新旧関係は、140号土坑より前出で160号住居より後出である。

形態は、長方形を呈する。残存状態は、北西角付近が調査区外に延びるため一部欠く。

規模は、長軸3.30m、短軸2.37m、北辺3.15m、東辺2.85m、南辺3.35m、西辺2.50mを測る。床面積は、7.24m²である。主軸方位は、N－87°－Eを指す。壁高は、北壁34.0～35.0cm、東壁16.0～33.5cm、南壁1.0～13.0cm、西壁22.0～24.5cm、平均22.4cmである。

内部施設は、貯蔵穴を検出したが、柱穴、周溝は確認されなかった。貯蔵穴は、北東角に位置し、形態は楕円形を呈す。規模は、径66×47cm、深度19cmである。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

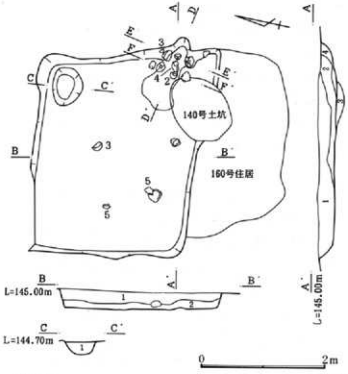
カマドは、東辺の南よりに構築されている。残存状態は、天井部が崩落し、左袖が流失しているが右袖の一部と両袖の補強に使用された礫は据えられたままの状態で出土している。規模は、全長45.0cm、幅33.0cm、燃焼部幅37.5cm、燃焼部の一部から煙道にかけては壁外に18.0cm延びる。燃焼部からカマド前部の床面には灰の堆積が見られる。

掘り方は、確認できなかった。

埋没状態は、レンズ状の堆積が観察できることから自然埋没であると考えられる。

遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器など166点が出土している。出土状態は、カマドにまとまった出土が見られ、2～4の須恵器皿・羽釜、灰釉陶器椀が出土している。

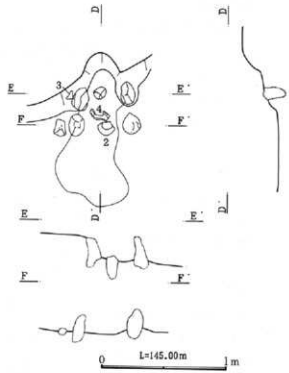
本住居の時期は、出土遺物より10世紀第4四半期に比定される。



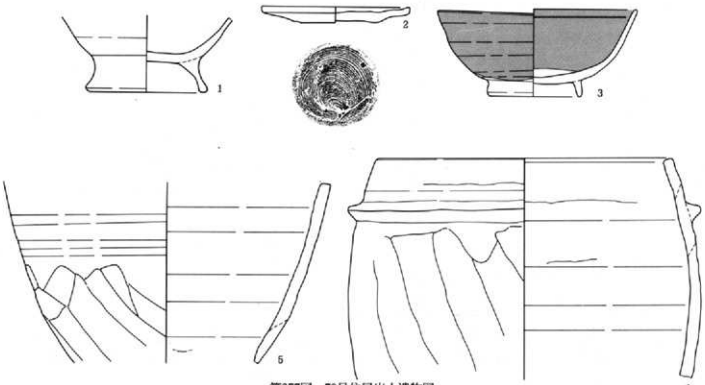
79号住居
1．灰黄褐色土　φ0.5～2.3mmの砂礫を多く含む。
2．黒褐色土　φ0.5～1.2mmの炭化物を多量に含む。
3．におい黄褐色土　φ 1mm以下の黄褐色粒を多く含む。
4．におい黄褐色土　φ0.5～1.2mmの黄褐色粒、赤褐色粒を多く含む。
（カマド）

79号住居貯蔵穴
1．黒褐色土

第275図　79号住居平面・断面図



第276図　79号住居カマド図



第277図　79号住居出土遺物図

80号住居

本住居は、調査区の西より、86区Ｊ・Ｋ－11・12グリッドに位置する。他遺構との重複はみられず単独で占地する。

形態は、各角がやや歪んだ長方形を呈する。残存状態は、確認面から床面まで残存高が低いためあまり良好な状態ではない。

規模は、長軸4.16m、短軸3.12m、北辺3.60m、東辺3.08m、南辺4.00m、西辺3.16mを測る。床面積は、10.99m²である。主軸方位は、N－83°－Eを指す。壁高は、北壁17.0～23.5cm、東壁2.0～8.5cm、南壁5,5～26.5cm、西壁8.0～11.0cm、平均12.8cmである。

内部施設は、貯蔵穴を検出したが、柱穴、周溝は確認されなかった。貯蔵穴は、東南角に位置し、形態は楕円形を呈す。規模は径84.0×62.0cm、深度17.0cmである。内部からは４、10、13の須恵器杯・皿、土師器台付甕が出土している。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

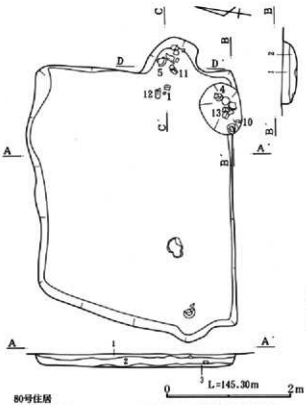
カマドは、東辺の南よりに構築されている。残存状態は、非常に悪い状態である。規模は、全長55.5cm、幅88.5cm、燃焼部の一部から煙道にかけては壁外に48.0cm延びる。

掘り方は、確認できなかった。

埋没状態は、レンズ状の堆積が観察できることから自然埋没であると考えられる。

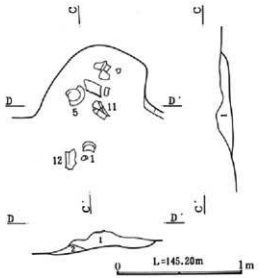
遺物は、土師器、須恵器など186点が出土している。出土状態は、ほとんど東南部のカマド、貯蔵穴周辺にまとまって出土している。１、３、５、11の土師器杯・甕、須恵器杯がカマド、７の須恵器椀が床面から出土している。

本住居の時期は、出土遺物より９世紀第３四半期に比定される。



80号住居
1．暗褐色土　φ0.5～1cmのFPを少量、黄褐色粒を多く含む。
2．暗褐色土　φ0.5～1cmのFP、黄褐色粒を少量含む。
3．暗褐色土　φ0.5～1cmのFP、黄褐色粒を少量含む。炭化物を多量に含む。

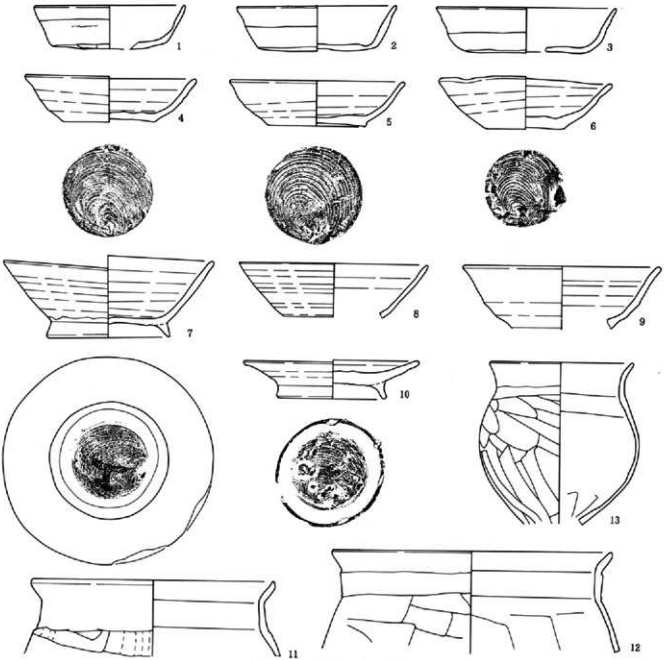
第278図　80号住居平面・断面図



80号住居カマド
1．暗褐色土　φ0.5～1cmのFP、炭化物を少量含む。堆積は脆弱。
2．暗褐色土　炭化物、φ0.5～1cmの小礫を多量に含む。堆積は脆弱。

第279図　80号住居カマド図

80号住居貯蔵穴
1．暗褐色土　φ0.5～1cmのFP、黄褐色粒を少量含む。
2．暗褐色土　φ0.5～1cmのFP、黄褐色粒を少量含む。炭化物を多量に含む。



第280図　80号住居出土遺物図

81号住居

本住居は、調査区の西より、86区K・L－11グリッドに位置する。調査は１次と２次に分割して行われた。他遺構との重複は、みられず単独で占地する。

形態は、各角が歪んでおり菱形状を呈する。残存状態は、中央に現代の用水路が通っているが確認面から床面まで残存高も深く比較的良好な状態である。

規模は、長軸2.96m、短軸2.52m、北辺2.84m、東辺2.40m、南辺2.88m、西辺2.4mを測る。床面積は、5.54m²である。主軸方位は、N－74°－Eを指す。壁高は、北壁14.5～22.7cm、東壁10.2～21.0cm、南壁27.0～30.0cm、西壁19.8～26.0cm、平均20.9cmである。

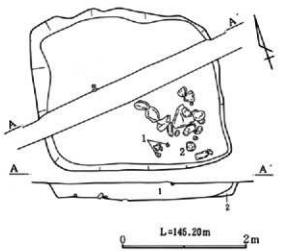
内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

カマドは、東南部に大小の礫が検出されカマド残骸らしき箇所が見られたが明確ではなくカマド自体

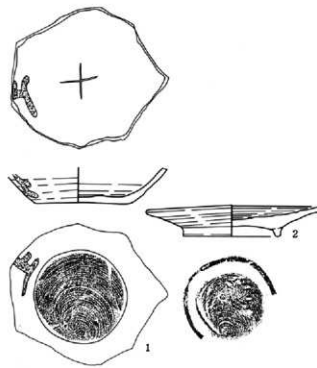
は存在しなかったと推定される。

掘り方は確認できなかった。

埋没状態は、土層観察断面ではほぼ１層しか確認されなかったが東辺より に壁の崩落した堆積が見られることなどから自然埋没であると考えられる。



第281図　81号住居平面・断面図



第282図　81号住居出土遺物図

82号住居

本住居は、調査区の西より、86区L・M－11グリッドに位置する。調査は１次と２次に分割して行われた。他遺構との重複は、みられず単独で占地する。

形態は、北辺が南辺に比べて30cmほど短いがほぼ長方形を呈する。残存状態は、中ほどに現在の用水路が通るためカマドの北半分などを欠くが確認面から床面まで30cmほどの残存高も深いため比較的良好な状態である。

規模は、長軸3.22m、短軸2.56m、北辺2.04m、東辺3.16m、南辺2.36m、西辺2.84mを測る。床面積は、6.24m²である。主軸方位は、N－87.8°－Eを指す。壁高は、北壁30.0～30.5cm、東壁17.0～26.0cm、南壁32.0～37.0cm、西壁30.0～32.0cm、平均29.3cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めて

遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器など67点と少ない出土である。出土状態は、大部分が埋没土中からであるが２の須恵器皿が床面より出土している。

本住居の時期は、出土遺物より９世紀第３四半期に比定される。

いる。

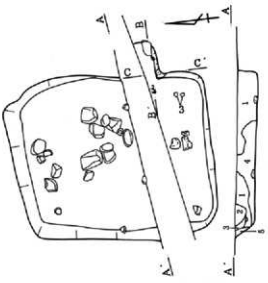
カマドは、東辺の南よりに構築されている。残存状態は、北半分を用水路によって欠くため不明な点が多いが、天井部が崩落し袖が流失している。規模は、全長63.0cm、幅は残存するところでは24.0cm、燃焼部の一部から煙道にかけては壁外に52.5cm延びる。右袖と煙道には補強に礫が使用され据えつけられた状態で検出された。

掘り方は、確認できなかった。

埋没状態は、土層観察断面では住居中央からの堆積が見られるなどから人為的な埋戻しが考えられる。

遺物は、土師器、須恵器など23点と非常に少ない出土である。出土状態は、住居中ほどには φ20～50cmの礫が点在しているが土器の出土はほとんどない。

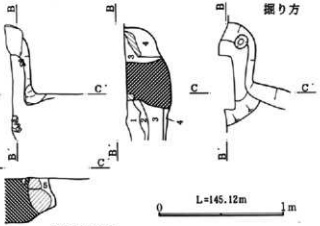
本住居の時期は、出土遺物より９世紀第４四半期に比定される。



82号住居

1．褐灰色土　φ0.5～2.3mmの砂礫を多く含む。
2．灰黄褐色土　φ0.5～2.3mmの砂礫を少量含む。
3．にぶい黄褐色土　φ 1～5mmの砂礫を多く含む。
4．にぶい黄褐色土　φ 1～5mmの砂礫を極少量含む。
5．黄褐色土　φ 1～5mmの砂礫を若干含む。

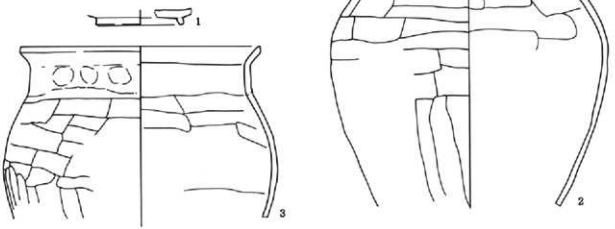
第283図　82号住居平面・断面図



82号住居カマド

1．灰褐色土　砂質土、橙色粒子を少し含む。
2．灰色土　橙色粒子、炭化物を僅かに含む。
3．灰褐色土　橙色粒子を僅かに、橙色シルトを少し含む。
4．黒色土　炭化物主体、焼土粒を僅かに含む。泥流砂。
5．黄橙色土　地山の崩落。

第284図　82号住居カマド図



第285図　82号住居出土遺物図

83号住居

本住居は、調査区の西より、86区M・N－10・11グリッドに位置する。調査は1次と2次に分割して行われた。他遺構との重複関係は、158号住居、4号井戸と重複する。新旧関係は、本住居のほうが前出である。

形態は、南辺が北辺に比べて50cmほど短いがほぼ長方形を呈する。残存状態は、中ほどを現在の用水路でまた重複する4号井戸によって南西角を欠くが、確認面から床面まで20cmほどの残存高のわりには比較的良好な状態である。

規模は、長軸4.59m、短軸3.67m、北辺3.53m、東辺4.43m、南辺3.03m、西辺4.64mを測る。床面積は、12.45m²である。主軸方位は、N－99°－Eを指す。壁高は、北壁21.0～23.0cm、東壁22.0～25.0cm、南壁27.0～30.0cm、西壁17.0～23.0cm、平均23.5cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

カマドは、東辺の東南角よりに構築されている。

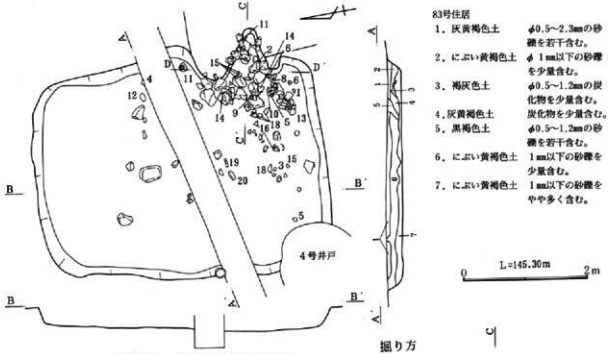
残存状態は、天井部が崩落しているが、袖は僅かに残存している。規模は、全長81.0cm、幅75.0cm、燃焼部幅60.0cm、左袖60.0cm、右袖37.5cm、燃焼部の一部から煙道にかけては壁外に49.5cm延びる。カマド内部と前部には補強に使用された礫が散乱した状態で出土している。

掘り方は、確認できなかった。

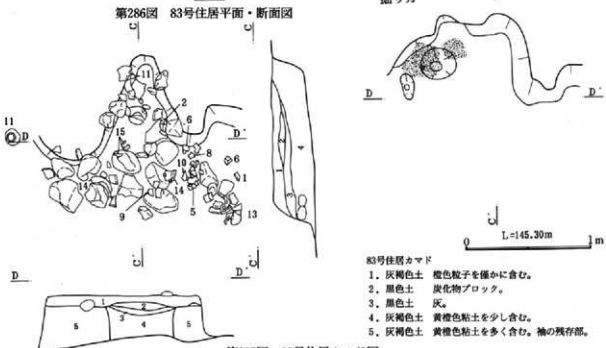
埋没状態は、一応レンズ状の堆積が観察できることから自然埋没であると考えられる。

遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器、石製品など278点が出土している。出土状態は、カマド前部の住居東南部に集中した出土が見られ、1、2、5、6、8～11、13、14、17、18の土師器杯・甕、須恵器椀がカマドから出土している。

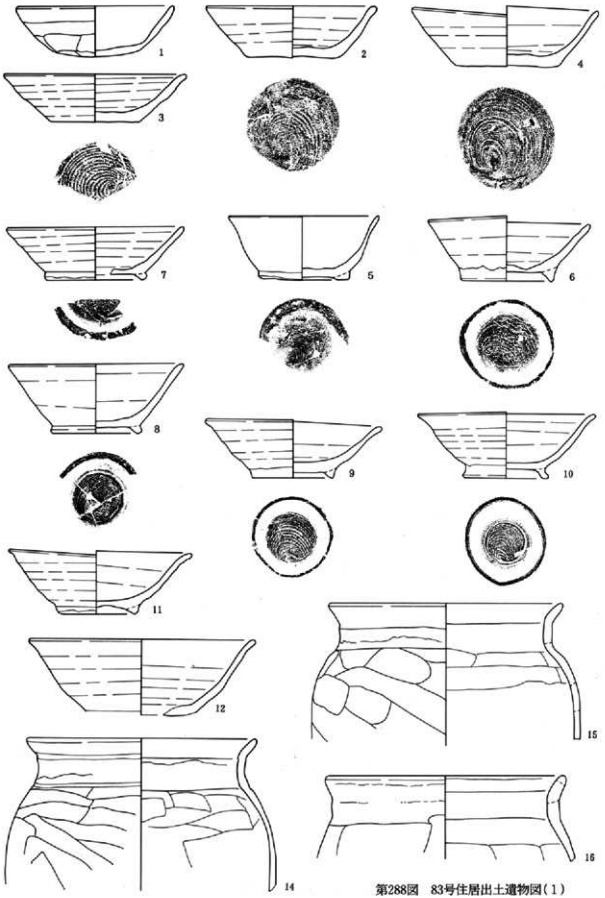
本住居の時期は、出土遺物より9世紀第4四半期に比定される。



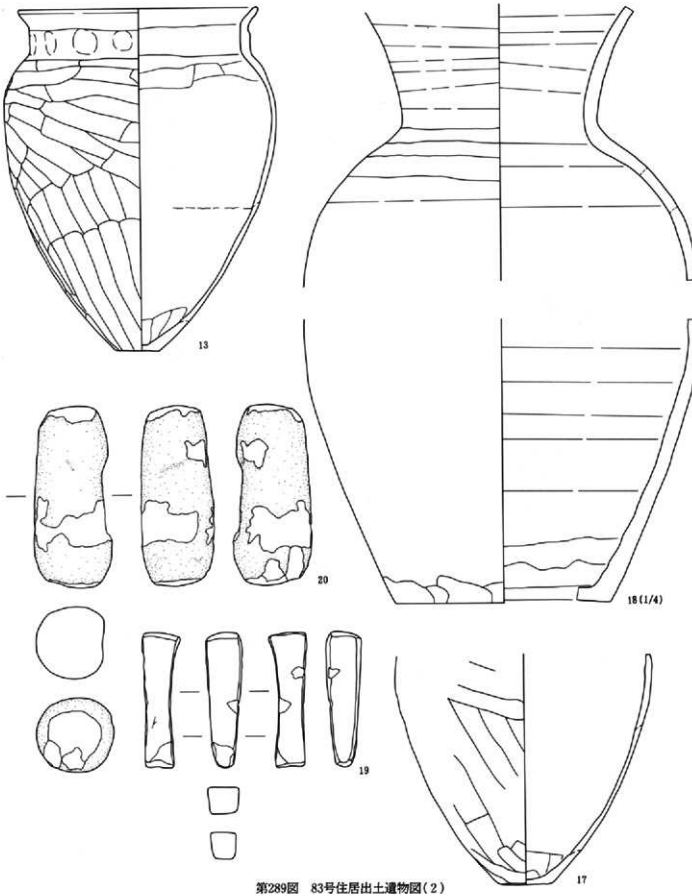
第286図　83号住居平面・断面図



第287図　83号住居カマド図



第288図　83号住居出土遺物図(1)



第289図　83号住居出土遺物図(2)

84号住居

本住居は、調査区の北より、86区H－15グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、68号住居、104号住居と重複する。新旧関係は、68号住居より前出で104号住居より後出である。

形態は、北辺が南辺より60cmほど短い隅丸長方形を呈する。残存状態は、南西部を重複する68号住居により床面近くまで欠き確認面から床面までも残存高が低いためあまり良い状態ではない。

規模は、長軸4.40m、短軸3.40m、北辺2.40m、南辺約3.0m、東辺3.74m、西辺4.40mを測る。床面積は、11.62m²である。主軸方位は、N－99.5°－Eを指す。壁高は、北壁13.5～14.0cm、東壁4.0～9.0cm、南壁1.5～7.5cm、西壁17.0～22.0cm、平均11.0cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

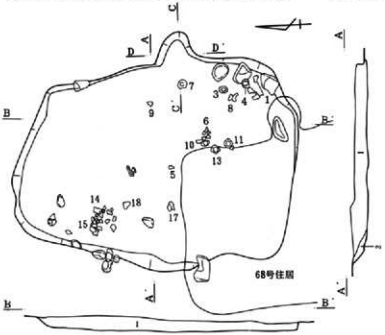
カマドは、東辺のほぼ中ほどに構築されている。残存状態は、天井部が崩落し、袖が流失している。規模は、全長51.0cm、幅78.0cm、燃焼部の一部から煙道にかけては壁外に43.5cm延びる。

掘り方は、確認できなかった。

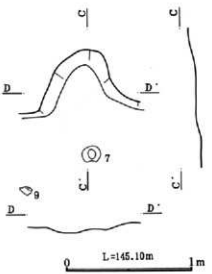
埋没状態は、土層観察断面では1層しか確認できないため埋没状態について判断はできない。

遺物は、土師器、須恵器、石製品など216点が出土している。出土状態は、北東部と68号住居と重複する部分を除いた範囲でまとまった出土が見られ、1、9、11、13、17の土師器杯、須恵器椀・甕が床面から出土している。

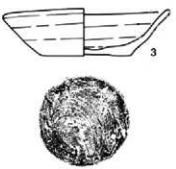
本住居の時期は、出土遺物より9世紀第4四半期に比定される。



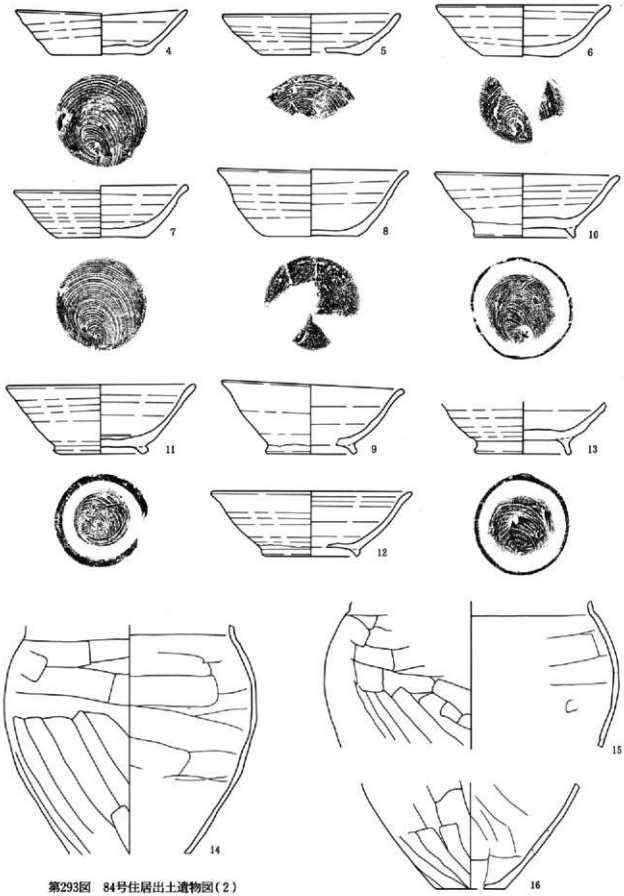
第290図　84号住居平面・断面図



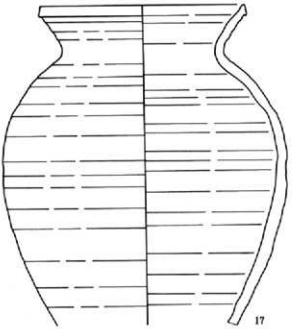
第291図　84号住居カマド図

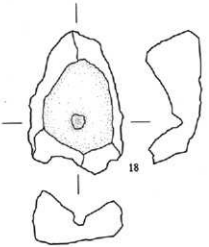


第292図　84号住居出土遺物図(1)



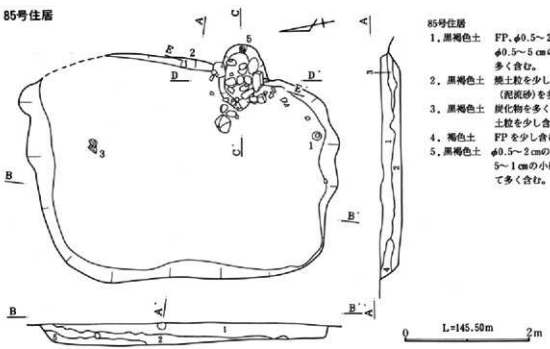
第293図　84号住居出土遺物図（２）





第294図　84号住居出土遺物図（3）

85号住居



第295図　85号住居平面・断面図

85号住居

本住居は、調査区の北より、86区J－13･14グリッドに位置する。他遺構との重複はみられず単独で占地する。

形態は、東辺が西辺より80cmほど長い台形状を呈する。残存状態は、確認面から床面まで残存高が20cmほどであるが比較的良好な状態である。

規模は、長軸5.08m、短軸3.44m、北辺3.16m、東辺4.72m、南辺2.68m、西辺3.96mを測る。床面積は、12.68m²である。主軸方位は、N－107°－Eを指す。壁高は、北壁16.0～30.5cm、東壁6.0～21.5cm、南壁17.0～26.0cm、西壁22.5～34.0cm、平均21.9cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

Ⅳ　検出した遺構・遺物

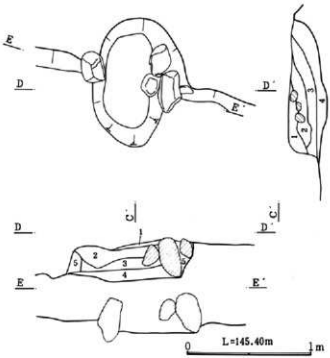
カマドは、東辺の南よりに構築されている。残存状態は、天井部が崩落し、袖が流失している。規模は、全長100cm、幅76.5cm、燃焼部幅60cm、燃焼部の一部から煙道にかけては壁外に40cm延びる。壁面との接する地点には補強に使用されたφ20cm、長さ30cmの礫が据えられた状態で検出された。燃焼部の火床面には灰が5cmほど堆積し、上面には多くのφ10～20cmの礫が出土している。

掘り方は、確認できなかった。

埋没状態は、レンズ状の堆積が観察できることから自然埋没であると考えられる。

遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器など90点が出土している。出土状態は、4、5の土師器甕がカマドから、1の須恵器椀が床面から出土している。

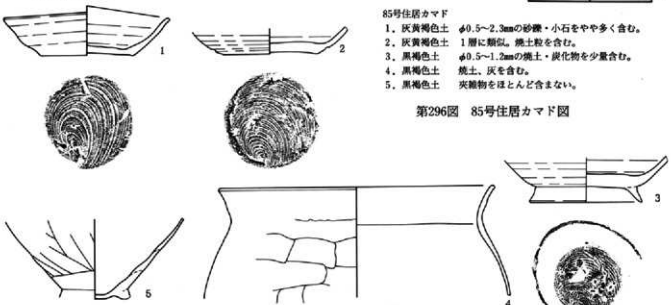
本住居の時期は、出土遺物より9世紀第2四半期に比定される。



85号住居カマド

1．灰黄褐色土　φ0.5～2.3mmの砂礫・小石をやや多く含む。
2．灰黄褐色土　1層に類似。焼土粒を含む。
3．黒褐色土　φ0.5～1.2mmの焼土・炭化物を少量含む。
4．黒褐色土　焼土、灰を含む。
5．黒褐色土　炭粒物をほとんど含まない。

第296図　85号住居カマド図



第297図　85号住居出土遺物図

86号住居

本住居は、調査区の北より、E－14グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、106号住居・107号住居・116号住居と重複する。新旧関係は、本住居のほうが後出である。

形態は、東辺が西辺より50cmほど長いがほぼ長方形を呈する。残存状態は、確認面から床面まで残存高が20cmほどであるが比較的良好な状態である。

規模は、長軸4.60m、短軸3.80m、北辺3.68m、東辺4.60m、南辺3.44m、西辺4.16mを測る。床面積は、13.34m²である。主軸方位は、N－88.5°－Eを指す。壁高は、北壁20.0～8.0cm、東壁14.0～18.0cm、南壁15.0～25.0cm、西壁18.5～31.0cm、平均21.2cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

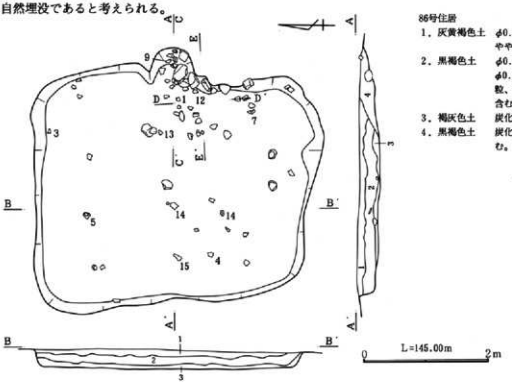
カマドは、東辺の中ほどに構築されている。残存状態は、天井部が崩落し、袖が流失している。規模は、全長64.5cm、幅72.0cm、燃焼部の一部から煙道にかけては壁外に27.0cm延びる。

掘り方は、確認できなかった。

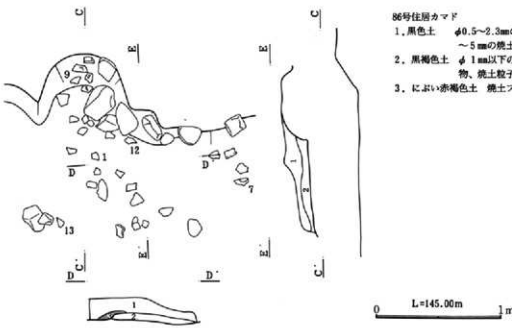
埋没状態は、レンズ状の堆積が観察できることから自然埋没であると考えられる。

遺物は、黒色土器、須恵器、灰釉陶器、鉄器など520点が出土している。出土状態は、住居全域に散在し床面より上位の埋没土中からの出土が大多数であるが、9の灰釉陶器椀がカマドから出土している。

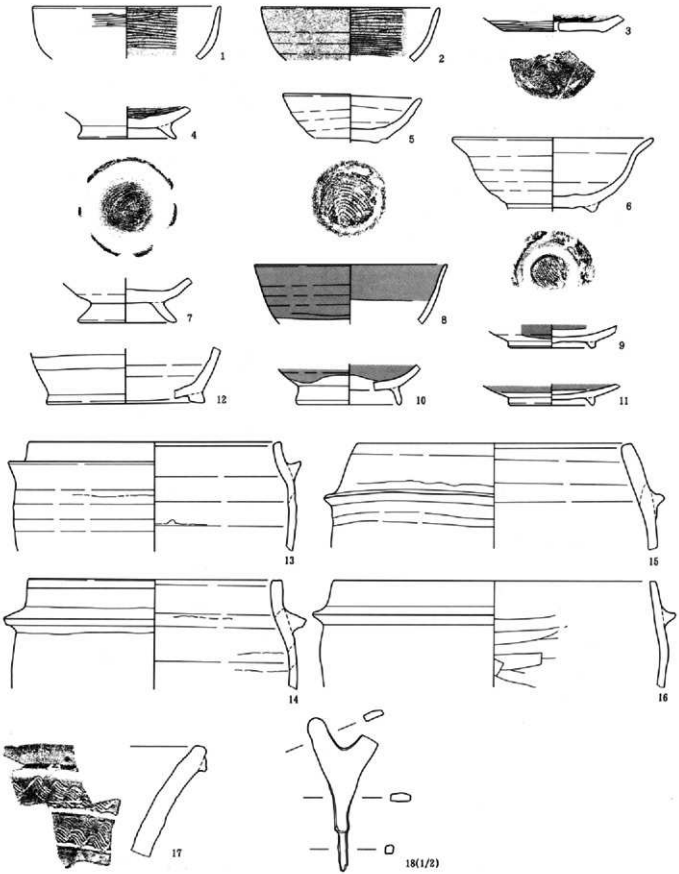
本住居の時期は、出土遺物より10世紀第３四半期に比定される。



第298図　86号住居平面・断面図



第299図　86号住居カマド図



第300図　86号住居出土遺物図

87号住居

本住居は、調査区の北東部、86区D－17グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、71号住居、95号住居、102号住居、115号住居と重複する。新旧関係は、71号住居より前出で95号住居、102号住居、115号住居より後出である。

形態は、長方形を呈すると想定される。残存状態は、重複する71号住居によって大部分を欠き北辺側と東辺側の一部が残存する程度である。

規模は、長軸3.52m、短軸3.00m＋α、北辺3.20m、東辺、西辺の残存するところは2.98m、1.38mを測る。床面積は、残存範囲で3.15m²である。主軸方位は、N－94°－Eを指す。壁高は、北壁14.0～18.0cm、東壁残存するところでは14.5～14.9cm、西壁残存するところでは16.5～17.5cm、平均15.9cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

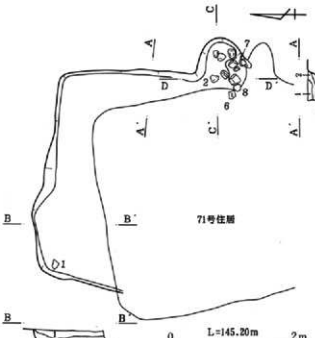
カマドは、東辺に構築されている。残存状態は、天井部が崩落し、袖が流失している。規模は、全長64.5cm、幅90.0cm、燃焼部の一部から煙道にかけては壁外に42.0cm延びる。燃焼部奥には φ10cm、長さ15cmの細長い礫が縦に据えられた状態で検出された。

掘り方は、確認できなかった。

埋没状態は、一応レンズ状の堆積が観察できることから自然埋没であると考えられる。

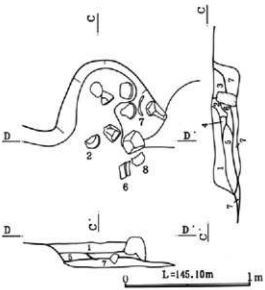
遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器など96点が出土している。出土状態は、2、6～8の須恵器椀・羽釜がカマドから出土している。

本住居の時期は、出土遺物より10世紀第2四半期に比定される。



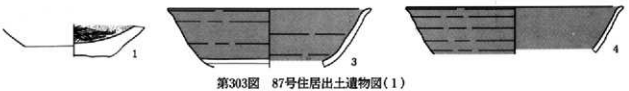
87号住居
1．にぶい黄褐色土　φ0.5～2mmの砂礫を含む。
2．暗褐色土　φ 1～3mmの砂礫を含む。
3．にぶい黄褐色土　φ0.5～2mmの砂礫を少量含む。

第301図　87号住居平面・断面図

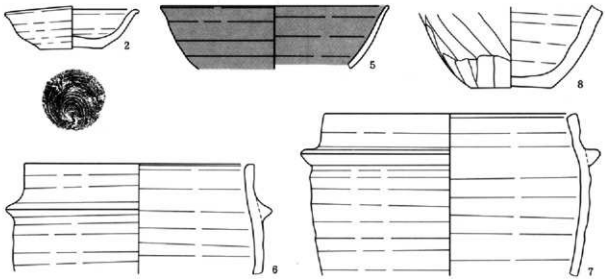


87号住居カマド
1．暗褐色土　φ 5～10mmのFP、焼土粒を少し含む。堆積はもろい。
2．褐色土　黄褐色粘性土ブロックを多く含む。
3．黄褐色土　粘質土、カマド部材。
4．黒褐色土　φ 5～10mmのFPを少し含む。堆積はもろい。
5．暗褐色土　φ 5～10mmのFPを少し、焼土粒を多く含む。
6．褐色土　黄褐色ブロック、炭化物を多く含む。
7．黒褐色土　炭化物を多く含む。

第302図　87号住居カマド図



第303図　87号住居出土遺物図(1)



第304図　87号住居出土遺物図(2)

88号住居

本住居は、調査区の北より、86区K－16グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、89号住居と重複する。新旧関係は、本住居のほうが後出である。

形態は、北辺が南辺より80cm、東辺が西辺より40cm長い不整四辺形を呈する。残存状態は、確認面から床面まで残存高が20cmほどであるが比較的良好な状態である。

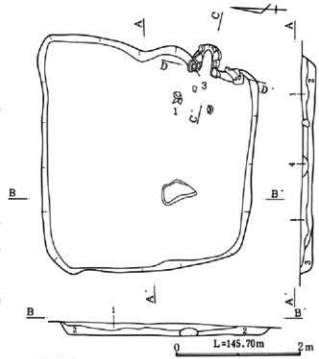
規模は、長軸3.76m、短軸3.48m、北辺3.60m、東辺3.36m、南辺2.80m、西辺2.96mを測る。床面積は、10.08m²である。主軸方位は、N－90°－Eを指す。壁高は、北壁14.0～24.0cm、東壁17.0～24.8cm、南壁14.0～18.0cm、西壁12.7～16.5cm、平均21.1cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山や重複する89号住居の埋没土をそのまま踏み固めている。

カマドは、東辺の南よりに構築されている。残存状態は、天井部が崩落し、袖が流失している。規模は、全長49.5cm、幅42.0cm、焚口幅21.0cm、燃焼部の一部から煙道にかけては壁外に22.5cm延びる。燃焼部壁面にはφ10～15cmの礫が袖強に据えられた状態で検出された。

掘り方は、確認できなかった。

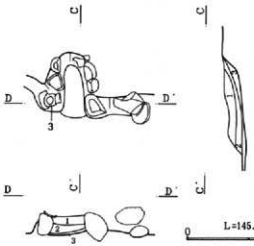
埋没状態は、レンズ状の堆積が観察できることから自然埋没であると考えられる。



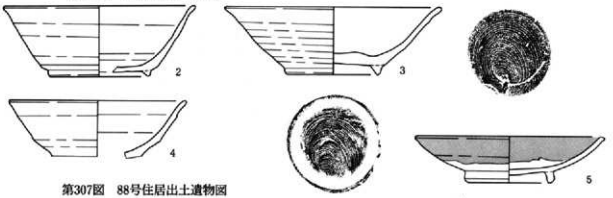
第305図　88号住居平面・断面図

遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器など42点と少量の出土である。出土状態は、1、2の須恵器椀がカマドから出土している。

本住居の時期は、出土遺物より9世紀第3四半期に比定される。



第306図　88号住居カマド図



第307図　88号住居出土遺物図

89号住居

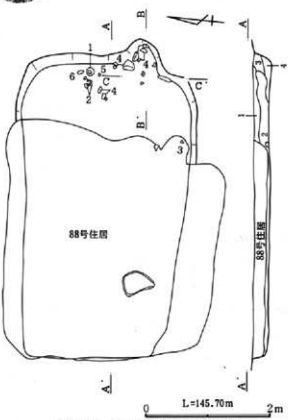
本住居は、調査区の北より、86区K－16グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、88号住居と重複する。新旧関係は、本住居のほうが前出である。

形態は、ほぼ長方形を呈すると想定される。残存状態は、重複する88号住居によって西側から中央より東部分の大半を床面近くまで欠き東側4分の1が残存する程度である。

規模は、長軸4.80m、短軸2.86mで、東辺2.54m、北辺、南辺、西辺の残存するところは0.8m、1.3m、2.0mを測る。床面積は、残存部分で11.09㎡である。主軸方位は、N－93.3'－Eを指す。壁高は、北壁29.5cm、東壁29.0cm、南壁17.0cm、平均25.2cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

カマドは、東辺の南よりに構築されている。残存状態は、天井部が崩落し、袖が流失している。規模



第308図　89号住居平面・断面図

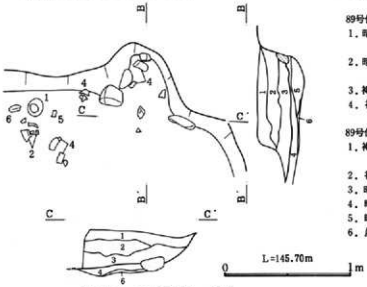
は、全長46.5cm、幅87.0cm、燃焼部の一部から煙道にかけては壁外に40.5cm延びる。

掘り方は、確認できなかった。

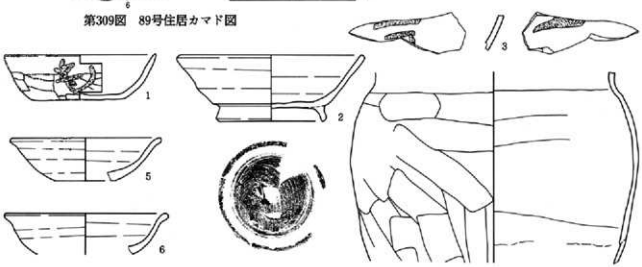
埋没状態は、レンズ状の堆積が観察できることから自然埋没であると考えられる。

遺物は、土師器、須恵器など33点が出土している。出土状態は、4の土師器甕がカマド、2、3の須恵器椀が床面から出土している。

本住居の時期は、出土遺物より9世紀第1四半期に比定される。



第309図　89号住居カマド図



第310図　89号住居出土遺物図

90号住居

本住居は、調査区北東部、86区B－14・15グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、51号住居・66号住居・103号住居と重複する。新旧関係は、51号住居・66号住居より前出で103号住居より後出である。

形態は、重複する51号住居、66号住居によって大半を欠き残存するのは東辺側の一部だけで不明確であるが四角形を呈すると想定される。

規模は、長軸4.76m、残存する東辺は4.55mを測る。床面積は、残存範囲で4.47m²である。主軸方位は、N－109°－Eを指す。壁高は、東壁4.0～12.0cm、平均8.0cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

カマドは、東辺の南よりに構築されている。残存状態は、天井部が崩落し、袖が流失している。規模

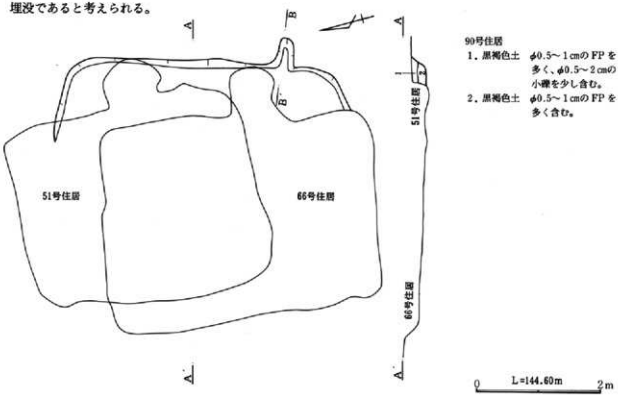
は、全長51.0cm、幅34.5cm、燃焼部幅19.5cm、燃焼部の一部から煙道にかけては壁外に42.0cm延びる。

掘り方は、確認できなかった。

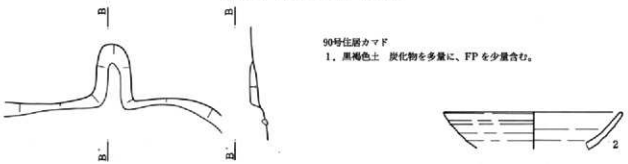
埋没状態は、残存部分の土層断面の観察では自然埋没であると考えられる。

遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器など111点が出土している。

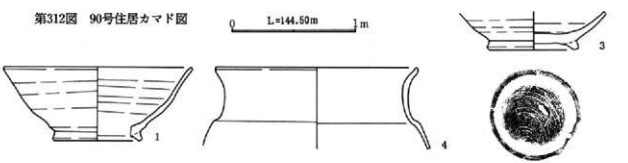
本住居の時期は、出土遺物より９世紀第１四半期に比定される。



第311図　90号住居平面・断面図



第312図　90号住居カマド図



第313図　90号住居出土遺物図

91号住居

本住居は、調査区の北東部、86区D・E－17グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、70号住居・71号住居と重複する。新旧関係は、両住居より本住居のほうが前出である。

形態は、一部欠落して不明であるがほぼ長方形を呈すると想定される。残存状態は、重複する70号住居によって北西角、71号住居によって東辺際を欠く。

規模は、長軸3.32m、短軸推定2.80m、北辺推定2.70m、東辺3.38m、南辺2.80m、西辺推定3.28mを測る。床面積は、推定8.99㎡である。主軸方位は、N－83.5°－Eを指す。壁高は、北壁16.5～21.0㎝、南壁18.0～23.0㎝、西壁18.3～24.5㎝、平均18.6㎝である。

内部施設は、周溝を検出したが、柱穴・貯蔵穴は確認できなかった。周溝は、西辺の中程から北側と北辺の中程から東側にかけて巡る。規模は幅6～8㎝、深度0.3～2.5㎝である。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

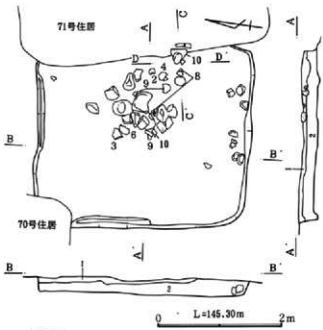
カマドは、東辺の南よりに構築されている。残存状態は、重複する71号住居によって燃焼部の一部と煙道にかけて欠くため焚口付近しか残存していない。規模は、大部分を欠くため計測できない。

掘り方は、確認できなかった。

埋没状態は、一応レンズ状の堆積が観察できることから自然埋没であると考えられる。

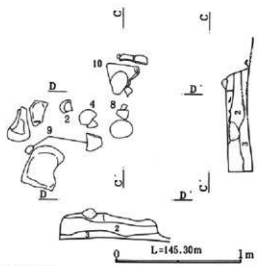
遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器など251点が出土している。出土状態は、住居中央付近から礫と土器がやや集中して出土しているが礫は床面より10㎝ほど上位からである。土器のうち2～4、6、10の土師器杯、灰釉陶器椀、須恵器甕が床面から出土している。

本住居の時期は、出土遺物より10世紀第1四半期に比定される。



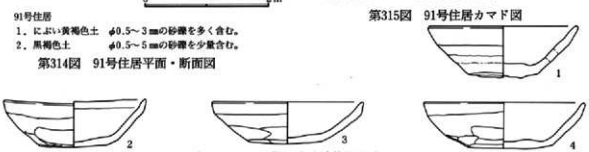
91号住居
1．にぶい黄褐色土　φ0.5～3㎜の砂礫を多く含む。
2．黒褐色土　φ0.5～5㎜の砂礫を少量含む。

第314図　91号住居平面・断面図

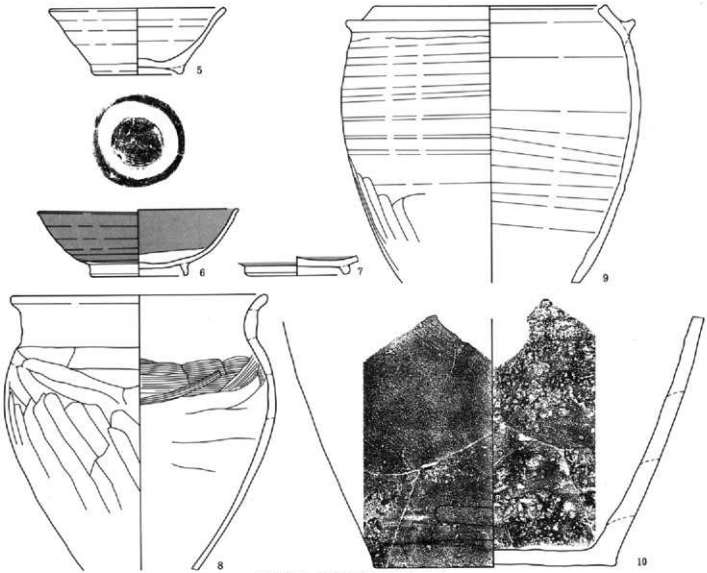


91号住居カマド
1．にぶい黄褐色土　φ0.5～10㎜の砂礫・小石を多量に含む。
2．黒褐色土　φ 1～5㎜の砂礫・小石をやや多く含む。
3．黒色土　炭化物を多く含む。

第315図　91号住居カマド図



第316図　91号住居出土遺物図(1)



第317図　91号住居出土遺物図（2）

92号住居

本住居は、調査区の北より、86区Ｊ・Ｋ－15・16グリッドに位置する。泥流上面での他遺構との重複はみられない。

形態は、ほぼ長方形を呈すると想定される。残存状態は、東側を集落廃棄後、As－Ｂ層下水田開田ごろに掘削された段により欠く。

規模は、長軸2.60m＋α、短軸2.44mで西辺2.40m、北辺、南辺は残存するところでは2.08m、2.36mを測る。床面積は、推定6.67㎡である。主軸方位は、N－80.5′－Eを指す。壁高は、北壁4.3～9.2㎝、南壁5.9～8.2㎝、西壁4.0～6.3㎝、平均6.4㎝である。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

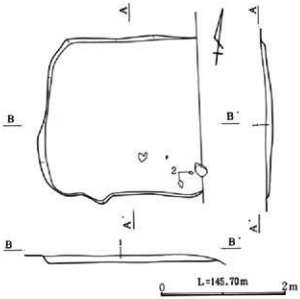
カマドは、残存部分では確認されなかった。

掘り方は、確認できなかった。

埋没状態は、土層観察断面では１層しか確認できなっかたため明確ではないが、自然埋没であると考えられる。

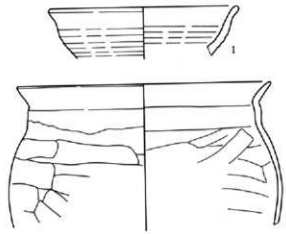
遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器など45点が出土している。出土状態は、２の土師器甕が床面から出土している。

本住居の時期は、出土遺物より９世紀第３四半期に比定される。



第318図　92号住居平面・断面図

92号住居
1．灰黄褐色土　φ0.5～5mmの砂礫を少量含む。



第319図　92号住居出土遺物図

93号住居

本住居は、調査区の東より、86区A・B－11・12グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、52号住居・74号住居、1号井戸と重複する。新旧関係は、本住居のほうが前出である。

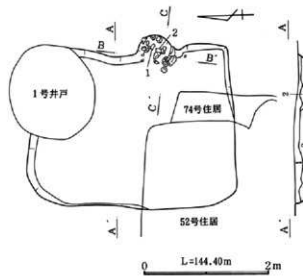
形態は、ほぼ長方形を呈すると想定される。残存状態は、重複する1号井戸で北東角部分、52号住居・74号住居で南西角部分を欠く。

規模は、長軸3.18m、短軸2.34m、北辺2.48m、東辺3.00m、南辺、西辺は残存するところでは2.65m、3.43mを測る。床面積は、推定7.05m²である。主軸方位は、N－95°－Eを指す。壁高は、北壁12.0～17.0cm、東壁14.0～19.0cm、南壁20.0～22.5cm、西壁16.0～20.5cm、平均17.7cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

カマドは、東辺の中ほどよりやや南に構築されている。残存状態は天井部が崩落し、袖は基部が僅かに残存するが大部分は流失している。規模は、全長63.0cm、幅72.0cm、右袖31.5cm、壁外に24.0cm延びる。燃焼部からは、燃焼部壁や天井部の補強に使用されていた φ10cm前後の礫が出土している。

掘り方は、確認できなかった。



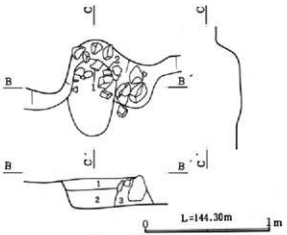
93号住居
1．灰黄褐色土　φ0.1～2cmの小礫を多く、φ 1～4mmの焼土、黄褐色粒、橙色粒を少量含む。
2．黄褐色土　φ0.1～3cmの小礫を含む。
3．にぶい黄褐色土　φ0.1～3cmの小礫を多量に含む。

第320図　93号住居平面・断面図

埋没状態は、レンズ状の堆積が観察できることから自然埋没であると考えられる。

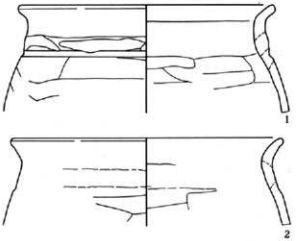
遺物は、土師器、須恵器など14点と住居の中ではごく少量の遺物しか出土していない。出土状態は、1、2の土師器甕がカマドから出土している。

本住居の時期は、出土遺物より10世紀第1四半期に比定される。

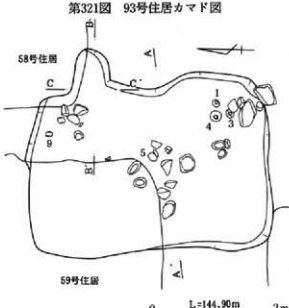


93号住居カマド
1．にぶい黄褐色土　φ 1～10mmの砂礫・小石を多量に含む。
2．黒褐色土　炭化物、焼土を多量に含む。
3．黄褐色土　焼土粒を若干含む。

第321図　93号住居カマド図

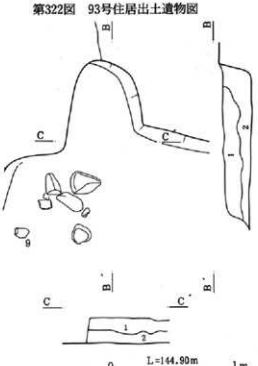


第322図　93号住居出土遺物図



94号住居
1．灰黄褐色土　φ0.5～1.2mmの砂礫、φ0.5～1.2mmの赤褐色粒、炭化物をやや多く含む。
2．にぶい黄褐色土　φ 1mm以下の微細な砂粒を少量含む。

第323図　94号住居平面・断面図



94号住居カマド
1．灰黄褐色土　φ0.5～2.3mmの砂粒をやや多く、φ 1～3mmの焼土粒子を若干含む。
2．にぶい黄褐色土　φ0.5～5mmの焼土・炭化物粒子を多く含む。

第324図　94号住居カマド図

94号住居

本住居は、調査区の中央部、86区F・G－12・13グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、58号住居・59号住居・110号住居と重複し、35号住居と南西角で接する。新旧関係は、58号住居・59号住居より前出で110号住居より後出である。35号住居との新旧関係は不明である。

形態は、ほぼ長方形を呈する。残存状態は、重複する59号住居によって北西角部分の床面よりやや上から上位を、58号住居によって北東角からカマドの左側部分の上位を欠く。

規模は、長軸3.84m、短軸2.74m、北辺2.48m、東辺3.52m、南辺2.64m、西辺3.84mを測る。床面積は、9.46m²である。主軸方位は、N－91°－Wを指す。壁高は、北壁21.5～25.5cm、東壁11.5～23.5cm、

南壁12.5～20.5cm、西壁11.5～14.0cm、平均16.3cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山と重複する110号住居の埋没土をそのまま踏み固めている。

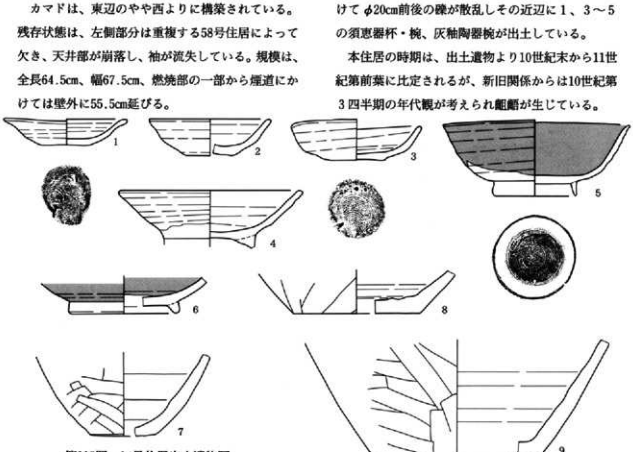
カマドは、東辺のやや西よりに構築されている。残存状態は、左側部分は重複する58号住居によって欠き、天井部が崩落し、袖が流失している。規模は、全長64.5cm、幅67.5cm、燃焼部の一部から煙道にかけては壁外に55.5cm延びる。

掘り方は、確認できなかった。

埋没状態は、ほぼ水平の堆積が観察できることから自然埋没であると考えられる。

遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器など126点が出土している。出土状態は、住居中央から東南角にかけて φ20cm前後の礫が散乱しその近辺に1、3～5の須恵器杯・椀、灰釉陶器椀が出土している。

本住居の時期は、出土遺物より10世紀末から11世紀第前葉に比定されるが、新旧関係からは10世紀第3四半期の年代観が考えられ齟齬が生じている。



第325図　94号住居出土遺物図

95号住居

本住居は、調査区の北東部、86区C・D－18グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、78号住居・87号住居・115号住居と重複する。新旧関係は、78号住居・87号住居より前出で115号住居より後出である。

形態は、ほぼ長方形を呈すると想定される。残存状態は、重複する78号住居によってほぼ北側半分の床面よりやや上からの上位と87号住居よっての南辺際の西半を欠く。

規模は、長軸4.54m、短軸3.44m、北辺3.10m、東辺4.50m、南辺3.10m、西辺4.40mを測る。床面積は、推定12.80m²である。主軸方位は、N－90°－Eを指す。壁高は、東壁12.5～22.0cm、南壁16.5cm、平均14.4cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

カマドは、東辺の西よりに構築されている。残存状態は、天井部が崩落し、袖が流失しているが、袖の補強に使用されていた礫は据えられた状態で検出された。規模は、全長36.0cm、幅75.0cm、燃焼部の一部から煙道にかけては壁外に25.5cm延びる。

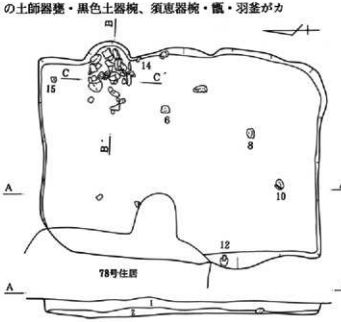
掘り方は、確認できなかった。

埋没状態は、確認面から床面まで残存高が低いた

めあまり明確ではないが、自然埋没であると考えられる。

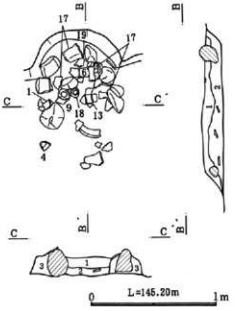
遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器など365点が出土している。出土状態は、1、4、9、13、16～20の土師器甕・黒色土器椀、須恵器椀・甑・羽釜がカマド、6、8、10、12、14、15の土師器甕、須恵器椀・長頸壺、灰釉陶器椀が床面から出土している。

本住居の時期は、出土遺物より10世紀第2四半期に比定される。



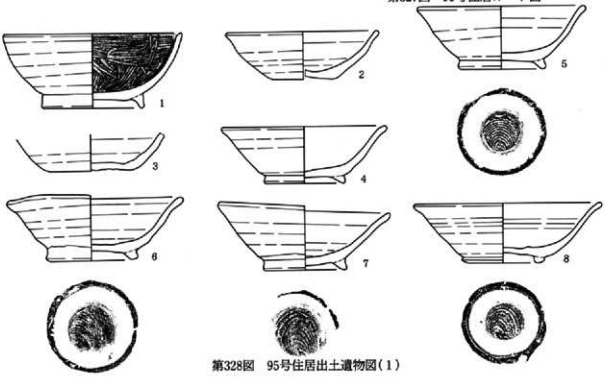
95号住居
1．灰黄褐色土　φ0.5～1cmの砂礫を多量に含む。
2．にぶい黄褐色土　φ0.5～1cmの砂礫を少量、φ0.5～1.5cmの黄色土ブロックを多く含む。

第326図　95号住居平面・断面図

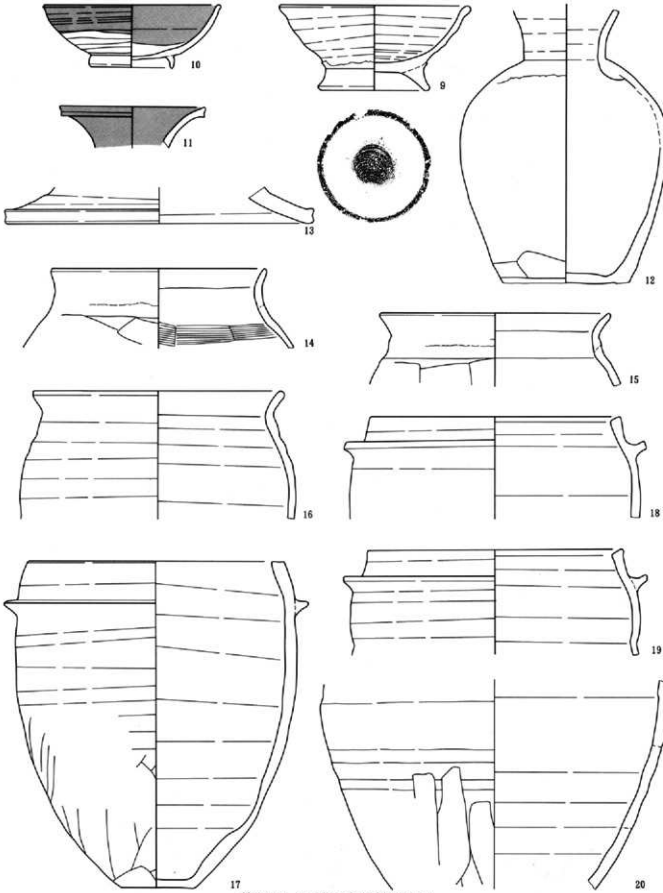


95号住居カマド
1．にぶい黄褐色土　φ0.5～5mmの砂礫・小石を多く含む。
2．灰黄褐色土　炭化物、焼土粒を多く含む。
3．黄褐色土　焼土粒を若干含む。

第327図　95号住居カマド図



第328図　95号住居出土遺物図(1)



第329図　95号住居出土遺物図(2)

96号住居

本住居は、調査区の北東部、86区D－18グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、78号住居と重複する。新旧関係は、本住居のほうが前出である。

形態は、重複する78号住居によって大半を欠くため不明な点が多いが、長方形を呈すると想定される。

規模は、長軸2.32m、短軸残存するところでは1.52mを測る。床面積は、推定1.51㎡である。主軸方位は、不明である。壁高は、西壁15.8～30.0cm、平均22.9cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

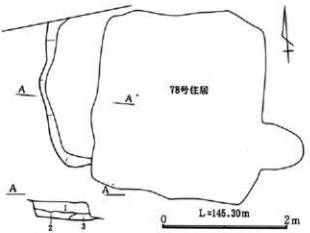
カマドは、残存する部分では確認されなかった。

掘り方は、確認できなかった。

埋没状態は、残存範囲の土層観察断面から自然埋没であると考えられる。

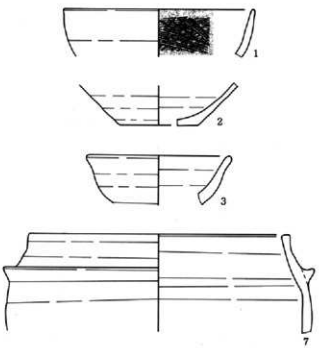
遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器、鉄器など116点が出土している。出土状態は、ほとんど床面より上位の埋没土中からの出土である。

本住居の時期は、出土遺物より10世紀前半期に比定される。



96号住居
1．灰黄褐色土　φ0.5～2㎜の砂礫をやや多く含む。
2．灰黄褐色土　φ0.5～3㎜の砂礫を少量含む。
3．明黄褐色土　φ1～5㎜の砂礫を若干、φ0.5～3㎜の黄褐色粒を少量含む。

第330図　96号住居平面・断面図



第331図　96号住居出土遺物図

97号住居

本住居は、調査区の北西部、86区M－14グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、みられず単独で占地する。

形態は、東辺が西辺に比べて40cmほど長い台形を呈する。残存状態は、確認面から床面までと残存高が17cm前後と低いためあまり良好な状態ではない。

規模は、長軸2.76m、短軸2.66m、北辺2.32m、東辺2.60m、南辺2.16m、西辺2.20mを測る。床面積は、5.40㎡である。主軸方位は、N－93.8°－Eを指す。壁高は、北壁17.5～20.0cm、東壁10.0～21.7cm、南壁5.5～14.0cm、西壁14.0～15.8cm、平均17.0cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

カマドは、東辺の中ほどよりやや南に構築されている。残存状態は、天井部が崩落しているが、袖は

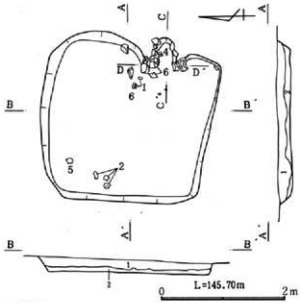
残存している。規模は、全長55.5cm、幅48.0cm、左袖18.0cm、右袖27.0cm、燃焼部の一部から煙道にかけては壁外に19.5cm延びる。袖は、両側ともφ15cm、長さ25cmほどの細長い礫をそれぞれ2個ずつ立てるように補強に据えている。

掘り方は、確認できなかった。

埋没状態は、レンズ状の堆積が観察できることから自然埋没であると考えられる。

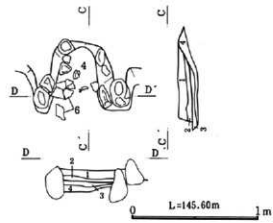
遺物は、土師器、須恵器、鉄器など154点が出土している。出土状態は、カマドに集中しており2、3と11～13以外の遺物はカマドからの出土である。

本住居の時期は、出土遺物より10世紀第3四半期に比定される。



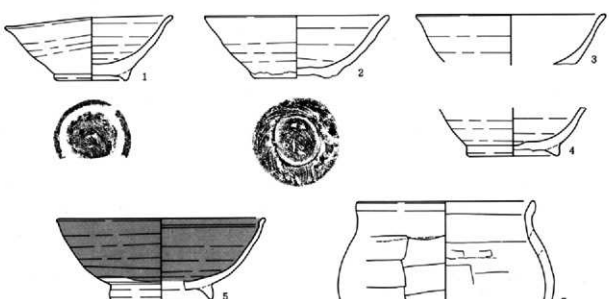
97号住居
1．暗褐色土　φ0.5～3cmの小礫を多く、黄褐色粒を少し含む。
2．暗褐色土　黄褐色粒を多く含む。

第332図　97号住居平面・断面図

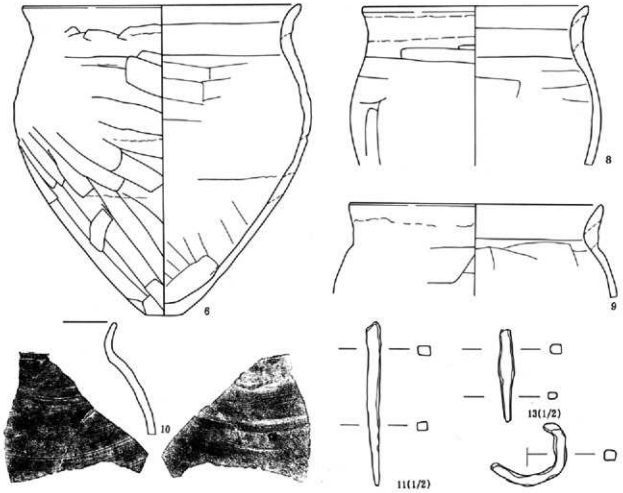


97号住居カマド
1．暗褐色土　FP、焼土粒を少し含む。
2．暗褐色土　焼土粒を多く含む。
3．暗褐色土　黄褐色土ブロック、炭化物を少し含む。
4．暗褐色土　炭化物を多く、焼土を少し含む。

第333図　97号住居カマド図



第334図　97号住居出土遺物図(1)



第335図　97号住居出土遺物図（2）

98号住居

本住居は、調査区の北西部、86区N－13・14グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、111号住居・117号住居と重複する。新旧関係は、本住居のほうが後出である。

形態は、ほぼ長方形を呈する。残存状態は、確認面から床面まで残存高が30cmほどあるため比較的良好な状態である。

規模は、長軸3.49m、短軸2.70m、北辺2.80m、東辺3.61m、南辺2.38m、西辺3.21mを測る。床面積は、7.22㎡である。主軸方位は、N－90′－Eを指す。壁高は、北壁20.3～40.3cm、東壁32.8～42.0cm、南壁27.0～29.8cm、西壁26.0～35.0cm、平均31.7cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

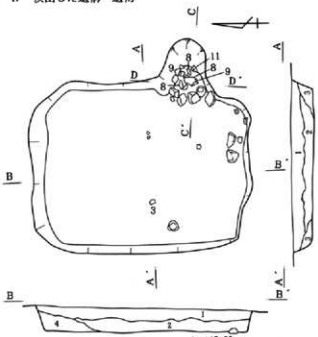
カマドは、東辺の南よりに構築されている。残存状態は、天井部が崩落し、袖が流失している。規模は、全長96.0cm、幅96.0cm、燃焼部幅67.5cm、燃焼部から煙道にかけては壁外に67.5cm延びる。燃焼部から煙道にかけての火床面は焼土化している。

掘り方は、確認されなかった。

埋没状態は、レンズ状の堆積が観察できることから自然埋没であると考えられる。

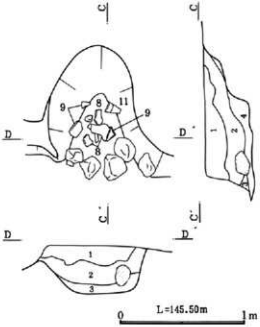
遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器、石製品など192点が出土している。出土状態は、埋没土中からの出土が多く見られるが、8～11の須恵器羽釜はカマドから出土している。

本住居の時期は、出土遺物より10世紀第1四半期に比定される。



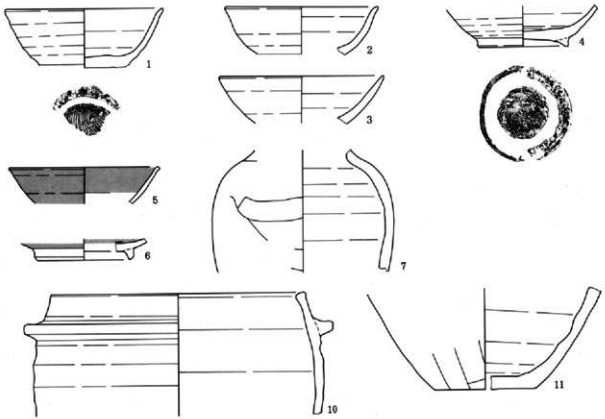
98号住居
1．黒褐色土　φ0.5～2cmのFP、φ0.5～3cmの小礫を多くと黄褐色粒を少し含む。
2．褐色土　φ0.5～2cmのFP、φ0.5～3cmの小礫を少し含む。
3．褐色土　φ0.5～2cmのFP、焼土粒少し含む。
4．褐色土　φ0.5～2cmのFP、黄褐色土ブロックを多く含む。

第336図　98号住居平面・断面図

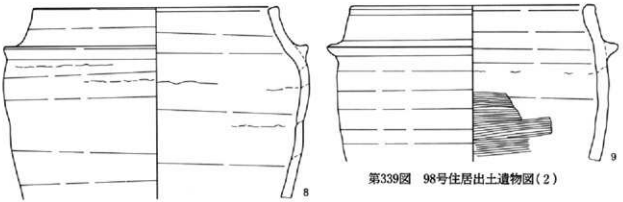


98号住居カマド
1．黒褐色土　φ0.5～1cmのFPを多く、焼土粒を少し含む。
2．褐色土　焼土粒、φ0.5～1cmの小礫を多く含む。
3．褐色土　焼土、炭化物を多く含む。堆積はもろい。
4．黒褐色土　φ0.5～1cmのFPを少し、黄褐色粒を少し、炭化物を多く含む。

第337図　98号住居カマド図

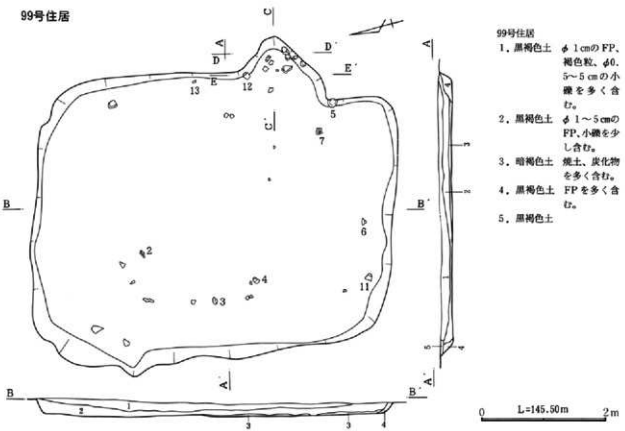


第338図　98号住居出土遺物図(1)



第339図　98号住居出土遺物図（2）

99号住居



第340図　99号住居平面・断面図

本住居は、調査区の北西部、86区N－14、O－13・14グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、112号住居、117号住居、78号土坑と重複する。新旧関係は、78号土坑より前出で112号住居、117号住居より後出である。

形態は、ほぼ長方形を呈する。残存状態は、確認面から床面まで残存高が低いが比較的良好な状態である。

規模は、長軸5.72m、短軸4.52m、北辺4.36m、東辺5.40m、南辺3.84m、西辺5.40mを測る。床面積は、21.34m²である。主軸方位は、N－106°－Eを指す。壁高は、北壁21.5～25.0cm、東壁8.0～23.0cm、南壁10.8～17.0cm、西壁14.3～21.0cm、平均21.1cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は内側で一回り小さく重複する112号住居の埋没土と地山を踏み固めている。

カマドは、東辺の中ほどよりやや南に構築されている。残存状態は、天井部が崩落し、袖が流失している。規模は、全長94.5cm、幅159.0cm、燃焼部幅117.

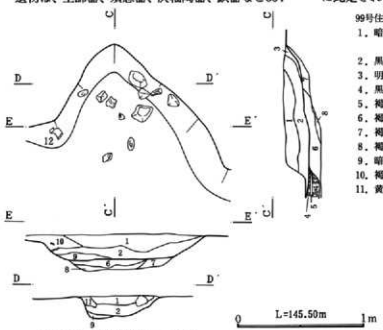
0cm、燃焼部の一部から煙道にかけては壁外に75.0cm延びる。

掘り方は、確認できなかった。

埋没状態は、レンズ状の堆積が観察できることから自然埋没であると考えられる。

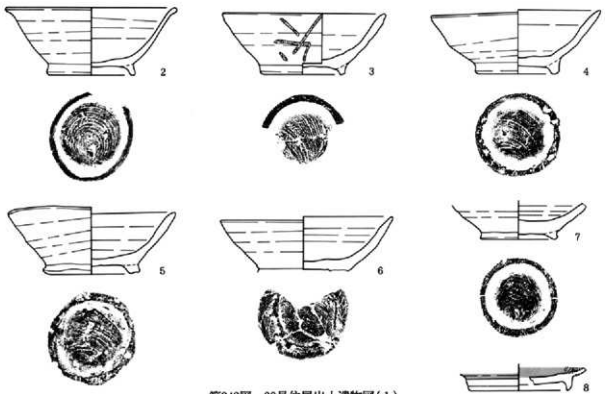
遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器、鉄器など534点が出土している。出土状態は、散漫な分布で大部分は床面より上位の埋没土中からの出土であるが、1、12の須恵器椀・羽釜がカマド、6、7の須恵器椀が床面から出土している。

本住居の時期は、出土遺物より10世紀第1四半期に比定される。

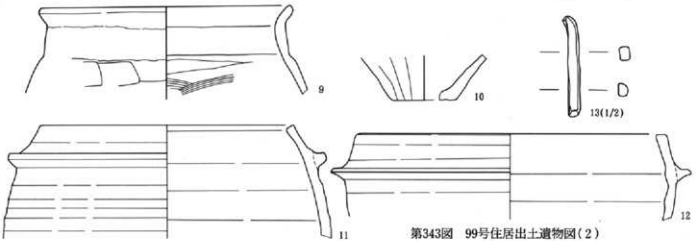


99号住居カマド
1．暗褐色土　φ0.5～1cmのFPを多く、黄褐色土粒を多く含む。
2．黒褐色土　炭化物、FPを多く含む。
3．明褐色土　焼土多く含む。
4．黒色土　炭化物。
5．褐色土　FPを少し含む。
6．褐色土　FP、焼土粒を多く、炭化物を少し含む。
7．褐色土　φ0.5～3cmの小礫を多く含む。
8．褐色土　FPを少し、炭化物を極少し含む。
9．暗褐色土　黄褐色土粒を多く含む。
10．褐色土　黄褐色土粒を多く含む。
11．黄褐色土　カマド部材。

第341図　99号住居カマド図



第342図　99号住居出土遺物図(1)



第343図　99号住居出土遺物図（2）

100号住居

本住居は、調査区の北西部、86区P・Q—14グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、みられず単独で占地する。

形態は、長方形を呈する。残存状態は、確認面から床面まで残存高が低いためあまり良好な状態ではない。

規模は、長軸2.72m、短軸2.40m、北辺2.32m、東辺2.72m、南辺2.36m、西辺2.64mを測る。床面積は、5.25m²である。主軸方位は、N—92°—Eを指す。壁高は、北壁13.5～19.5cm、東壁7.5～15.7cm、南壁7.5～9.8cm、西壁9.5～13.8cm、平均13.3cmである。

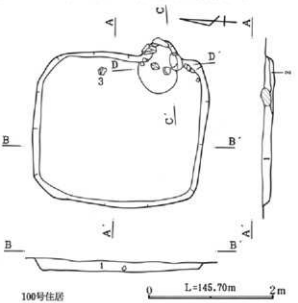
内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

カマドは、東辺のやや南よりに構築されている。残存状態は、天井部が崩落し、袖が流失しているが袖の補強に使用された礫は据えられた状態で検出された。規模は、全長85.5cm、幅67.5cm、燃焼部の一部から煙道にかけては壁外に27.0cm延びる。燃焼部は約10cmほどの掘り込みがあり、炭化物・灰の堆積がみられる。

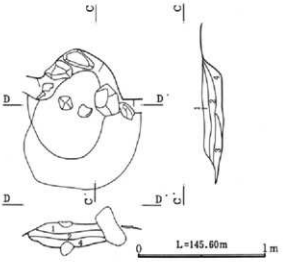
掘り方は、確認できなかった。

埋没状態は、レンズ状の堆積が観察できることから自然埋没であると考えられる。

遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器など309点が出土している。出土状態は、ほとんどが埋没土中から



第344図　100号住居平面・断面図

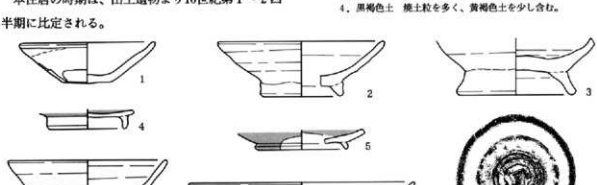


第345図　100号住居カマド図

の出土であるが、3の須恵器椀が床面から出土している。

本住居の時期は、出土遺物より10世紀第1～2四半期に比定される。

100号住居カマド
1．暗褐色土　φ0.5～1cmのFPを多く、焼土粒を少し含む。
2．暗褐色土　焼土・炭化物を多く、FPを少し含む。
3．黒色土　炭化物を多く、焼土粒を少し含む。
4．黒褐色土　焼土粒を多く、黄褐色土を少し含む。



第346図　100号住居出土遺物図

101号住居

第347図　101号住居平面・断面図

101号住居

本住居は、調査区の東より、86区A・B－11グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、42号住居・45号住居・52号住居・74号住居と重複する。新旧関係は、本住居のほうが前出である。

形態は、不整形を呈する。残存状態は、重複する住居群によって西側の上半を欠く、確認面から床面まで残存高が低いためあまり良好な状態ではない。

規模は、長軸3.62m、短軸3.26m、北辺2.76m、東辺3.32m、南辺3.60m、西辺3.64mを測る。床面積は、10.34m²である。主軸方位は、N－104°－Eを指す。壁高は、北壁5.0～6.2cm、東壁7.5～13.5cm、南壁12.5～22.4cm、西壁5.0～16.6cm、平均11.1cmである。

内部施設は、柱穴らしきピットを2基検出したが、周溝、貯蔵穴は確認されなかった。P1は、東南角よりに位置し、形態は楕円形を呈す。規模は径48.0×34.0cm、深度9.0cm、P2は、南西角よりに位置し、形

態は楕円形を呈す。規模は径80.0×56.0cm、深度18.5cmである。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

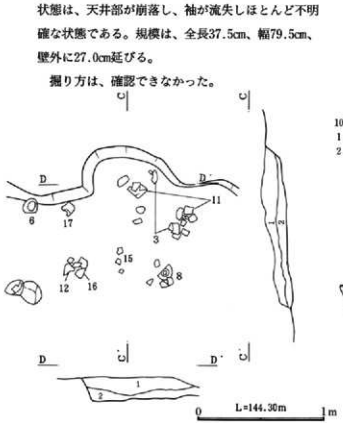
カマドは、東辺の南よりに構築されている。残存状態は、天井部が崩落し、袖が流失しほとんど不明確な状態である。規模は、全長37.5cm、幅79.5cm、壁外に27.0cm延びる。

掘り方は、確認できなかった。

埋没状態は、一応水平堆積に近い状態であることから自然埋没であると考えられる。

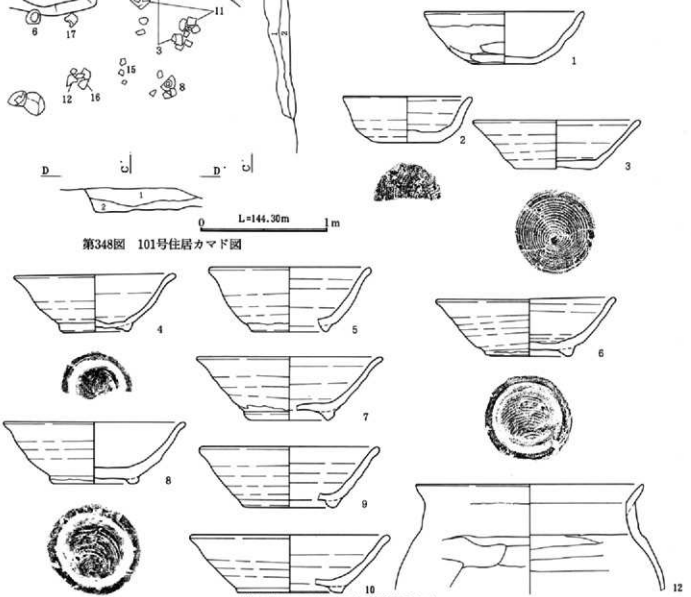
遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器など360点が出土している。出土状態は、3、11、13の須恵器椀と土師器甕がカマド、3、6、15、17の須恵器椀、土師器甕が床面から出土している。

本住居の時期は、出土遺物より9世紀第4四半期に比定される。

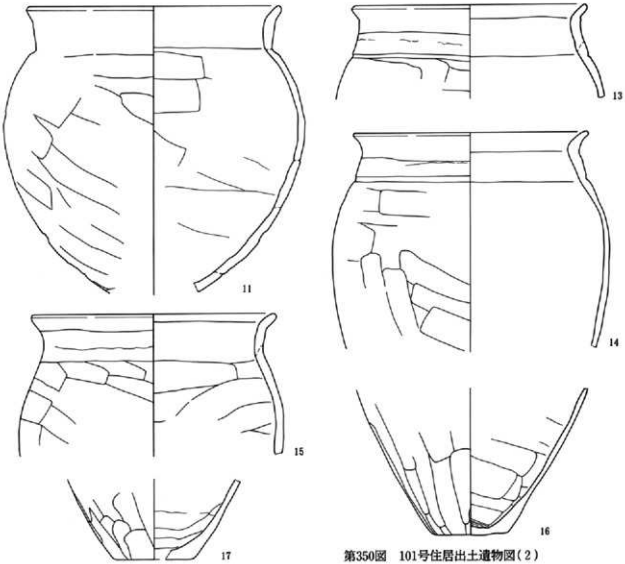


101号住居カマド
1．にぶい黄褐色土　φ0.5～1cmの砂礫を若干含む。
2．黄褐色土　φ0.1～1cmの砂礫、黄褐色粒子、炭化物をやや多く含む。

第348図　101号住居カマド図



第349図　101号住居出土遺物図(1)



第350図　101号住居出土遺物図（2）

102号住居

本住居は、調査区の北東部、86区C・D―16・17グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、67号住居・71号住居・87号住居・115号住居と重複する。新旧関係は、67号住居・71号住居・87号住居より前出で115号住居より後出である。

形態は、東西に長い歪んだ長方形を呈する。残存状態は、重複する67号住居によって東南部分を床面近くまでと71号住居によって北西部分の上半欠く。

規模は、長軸5.68m、短軸4.44m、北辺5.20m、東辺4.30m、南辺4.45m、西辺3.65mを測る。床面積は、推定21.36m²である。主軸方位は、N―79°―Eを指す。壁高は、北壁12.0～26.5cm、東壁15.8～18.5cm、南壁27.3cm、西壁9.0～27.8cm、平均15.9cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

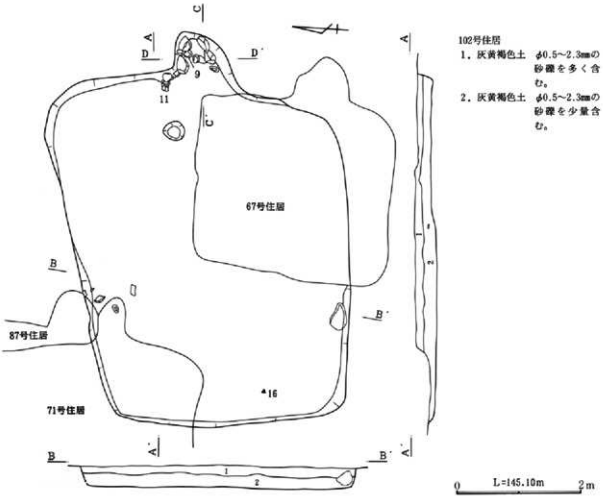
カマドは、東辺の中ほどに構築されている。残存状態は、天井部が崩落し、袖が流失している。規模は、全長91.5cm、幅112.5cm、燃焼部幅94.5cm、燃焼部の一部から煙道にかけては壁外に63.0cm延びる。燃焼部は若干の掘り込みがあり、灰の堆積が見られる。袖と燃焼部の壁面には φ10～20cmの礫を補強に使用している。

掘り方は、確認できなかった。

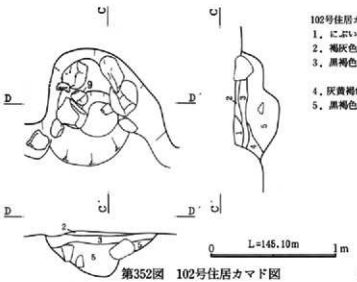
埋没状態は、レンズ状の堆積が観察できることから自然埋没であると考えられる。

遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器、鉄器、石製品など472点が出土している。出土状態は、大部分が床面よりやや上位の埋没土中からの出土であるが2、9、12の須恵器椀・羽釜、土師器甕がカマドから出土してる。

本住居の時期は、出土遺物より10世紀第1四半期に比定される。

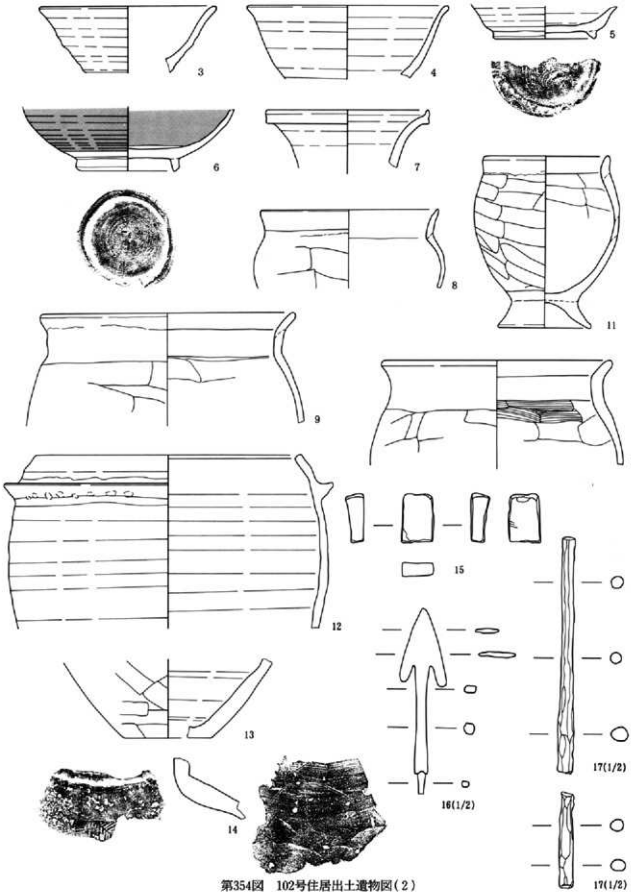


第351図　102号住居平面・断面図



第352図　102号住居カマド図

第353図　102号住居出土遺物図(1)



第354図　102号住居出土遺物図(2)

103号住居

本住居は、調査区の北東部、86区A・B—15・16グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、51号住居・90号住居と重複する。新旧関係は、本住居のほうが前出である。

形態は、南西部分を重複する51号住居・90号住居によって欠くため不明確であるがほぼ長方形を呈すると想定される。

規模は、長軸5.04m、短軸3.92m、北辺3.60m、東辺4.48m、南辺、西辺は残存するところで3.52m、1.60mを測る。床面積は、残存範囲で17.2m²である。主軸方位は、N—88°—Eを指す。壁高は、北壁6.0～12.7cm、東壁6.5～13.7cm、南壁12.5～14.0cm、西壁10.3～14.3cm、平均11.3cmである。

内部施設は、周溝を検出したが、柱穴、貯蔵穴は確認されなかった。周溝は、東辺のカマド北側から北辺の東半、西辺の残存部分を巡る。規模は幅20.0cm、深度8.0cmである。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

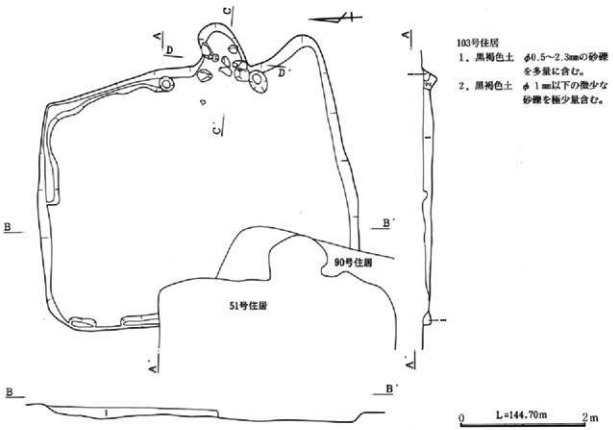
カマドは、東辺のやや南よりに構築されている。残存状態は、天井部が崩落し、袖が流失しているが補強に使用された礫は据えつけられた状態で検出された。規模は、全長118.5cm、幅82.5cm、燃焼部幅45.0cm、燃焼部の一部から煙道にかけては壁外に51.0cm延びる。燃焼部には7cmほどの浅い掘り込みがみられる。

掘り方は、確認できなかった。

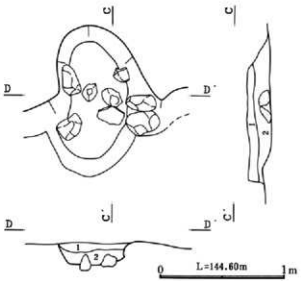
埋没状態は、土層観察断面では1層しか確認できないため判断ができない。

遺物は、土師器、須恵器など93点が出土している。出土状態は、床面より上位の埋没土中からの出土である。

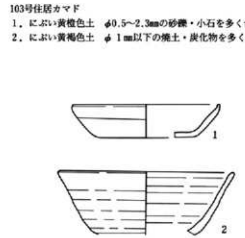
本住居の時期は、出土遺物より9世紀第3四半期ごろに比定される。



第355図　103号住居平面・断面図



第356図　103号住居カマド図



第357図　103号住居出土遺物図

104号住居

本住居は、調査区の北より、86区H－15・16グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、84号住居と重複する。新旧関係は、本住居のほうが前出である。

形態は、南辺が北辺に比べて長い台形状を呈する。残存状態は、重複する84号住居によって東南部分を欠き、残存部分でも確認面から床面まで残存高が低いためあまり良好な状態ではない。

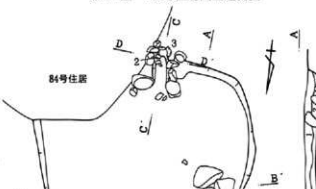
規模は、長軸3.48m、短軸3.28m、北辺2.36m、東辺3.52m、南辺、西辺は残存するところで3.44m、3.12mを測る。床面積は、残存範囲で9.22m²である。主軸方位は、N－4°－Wを指す。壁高は、北壁14.5～19.7cm、東壁12.3～15.0cm、南壁15.8～19.0cm、西壁14.3～19.7cm、平均15.1cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

カマドは、南辺の中ほどに構築されている。残存状態は、天井部が崩落し、袖の一部が流失している。袖には φ20～30cmの円礫を使用して補強にしている。規模は、全長87.0cm、幅が残存しているところで64.5cm、右袖15.0cm、燃焼部の一部から煙道にかけては壁外に22.5cm延びる。

掘り方は、確認できなかった。

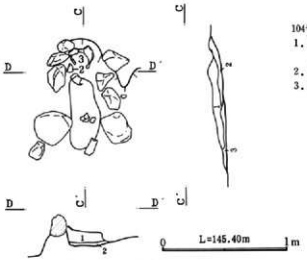
埋没状態は、一応レンズ状の堆積が観察できることから自然埋没であると考えられる。



第358図　104号住居平面・断面図

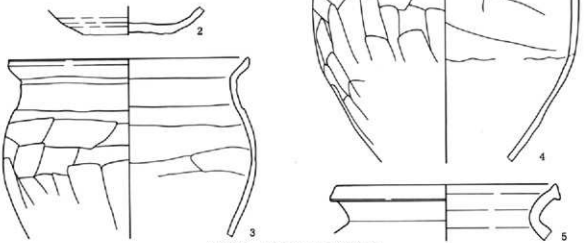
遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器、鉄器など289点が出土している。出土状態は、2～4の須恵器椀、土師器甕がカマドから出土している。

本住居の時期は、出土遺物より9世紀第3四半期に比定される。



第359図　104号住居カマド図

104号住居カマド
1．にぶい黄褐色土　φ0.5～2.3mmの砂礫・小石を少量、φ1mm以下の黄褐色粒子を少量含む。
2．褐色土　φ1mm以下の黄褐色粒子を少量含む。
3．黒褐色土　φ1mm以下の砂粒を若干、炭化物を多く含む。



第360図　104号住居出土遺物図

105号住居

本住居は、調査区の北西部、86区P・O－16グリッドに位置する。他遺構との重複関係は、調査区内ではみられず単独で占地する。

形態は、長方形を呈すると想定される。残存状態は、北半が調査区外に延びるため全体の半分程度しか調査できなかった。

規模は、長軸1.63m＋α、短軸2.67m、南辺2.51m、東辺、西辺は残存部分で1.90m、1.40mを測る。床面積は、残存範囲で3.26m²である。主軸方位は、N－94°－Eを指す。壁高は、東壁21.7～22.5cm、南壁20.0～26.0cm、西壁8.0～17.7cm、平均19.0cmである。

内部施設は、柱穴、周溝、貯蔵穴とも確認されなかった。床面の状態は、地山をそのまま踏み固めている。

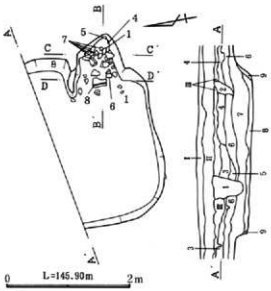
カマドは、東辺の東南角よりに構築されている。残存状態は、天井部が崩落し、袖は残存している。袖は左側は構築されているが右側は住居壁を利用しているようである。規模は、全長99.0cm、幅82.5cm、左袖28.5cm、焚口幅70.0cm、燃焼部の一部から煙道にかけては壁外に39.0cm延びる。

掘り方は、確認できなかった。

埋没状態は、レンズ状の堆積が観察できることから自然埋没であると考えられる。

遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器など173点が出土している。出土状態は、1、4、5、7の須恵器杯、土師器甕がカマド、6の土師器甕が床面から出土している。

本住居の時期は、出土遺物より11世紀前葉に比定される。



105号住居

Ⅰ．灰黄褐色土　　1層

Ⅱ．にぶい黄褐色土　φ0.5～1cmのFPを少し含む。

Ⅲ．黒褐色土　As-Bを含む。

1．黒褐色土　下方にAs-Bが混入する。

2．暗褐色土　As-Bが混入。

3．黒褐色土　φ1～3mmのFP、φ3～5mmの褐色粒を少量含む。上方はAs-Bが混入。

4．黒褐色土　φ1cm程のFPも6より多い。

5．黒褐色土　φ5cm程のFP、φ1～2cmの礫を含む。

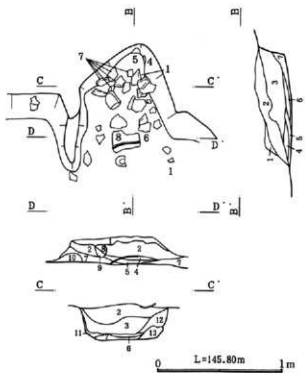
6．黒褐色土　φ1～3cmのFP、φ0.5～1cmの褐色粒を含む。

7．暗褐色土　φ1～5cm程のFP、φ0.5～1cmの褐色粒を少量含む。

8．黒褐色土　φ1～2cmの礫、φ2～3cmのFP、φ2～3mmの褐色粒を含む。

9．黒褐色土　8に類似、φ1cm前後の礫が8より多い。

第361図　105号住居平面・断面図



105号住居カマド

1．褐色土　φ5mm位の褐色粒、φ1～2mmのFPを含む。

2．暗褐色土　1に類似、φ2～3mmの褐色粒、φ1～2mmのFPを含む。

3．褐色土　φ1～10mmのFPを含む。

4．暗褐色土　2に類似するが、FPは少量で、褐色粒も少ない。

5．黒色土　灰、焼土を多量に含む。

6．黄褐色土　粘質土、炭化物、焼土、φ0.2～1cmのFPを少し含む。

7．黄褐色土　粘質土、焼土粒多く、炭化物を少し含む。

8．褐色土　φ1～10mmのFPを含む。

9．暗褐色土　黒色炭化物を含む。カマドの崩落土か。

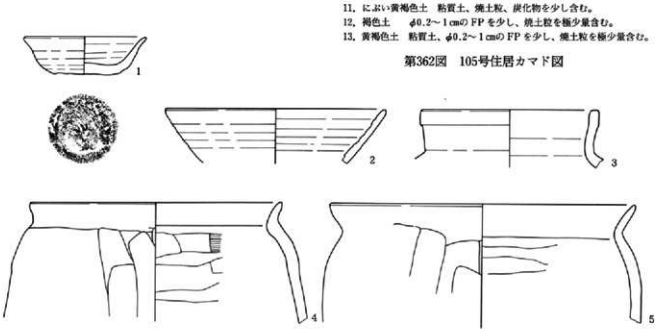
10．褐色土　焼土粒を少し含む。

11．にぶい黄褐色土　粘質土、焼土粒、炭化物を少し含む。

12．褐色土　φ0.2～1cmのFPを少し、焼土粒を極少量含む。

13．黄褐色土　粘質土、φ0.2～1cmのFPを少し、焼土粒を極少量含む。

第362図　105号住居カマド図



第363図　105号住居出土遺物図(1)